

令和7年度
全国学力・学習状況調査

北海道版結果報告書

北海道（公立）における分析結果と改善の方向性

北海道教育委員会
令和7年（2025年）11月

はじめに

令和7年度全国学力・学習状況調査について、全道や管内の「教科に関する調査」と「生活習慣や学習環境等に関する質問調査」の結果を詳細に分析し、「北海道版結果報告書」として取りまとめました。

本調査は、学習指導要領の理念等を具体化した問題を通じ、児童生徒一人一人の学力課題を把握し、エビデンスに基づく学習指導に生かすために実施されており、特に、本年度は、CBTでの実施によりIRTが導入され、児童生徒一人一人の学習指導の充実に向けた活用の可能性が一層広がっています。

こうしたことから、本報告書の作成に当たっては、学びの改善につながる各種データを正確かつ効果的に公表し、平均正答率・IRTスコアを含む結果公表について多面的に解釈することができるよう、分布や習熟度に目配りした統計表やグラフ等に加え、記述的な説明を充実するとともに、各管内の特色ある取組や各市町村による分析等を掲載するなど、構成を工夫しています。

道教委としては、今後も、本道の児童生徒が、どの地域においても、社会で自立するために必要な学力を着実に身に付けることができるよう、学校、家庭、地域、行政が一体となった取組を推進してまいります。教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様には、本道教育の一層の充実に向け、引き続き深いご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いします。

令和7年(2025年)11月
北海道教育委員会教育長 中 島 俊 明

目次

○ 本報告書の活用方法	1
I 全道の状況	
1 調査の概要	3
(1) 調査の目的	
(2) 調査概要	
(3) 調査結果の解釈等に関する留意事項	
(4) 「中学校理科」IRTに基づく調査	
(5) 結果チャート	
2 教科に関する調査結果	6
(1) 国語	
(2) 算数・数学	
(3) 理科	
(4) 今年度調査対象となった中学校第3学年の小学校第6学年時との比較	
(5) 高等学校の調査結果等を活用した授業改善の方策	
3 質問調査結果	33
(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況	
(2) ICTを活用した学習状況	
(3) 教科に関する意識や学習活動	
(4) 児童生徒のウェルビーイングに関する状況	
(5) 学校外での学習状況	
(6) 今年度調査対象となった中学校第3学年の小学校第6学年時との比較	
4 分析と改善の方向性	46
5 道教委の取組	50
(1) 検証改善サイクルの確立	
(2) 授業改善	
(3) 小中連携・接続の推進	
(4) 望ましい学習習慣の確立	
6 札幌市を除く北海道の調査結果	54
(1) 教科に関する調査結果	
(2) 質問調査結果	
II 管内の状況	
1 管内の平均正答率・IRTバンドの分布	64
2 管内の状況及び今後の改善方策	66
III 特色ある取組	
1 授業改善の推進	95
2 検証改善サイクルの確立	102
3 小中連携・接続の推進	105
4 望ましい学習習慣の確立	106
IV 各市町村の状況	
1 市町村の平均正答率・平均IRTスコアの度数分布	110
2 市町村の規模別の平均正答率・平均IRTスコア	111
3 市町村の規模別の児童生徒質問調査の回答状況	111
4 全国平均以上の市町村数(経年比較)	112
5 市町村の結果公表の掲載先一覧	113

本報告書の活用方法

各市町村教育委員会及び学校においては、以下の活用例を参考に、教育データの利活用によるエビデンスに基づく検証改善サイクルの一層の充実に向け、本報告書を御活用ください。

【活用例①】

教育委員会が改善策の検討に活用

教育委員会は、「管内の状況」の調査結果や「特色ある取組」、「各市町村の状況」の独自の結果公表を参考に、これまでの取組の成果や課題を検証し、今後の改善策につなげることができます。

全道の結果を見ると、本町では「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童生徒が少ない傾向にあることが分かった。

今後は、同規模の町の取組を参考に、町としての取組を見直してみよう！

該当ページ
P63～P121



【活用例②】

学校が校内研修で活用

学校は、校内研修において、「分析と改善の方向性」を資料として活用し、自校の調査結果を踏まえ、学校全体で重点的に取り組む改善策を検討することができます。

本校の子どもたちは、「目的や相手に応じて書く」ことに課題が見られているので、今後は、目的、相手、場面、意図などを意識した言語活動を構想する中で、ICTを活用し、互いの考えを伝え合う場面を多く取り入れてみましょう！

該当ページ
P46～P49



【活用例③】

教育委員会(学校)が保護者懇談会等で活用

教育委員会や学校は、保護者懇談会等の機会に、「質問調査結果」のウェルビーイングに関する状況や、学校外での学習状況の資料を活用し、学校や家庭での子どもとの関わり方などについて考える機会を提供することができます。

学年の子どもたちは、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目に肯定的に回答した割合が高かったので、今度の保護者懇談会で話題にしてみよう。

一方、学校外での勉強時間は少ない傾向が見られたので、家庭学習の課題を工夫して、子どもが意欲的に取り組めるようにしよう！

該当ページ
P33～P41



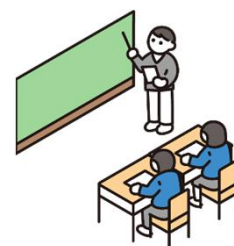
【活用例④】

教員が日常の授業づくりに活用

教員は、「教科に関する調査結果」の解答類型や、「質問調査結果」の教科に関する意識などを基に学級の児童生徒の状況を把握し、日常の授業づくりに生かすことができます。

学級の子どもたちは、国語の「書くこと」領域を苦手としている傾向が見られるので、次の「書くこと」の学習では、ICTを活用して、どこを詳しくすればよいかを友達同士で話し合ったり、書いた文章を見せ合ったりする活動を重点的に位置付けて単元計画を立てることにしよう！

該当ページ
P6～P38



I

全道の状況



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

- 1 調査の概要
- 2 教科に関する調査結果
- 3 質問調査結果
- 4 分析と改善の方向性
- 5 道教委の取組
- 6 札幌市を除く北海道の調査結果

ここでは、令和7年度全国学力・学習状況調査の全道の結果について、多面的に分析し、教科に関する調査の状況や授業改善のポイント、学習習慣等に関する質問調査の状況や道教委の取組等を掲載しています。

また、「分析と改善の方向性」では、有識者による本調査の分析と考察のほか、小中高12年間を一体的に捉える視点での分析と考察を掲載しています。

各市町村教育委員会及び学校においては、本資料を参考に、改善の方向性や効果的な学力向上策を共有するとともに、今後の取組を工夫・改善するなど、取組の一層の充実に御活用ください。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査概要

調 査 の 対 象	○ 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第6学年の児童 ○ 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部の第3学年の生徒																																													
調 査 の 内 容	○ 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕 <ul style="list-style-type: none">・ 国語、算数・数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式・ 中学校理科は、生徒が活用するICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム(MEXCBT)によるオンライン方式・ 次の①と②を一体的に問う調査問題<ul style="list-style-type: none">①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 ○ 質問調査〔生活習慣や学習環境等に関する質問調査〕 <ul style="list-style-type: none">・ 児童生徒に対する調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)・ 学校に対する調査(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)																																													
調 査 の 方 式	悉皆調査																																													
調 査 実 施 日	○ 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕 <ul style="list-style-type: none">・ 国語、算数・数学及び小学校理科：令和7年(2025年)4月17日(木)・ 中学校理科：令和7年(2025年)4月14日(月)から4月17日(木)までの間で、文部科学省が指定する日 ○ 質問調査〔生活習慣や学習環境等に関する質問調査〕 <ul style="list-style-type: none">・ 令和7年(2025年)4月の一定期間内にオンライン方式により実施																																													
調 査 実 施 日 に 調 査 を 実 施 し た 学 校 数 ・ 児 童 生 徒 数	<table><tr><th colspan="4">北海道(公立)</th><th colspan="3">〔参考〕全国(公立)</th></tr><tr><th></th><th>対象学校数(校)</th><th>実施学校数(校)(実施率)</th><th>児童生徒数(人)</th><th></th><th>対象学校数(校)</th><th>実施学校数(校)(実施率)</th><th>児童生徒数(人)</th></tr><tr><td>小学校</td><td>923</td><td>917(99.3%)</td><td>34,220</td><td>小学校</td><td>18,313</td><td>18,289(99.9%)</td><td>936,576</td></tr><tr><td>中学校</td><td>564</td><td>557(98.8%)</td><td>33,474</td><td>中学校</td><td>9,311</td><td>9,291(99.8%)</td><td>871,097</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1,487</td><td>1,474(99.1%)</td><td>67,694</td><td>合 計</td><td>27,624</td><td>27,580(99.8%)</td><td>1,807,673</td></tr></table> <div>※札幌市を含む ※実施学校数は、調査実施日に調査を実施した数 ※児童生徒数は、教科に関する調査のうち、最も多くの児童生徒が実施した教科の人数で算出</div>							北海道(公立)				〔参考〕全国(公立)				対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)	小学校	923	917(99.3%)	34,220	小学校	18,313	18,289(99.9%)	936,576	中学校	564	557(98.8%)	33,474	中学校	9,311	9,291(99.8%)	871,097	合 計	1,487	1,474(99.1%)	67,694	合 計	27,624	27,580(99.8%)	1,807,673
北海道(公立)				〔参考〕全国(公立)																																										
	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)																																							
小学校	923	917(99.3%)	34,220	小学校	18,313	18,289(99.9%)	936,576																																							
中学校	564	557(98.8%)	33,474	中学校	9,311	9,291(99.8%)	871,097																																							
合 計	1,487	1,474(99.1%)	67,694	合 計	27,624	27,580(99.8%)	1,807,673																																							

1 調査の概要

(3) 調査結果の解釈等に関する留意事項

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果の全てを表すものではなく、中央値(*1)、標準偏差(*2)等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 北海道の各教科の平均正答率については、国が公表した整数値と、国から提供されたデータを基に北海道教育委員会が独自に算出した小数値で示している。
- 管内の状況で掲載している学校数は、調査実施日に実施した学校数、児童生徒数は、国語の調査に参加した児童生徒数を記載している。
- 表やグラフには、「その他」、「無回答」等の数値を記載していないものもあり、必ずしも合計が100パーセントにならない場合がある。
- クロス集計については、相関関係(*3)が見られるかを分析したものであり、因果関係を示したものではないことや、質問調査の回答が特定の選択肢に偏っている項目の場合は正答率等との相関関係が表れにくいことなどに留意する必要がある。
- 調査結果を多面的に解釈することができる示し方として、教科に関する調査結果のデータの分布を「箱ひげ図」(*4)等で掲載している。

- *1 中央値: 集団のデータを大きさの順に並べたときに、真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
- *2 標準偏差: 集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない(データの値が全て同じ)ことを意味する。
- *3 相関関係: 2つの項目の間の何らかの関係性のことを意味する。
- *4 箱ひげ図: 総務省統計局「なるほど統計学園」のWebページを参照



※IRT(Item Response Theory: 項目反応理論)とは、国際的な学力調査(PISA、TIMSSなど)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFLなど)で採用されているテスト理論であり、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較できる。

※IRTに基づく調査結果を今後の学習指導に活用する際に参考となるリーフレットや動画等(文部科学省)



(4) 「中学校理科」IRTに基づく調査

- 「中学校理科」の結果は、これまでの正答数・率に代えて、IRTスコア・バンドで表示・返却
- 問題の構成
 - ・生徒1人当たり、公開問題10問と非公開問題16問を出題。
 - ・公開問題には全日程に共通する問題6問と実施日別の問題4問がある。
 - ・非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解いている。
- IRTスコア・IRTバンド
 - ・IRTスコアは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。
 - ・IRTバンドは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものであり、3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。
 - ・IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。

1 調査の概要

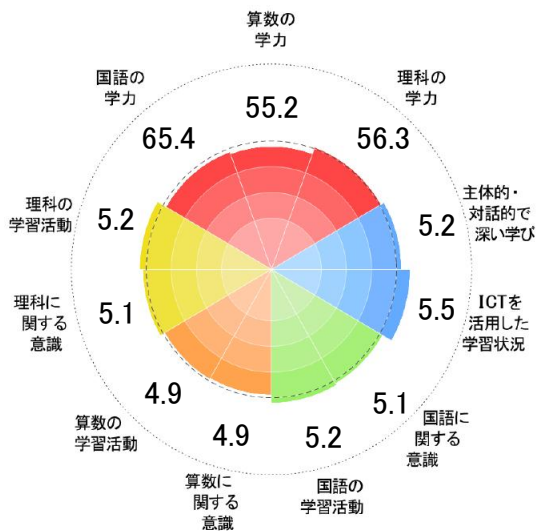
(5) 結果チャート

教科に関する調査及び質問調査の結果を全国と比較し、児童生徒の学力・学習状況等の特徴を視覚的に把握することができます。結果チャートで示しています。

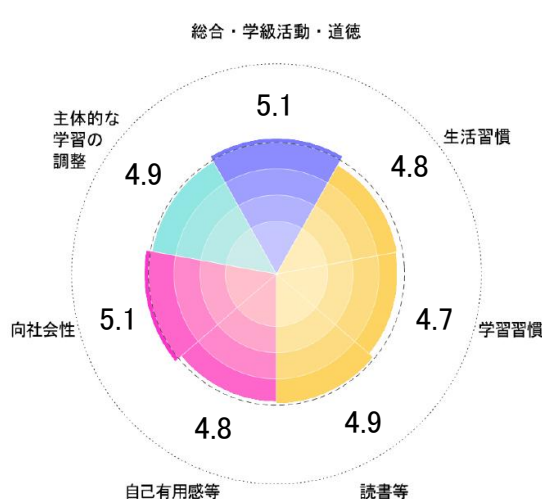
- ・教科の学力の項目は平均正答率・平均IRTスコアを示しています。
- ・教科の学力以外の項目は、質問の回答状況を全国平均が5.0となるように標準化した数値を示しており、その数値が大きいほど、肯定的な回答をした児童生徒の割合が高いことを意味しています。

小学校

〔教科を中心とした学力・学習状況〕

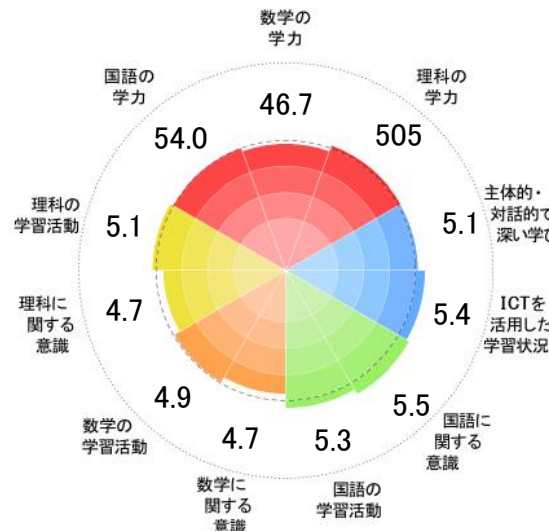


〔その他の学力・学習状況〕

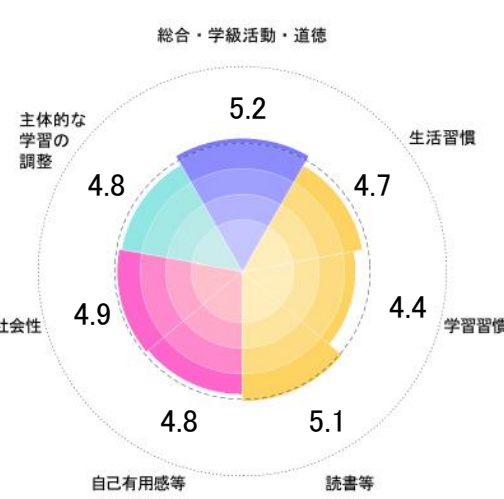


中学校

〔教科を中心とした学力・学習状況〕



〔その他の学力・学習状況〕



「ICTを活用した学習状況」や「主体的・対話的で深い学び」の領域のスコアが高く(うち、「ICTを活用した学習状況」は全国と比較しても高い)、「学習習慣」や「自己有用感等」の領域のスコアが低い

「国語に関する意識」や「ICTを活用した学習状況」の領域のスコアが高く(うち、「国語に関する意識」は、全国と比較しても高い)、「学習習慣」や「生活習慣」の領域のスコアが低い(うち、「学習習慣」は全国と比較しても低い)

※点線は全国平均を示しています。

※全国平均と比較してスコアの差が0.5以上開いた場合に、「全国と比較しても高い・低い」と記載しています。

番号	領域名	児童生徒質問 対応領域・質問番号	番号	領域名	児童生徒質問 対応領域・質問番号	番号	領域名	児童生徒質問 対応領域・質問番号
1	国語の学力	平均正答率	7	国語の学習活動	(46)(48)～(51)	13	生活習慣	(1)～(3)
2	算数・数学の学力	※中学校理科は	8	算数・数学に関する意識	(52)(53)(55)(56)	14	学習習慣	(17)(19)
3	理科の学力	平均IRTスコア	9	算数・数学の学習活動	(54)(57)～(59)	15	読書等	(21)～(24)
4	主体的・対話的で深い学び	(31)～(35)(37)(39)	10	理科に関する意識	児童 生徒 (60)(61)(63)～(65) (60)(61)(63)～(66)	16	自己有用感等	(5)(6)(10)(12)(14)(15)
5	ICTを活用した学習状況	(28)(29)	11	理科の学習活動	児童 生徒 (62)(66)～(70) (62)(67)～(70)	17	向社会性	(8)(9)(11)(27)
6	国語に関する意識	(44)(45)(47)	12	総合・学級活動・道徳	(40)～(43)	18	主体的な学習の調整	(16)(36)

2 教科に関する調査結果

(1) 国語

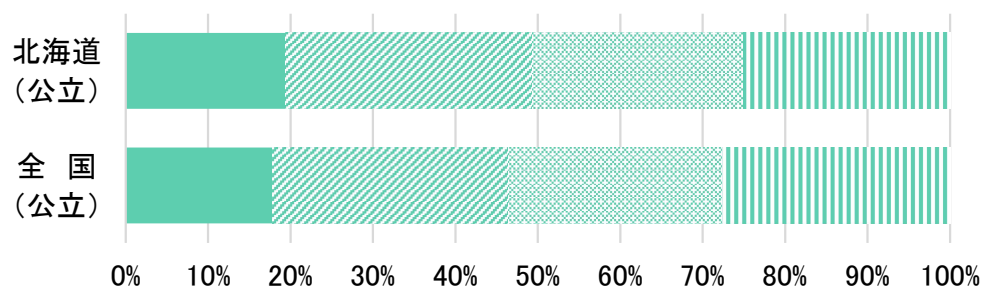
国語の調査結果について、正答数の層分布と設問別の分析に基づく成果と課題を示しています。正答数の層分布からは、小・中学校ともに全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られず、また、D層（正答数の少ない層）の割合は、全国の結果と比較して大きな差は見られていません。

設問別の分析に基づく成果と課題は、具体的問題を基に、「解答の分析」や「授業改善のポイント」を、P7～P10に示しています。

小学校

正答数の層分布

■ 0～6問 ■ 7～9問 ■ 10～11問 ■ 12～14問



層	D層	C層	B層	A層
正答数	0～6問	7～9問	10～11問	12～14問
北海道(公立)	19.4	29.9	25.7	25.0
全国(公立)	17.8	28.6	26.0	27.6

※各層は、児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けています。

成果と課題

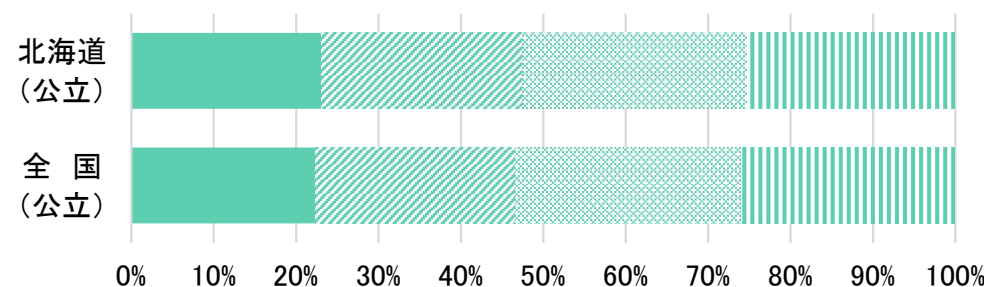
【成果】 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに成果が見られます。
(詳細はP7)

【課題】 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られます。
(詳細はP8)

中学校

正答数の層分布

■ 0～5問 ■ 6～7問 ■ 8～9問 ■ 10～14問



層	D層	C層	B層	A層
正答数	0～5問	6～7問	8～9問	10～14問
北海道(公立)	23.1	24.4	27.3	25.2
全国(公立)	22.4	24.2	27.5	25.9

※各層は、児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けています。

成果と課題

【成果】 資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えることに成果が見られます。
(詳細はP9)

【課題】 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題が見られます。
(詳細はP10)

結果のポイント

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに成果が見られます。

具体的な設問例
大問3三(2)

【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く。

条件① 納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。

条件② 納得した理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

問題

※次の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

(2) 木村さんは、【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

○ ○ 言葉の変化についてなっとくしたことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。

○ なっとくした理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

解答の分析

- ① 言葉の変化について納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書いている。
- ② 納得した理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、以下のように言葉や文を取り上げて書いている。
- a 【資料2】、【資料3】のいずれかから言葉や文を取り上げて理由を書いている。
- b 【資料4】から言葉や文を取り上げて理由を書いている。
- c 【資料2】、【資料3】、【資料4】のうち複数の資料から言葉や文を取り上げて理由を書いている。

解答類型	北海道	全国	差	正答
条件①、②を満たしているもののうち、条件②については、aを書いているもの。	37.8	36.2	+1.6	◎
条件①、②を満たしているもののうち、条件②については、bを書いているもの。	9.3	10.1	-0.8	◎
条件①、②を満たしているもののうち、条件②については、cを書いているもの。	8.7	10.0	-1.3	◎
条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの。	10.7	9.9	+0.8	
無解答	16.1	16.2	-0.1	

関連する過去の問題 令和5年度2二	
令和5年度(全国比)	令和7年度(全国比)
-1.1	-0.5

令和5年度の同じ出題趣旨の問題と比較し、全国平均正答率との差が0.6ポイント縮まるなど、改善の傾向が見られる。

授業改善のポイント

- 複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読むことが大切です。
- 語句や情報を丸や四角で囲んだり、線でつないだりするなどして、どの部分と結び付くのかを視覚的に明らかにしながら読む指導を行うことが効果的です。

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られます。

【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く。

条件① 【ちらし】の二重傍線部を書き直し、詳しくすること。

条件② 〈本を読んで分かったこと〉と〈使ってみて分かったこと〉の言葉や文を取り上げて書くこと。

条件③ 60字以上、100字以内にまとめて書くこと。

〔条件〕

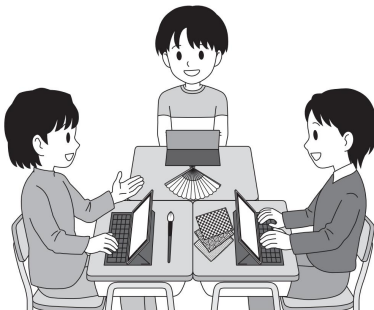
○【「ちらし」の部を書き直し、くわしくすること。（一文でなくてもよい。）

○【「調べたこと」の（本を読んで分かったこと）と（使つてみて分かったこと）のそれぞれから言葉や文を取り上げて書くこと。

○六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【調べたこと】

＜本を読んで分かったこと＞	＜使ってみて分かったこと＞
<ul style="list-style-type: none">○ブックカバー・何回か折るだけで、すぐに完成する。・本の大きさに合わせて包むことができる。	<ul style="list-style-type: none">○ブックカバー・よごれがつくのを防ぐことができてよかった。・落としたときに、本がきずづかなかった。
<ul style="list-style-type: none">○ペットボトルカバー・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none">○ペットボトルカバー・水てきが荷物につかなくてよかった。・温かい飲み物が冷めにくかった。



三 山田さんは【ちらし】の書き表し方について友達に相談し、【ちらし】の部をくわしく書いたほうがよいと考え、次の【調べたこと】を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

① 【ちらし】の二重傍線部を書き直し、詳しくしている。
② 【調べたこと】のうち、以下のことから言葉や文を取り上げて書いている。
a <本を読んで分かったこと> b <使ってみて分かったこと>
③ 60字以上、100字以内で書いている。

	解答類型	北海道	全国	差	正答
1	条件①、②a、bの両方、③を満たしているもの。	60.4	61.3	-0.9	◎
2	条件①、②aは満たしているが、条件②bは満たしていないもの。	9.0	8.7	+0.3	
3	条件①、②bは満たしているが、条件②aは満たしていないもの。	12.2	12.7	-0.5	
4	条件①は満たしているが、条件②a、bは共に満たしていないもの。	8.5	7.9	+0.6	
5	無解答	5.4	5.0	+0.4	

解答類型4では、詳しく書くという意識はあるものの、【調べたこと】から情報を取り上げずに自分の考えや経験を書いた児童がいたと考えられる。

授業改善のポイント

- 書く目的や意図を明確にした上で、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫することが大切です。
- どこを詳しくすればよいかをアドバイスし合う場面を設定し、詳しくする方法を知ることができるように友達同士で書いた文章を見せ合い、話し合うことが効果的です。

結果のポイント

資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えることに成果が見られます。

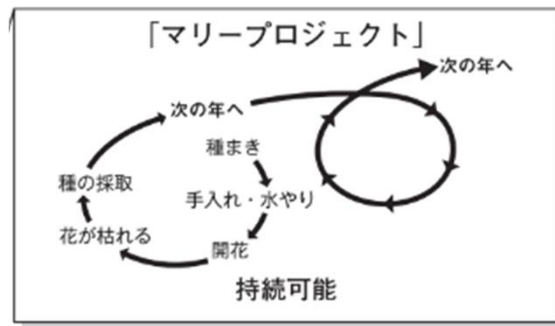
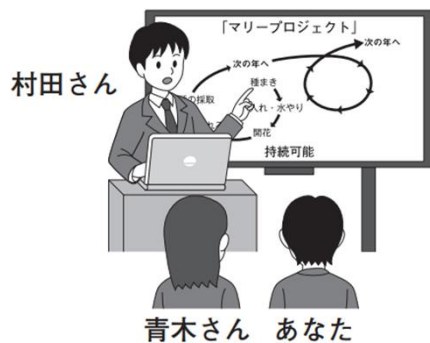
具体的な設問例
大問2ー

スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する。

問題

ー 村田さんは、【村田さんのスピーチ】の——線部㊟「スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。」のように、スライドを使って話しています。このときの村田さんの話し方を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 聞き手の印象に残るように、スライドで意見だけを要約して示しながら、意見とそれを支える根拠を話している。
- 2 聞き手によって経験が違うことを考慮して、スライドで補足の情報を示しながら、話の要点を絞って話している。
- 3 聞き手が興味をもつように、スライドで異なる視点からの情報を示しながら、自分の主張を繰り返し話している。
- 4 聞き手からの質問を想定して、スライドで質問に対する回答を示しながら、自分の立場と考えを話している。



授業改善のポイント

- 伝えたい内容を適切に伝えるためには、どのような資料や機器を、どのように用いればよいのかを考えることができるよう指導することが大切です。
- 話の内容、目的や状況、相手に応じて様々な資料や機器を用いた話し方があることを理解した上で、その話し方が聞き手にとってどのような効果があるのかについて考えることが大切です。

解答の分析

解答類型	北海道	全国	差	正答
1と解答しているもの。	35.2	38.1	-2.9	
2と解答しているもの。	41.2	38.1	+3.1	◎
3と解答しているもの。	18.3	18.2	+0.1	
4と解答しているもの。	5.0	5.2	-0.2	

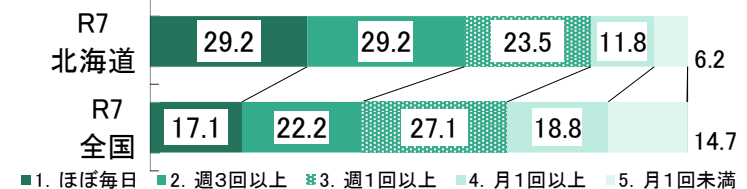
領域別の平均正答率の状況

「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率の差(全国比)			
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
-0.4	-0.4	-0.3	+0.6

令和7年度の「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は、令和4年度、令和5年度及び令和6年度と比較して高い状況が見られる。

学校質問調査の状況

「調査対象学年の生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」



生徒同士がやりとりする場面で、ICT機器をほぼ毎日使用させた学校の割合は、全国と比べて、12.1ポイント高かった。

結果のポイント

読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題が見られます。

具体的な設問例
大問4二

手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く。

条件① 削除したり書き直したりしたい部分を一つ決めて、適切に修正すること。

条件② 修正した方がよいと考えた理由を、誤りなく具体的に書くこと。

問題

【手紙の下書きの一部】

先日

さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくれてありがとうございました。大野さんはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。

ご協力くださり、

この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもらっていませんでしたが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や花言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの裏には、それを支える作業や専門的な知識があることを知りました。

二 三上さんは、さらに推敲を重ねようとしています。あなたなら、【手紙の下書きの一部】の、どの部分をどのように修正しますか。三上さんの修正の仕方参考にして、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 修正した方がよい部分は複数ありますが、言葉の使い方や叙述の仕方などについて、あなたが特に修正した方がよいと考える部分を一つ選ぶこと。なお、【手紙の下書きの一部】の内容は、変わらないようにすること。

条件2 修正する際は、削除したり書き直したりしたい部分を線で消し、書き直す場合は、消した言葉の右横に、どのように直すのかを書くこと。

条件3 修正した方がよいと考えた理由を具体的に書くこと。なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

解答の分析

- ① 削除したり書き直したりしたい部分を一つ決めて、以下のような適切な修正をしている。
a 長い文を修正している。 b 語句を修正している。 c 語順を修正している。
② 修正した方がよいと考えた理由を、誤りなく具体的に書いている。

	解答類型	北海道	全国	差	正答
1	条件①a、②を満たしているもの。	7.1	9.1	-2.0	◎
2	条件①b、②を満たしているもの。	21.2	20.9	+0.3	◎
3	条件①c、②を満たしているもの。	0.1	0.1	0	◎
4	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの。	12.8	12.1	+0.7	
5	条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの。	15.1	16.4	-1.3	
6	無解答	20.9	19.1	+1.8	

解答類型4では、削除したり書き直したりしたい部分を見付けて、適切な修正をすることはできているが、なぜその部分を修正した方がよいと考えたのか、理由を適切に述べていることができていない生徒がいたと考えられる。

授業改善のポイント

- 書いた文章を推敲^{すいこう}する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導することが大切です。
- 1人1台端末を活用して文章を書くときには、自分の学習の状況を振り返ることができるように、コメント機能などを利用して、訂正した理由を挙げたり、整えた箇所を消さずに残したりするなどの工夫が考えられます。

2 教科に関する調査結果

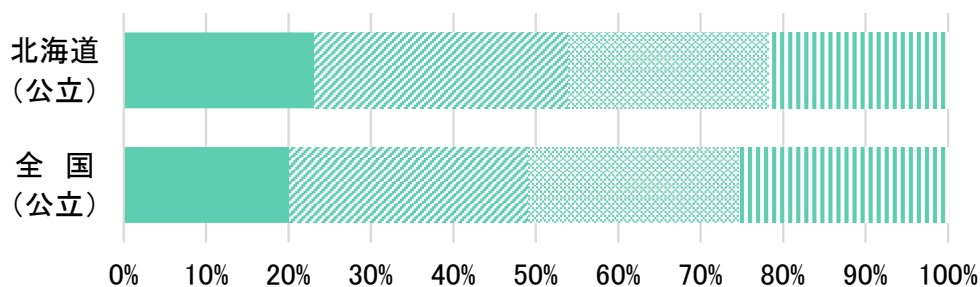
(2) 算数・数学

算数・数学の調査結果について、正答数の層分布と設問別の分析に基づく成果と課題を示しています。正答数の層分布からは、小・中学校ともに全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られず、また、D層（正答数の少ない層）の割合は、全国の結果と比較して大きな差は見られていません。設問別の分析に基づく成果と課題は、具体的問題を基に、「解答の分析」や「授業改善のポイント」を、P12～P15に示しています。

小学校

正答数の層分布

■ 0～5問 ■ 6～9問 ■ 10～12問 ■ 13～16問



層	D層	C層	B層	A層
正答数	0～5問	6～9問	10～12問	13～16問
北海道(公立)	23.2	30.7	24.4	21.7
全国(公立)	20.1	29.1	25.6	25.3

※各層は、児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けています。

成果と課題

【成果】 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことに成果が見られます。

(詳細はP12)

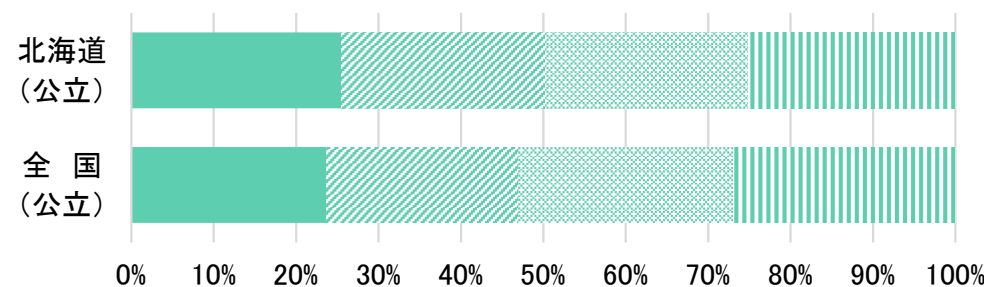
【課題】 示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題が見られます。

(詳細はP13)

中学校

正答数の層分布

■ 0～3問 ■ 4～6問 ■ 7～10問 ■ 11～15問



層	D層	C層	B層	A層
正答数	0～3問	4～6問	7～10問	11～15問
北海道(公立)	25.5	24.7	24.6	25.1
全国(公立)	23.7	23.3	26.1	26.9

※各層は、児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けています。

成果と課題

【成果】 素数の意味を理解することに成果が見られます。
(詳細はP14)

【課題】 相対度数の意味を理解することや、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られます。
(詳細はP14、P15)

結果のポイント

簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことに成果が見られます。

具体的な設問例
大問1(3)

表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ。

問題

(3) あいりさんたちは、指定野菜のだいこんについても調べています。



だいこんは、冬にとれる野菜だと思っていましたが、スーパーマーケットには一年中売られています。



だいこんは出荷される時期によって3つに区別されています。それぞれの出荷量は、どのようになっているのでしょうか。

れんとさんは、下の表を見つけました。

だいこんの出荷量 (2022 年) (t)				
種別 都道府県	春だいこん (4 月～6 月に出荷)	夏だいこん (7 月～9 月に出荷)	秋冬だいこん (10 月～3 月に出荷)	合計
㊸	51300	348	82900	134548
㊹	9240	91400	20800	121440
㊺	18900	50300	28700	97900
㊻	12600	477	70100	83177
その他	84460	44875	420200	549535
合計	176500	187400	622700	986600

※ ㊸、㊹、㊺、㊻は都道府県名です。

(作物統計調査による。)



「春だいこん」「夏だいこん」「秋冬だいこん」の中で、「夏だいこん」がいちばん多い都道府県がありますね。

だいこんの出荷量について、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」が多い都道府県を、上の表の ㊸ から ㊻ までの中からすべて選んで、その記号を書きましょう。

解答の分析

	解答類型	北海道	全国	差	正答
1	㊹、㊺ と解答しているもの	72.1	71.6	+0.5	◎
2	㊹ と解答しているもの	4.1	4.4	-0.3	
3	㊺ と解答しているもの	2.5	2.7	-0.2	
4	㊸、㊻ と解答しているもの	1.6	1.4	+0.2	
5	㊸、㊻ と解答しているもの	2.0	2.3	-0.3	
6	㊸、㊹、㊺、㊻ と解答しているもの ㊸、㊹、㊺ と解答しているもの ㊸、㊹、㊻ と解答しているもの ㊸、㊺、㊻ と解答しているもの ㊹、㊺、㊻ と解答しているもの ㊸、㊹ と解答しているもの ㊸、㊺ と解答しているもの ㊹、㊻ と解答しているもの ㊺、㊻ と解答しているもの	12.1	11.7	+0.4	

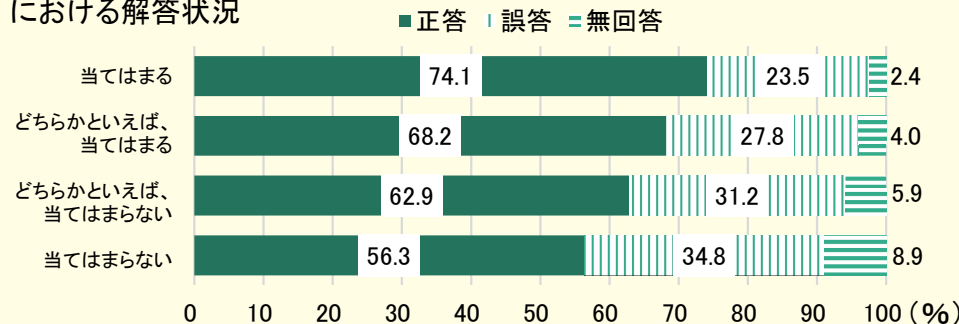
解答類型6の解答をした児童は、だいこんの出荷量について、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」が多い二つの都道府県の両方、又はどちらか一方を選ぶことはできているが、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」が少ない都道府県を選んでいる。

授業改善のポイント

○ 目的に応じて、簡単な二次元の表から、表のどの部分に着目するのかを考えて、導いた結論の根拠となる数値を読み取ることができるよう指導することが大切です。

クロス分析 [児童質問調査×大問1(3)の解答状況]

「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」の各選択肢を選んだ児童の本設問における解答状況



算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていると回答したグループの方が、正答率が高い傾向が見られる。

結果のポイント

示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題が見られます。

具体的な設問例
大問4(4)

10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選択する。

問題

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上の④にあてはまる数を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

解答の分析

	解答類型	北海道	全国	差	正答
1	0.1	33.8	37.5	-3.7	
2	1.1	40.0	40.9	-0.9	◎
3	10	18.6	14.7	+3.9	
4	110	2.7	2.2	+0.5	

解答類型3では、「10%増量」について、「増量後の量」は「増量前の量」の10倍と捉えている児童がいたと考えられる。

授業改善のポイント

- 基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが大切です。
- 基準量や比較量の意味や計算の仕方を数学的な表現を用いて説明できるように指導することが大切です。

「令和7年度全国学力・学習状況調査報告書」【小学校算数】
(国立教育政策研究所)
大問4 授業アイデア例

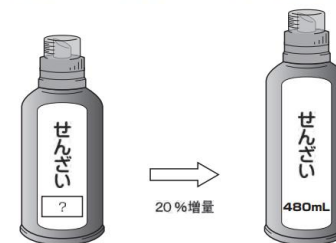


関連する過去の問題 平成27年度B2(2)

日常生活の事象において、示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができるかどうかをみる。

(2) 次に、せんざいを買います。家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480 mLです。

増量前のせんざいの量は何 mL ですか。求める式と答えを書きましょう。



正答率
北海道(公立) 8.9%
全 国(公立) 13.1%

関連する過去の問題においても、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題が見られる。

クロス分析 [児童質問調査×算数の平均正答率]

「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」の各選択肢を選んだ児童の算数の平均正答率

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない



算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていると回答したグループの方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

結果のポイント

素数の意味を理解することに成果が見られる一方、相対度数の意味を理解することに課題が見られます。

具体的な設問例
大問1

1から9までの数の中から素数を全て選ぶ。

問題 1 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

解答の分析

	解答類型	北海道	全国	差	正答
1	2、3、5、7	40.5	31.8	+8.7	◎
2	3、5、7	2.1	2.7	-0.6	
3	2、3、5、7、9	2.8	2.7	+0.1	
4	1、2、3、5、7	15.9	19.4	-3.5	
5	1、3、5、7	8.4	10.1	-1.7	
6	1、3、5、7、9	7.8	8.7	-0.9	
7	上記以外で、1を含んで解答しているもの	10.9	12.1	-1.2	

解答類型4～6について、1が素数に含まれていると捉えている生徒は約43%いる。

具体的な設問例
大問5

ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める。

問題 5 下の表は、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表です。

ハンドボール投げの記録

階級(m)	度数(人)
以上 未満	
5 ～ 10	3
10 ～ 15	8
15 ～ 20	9
20 ～ 25	10
25 ～ 30	6
30 ～ 35	3
35 ～ 40	1
合計	40

解答の分析

	解答類型	北海道	全国	差	正答
1	0.25	36.2	42.5	-6.3	◎
2	10	19.7	15.8	+3.9	
3	4	6.1	6.0	+0.1	
4	0.75	0.6	0.7	-0.1	
5	30	7.9	6.9	+1.0	
6	5	1.8	1.7	+0.1	
7	40	0.1	0.1	0.0	
8	22.5	0.7	0.8	-0.1	
9	上記以外	15.9	16.1	-0.2	

20 m 以上 25 m 未満の階級の相対度数を求めなさい。

授業改善のポイント

○ 整数の性質について考察する場面において、整数を様々な視点で分類し、1より大きい自然数のうち、1とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であることを理解できるように指導することが大切です。

授業改善のポイント

○ 大きさの異なる二つ以上の集団のデータを比較する場面を設定し、目的に応じてデータの分布の傾向を的確に捉え、説明できるように指導することが必要です。

結果のポイント

不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られます。

具体的な設問例
大問7(2)

Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する。

問題

(2) 優斗さんと芽依さんは、手元のカードの絵によっては、Aが必ず勝ったり、Bが必ず勝ったりする場合があることに気づきました。そこで、二人は、手元のカードがいろいろな場合で、AとBのそれぞれの勝ちやすさについて考えることにしました。

まず、Aの手元のカードが「グー」、「グー」、「パー」の3枚、Bの手元のカードが「チョキ」、「チョキ」、「パー」の3枚で、AとBのそれぞれの勝ちやすさについて調べることにしました。



調べたこと

A	B	
グー	チョキ	○カードの絵の出方は全部で9通り
グー	チョキ	○Aが勝つ場合は4通り
グー	パー	○Bが勝つ場合は4通り
グー	パー	○あいこになる場合は1通り
パー	チョキ	・Aが勝つ確率は $\frac{4}{9}$
パー	チョキ	・Bが勝つ確率は $\frac{4}{9}$
パー	パー	・あいこになる確率は $\frac{1}{9}$

優斗さんと芽依さんは、前ページの調べたことをもとに話合っています。

優斗さん「AとBの勝つ確率は、どちらも $\frac{4}{9}$ だから、勝ちやすさは同じだね。」
芽依さん「手元のカードが3枚ずつのとき、カードの絵によって、AとBのどちらかが勝ちやすかったり、勝ちやすさが同じだったりするね。」
優斗さん「AとBの手元のカードの枚数が違うとき、勝ちやすさはどうなるのかな。」

二人は、Aの手元のカードの枚数が4枚、Bの手元のカードの枚数が2枚の場合で、AとBのそれぞれの勝ちやすさについて考えることにしました。

そこで、Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚で、AとBのそれぞれの勝ちやすさについて調べることにしました。



このとき、AとBのどちらが勝ちやすいですか。下のAからUまでのの中から正しいものを1つ選び、それが正しいことの理由を、確率を求め、その値を用いて説明しなさい。

ア Aの方が勝ちやすい。

イ Bの方が勝ちやすい。

ウ AとBの勝ちやすさは同じである。

解答の分析

(正答の条件)

ウを選択し、事象の起こりやすさを判断するために、

次の(a)、(b)について記述しているもの。

(a) Aの勝つ確率が $\frac{3}{8}$ であること。

(b) Bの勝つ確率が $\frac{3}{8}$ であること。

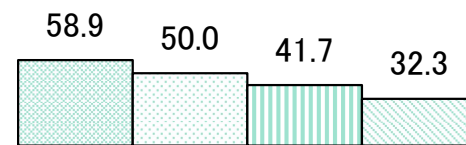
ウを選択した生徒
北海道(公立) 73.1%
全国(公立) 76.2%

解答類型 ※ウを選択	北海道	全国	差	正答
(a)、(b)について記述しているもの	49.0	52.7	-3.7	◎
(a)、(b)のいずれかについて記述しているもの。又は、確率が $\frac{3}{8}$ であることについてのみを記述しているもの	1.0	1.0	0.0	
(a)、(b)について場合の数を用いて記述しているもの	3.0	3.3	-0.3	○
確率又は場合の数の数値に誤りがあるもの	7.6	7.2	+0.4	
上記以外の解答	7.3	7.3	0.0	

クロス分析 [生徒質問調査×数学の平均正答率]

「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」の各選択肢を選んだ生徒の数学の平均正答率(%)

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる
□3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない



数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていると回答したグループの方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

授業改善のポイント

- 直観的な予想が外れやすい不確定な事象を取り上げ、起こりやすさについて確率を求めて判断する活動を取り入れることが大切です。
- 確率を用いることの必要性を理解するとともに、判断の理由を確率を用いて説明できるようにすることが大切です。

「令和7年度全国学力・学習状況調査報告書」【中学校数学】
(国立教育政策研究所)
大問7 授業アイデア例



2 教科に関する調査結果

(3) 理科

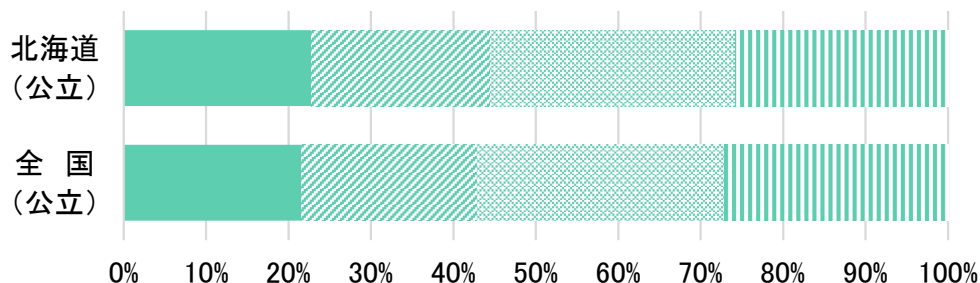
理科の調査結果について、正答数の層分布、IRTバンドの層分布と設問別の分析に基づく成果と課題を示しています。正答数の層分布・IRTバンドの層分布からは、小・中学校ともに全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られず、また、D層（正答数の少ない層）・バンド1の割合は、全国の結果と比較して大きな差は見られていません。

設問別の分析に基づく成果と課題は、具体的問題を基に、「解答の分析」や「授業改善のポイント」を、P17～P20に示しています。

小学校

正答数の層分布

■ 0～6問 ■ 7～9問 ■ 10～12問 ■ 13～17問



層	D層	C層	B層	A層
正答数	0～6問	7～9問	10～12問	13～17問
北海道(公立)	22.7	21.8	29.7	25.7
全国(公立)	21.6	21.3	30.0	27.1

※各層は、児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けています。

成果と課題

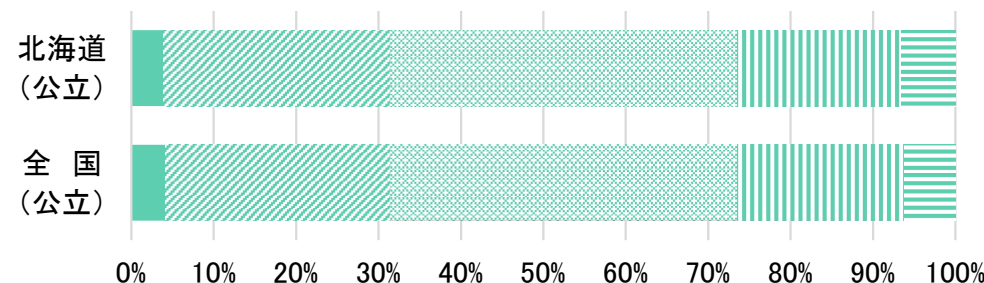
【成果】 水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することに成果が見られます。
(詳細はP17)

【課題】 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識を身に付けることに課題が見られます。
(詳細はP18)

中学校

IRTバンドの層分布

■ ～317 ■ 318～442 ■ 443～567 ■ 568～691 ■ 692～



IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTバンドスコア	～317	318～442	443～567	568～691	692～
北海道(公立)	3.9	27.6	42.1	19.9	6.6
全国(公立)	4.2	27.3	42.0	20.3	6.2

成果と課題

【成果】 身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定することに成果が見られます。
(詳細はP19)

【課題】 生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることに課題が見られます。
(詳細はP20)

結果のポイント

水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することに成果が見られます。

具体的な設問例
大問4(1)

水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く。

問題

【問題】

ビーカーの底の中心を温めたとき、水はどのように温まるのだろうか。

【問題】を解決するために、下のような【方法】で実験をしました。

【方法】

- 500 mL のビーカーに 300 mL のお湯を入れる。
- ①に味噌を少量入れ、よく混ぜてからしばらく置いて冷ます。
- 実験用ガスコンロでビーカーの底の中心を温め、味噌の動きを見る。
- 味噌の動きを確かめられたら、火を消す。

【結果】

温める前のようす

温めたときのようす



ゆういちさんは、【結果】をもとに【問題に対するまとめ】を考えました。



ゆういち

【問題に対するまとめ】

ビーカーの底の中心を温めたとき、水の温められた部分が上に移動して、全体が温まる。

ゆういちさんがまとめてくれて気づいたのだけど、この実験の【結果】だけでは、そのようなまとめはできないと思うな。この実験では、水の（ア）について調べていないのだから。



ひろみ

(1) 上のふきだしの（ア）にあてはまることばを書きましょう。

解答の分析

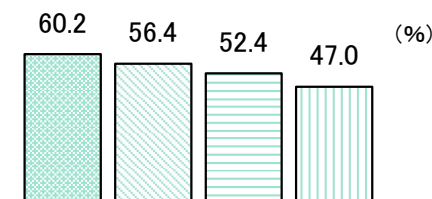
解答類型	北海道	全国	差	正答
水の温められた部分の温度に関する内容で解答しているもの。	52.7	50.6	+2.1	◎
ビーカーの中の味噌の動きに関する内容で解答しているもの。	14.3	16.4	-2.1	
水や味噌の量に関する内容で解答しているもの。	4.1	3.7	+0.4	
上記以外の解答	22.6	23.2	-0.6	

クロス分析

〔児童質問調査×理科の平均正答率〕

「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」の各選択肢を選んだ児童の理科の平均正答率

- ☐ 当てはまる
- ☐ どちらかといえば、当てはまる
- ☐ どちらかといえば、当てはまらない
- ☐ 当てはまらない



理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていると回答したグループの方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

授業改善のポイント

- 科学的に問題を解決するためには、計画した実験方法が予想したことを確かめられるものになっているかを検討して、改善することが大切です。
- 「解決の方法を発想する場面」や「実験を行い、その結果や方法を振り返る場面」、「問題に対するまとめを導きだす場面」などの問題解決の様々な場面で、計画した実験が予想を確かめられるのかについて検討したり、改善したりする学習活動が考えられます。

結果のポイント

乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識を身に付けることに課題が見られます。

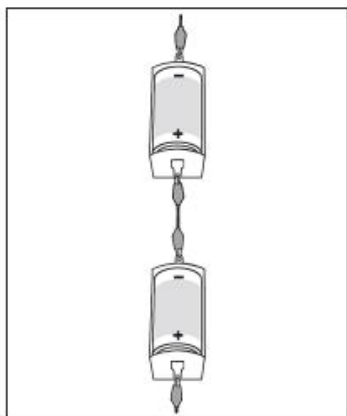
具体的な設問例
大問2(4)

乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ。

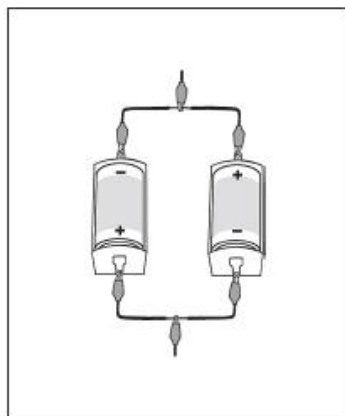
問題

(4) かん電池2個を直列につなぎ、電磁石の強さを最も強くできるのは、どのようなつなぎ方ですか。下の 1 から 4 までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

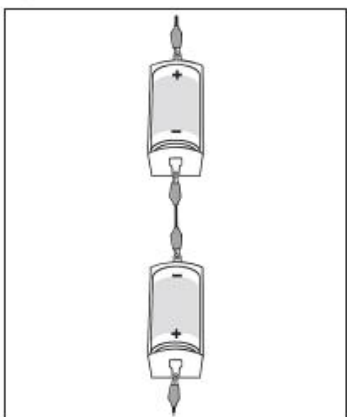
1



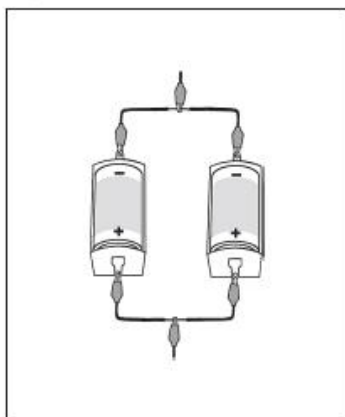
2



3



4



解答の分析

解答類型	北海道	全国	差	正答
1 1と解答しているもの	52.0	55.1	-3.1	◎
2 2と解答しているもの	27.3	25.6	+1.7	
3 3と解答しているもの	9.3	9.0	+0.3	
4 4と解答しているもの	10.6	9.4	+1.2	

解答類型4の解答をした児童は、並列つなぎの正しいつなぎ方は理解しているが、直列つなぎと並列つなぎの特徴と図を関係付けて捉えることに課題があると考えられる。

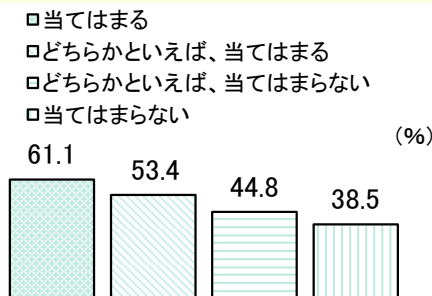
授業改善のポイント

- ものづくりでできた装置を言葉や図に表現したり、言葉や図から装置を再構成したりするなどして、学習を通して得た知識の理解を深めることが大切です。
- ものづくりでできた装置を図で表現したり、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正したりする学習活動が考えられます。

クロス分析

[児童質問調査×理科の平均正答率]

「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか」の各選択肢を選んだ児童の理科の平均正答率



理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていると回答したグループの方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

結果のポイント

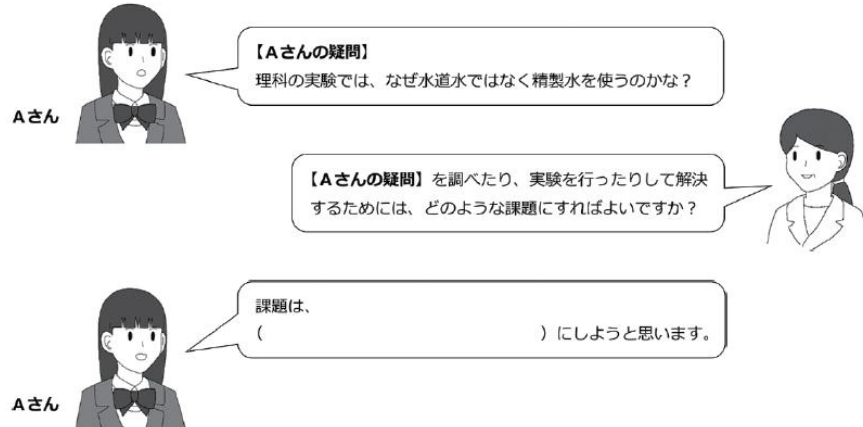
身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定することに成果が見られます。

具体的な設問例
大問1(2)

「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する。

問題

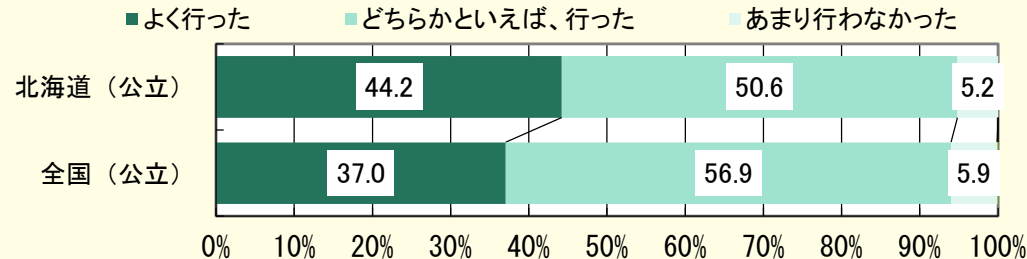
課題を設定する



(2) 【Aさんの疑問】を解決するために、() に適切な課題を書きなさい。

学校質問調査の状況

「理科の授業において、前年度までに、問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行いましたか」



問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導をよく行ったと回答した学校の割合が全国よりも高い。

解答の分析

(正答の条件)

次の(a)と(b)を満たしているもの

(a) 【Aさんの疑問】を解決しようとする内容になっているか。

(b) 水道水と精製水の両方の性質に着目している。

解答類型	北海道	全国	差	正答
(a)と(b)を満たしているもの 例 水道水と精製水の違いを調べよう。	37.9	32.9	+5.0	◎
(a)を満たし、(b)のうち精製水の性質のみに着目しているもの 例 精製水が蒸留でつくられる理由を考えよう。	9.8	8.9	+0.9	○
(a)を満たし、(b)のうち水道水の性質のみに着目しているもの 例 水道水の特徴をみつけよう。	4.3	4.4	-0.1	○
(b)を満たしているが、(a)を満たしていないもの 例 水道水と精製水の成分。	12.4	16.4	-4.0	
水道水、精製水の両方、またはいずれかに着目しているが、(a)を満たしていないもの 例 精製水について。	5.6	7.5	-1.9	
【Aさんの疑問】を繰り返し記述しているもの 例 なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？	16.8	13.6	+3.2	

授業改善のポイント

○ 生徒が疑問や問題から自分の言葉で課題を表現し、見通しをもって探究できるようにするために、「課題の把握」の段階で生徒が疑問や問題を見いだしやすい自然の事物・現象を提示することが大切です。

結果のポイント

生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることに課題が見られます。

具体的な設問例
大問1(4)

生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する。

問題

地層からしみ出した水について調べる



図のように地層からしみ出した水がたまっていたので、この水を適切な実験器具で観察しましょう。



図 地層からしみ出した水を採取している様子

下のように4種類の生物が観察できました。



観察した様子を見ましょう。



生物1



生物2



生物3



生物4

生物2、生物4の動画 出典 茨城県立水戸第一高等学校

クリックして動画を再生



これまでの学習内容を活用して呼吸を行う生物はどれか、考えてみましょう。



呼吸を行う生物は……。

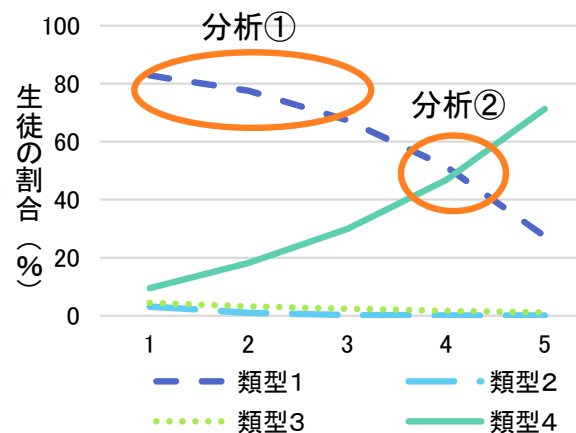
(4)

呼吸を行う生物をすべて選びなさい。なお、生物1から4のすべてを選んでかまいません。

解答の分析

	解答類型	北海道	全国	差	正答
1	生物1、生物2、生物3、 生物1・生物2、 生物1・生物3、生物2・生物3、 生物1・生物2・生物3	58.7	58.9	-0.2	
2	生物4	0.5	0.6	-0.1	
3	生物2・生物4	2.2	2.2	0.0	
4	生物1・生物2・生物3・生物4	29.5	29.7	-0.2	◎

G-P分析図



※「G-P分析図」とは、調査を実施した生徒の学力のレベルを分類して(横軸)、それぞれの集団がどの解答パターンに分類されるのか(縦軸)をグラフに表したもの。

<分析①>

IRTバンド1、2、3に属する生徒の6割以上が解答類型1と解答しており、動かない生物は呼吸を行わないと誤って捉えていると考えられる。

<分析②>

IRTバンド4に属する生徒の約5割が、解答類型1と解答している。

授業改善のポイント

○ 生物の共通点や相違点を挙げ、生命を維持する働きに関する知識を基に、それらの特徴からいろいろな生物について考察する学習場面を設定することが大切です。

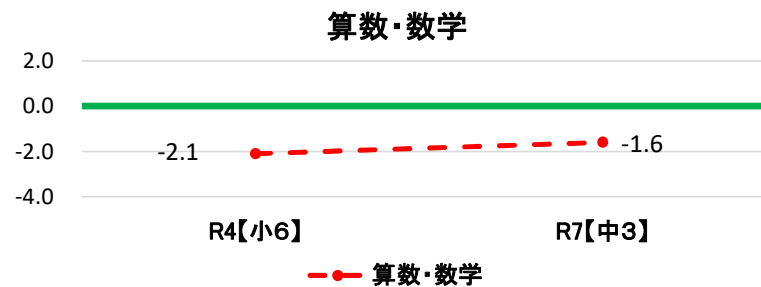
2 教科に関する調査結果

(4) 今年度調査対象となった中学校第3学年の小学校第6学年時との比較

今年度の調査対象となった中学校第3学年の調査結果と、令和4年度に小学校第6学年であったときの調査結果を比較しています。

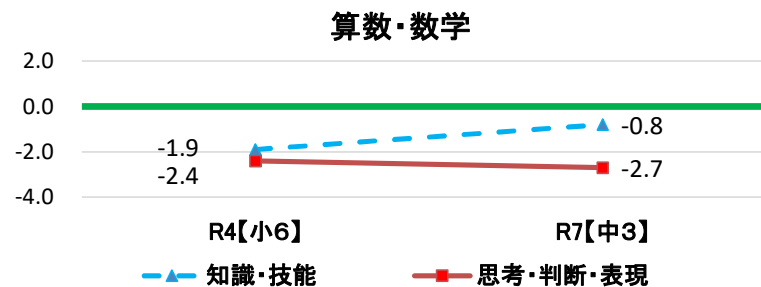
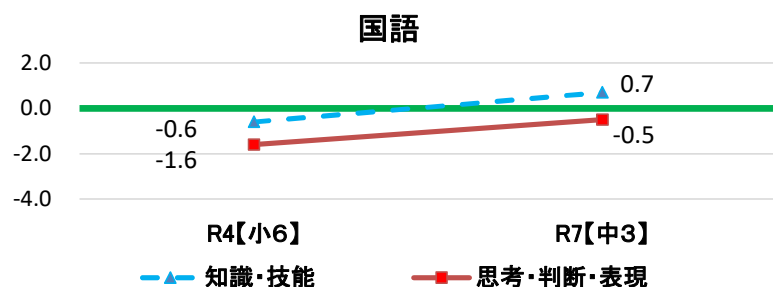
※中学校理科の結果については、今年度からIRTスコアで表示され、小学校第6学年であったときとの比較ができないため、掲載なし

教科全体



◆ 本道と全国の差は、「国語」「算数・数学」ともに縮小している。

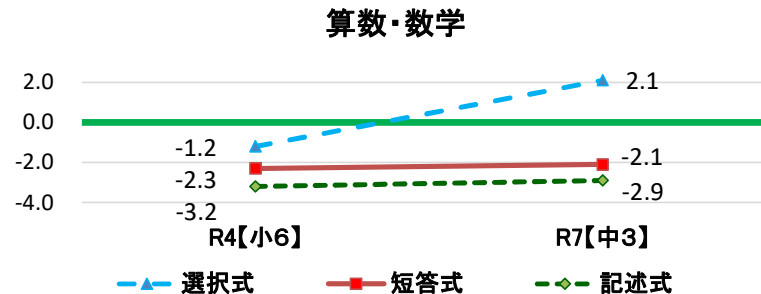
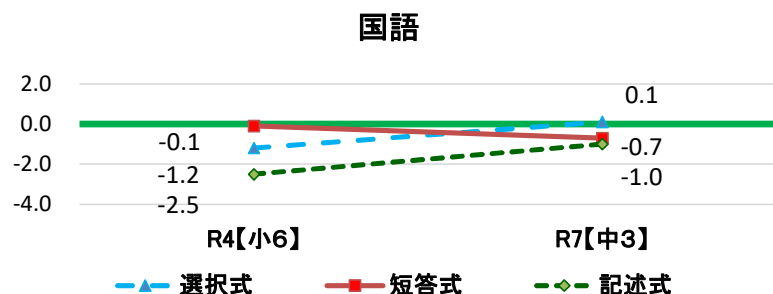
評価の観点



【国語】
◆ 「知識・技能」で中学校第3学年時に全国を上回り、本道と全国の差は、「思考・判断・表現」で縮小している。

【算数・数学】
◆ 本道と全国の差は、「知識・技能」で縮小し、「思考・判断・表現」で拡大している。

問題形式



【国語】
◆ 「選択式」で中学校第3学年時に全国を上回り、本道と全国の差は、「記述式」で縮小し、「短答式」で拡大している。

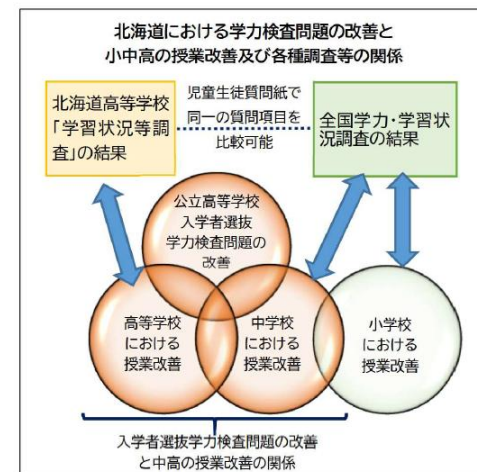
【算数・数学】
◆ 「選択式」で中学校第3学年時に全国を上回り、本道と全国の差は、「短答式」「記述式」で縮小している。

2 教科に関する調査結果

(5) 高等学校の調査結果等を活用した授業改善の方策

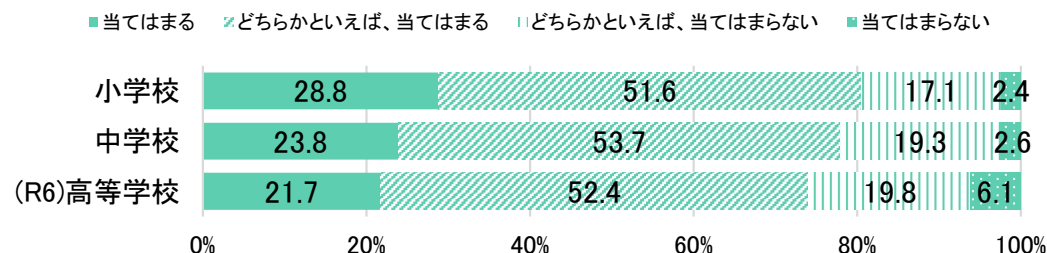
北海道高等学校「学習状況等調査」は、小中高の連続性を意識した授業改善等に向けた取組を推進することを目的に、質問項目を、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問と同一の内容にしています。そのため、小・中学校、高等学校間で質問項目に対する回答状況を比較することが可能です。

公立高等学校入学者選抜学力検査問題は、全国学力・学習状況調査の結果等を参考に、義務教育段階での課題を反映したものとなるよう出題内容を工夫しています。詳細は、P23～P32に示しています。

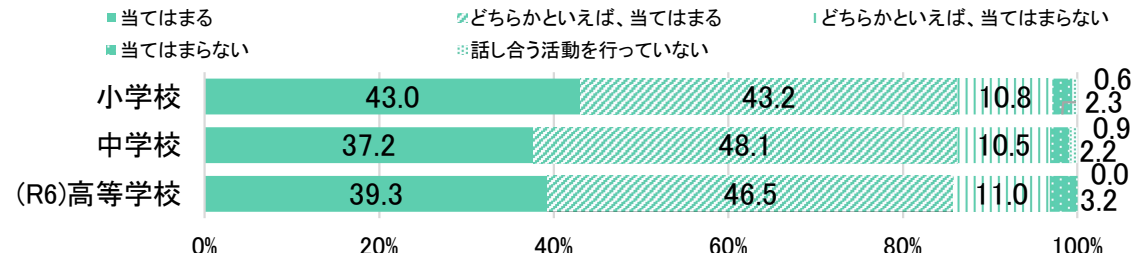


授業改善

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

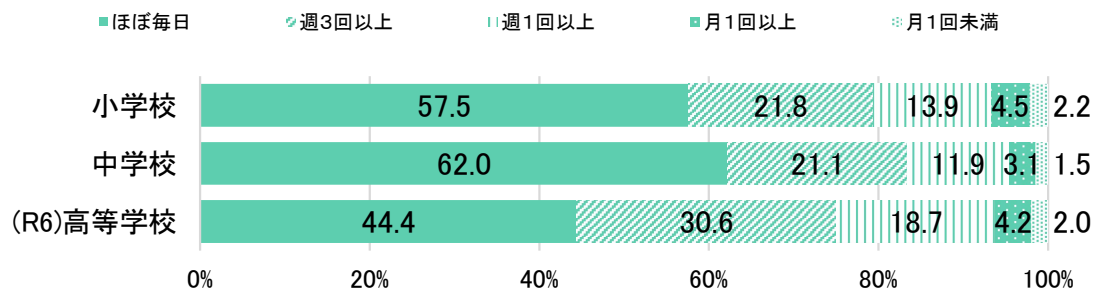


学級の児童[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた。



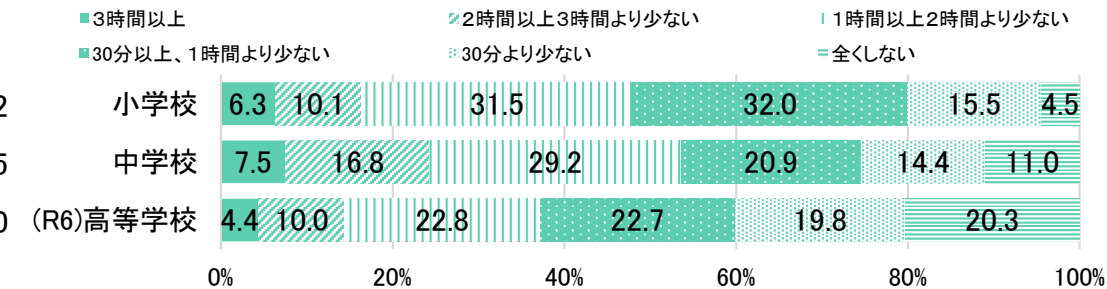
ICT機器の活用

授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。



学習習慣

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます)。



① 国 語

義務教育段階の
傾向や課題

自分の意見や考えが、何に基づいているかを明確に表現することに課題が見られます。

傾向や課題を踏ま
えた特徴的な問題

令和7年度北海道公立高等学校入学者選抜学力検査問題 大問四 問四

正答率(19.9%)
中間点(41.0%)

用途別使用量の目安		
用途	使い方	使用量
菌みがき	30秒間流しっぱなしの場合	約6リットル
洗面・手洗い	1分間流しっぱなしの場合	約12リットル
シャワー	3分間流しっぱなしの場合	約36リットル
食器洗い	5分間流しっぱなしの場合	約60リットル

東京都水道局のウェブサイトより

(C) 資料

問四 浅川さんは、普段の生活の中で節水のために取り組もうと思うことを(B)の書くことにしました。あなたが浅川さんになったつもりで、次の資料(C)を用いて書きなさい。

地球は「水の惑星」と呼ばれており、地球の表面の三分の二が水で覆われています。しかし、大部分は海水であり、私たちの生活で使用できる淡水はごくわずかしか使えません。その多くは北極や南極の氷河や地下水として存在し、河川や湖等の淡水は地球上の水のわずか〇.〇〇八%といわれています。[ア] 今後、世界の人口増加、社会経済の発展、都市の拡大などにより、地球の水資源の量や質に様々な問題が生じることが指摘されています。[イ] 特に、世界の人口一人当たりの水資源の量は、地球温暖化による気候変動の影響などから、二〇五〇年までに、二〇一〇年の四分の三になると予想されています。[ウ]

こうしたことから、各国の生活用水や保有する水資源量について調べ、「水道の国際比較に関する研究」の中から、二つの調査結果を見つけました。[エ] 「生活用水の用途の割合」と「一人当たりの生活用水使用量」を見ると、日本は X 。そこで私は、この二つの国で生活用水の用途の割合は似ているのに、なぜ使用量に大きな差が出るのか、その理由を使える水の量に着目して考えました。グローバルノートというウェブサイト「国別水資源量」を見ると、日本の水資源量は、 Y 。日本は、蛇口をひねればいつでも安全な水が出てきます。普段の生活でも、水の大切さを意識することはあまりありません。しかし、水は限りある資源です。そのことを忘れずに、節水を行っていくことが大切です。

(B) 下書き

出題のねらい

[問題の内容]

示された課題について、自分の考えを支える根拠として示す事例等を検討し、考えが分かりやすく伝わるように、文の長さや、文の役割、語順などが適切であるかなどを工夫して表現する力をみる問題である。

[解答までのプロセス]

- ① 資料(C)をもとに、節水のために取り組むことと、それを支える根拠を決める。
- ② 自分の考えが明確に伝わるよう、根拠を適切に示しながら記述する。
- ③ 文の長さや、文の役割、語順などが適切であるかなどを工夫し、考えが分かりやすく伝わるようにする。

[関連する学習指導要領の領域と内容]

第3学年〔思考力、判断力、表現力等〕 B 書くこと (1)ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。

解答の状況と分析

この問題の正答率は19.9%、中間点取得率は41.0%であった。受検者にとっては、普段の生活のなかで節水のために取り組もうと思うことに係る自分の考えと、資料から見つけた自分の考えの根拠となる事実や事柄を結び付けて、適切に表現することが難しかったと考えられる。

今後の授業の在り方

<授業実践例> B 書くこと【中学校 第3学年】

自分が伝えたいことについて、根拠を明確にして書く。

指導事項

ア 具体と抽象などの情報と情報との関係について理解を深めること。

〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項

ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫すること。

〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」考えの形成、記述

言語活動例

ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。

授業づくりのポイント

- この単元では、
 - ・テーマを設定して情報を集め、自分の考えをもつ活動（学習活動④）
 - ・伝える内容や構成の検討（学習活動⑥）
 - ・交流（学習活動⑦、⑨）
 - ・交流を通して根拠の適切さや表現の工夫を考えて自分の考えを書く活動（学習活動⑧、⑩）を設定しました。
- このように、言語活動を通して、根拠の適切さを考えたり、どのような説明や具体例を書き加えると根拠が明確になるか考えたりできるような学習活動の一層の充実が求められます。

高等学校における指導の在り方

- 高等学校では、「現代の国語」において、
 - ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えること
 - ・文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することが求められます。
- こうしたことを踏まえ、例えば、論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する活動などを取り入れ、自分の考えを表現する学習活動の一層の充実を図ることが大切です。

学習過程		〔主な学習活動〕	〔指導上の留意点〕
第一次	社会生活の中から関心のある事柄を選び、自分が伝えたいことについて、根拠を明確にして自分の考えを書く	<p>設定した言語活動：「持続可能な社会の実現に向けて自分の考えを書く」</p> <p>① 伝えたいことを明確にし、相手に分かりやすく伝えるように工夫して自分の考えを書くという活動に取り組むことを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>② SDGsの17の目標や現代社会の課題について知り、感じたことを交流する。</p> <p>③ 各自でテーマを決める。</p>	<p>■ ①について 例を示してイメージをもたせるとともに、伝える対象、字数等の条件を生徒と決め、集めた材料を整理する際には、目的や意図に応じた観点を設け、比較、分類、関係付けなどをしながら考えをまとめ、伝えたいことを明確にすることを確認する。</p> <p>■ ②、③について 現代的な課題について自分事として考えられるよう、日本のSDGsの達成状況を紹介したり他教科での学びと結び付けたりしてイメージをもたせる。</p>
		<p>④ テーマに関する資料を集め、伝えたいことを明確にする。</p> <p>⑤ 集めた情報の客観性・信頼性を確認し、自分の考えを支える根拠として適切であるかを判断し、取捨選択する。</p> <p>⑥ ICT機器を用いて「自分の考え」「根拠となる事柄や事実」「事実や事柄に対する解釈」からなる構成メモをクラウド上に作成する。</p> <p>【Aさんの構成メモ】 自分の考え：持続可能な社会の実現のために食品ロスを減らすべきだ 根拠となる事実や事柄 ①日本の食品ロスは年間472万トン（半分が事業、半分が家庭から） ②事業では規格外、売れ残り、作りすぎなど、家庭では食べ残し、期限切れによる廃棄が主な理由 ③食品ロスによる影響…経済損失、温室効果ガス排出量の増加 事実や事柄に対する解釈 ・食品ロスを減らすことで温室効果ガスや食料の損失、処理費用の減少につながり、持続可能な社会の実現に近づくことができる。</p>	<p>■ ④について 情報の客観性や信頼性に留意させるとともに、目的に応じて収集させる。</p> <p>■ ⑤について 必要に応じて再度、情報を収集させる。</p> <p>■ ⑥について 三角ロジックを用いて、主張と根拠の関係の適切さや根拠の確かさについて考えさせる。</p> <div data-bbox="884 933 1176 1061"> </div>
第二次		<p>⑦ 構成メモをもとに、伝えたいことの根拠が明確になっているか、グループで助言し合う。</p> <p>【助言の様子】 Bさん「家庭からの食品ロスについて、年間1人あたりに換算した数値を使うと、より身近に感じられるのではないかな。」 Cさん「食品ロスを削減すると持続可能な社会の実現につながる、というところが伝わりにくくなっているよ。」 Dさん「Aさんが経験したことを具体的に述べて主張と結び付けると説得力が増すんじゃないかな」</p>	<p>■ ⑦について 助言し合う際の観点として次の3点に留意させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる事実や事柄は適切か ・事実や事柄に対する解釈は主張の理由として適切か ・自分の考えを分かりやすく伝える主張となっているか
		<p>⑧ ⑦で得た助言を踏まえて構成メモを修正し、クラウド上に自分の考えを伝える文章の下書きを書く。</p> <p>⑨ クラウド上にある他者の文章にコメントする。</p> <p>⑩ 他者からのコメントの内容を踏まえ、自分の考えを伝える文章を完成させる。</p>	<p>■ ⑨について 分かりやすく伝わる表現になっているか、表現の工夫や効果を考慮しながらコメントを付けさせる。</p> <p>■ ⑩について どのような工夫をすることで自分の考えが相手に伝わる文章になったのか、振り返りの観点を示す。</p>
第三次		⑪ 単元の学習をクラウド上で振り返る。	

② 数 学

義務教育段階の
傾向や課題

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することや、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られます。

傾向や課題を踏ま
えた特徴的な問題

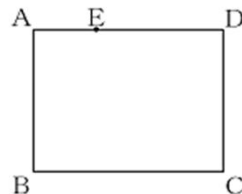
令和7年度北海道公立高等学校入学選抜学力検査問題 大問4 問2

正答率(17.5%)
中間点(42.8%)

4 図1のような長方形ABCDがあります。辺AD上に点Eを、

図1
BC=CEとなるようにとります。ユウコさんたちは、この長方形
を折ったときにできる図形について調べています。

次の問いに答えなさい。(配点 16)



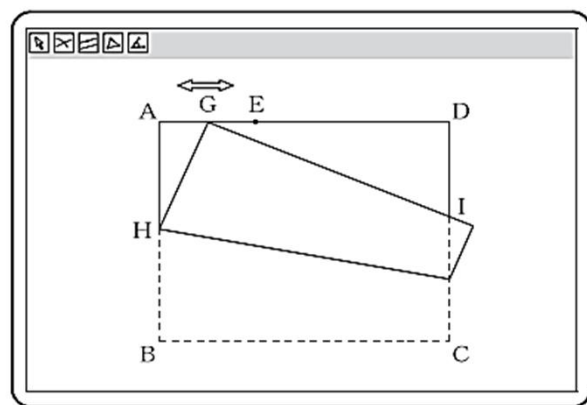
問2 ユウコさんたちは、コンピュータを使って、画面のように、線分AE上に点Gをとり、
頂点Bと点Gが重なるように折ったときにできる折り目の線と辺ABとの交点をHとし、
点Gを通り線分GHに垂直な直線と辺CDとの交点をIとしました。

次に、点Gを線分AE上で動かし、ユウコさんたちは、「△AGHと△DIGが相似で
ある」と予想しました。

ユウコさんたちの予想が成り立つことを証明しなさい。

ただし、点Gは頂点A、点Eと重ならないものとします。

画面



出題のねらい

[問題の内容]

長方形を折ったときにできる図形から、発展的に考えて、ユウコさんたちの予想が成り立つことを数学的な表現を用いて論理的に説明することができるかどうかをみる問題である。

[解答までのプロセス]

1つの直線の片側にできる角が 180° である性質と、三角形の内角の和が 180° である性質から、「対応する2組の角がそれぞれ等しい」ことを基にして、△AGHと△DIGが相似であることを証明する。

[関連する学習指導要領の領域と内容]

第3学年 B 図形

(1) 図形の相似について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。

解答の状況と分析

この問題の正答率は17.5%、中間点取得率は42.8%であった。三角形の相似条件を証明の根拠として位置付け、相似であることを示すには何がいればよいかを考え、説明することが難しかったと考えられる。

今後の授業の在り方

<授業実践例> B 図形【中学校 第3学年】

「重ねる点の位置を変えても、いつでも成り立つ関係はあるか。」
～解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する～

指導事項

イ(ア) 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。〔思考力、判断力、表現力等〕

イ(ウ) 相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。〔思考力、判断力、表現力等〕

数学的活動

イ 数学の事象から見通しをもって問題を見いだし解決したり、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする活動

ウ 数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動

学習過程	〔主な学習活動〕	〔指導上の留意点〕
問題を見いだす過程 ↓ 数学の事象から問題を解決する過程 ↓ 統合的・発展的に考察する過程	<p>① 辺AD上にBC=CEとなるような点Eを取り、頂点Bと点Eを重ねるとき、相似な図形はあるか、考察する。 〔予想される生徒の反応〕 ア $\triangle AEF$と$\triangle DCE$は相似になるのではないかな。</p> <p>「頂点Bと重ねる点の位置を、辺AD上の点Eと違う位置に変えたとしても、いつでも成り立つ関係はありますか。」</p> <p>② ①で成り立つと考えた関係は、頂点Bと重ねる点を、辺AD上を動く点Gとして考えるとき、いつでも成り立つか、考察する。 〔予想される生徒の反応〕 イ 点Gが点Aから点Eの間にあるとき、$\triangle AGH$と$\triangle DIG$はいつでも相似になるのではないかな。 ウ 点Gが点Eから点Dの間にあるとき、四角形ができて、$\triangle AGH$と相似な図形ができない。 ③ 点Gを点Aから点Eの間で動かしたとき、いつでも成り立つ関係があるか、端末を使って考察する。 〔予想される生徒の反応〕 ・ $\triangle AGH$と$\triangle DIG$が相似となる。 ・ $\triangle DIG$と$\triangle KIJ$が相似となる。 ④ ③での予想が成り立つことを証明する。</p> <p>⑤ 点Gが点Eから点Dの間にあるとき、相似になる三角形はあるか、考察する。 〔予想される生徒の反応〕 ・ 四角形と三角形は相似にならない。 エ 線分GLを延長した直線と、辺DCを延長した直線の交点をMとする。点Gが点Eから点Dの間にあるとき、$AE < AG < AB$となるように点Gを動かせば、$\triangle AGH$と$\triangle DMG$が相似になるのではないかな。</p> <p>「重ねる点の位置を変えても、$\triangle AEF \sim \triangle DCE$と同じように、いつでも成り立つ関係があることを説明することができたね。」</p>	<p>■ 対象の図形において見いだした関係について、条件を変えても、いつでも成り立つ関係があるか考察し、成り立つことを説明する活動とする。</p> <p>■ 前時までに$\triangle AEF$と$\triangle DCE$が相似であることの証明は終えているものとする。</p> <p>■ ②では、具体物（コピー用紙など）を使って、点Gが点Aから点Eの間にあるときに、点Gが点Eから点Dの間にあるときにできる図形の違いに気付かせる。</p> <p>■ アは、イの条件に統合できることに気付かせる。</p> <p>■ ③では、動的幾何学アプリのクラウド機能を用いて、点Gを動かして考察する活動をさせる。</p> <p>■ 生徒から、他の反応が出た場合には、生徒の気付きを認めた上で、それらの関係が相似の関係に集約できることを確認する。</p> <p>■ ①～④までの考察を踏まえ、生徒が自ら三角形の相似の関係を見出すことができるよう指導する。</p> <p>■ 証明の方針等をかいたノート写真を撮り、クラウドを通して全体共有するなどして、考えの進まない生徒に考えを促す。</p> <p>■ ア、イ、エをまとめて、点Gを$AG < AB$となるように動かすとき、$\triangle AGH$と相似となる三角形があることに気付かせる。</p> <p>■ 生徒の状況に応じて、点Gを$AB < AG$となるように動かすとき、$\triangle AGH$と相似な三角形を見いだす活動も考えられる。</p>

授業づくりのポイント

- この單元では、
 - ・条件を変えても、いつでも成り立つ関係があることについて考察し、解決の過程を振り返って、それらを統合的に捉える活動を設定しました。
- 指導に当たっては、ICTを効果的に活用することにより、生徒が、視覚的に図形の性質を把握し、数学に関わる概念や原理・法則などを実感を伴って理解できるようにすることが大切です。

高等学校における指導の在り方

- 高等学校では、
 - ・図形の構成要素間の関係などに着目し、新たな図形の性質を見いだし、論理的に考察したり説明したりできるようにすること
 - ・図形の性質や作図について統合的・発展的に考察できるようにする力を養うことが求められます。
- 指導に当たっては、
 - ・問題解決における一連の思考過程を振り返り、条件を変更するなどして発展的に考察させること
 - ・得られた結果を基に、図形の性質について統合的に捉えさせること
 - ・統合的・発展的に考察する際には、見いだした図形の性質について、集合の考えを用いて捉えさせたり、命題として表現させることが大切です。

③ 社会

義務教育段階の
傾向や課題

文章や図表等に表れている見方や考え方を捉えることや、自分の意見や考えが何に基づいているかを明確に表現することに課題が見られます。

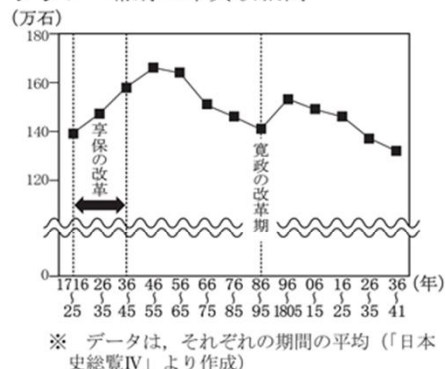
傾向や課題を踏まえた特徴的な問題

令和7年度北海道公立高等学校入学者選抜学力検査問題 大問2 問3

正答率(7.6%)
中間点(40.8%)

問3 グラフと資料4、5は、カードBに関して中学生が収集したりまとめたりしたものです。グラフと資料4、5をふまえ、田沼意次の政策を、政策の背景と目的にふれて、説明しなさい。

グラフ 幕府の年貢収納高



資料4 株仲間についてのまとめ

- ・同業者によって組織された。
- ・一定の税を納めることで、商品の流通や販売を独占する特権を得た。
- ・構成員の数は、株が与えられた人数で固定され、新たな加入は制限された。

資料5 田沼意次の時代に出された法令

長崎で、中国の商人に売り渡すいりこ（干したなまこ）、干しあわびについて、これまで生産に不慣れな地域であっても、今後は、近隣の浦から、漁の仕方や中国向けの食材にするための加工の仕方を学び、増産に励むこと。安永七（1778）年三月二十六日。

（『徳川禁令考』を現代語訳し、一部要約したもの）

出題のねらい

[問題の内容]

資料4、5に示された株仲間と長崎貿易に関する情報と、グラフから読み取ることのできる情報をまとめる技能と思考・判断したことを説明する力をみる問題である。

[解答までのプロセス]

田沼意次が失脚した後に寛政の改革が始まるという既習知識を基に、グラフから、寛政の改革前に幕府の収入の基盤となる年貢収納高が減少しているという歴史的な背景を読み取る。資料4から、株仲間は特権を得る代わりに幕府に税を納めていることを読み取り、田沼意次の政策の一つとして株仲間を積極的に公認していたという既習知識と結び付ける。資料5から、田沼意次が長崎貿易における輸出の拡大を図っていることを読み取り、グラフから読み取れる情報と結び付けて、幕府の収入を増やすことを目的にこれらの政策が行われたことについて解答する。

[関連する学習指導要領の領域と内容]

B 近世までの日本とアジア

(3) 近世の日本 ア (エ) 幕府の政治の展開

社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解すること。

解答の状況と分析

この問題の正答率は7.6%、中間点取得率は40.8%であった。

資料の情報を基に、長崎貿易や株仲間の奨励と、その背景にあった幕府の財政立て直しを関連付けて表現することが難しかったと考えられる。

今後の授業の在り方

<授業実践例> 歴史的分野【中学校 第3学年】

「近世の日本」

～近世社会の基礎はどのように築かれ、どのように変容し、
近代へとつながっていったのだろうか～



指導事項

3ア(エ) 幕府の政治の展開

社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きを基に、幕府政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解すること。
〔知識及び技能〕

言語活動例

・諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめたことを説明したり、それらを基に議論したりする活動

学習過程		主な学習活動	指導上の留意点
第一次	課題把握	<p>【中項目全体を貫く問い】 「あなたは、近世社会の基礎はどのように築かれ、どのように変容し、近代へとつながったと考えるか」</p> <p>【本時の問い】 「欧米諸国の接近が幕府の政策や社会にどのような影響を与えたのだろうか」</p> <p>① 本時の問いについて、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。 ② 社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、まとめる。</p>	<p>■ ①・②について、欧米諸国の接近による社会の変化について、前時までの内容を踏まえて比較できるように、ワークシートを工夫する。</p> <p>■ 第一次の課題について、貨幣経済の広がりや都市や農村の変化などに着目して、資料を活用して考察し、結果を表現できるように提示する史料やワークシートの内容を工夫する。</p> <p>■ 日常的な机間指導や話し合いの様子、ワークシートの活用なども含め、学習の過程で生徒の状況を把握したり、確認したりすることを通して、学習改善につなげる。</p>
第二次	課題追究	<p>【本時の問い】 「なぜ幕府の政治は改革が必要になったのだろうか」</p> <p>③ 本時の問いについて、グループ内でA「享保の改革」、B「田沼時代」、C「寛政の改革」、D「天保の改革」について分担して調べ、1人1台端末を用いて、諸資料からまとめた情報をスライドに入力する。 ④ 他のグループで、自分と同じ内容（A～D）を調べている人とそれぞれ情報共有する。 ⑤ 自分のグループに戻り、情報を共有し、幕府政治の改革が必要だった理由について多角的・多面的に考察する。</p>	<p>■ ③～⑤について、社会の変化と幕府の改革の関わりを関連付けられることができるように思考させる。</p> <p>■ 言語活動を通じた授業改善の例</p>  <p>出典：中教審初等中等教育 分科会教育課程部会 第122回配付資料 (資料2)</p>
第三次	課題解決	<p>【本時の問い】 「学問・思想は新しい時代を切り開く動きにどのように影響をもたらしたのだろうか」</p> <p>⑥ 本時の問いについて、諸資料からまとめた情報をワークシートに記入する。 ⑦ グループでワークシートに記入した情報をグループで共有し、新しい時代を切り開く動きにつながるキーワードを話し合い、まとめる。</p>	<p>■ ⑥・⑦について、今までの時代の学問・思想と新しい時代に影響を与えた学問・思想を比較し、新しい時代につながるキーワードをまとめさせる。</p> <p>■ 情報を共有するためのYチャートを活用したワークシートの例</p> 
第四次	新たな課題	<p>【本時の問い】 「なぜ幕府の政治は、様々な取組をしたにもかかわらず、行き詰まりをみせたのだろうか」</p> <p>⑧ 本時の問いについて、デジタルホワイトボードを活用し、グループで考えを出し合う。 ⑨ 各グループの考えを学級全体で共有し、さらに全体で意見を出し合い、本時の問いについてまとめる。また、次の時代に大切になると思うキーワードをあげて理由を示す。</p>	<p>■ ⑧・⑨について、思考ツールとして、デジタルホワイトボードを用いて考えを入力させるなど、次の時代につながるキーワードをまとめることができるよう工夫する。</p> <p>■ 【主体的に学習に取り組む態度：学習改善につなげる評価】 「中項目全体を貫く問いの部分的なまとめの論述」をワークシートに記入させる。</p> <p>政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色などの視点を生徒に与えて考察させ、自己調整させる場面を設定する。</p>

授業づくりのポイント

- この単元では、
 - ・近世の日本を大観して、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目すること
 - ・多面的・多角的に考察すること
 - ・時代の特色を表現することができるよう配慮した活動を設定しました。
- 指導に当たっては、ワークシート等を効果的に活用するなど、獲得した知識を活用して、時代の特色を文章や図などでまとめることができるようにすることが大切です。

高等学校における指導の在り方

- 高等学校では、地理歴史科において、
 - ・社会との関わりを意識して課題を追究する活動を充実し、知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力
 - ・自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力
 - ・持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度などを育むことが求められます。
- 指導に当たっては、特に必修科目である「歴史総合」の学習においては、主体的・対話的で深い学びを実現するために、
 - ・課題を設定すること
 - ・その課題の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目すること
 - ・課題を追究する学習を設計することが大切です。

④ 理 科

義務教育段階の
傾向や課題

観察、実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことや、結果に影響を与える観察、実験の操作や条件の制御などを検討することに課題が見られます。

傾向や課題を踏ま
えた特徴的な問題

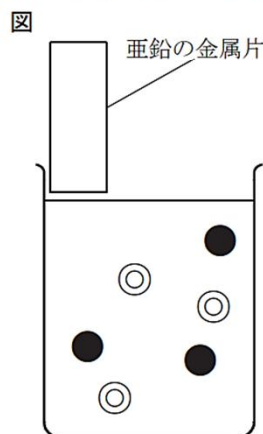
令和7年度北海道公立高等学校入学者選抜学力検査問題 大問3 問1

正答率(12.7%)
中間点(5.5%)

- 3 ある金属のイオンへのなりやすさについて、科学的に探究した内容を、レポートにまとめました。次の問いに答えなさい。(配点 18)

問1 【実験1】について、次の(1)～(4)に答えなさい。

- (1) 下線部⑤の気体を化学式で書きなさい。
- (2) ①, ② に当てはまる操作を、結果の表の操作ア～ケからそれぞれ選びなさい。
- (3) 図は、硫酸銅水溶液に亜鉛の金属片を入れる前のイオンのようすをモデルで表したものである。下線部⑥のときのイオンのようすを表すモデルを解答欄の図にかき加えなさい。ただし、●は銅イオン、◎は硫酸イオン、○は亜鉛イオンを示すこととし、電子、電子の動きおよび亜鉛の金属片に付着した固体は記入しなくてよい。



出題のねらい

[問題の内容]

金属の種類によってイオンへのなりやすさが異なることと、金属片と金属のイオンを含む水溶液との反応の結果についての知識を活用し、仮説を確かめるための観察・実験の計画を立案する力をみる問題である。

[解答までのプロセス]

- ①【実験1】から、金属X、銅、亜鉛のイオンへのなりやすさが、なりやすい方から順に、亜鉛>銅>金属Xであることを確認する。
- ②【実験1】を参考に、金属Yと銅のイオンへのなりやすさの違いと、金属Yと亜鉛のイオンへのなりやすさの違いを確かめるために必要な操作を考える。
- ③【実験1】を参考に、②の操作で予想される結果を考える。

[関連する学習指導要領の領域と内容]

第3学年 第1分野

(6) 化学変化とイオン

化学変化についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。

解答の状況と分析

この問題の正答率は12.7%、中間点取得率は5.5%であった。必要な操作を判断することはできたが、予想される結果を適切に解答することが難しかったと考えられる。

今後の授業の在り方

<授業実践例> (イ) 化学変化と電池【中学校 第3学年】

「金属のイオンへのなりやすさについて深く理解しよう」
～実験結果の分析から、規則性、関係性を見いだす～

指導事項

- (6)イ 化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。
〔思考力・判断力・表現力等〕

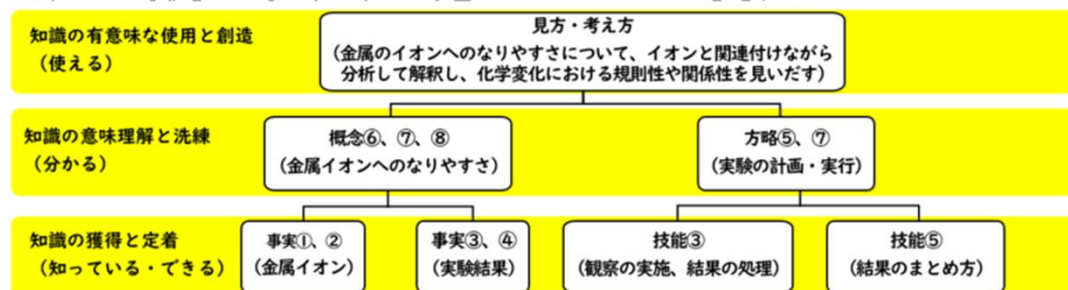
探究的な活動

- ・理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験の結果を分析、解釈するなどの科学的に探究する学習活動

学習過程		(主な学習活動)	(指導上の留意点)
第一次	課題の把握(発見)	金属のイオンへのなりやすさについて ① 銅及び亜鉛と塩酸の反応、銅と硫酸亜鉛水溶液の反応、亜鉛と硫酸銅水溶液の反応について、それぞれ資料を提示し、金属のイオンへのなりやすさには、どのような規則性や関係性があるか話し合う。 ② 未知の金属Xのイオンへのなりやすさを、銅と亜鉛のイオンへのなりやすさと関連付けながら推定する方法について話し合い、仮説を設定する。	■ 銅及び亜鉛と塩酸の反応と金属のイオンへのなりやすさの関係性について着目できるように促す。 ■ 銅、亜鉛の陽イオンの水溶液と、それぞれの金属片の反応を比較し、金属のイオンへのなりやすさの規則性や関係性について考えさせる。 ■ 仮説の設定に伴い、銅と亜鉛のイオンへのなりやすさのちがいを確認させることで、金属Xの実験を行った際の比較・検証の材料とすることができる。【自然事象に対する気づき】
	課題の探究(追究)	金属のイオンへのなりやすさを推定する実験 ③ 未知の金属Xのイオンへのなりやすさについて、見通しをもって実験を行い、設定した仮説の検証を行う。 ④ 実験結果を参考に、金属X、銅、亜鉛をイオンになりやすい順に並べる。 ⑤ 未知の金属Yのイオンへのなりやすさを推定する実験において、最も少ない操作回数で確かめるための検証計画について話し合う。	■ 金属X、銅、亜鉛の陽イオンの水溶液と、それぞれの金属片を用いて、金属Xのイオンへのなりやすさを推定する実験を行い、どのような変化が起きたかをくわしく記録し、実験の結果を表にまとめさせる。【観察・実験の実施】 ■ 金属X、銅、亜鉛の金属のイオンへのなりやすさを踏まえて、金属Yのイオンへのなりやすさを最も少ない操作回数で調べる方法について、自分の考えを具体的に説明することができるように促す。【検証計画の立案】
第二次	課題の解決	金属のイオンへのなりやすさについての総合的な考察について ⑥ これまでの学習を振り返り、金属のイオンへのなりやすさについて説明する。 ⑦ 教科書を参考に、金属板や水溶液に見られた変化、または変化が見られなかった原因を、イオンのモデルを使って表現し、説明する。 ⑧ 新たな課題として、金属のイオンへのなりやすさと電池との関係性を見だし、仮説を設定する。	■ イオンのモデルと関連付けて考えたり、実験結果をまとめた表を分析したりして、金属のイオンへのなりやすさが異なることについて根拠を示して表現できるように促す。 ■ イオンのモデルの作成について、水溶液中に存在するイオンや、電子の動きに着目できるように促す。【考察・推論】 ■ 金属のイオンへのなりやすさが異なることと電子の移動する向きを関連させながら、電池の電極における変化について、事象や概念等に対する新たな知識を再構築したり、獲得したりすることができるように促す。【考察・推論】

・単元内容の構造化(※①～⑧は「主な学習活動」の項目)

中央教育審議会 教育課程特別部会 教育課程企画特別部会(第13回 平成27年8月5日)配付資料「学習指導要領等の構造化のイメージ」(文部科学省)
(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfile/2015/08/06/1360750_2-1_3.pdf)を加工して作成



授業づくりのポイント

- この単元では、
 - ・金属によってイオンへのなりやすさが異なることについて、イオンへのなりやすさを推定する実験
 - ・化学変化をイオンのモデルと関連付けながら理解する活動
 - ・イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現する活動
- このように、学習者が観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動や科学的な概念を使用して考えたり、説明したりする学習活動の一層の充実が求められます。

高等学校における指導の在り方

- 高等学校では、酸化と還元について、
 - ・問題を見だし観察、実験などを計画する学習活動
 - ・観察、実験などの結果を分析し解釈する学習活動
 - ・科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動
 - 指導に当たっては、
 - ・観察、実験を計画する場面で、考えを発表する機会を与えたり、検証方法を議論したりしながら考えを深め合うなどの学習活動
 - ・レポートの作成、発表、討論など知識及び技能を活用する学習活動
- を工夫し充実を図ることが大切です。

2 教科に関する調査結果

(5) 高等学校の調査結果等を活用した授業改善の方策

⑤ 英 語

義務教育段階の 傾向や課題

文章の概要や要点を捉えることや、基本的な語や文法事項等を活用することに課題が見られます。

傾向や課題を踏ま えた特徴的な問題

令和7年度北海道公立高等学校入学者選抜学力検査問題 大問1 問4(3)

正答率(11.4%)
中間点(12.3%)

(放送台本)

We believe that children should play outside more. We have two reasons.
First, children can become friends with others because they meet many people outside.
Second, children can play sports such as soccer in the park.
So, children should play outside more. Thank you.

(英文を繰り返す)

問4 あなたは、英語の授業で、あるテーマについてディベートをすることになりました。あなたとは異なる立場の生徒の意見を聞き、条件にしたがって、次のメモを完成させなさい。英文は2回読まれます。

メモ

【相手側の意見】

Children should play outside more.

→理由1

Children can become (1) with others.

→理由2

Children can play sports. (2), they can play soccer in the park.

【相手側が示した理由についての質問】

(3) ?

条件

- ・ (1) には、英文の内容から考えて、適当な英語を1語で書きなさい。
- ・ (2) には、英文の内容から考えて、適当な英語を2語で書きなさい。
- ・ (3) には、理由1または理由2いずれかの内容についての質問を1つ、主語と動詞を含む英語で自由に書きなさい。

出題のねらい

[問題の内容]

英文を聞き、内容を的確に理解した上で自分の考えを整理し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切に表現する力をみる、「聞くこと」と「書くこと」を統合させた問題である。

[解答までのプロセス]

- ① ディベートをする場面において、相手側の意見を聞き、相手側の意見とその2つの理由を的確に理解する。
- ② 相手側が示した2つの理由のいずれかについて、英語で質問を1つ書く。

[関連する学習指導要領の領域と内容]

2 内容〔思考力、判断力、表現力等〕(2) イ

日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。

解答の状況と分析

この問題の正答率は11.4%、中間点取得率は12.3%であった。
英語を聞いて得られた情報を正確に理解したり、適切に自分の考えを書いたりすることが難しかったと考えられる。

今後の授業の在り方

＜授業実践例＞ 聞くこと、書くこと【中学校 第3学年】

「私たちの町を訪れるベストシーズンを外国の人に伝えよう」
～ALTの発表を聞き、考えや質問を伝えることで、よりよい紹介にしよう～

指導事項

- (2) イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。
〔思考力、判断力、表現力等〕

言語活動例

- ・話すこと[やり取り](イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。

学習過程		(主な学習活動)	(指導上の留意点)
第一次	目的・場面・状況等の把握	<p>① 活動の目標を理解する 教師とALTのやり取りの中で、本時で扱う題材やALTが何を求めているかを把握し、聞いたことについて自分の考えや質問を話してやり取りするという活動の見通しをもつ。</p> <p>(教師とALTのやり取り例) ALT: My family plans to visit this town next year, but they haven't decided when they'll come. So, I want to tell them more about this town, such as its famous food, places and other things. Today, I'll show you my presentation for my family. After that, I want to hear your questions and ideas. 教師: That sounds good! Now everyone, please listen to Peter's presentation. OK, let's start.</p>	<p>■ ALTと英語でやり取りしながら、生徒が活動の目標を確認できるようにする。</p> <p>■ ALTが自分の紹介に対する生徒の考えや質問を聞きたいと思っていることを伝え、生徒がコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を確認できるようにする。</p> <p>■ ワークシートをクラウド上に保存し、各生徒が必要に応じて閲覧するなど活用できるようにする。</p>
	発表を聞く活動・要点整理	<p>② 発表を聞いて、要点を整理する ア ALTの家族が私たちの町を訪れる時期について、ALTが提案する発表を聞く。 イ ALTの発表の概要や要点を確認する。</p> <p>(ALTが示す発表の例) What is this town famous for? Apples! Their apples are very popular because they are so sweet and fresh. Autumn is the best season to taste them. You can buy fresh apples at farms in this town. I hope to see you here this autumn and let's get some apples together!</p> <p>〔言語活動の例〕 教師: What did he introduce about this town? 生徒: Apples! 教師: Yeah. Why did he talk about apples? 生徒: Because they're delicious! 教師: Great. Our town is famous for good apples. What else? / What did you like about his presentation? / Do you agree or disagree with his idea? And why? / Do you have any questions? Please share your ideas and questions in your group/in the class. など</p>	<p>■ 生徒が、発表後のやり取りのために、話し手の考えやその理由をメモしたり、相手の話に対して質問したりできるように、日常的にペアでやり取りする機会を設定する。</p> <p>■ 全体やグループでやり取りしながら、ALTの話している内容を確認できるようにする。</p> <p>■ 内容の理解や伝達に重点を置きながら、活動中の生徒の言語活動について、正しい表現で言い直すなどのフィードバックを通して、正確さを高めるための指導を行う。</p>
第三次	意見交換・質疑応答	<p>③ 整理した情報を基に、自分の考えを述べたり、質問をしたりする ア 教師が、ALTの発表後のやり取りの例を示す。 ・(ア) 聞いた内容の概要、(イ) 自分の考え、(ウ) 発表に対する質問を含めるよう促す。</p> <p>(教師とALTが示す、発表後のやり取りの例の一部) 教師: Thank you for your presentation. You said that our town is famous for apples. I think the apples are great too, but you should also introduce some apple products. Have you ever tried fresh apple juice? ALT: Yes, I have. There are many kinds of apple juice at farms.</p> <p>〔事後の発展的な言語活動の例〕 ア ALTの発表を参考に、各生徒が町の特産品やおすすめの場所を基に、ALTの家族が私たちの町を訪問するベストシーズンについて発表する。 イ 第三次までの発表ややり取りを参考に、グループで発表ややり取りを行う。 ウ グループワーク後、自らの発表ややり取りを振り返る機会を設定する。</p>	<p>■ 授業の冒頭で、生徒の考えを聞きたいというALTの願いに対し、相手により興味をもってもらうためにALTとは異なった視点から、自分の考えや質問を話すように促す。</p> <p>■ どのような視点で話すが、相手により興味をもたせることにつながるかを全体で確認する。</p> <p>■ 各生徒が自分の考えを再構築できるように、フィードバックや振り返りの機会を設定する。</p>

授業づくりのポイント

- この単位では、
・相手の発表を聞いて、その要点や自分の考えを伝えたり、質問したりする活動を設定しました。
- このような言語活動を通して、英語を聞いたり読んだりして情報を的確に理解し、その内容を踏まえて自分の考えを整理して伝える力を身に付けさせるような学習活動の一層の充実が求められます。

高等学校における指導の在り方

- 高等学校では、
・統合的な言語活動の中で、聞いたり読んだりして得られた情報や表現を整理・吟味し、話したり書いたりするために活用すること
が求められます。
- 指導に当たっては、
・小学校及び中学校で学習した内容を十分に活用させることで、確実に定着させるよう配慮することが大切です。

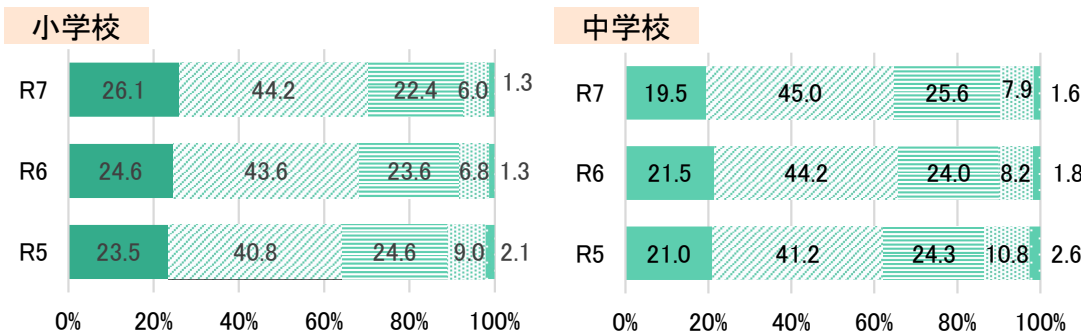
(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

ポイント

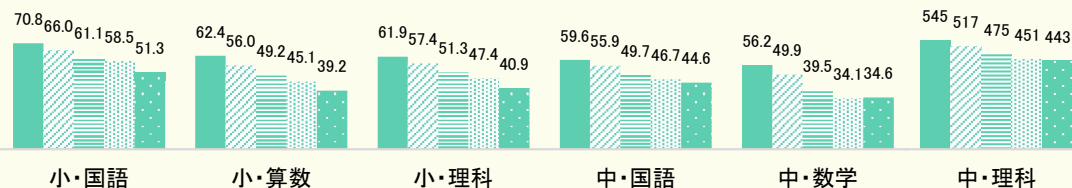
※児童、生徒、小学校、中学校の後の〔 〕内の数字は、質問調査番号を表しています。

前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

■ 考えを発表する機会は無かった



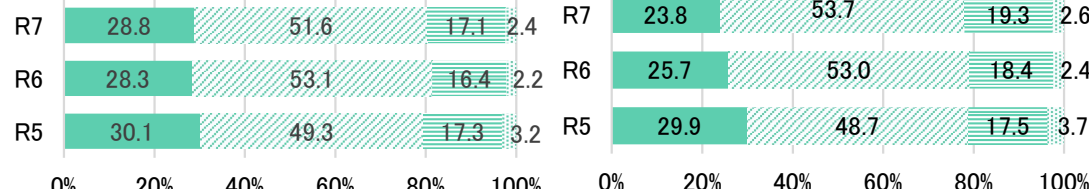
選択肢ごとの平均正答率・平均IRTスコア



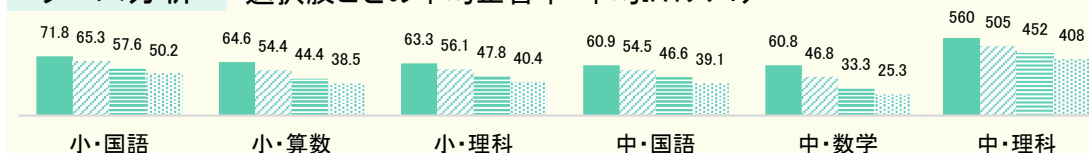
前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

■ 当てはまる ⇨ どちらかといえば、当てはまる ≡ どちらかといえば、当てはまらない ⇨ 当てはまらない

中学校



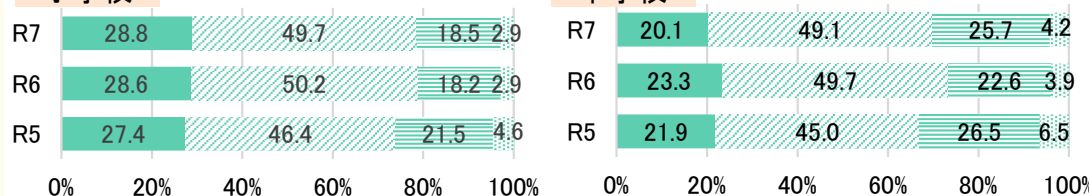
選択肢ごとの平均正答率・平均IRTスコア



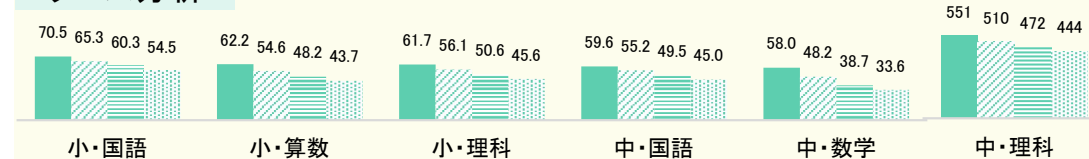
前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

■ 当てはまる ☞ どちらかといえば、当てはまる ≡ どちらかといえば、当てはまらない ☞ 当てはまらない

中学校



選択肢ごとの平均正答率・平均IRTスコア



① ICTの活用状況等

ポイント

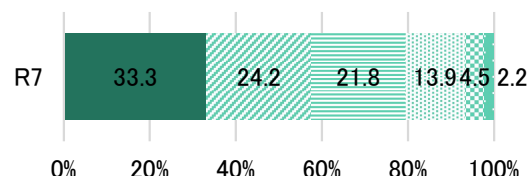
○ ICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」使用すると回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに約8割であり、ICT機器を使用する頻度と各教科の平均正答率・平均IRTスコアとの間に、一定の関係が見られます。

児童[28]
生徒[28]

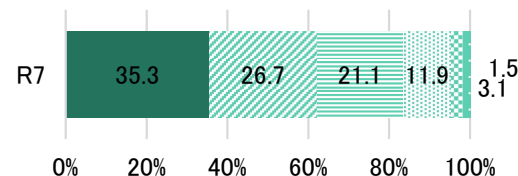
前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

■ ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）
■ ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）
■ 週3回以上
■ 週1回以上
■ 月1回以上
■ 月1回未満

小学校



中学校

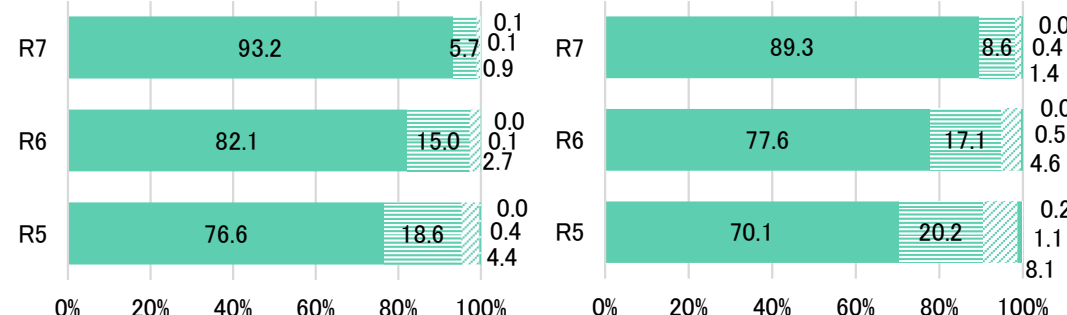


小学校[58]
中学校[58]

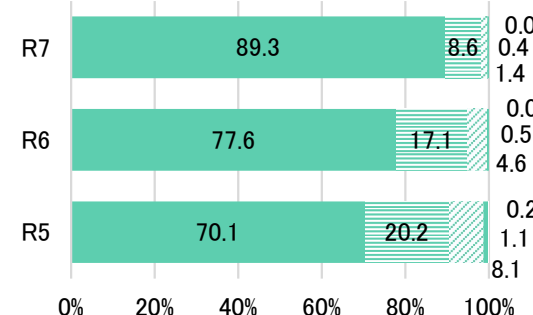
調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

■ ほぼ毎日
■ 週3回以上
■ 週1回以上
■ 月1回以上
■ 月1回未満

小学校

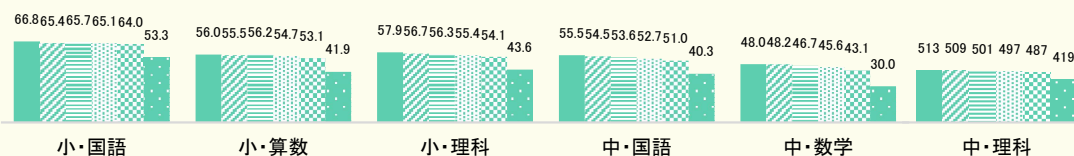


中学校



クロス分析

選択肢ごとの平均正答率・平均IRTスコア

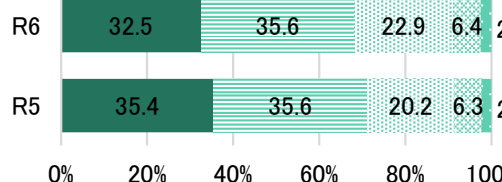


(R5～R6)

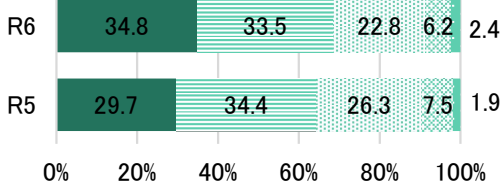
前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

■ ほぼ毎日
■ 週3回以上
■ 週1回以上
■ 月1回以上
■ 月1回未満

小学校



中学校

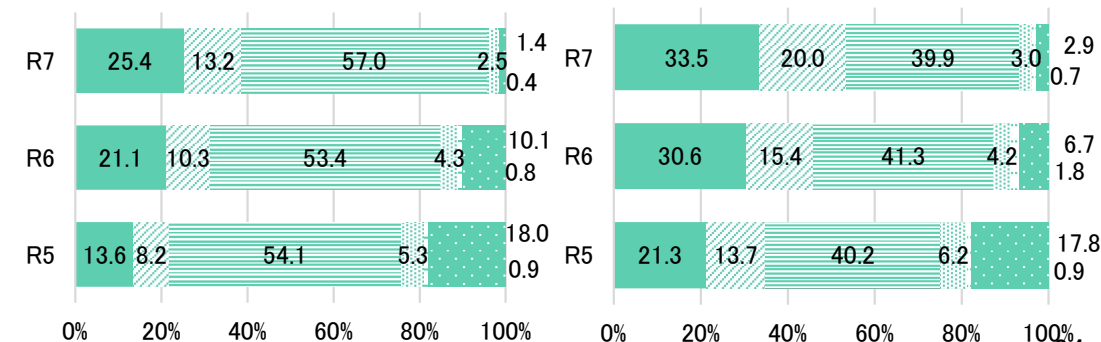


小学校[66]
中学校[66]

児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

■ 毎日持ち帰って、毎日利用させている
■ 時々持ち帰って、時々利用させている
■ 持ち帰らせていない
■ 持ち帰ってはいけないこととしている
■ 毎日持ち帰って、時々利用させている
■ 臨時休業の非常時のみ、持ち帰ることとしている

小学校



中学校



3 質問調査結果

(2) ICTを活用した学習状況

② ICTを活用する自信 ポイント

○ ICT機器を活用することができると考えている児童生徒ほど、各教科の平均正答率・平均IRTスコアが高く、「自分にはよいところがあると思う」と回答している傾向が見られます。

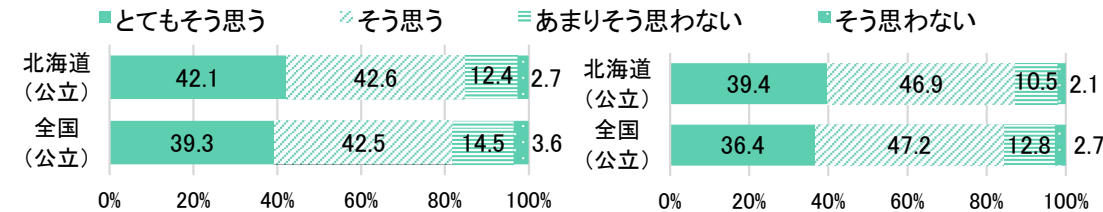
児童[29]
生徒[29]

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って以下のことができますか。(R7新規)

(29-1)文章を作成する(文字、コメントを書くなど)

小学校

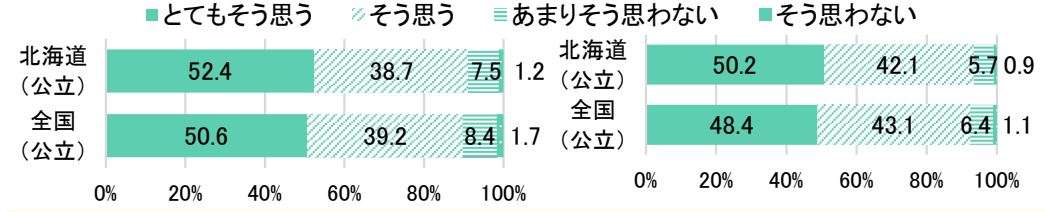
中学校



(29-2)インターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)

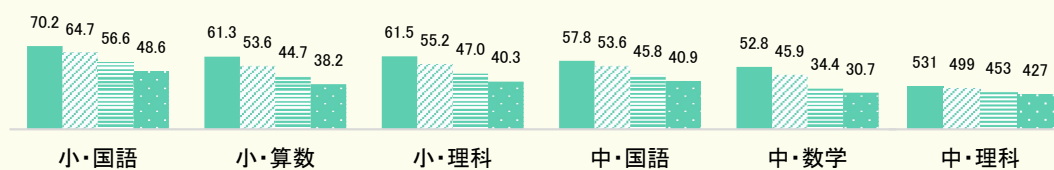
小学校

中学校



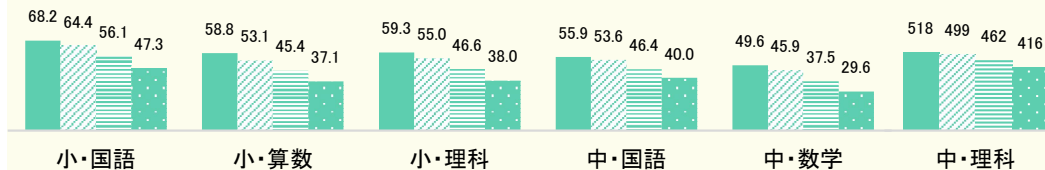
クロス分析

選択肢ごとの平均正答率・平均IRTスコア



クロス分析

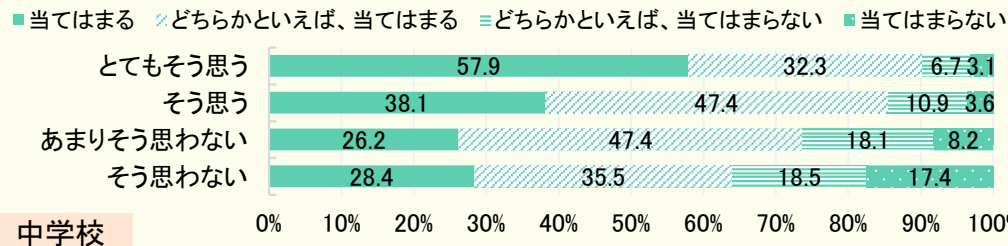
選択肢ごとの平均正答率・平均IRTスコア



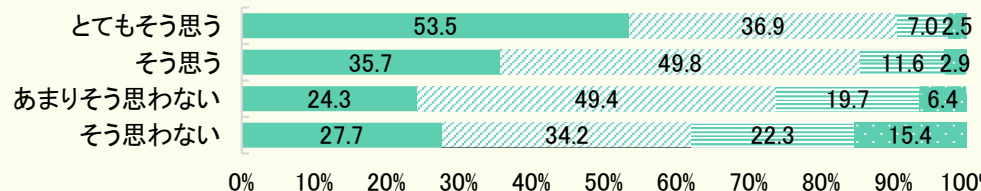
クロス分析(質問×質問)

「自分にはよいところがある」[5]

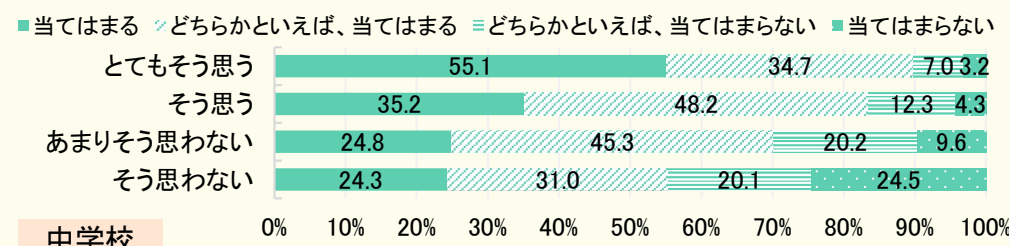
小学校



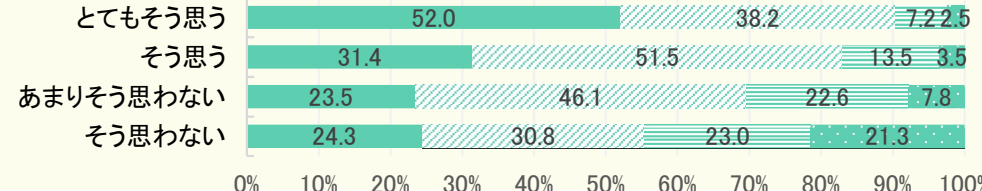
中学校



小学校



中学校



3 質問調査結果

(2) ICTを活用した学習状況

② ICTを活用する自信

ポイント

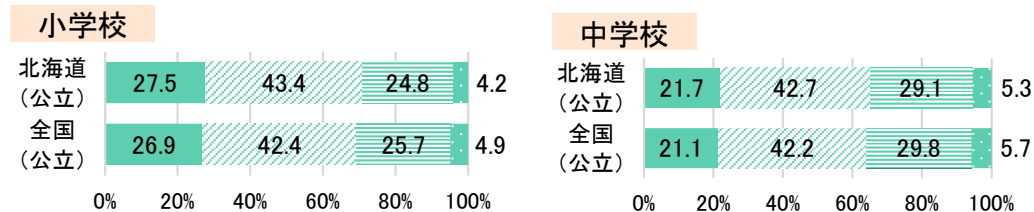
○ ICT機器を活用することができると考えている児童生徒ほど、各教科の平均正答率・平均IRTスコアが高く、「自分にはよいところがあると思う」と回答している傾向が見られます。

児童[29]
生徒[29]

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って以下のことができますか。(R7新規)

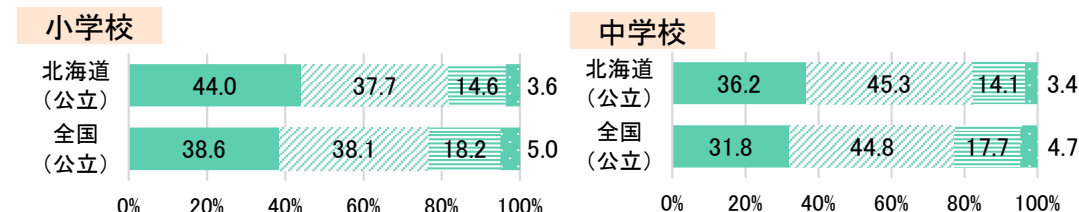
(29-3)情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

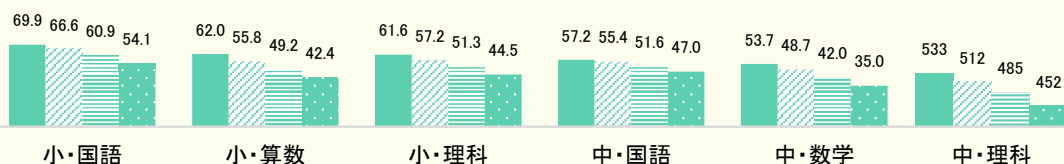


(29-4)学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成する

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

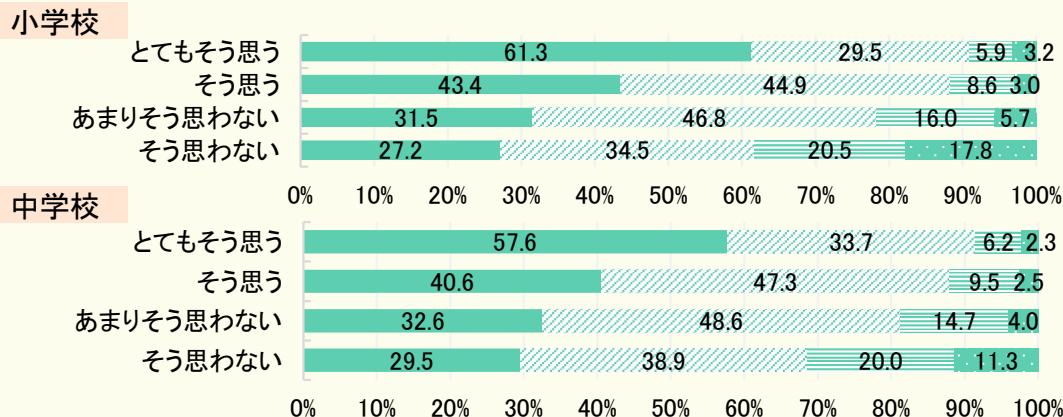


クロス分析 選択肢ごとの平均正答率・平均IRTスコア

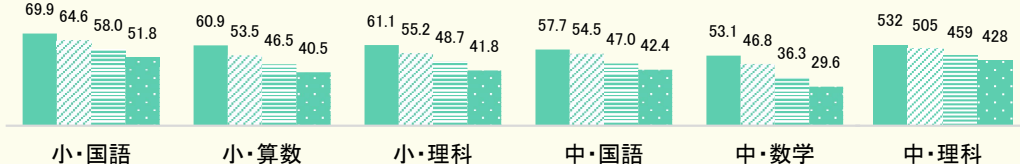


クロス分析(質問×質問) 「自分にはよいところがある」[5]

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

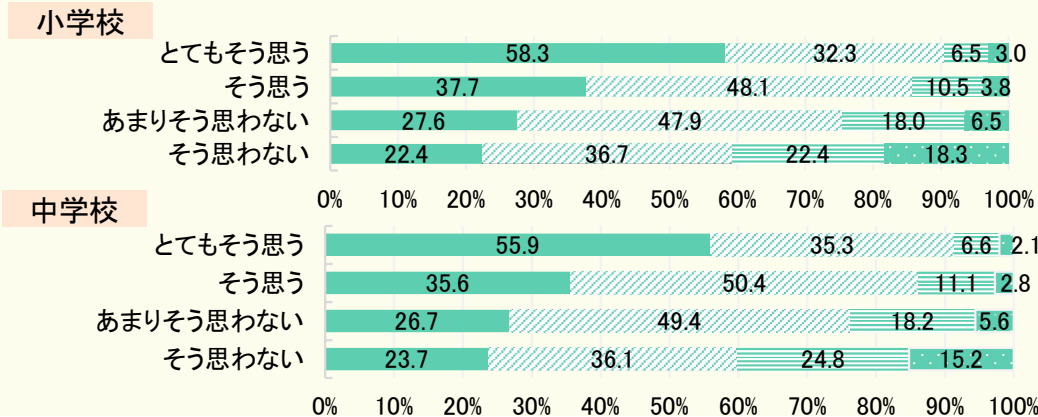


クロス分析 選択肢ごとの平均正答率・平均IRTスコア



クロス分析(質問×質問) 「自分にはよいところがある」[5]

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



③ ICT機器活用の効力感

ポイント

○ ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答した児童生徒ほど、自分と違う意見や新たな考えについて考えることに前向きな傾向が見られます。

クロス分析(質問×質問)

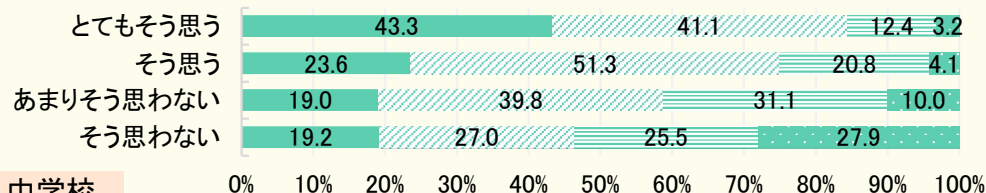
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。[13]

■ 当てはまる ◇ どちらかといえば、当てはまる ≡ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

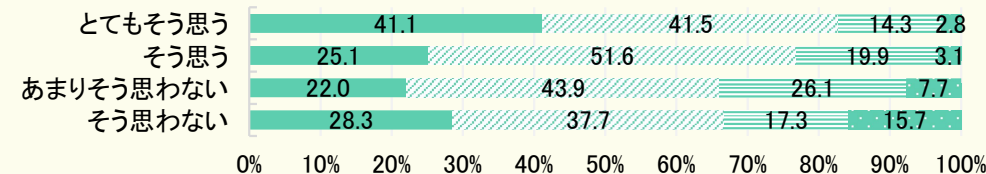
(ICT機器を活用すると)

友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。[30-6]

小学校



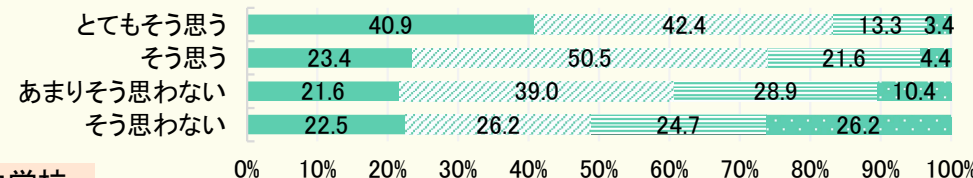
中学校



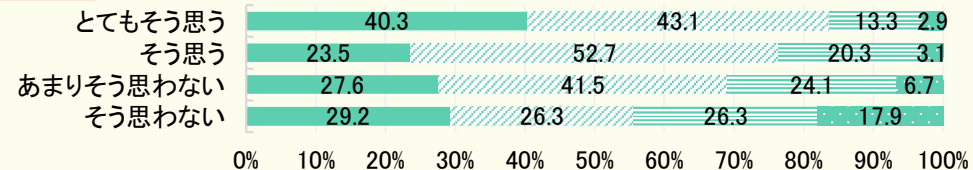
(ICT機器を活用すると)

友達と協力しながら学習を進めることができる。[30-7]

小学校



中学校



クロス分析(質問×質問)

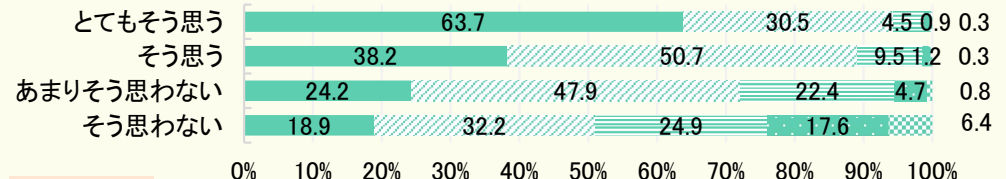
学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか。[35]

■ 当てはまる ◇ どちらかといえば、当てはまる ≡ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない
 ◇ 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない

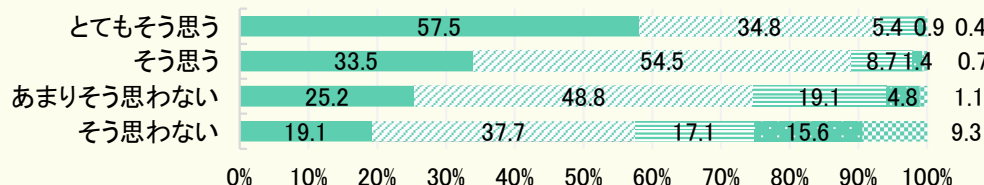
(ICT機器を活用すると)

自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる [30-5]

小学校



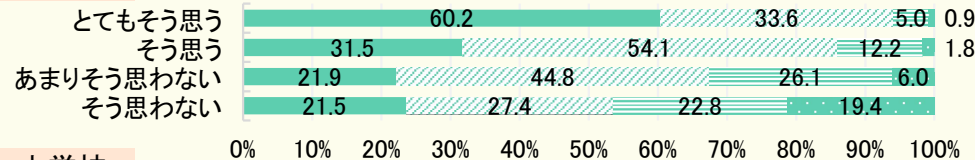
中学校



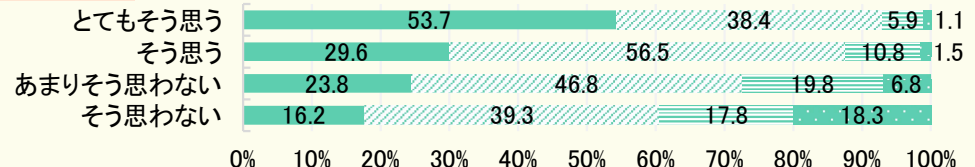
(ICT機器を活用すると)

友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。[30-6]

小学校



中学校



クロス分析(質問×平均正答率・平均IRTスコア)

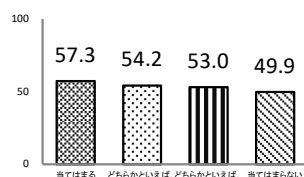
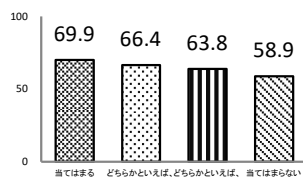
① 国語

児童[45]
生徒[45]

国語の勉強は好きですか。

小学校

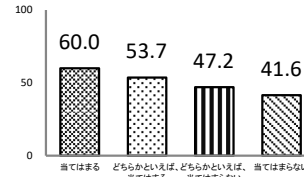
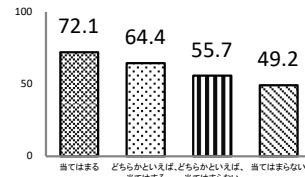
中学校

児童[46]
生徒[46]

国語の授業の内容はよく分かりますか。

小学校

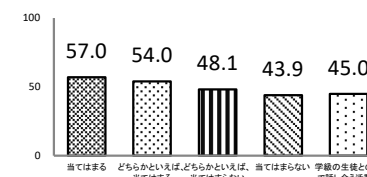
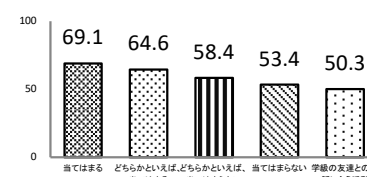
中学校

児童[35]
生徒[35]

学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

小学校

中学校



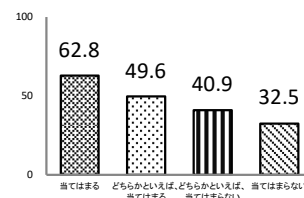
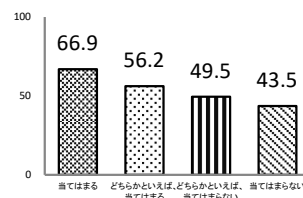
② 算数・数学

児童[53]
生徒[53]

算数(数学)の勉強は好きですか。

小学校

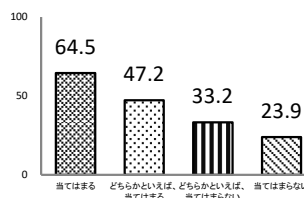
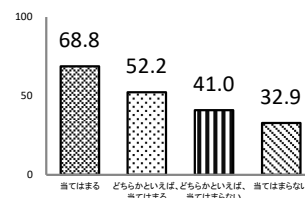
中学校

児童[54]
生徒[54]

算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか。

小学校

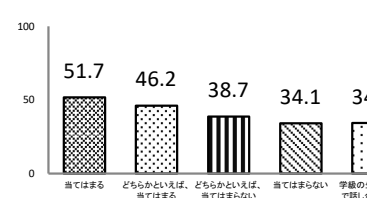
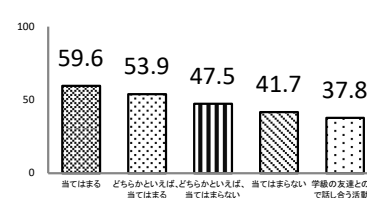
中学校

児童[35]
生徒[35]

学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

小学校

中学校



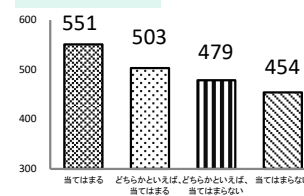
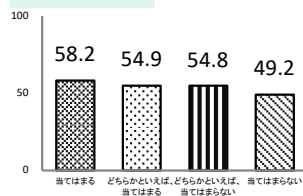
③ 理科

児童[61]
生徒[61]

理科の勉強は好きですか。

小学校

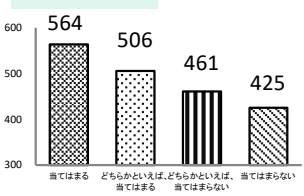
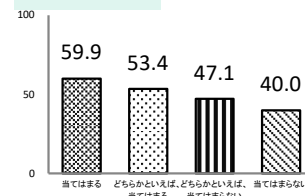
中学校 ※平均IRTスコア

児童[62]
生徒[62]

理科の授業の内容はよく分かりますか。

小学校

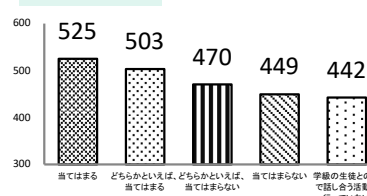
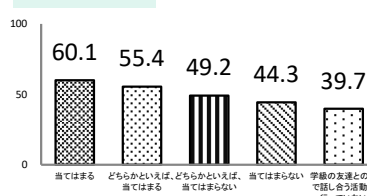
中学校 ※平均IRTスコア

児童[35]
生徒[35]

学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

小学校

中学校 ※平均IRTスコア

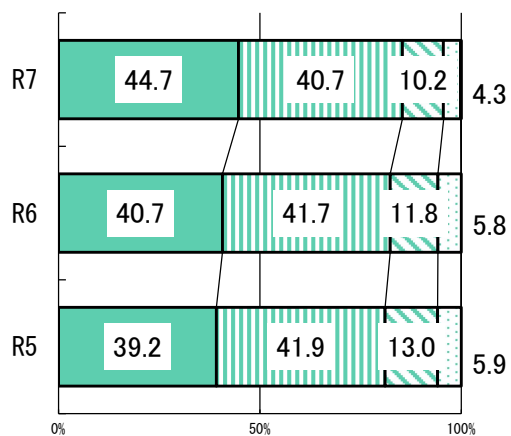


3 質問調査結果

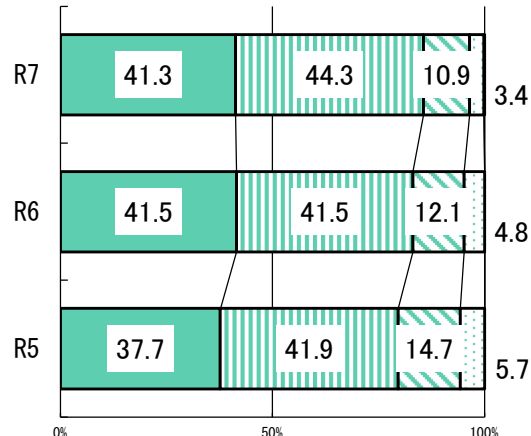
(4) 児童生徒のウェルビーイングに関する状況

児童[5]
生徒[5] 自分にはよいところがあると思いますか。

小学校



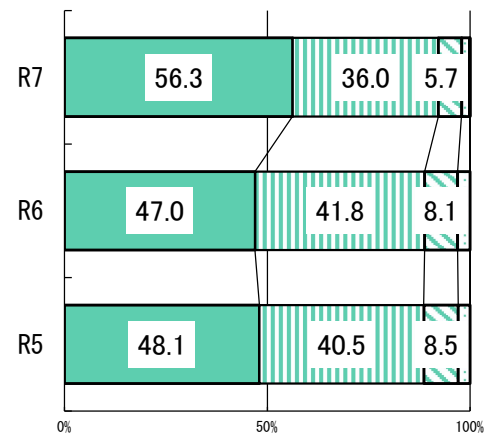
中学校



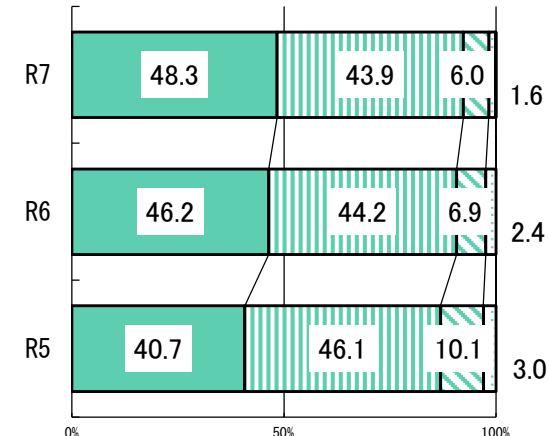
■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

児童[6]
生徒[6] 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

小学校



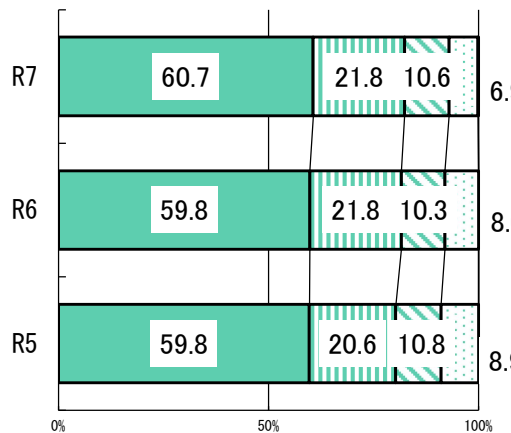
中学校



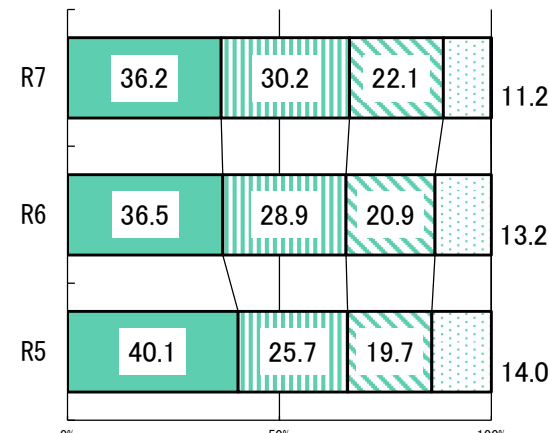
■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

児童[7]
生徒[7] 将来の夢や目標を持っていますか。

小学校



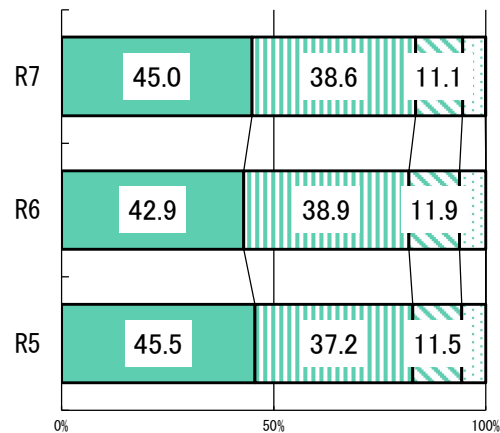
中学校



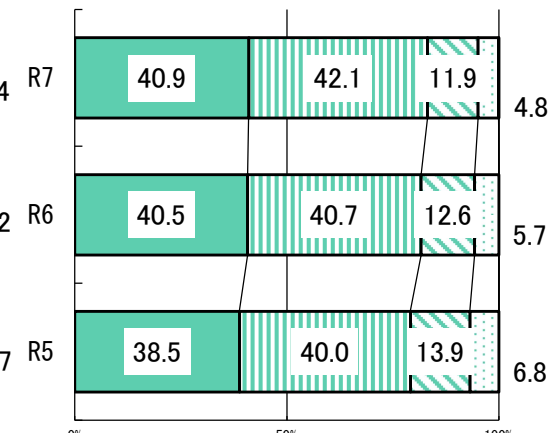
■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

児童[12]
生徒[12] 学校に行くのは楽しいと思いますか。

小学校



中学校



■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

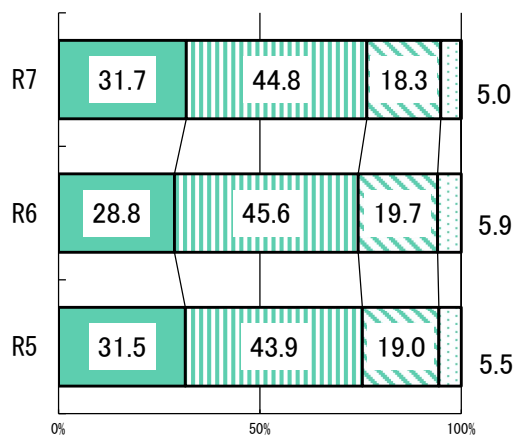
3 質問調査結果

(4) 児童生徒のウェルビーイングに関する状況

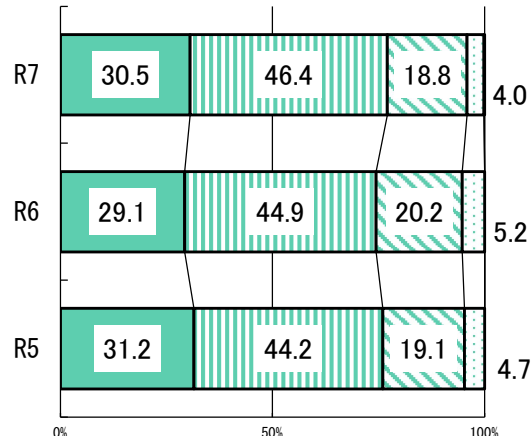
児童[13]
生徒[13]

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

小学校



中学校

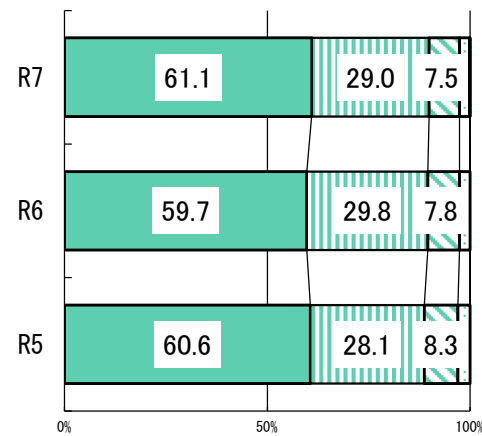


■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

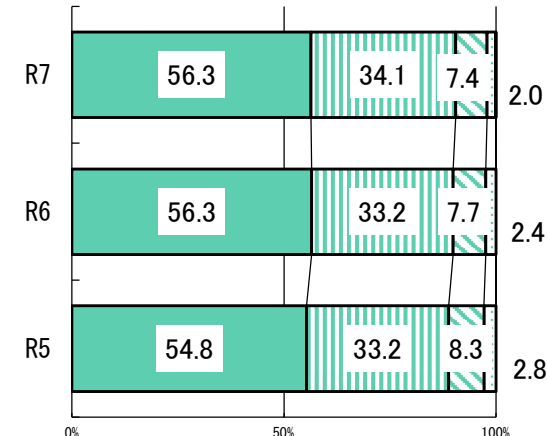
児童[14]
生徒[14]

友達関係に満足していますか。

小学校



中学校

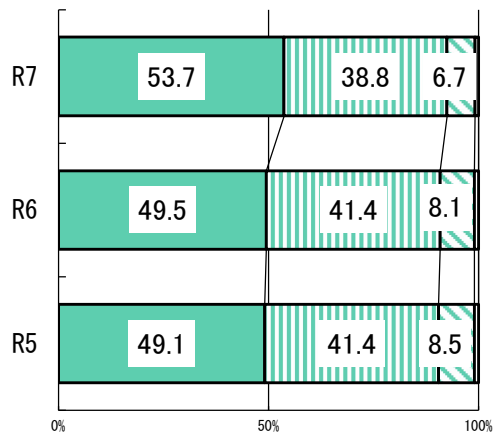


■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

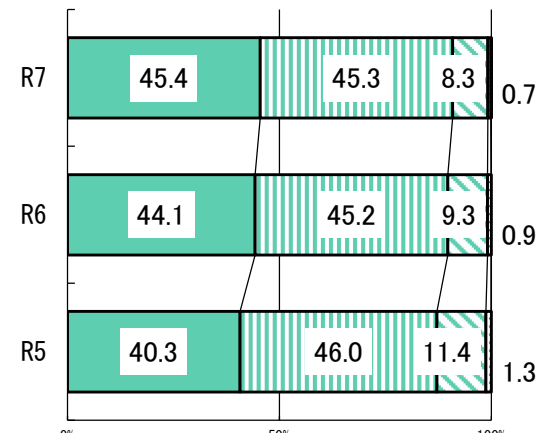
児童[15]
生徒[15]

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

小学校



中学校

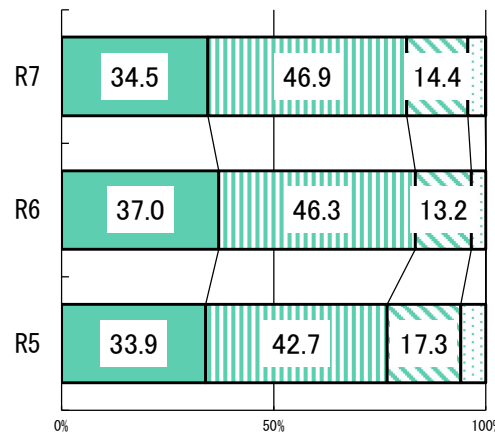


■1. よくある ■2. ときどきある ■3. あまりない ■4. 全くない

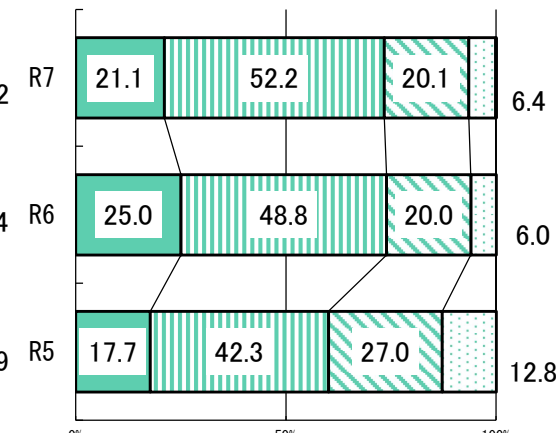
児童[27]
生徒[27]

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

小学校



中学校



■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

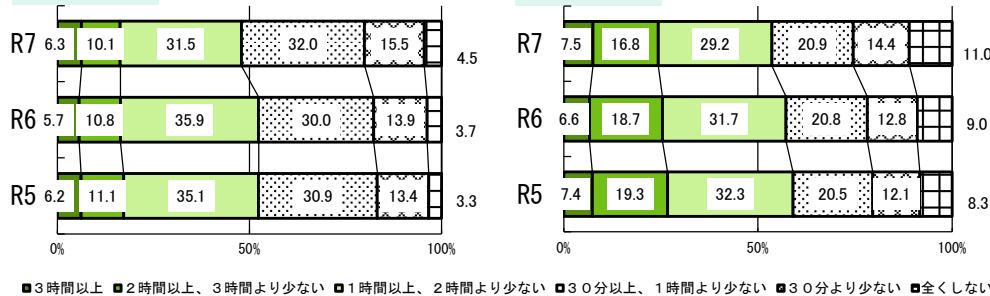
3 質問調査結果

(5) 学校外での学習状況

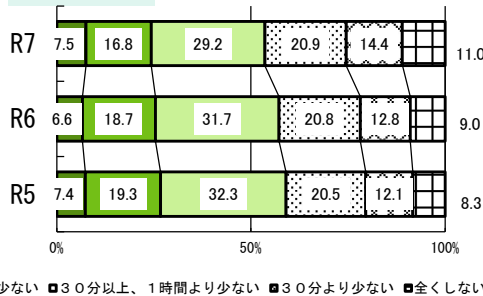
児童[17]
生徒[17]

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学校



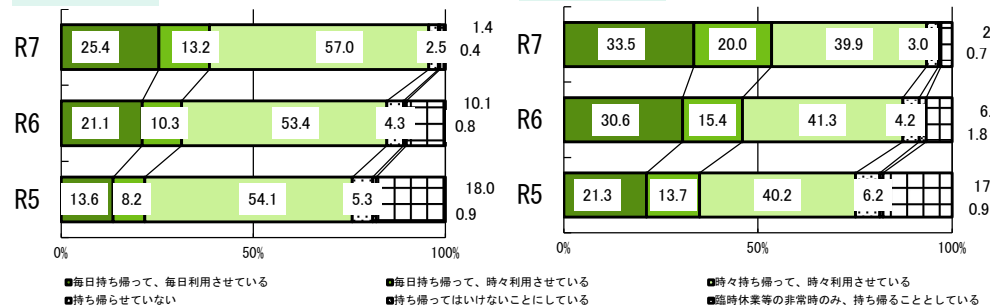
中学校



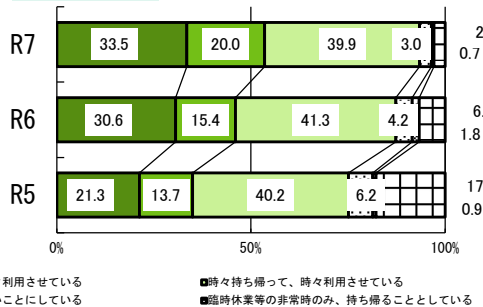
学校[66]

児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

小学校



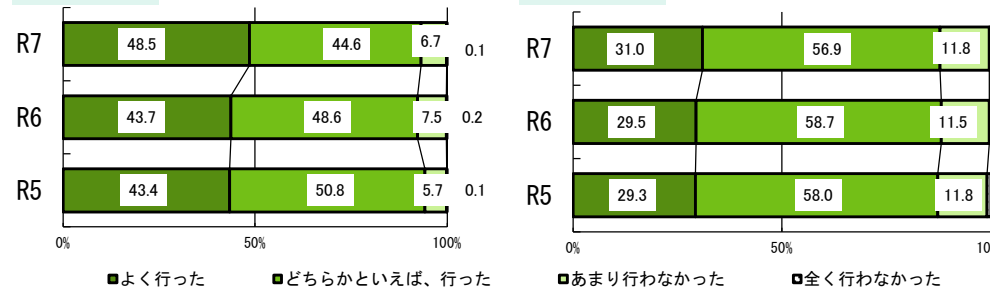
中学校



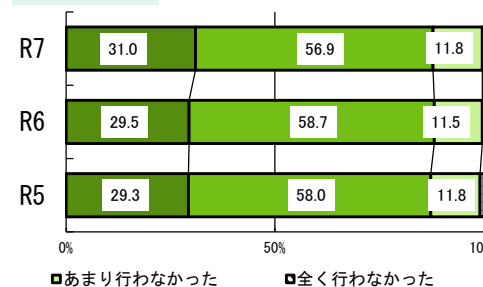
学校[82]

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか。

小学校



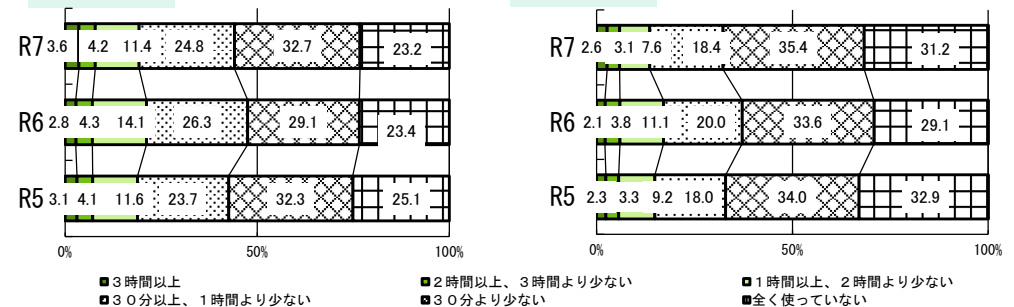
中学校



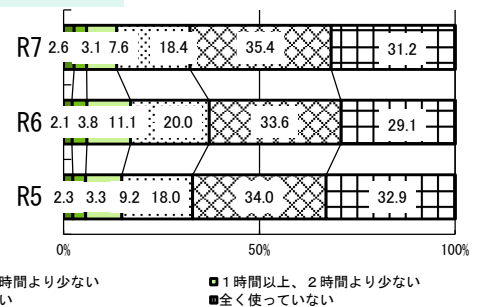
児童[18]
生徒[18]

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（遊びなどの目的に使う時間は除く）

小学校



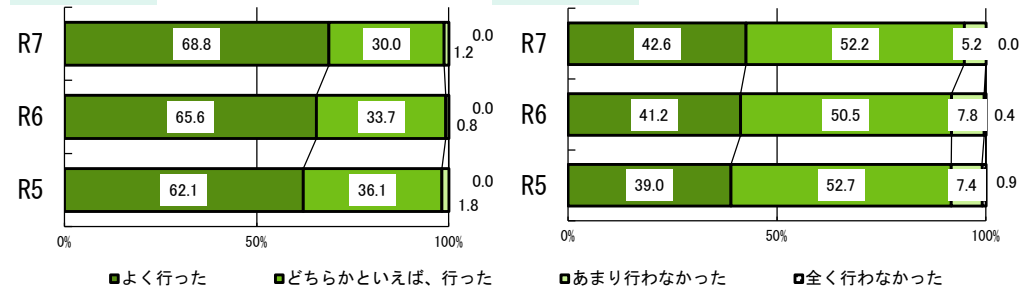
中学校



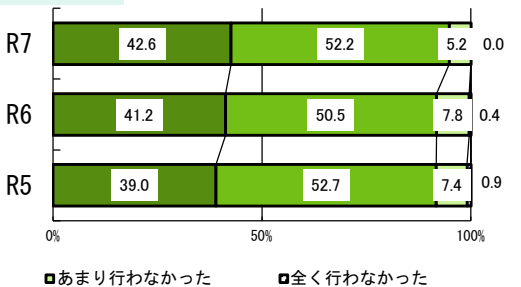
学校[80]

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか。

小学校

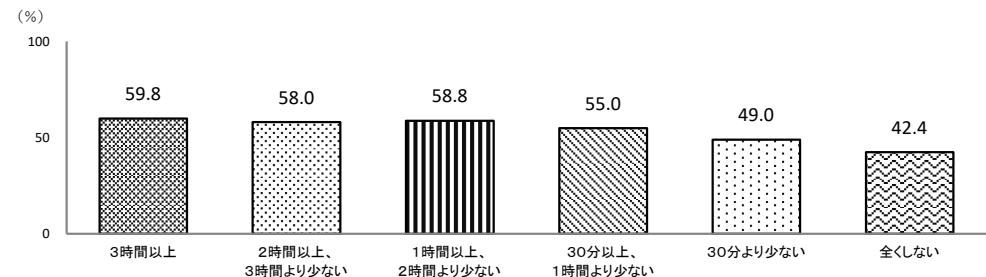


中学校



クロス分析（児童質問×平均正答率[算数]）

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

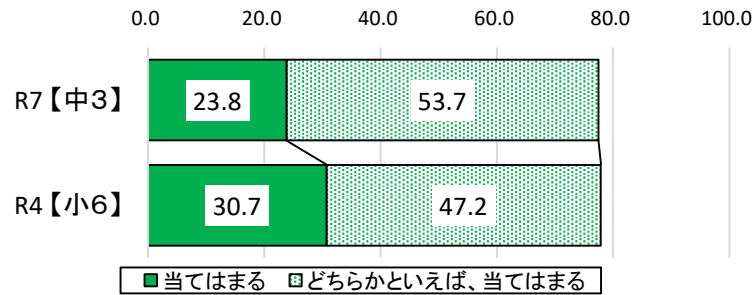


今年度の調査対象となった中学校第3学年の調査結果と、令和4年度に小学校第6学年であったときの調査結果を比較しています。

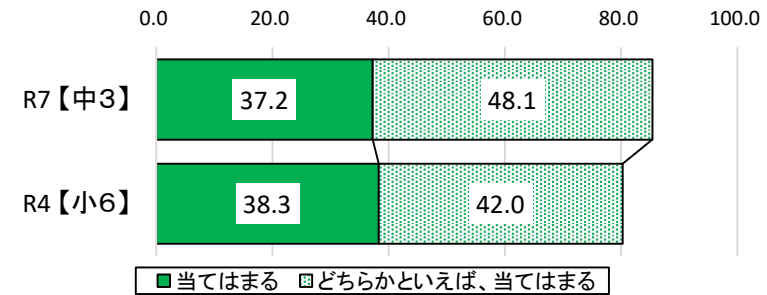
- ◆「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合は、増加している。
- ◆「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒の割合は、増加している。
- ◆「算数[数学]の授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合は、減少している。

■主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

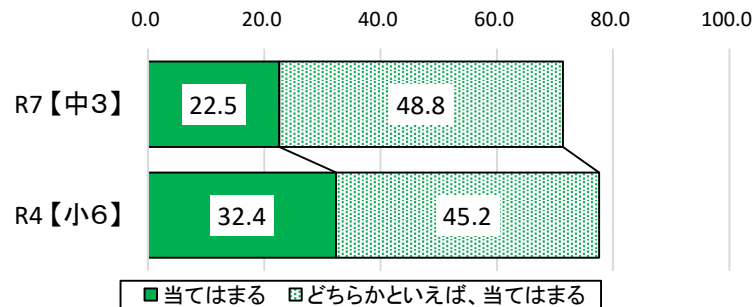
前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり[広げたり]することができますか

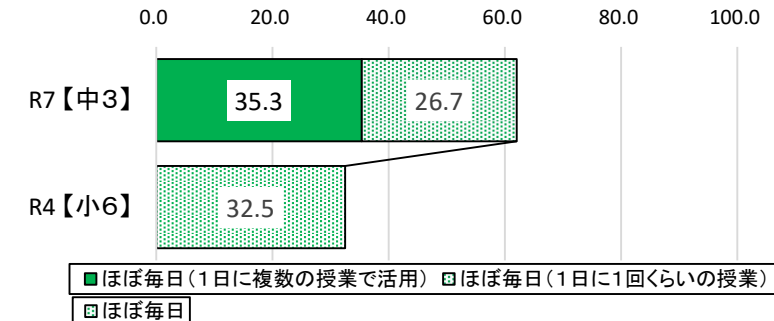


学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



■ICTを活用した学習状況

前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



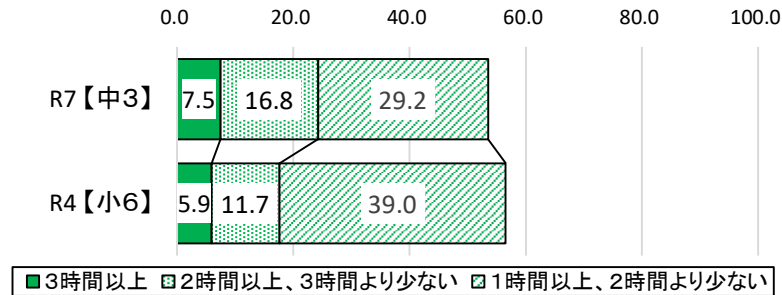
R7選択肢
R4選択肢

3 質問調査結果

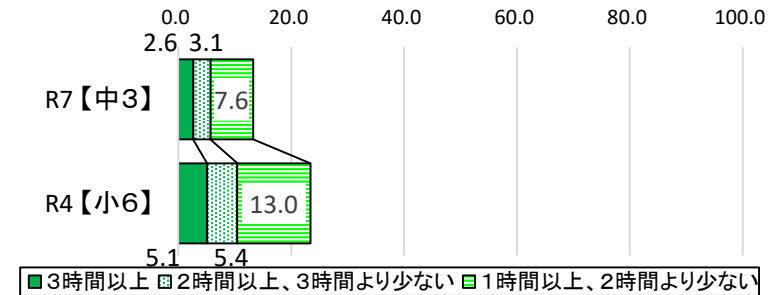
(6) 今年度調査対象となった中学校第3学年の小学校第6学年時との比較

■学習習慣、学習環境等

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

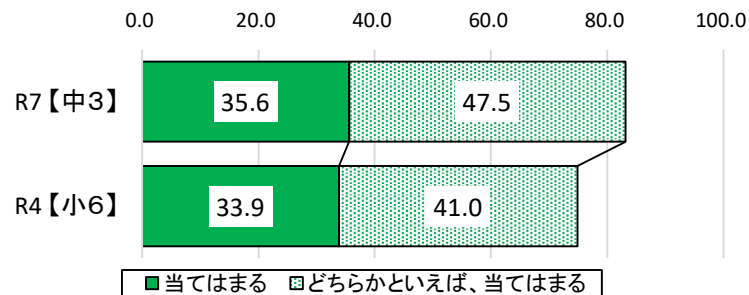


学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）

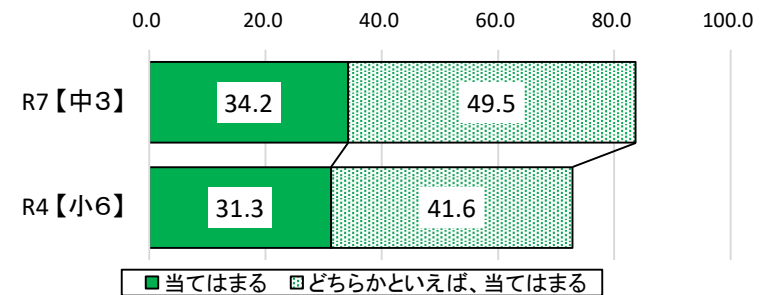


■総合的な学習の時間、学級活動

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

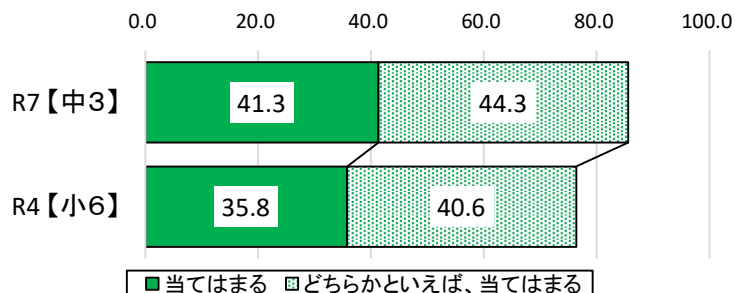


あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会[学級活動]で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

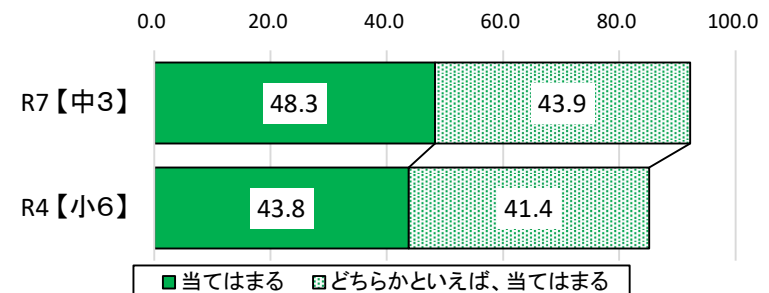


■ウェルビーイング（挑戦心、自己有用感、幸福感等）

自分には、よいところがあると思いますか

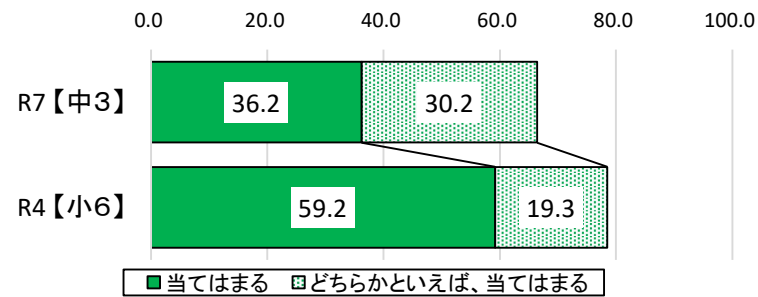


先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

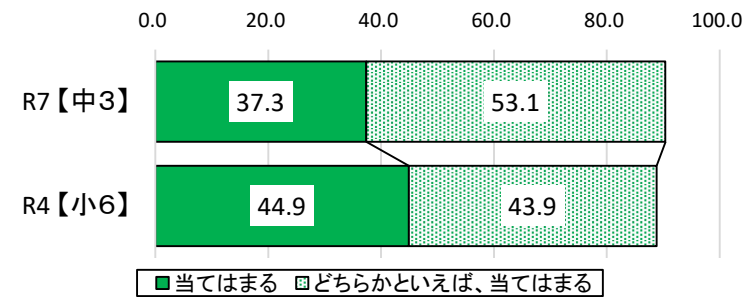


■ウェルビーイング(挑戦心、自己有用感、幸福感等)

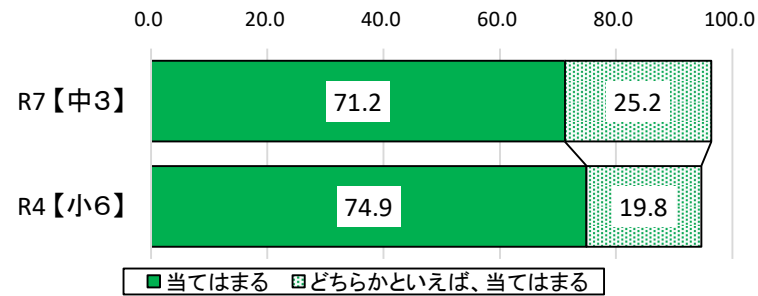
将来の夢や目標を持っていますか



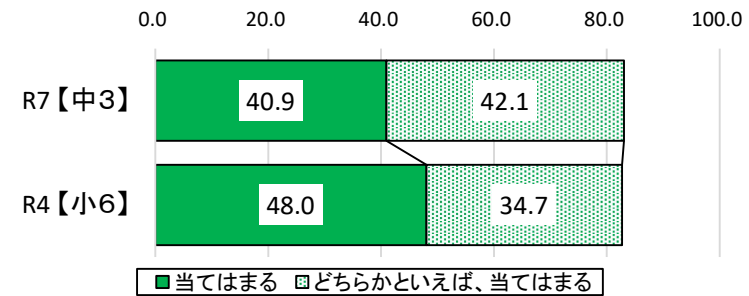
人が困っているときは、進んで助けていますか



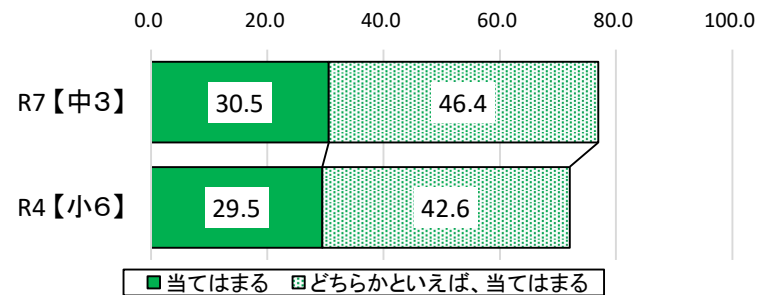
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



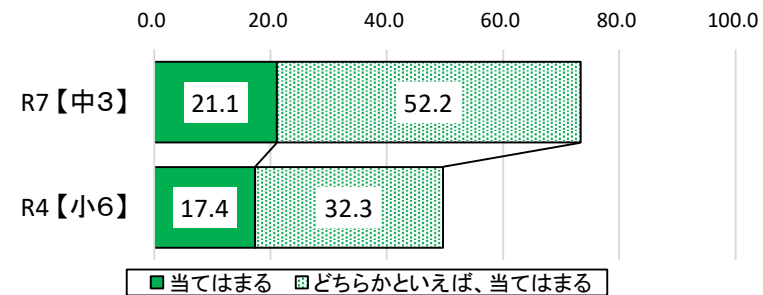
学校に行くのは楽しいと思いますか



自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

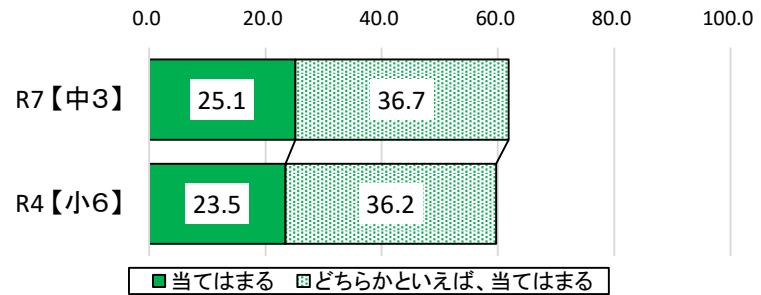


地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

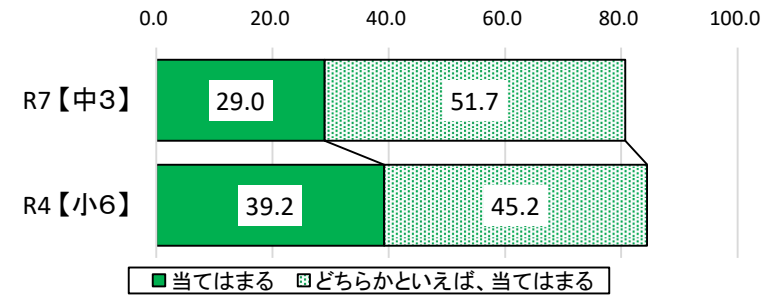


■学習に対する興味・関心や授業の理解度

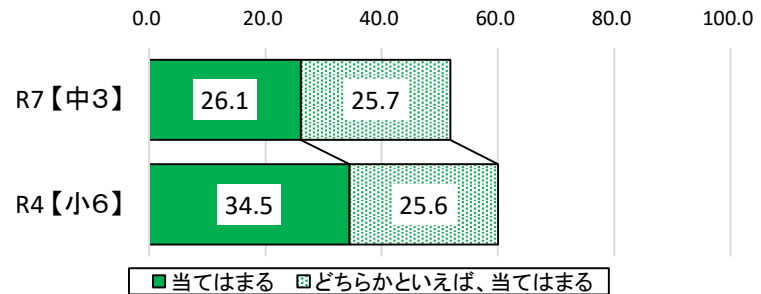
国語の勉強は好きですか



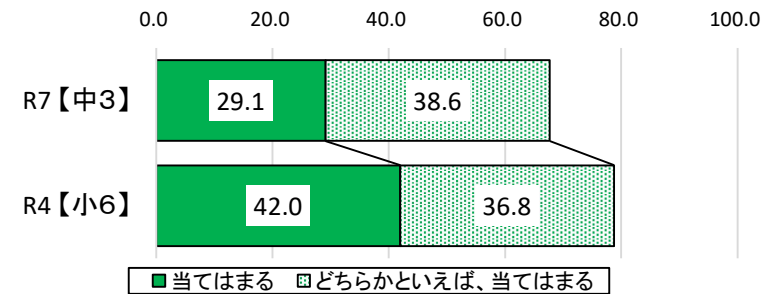
国語の授業の内容はよく分かりますか



算数[数学]の勉強は好きですか



算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



調査結果から見られる特徴的な成果と課題

- 令和7年度全国学力・学習状況調査で、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に肯定的に回答した割合は、小学校で91.5%であり、全国を1.1ポイント上回っています。また、中学校で89.6%であり、全国を1.3ポイント上回っています。
- 同調査で、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合は、小学校国語と小学校理科で、全国をやや上回っているものの、同様の質問について、それ以外は小・中学校ともに全国を下回っています。

調査結果の分析内容

【ちらし】

よさ2 使い方

手などをふくだけではなく、身に着けたり、物を包んだりすることもできます。

身に着ける使い方

あついでに、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをきゅうしゅうし、両手が空くので仕事がしやすくなります。

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。みなさんもぜひ使ってみてください。

【調べたこと】

〈本を読んで分かったこと〉	〈使ってみて分かったこと〉
<ul style="list-style-type: none"> ○ブックカバー ・何回か折るだけで、すぐに完成する。 ・本の大きさに合わせて包むことができる。 ○ペットボトルカバー ・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブックカバー ・よれがつかのを防ぐことができよかった。 ・落としたときに、本がきずつかなかった。 ○ペットボトルカバー ・水てきが荷物につかなくてよかった。 ・温かい飲み物が冷めにくかった。

② 山田さんの学級では、伝統工芸品についてすいせんするちらしを書くことにしました。山田さんは、手ぬぐいのよさについてすいせんする文章を、次の「ちらし」に書いています。これよく読んで、あとの問いに答えましょう。

三 山田さんは、「ちらし」の書き表し方について友達に相談し、「ちらし」の部をくわしく書いたほうがよいと考え、次の「調べたこと」を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 「ちらし」の部を書き直し、くわしくすること。(一文でなくてもよい。)
- 「調べたこと」の〈本を読んで分かったこと〉と〈使ってみて分かったこと〉のそれぞれから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。

- 本道において、継続的に進められている各教科等での言語活動の工夫により、学習したことが将来役に立つと考えている児童生徒の割合は、特に国語科で高い傾向が見られます。このことは、現行学習指導要領に、全ての学習の基盤となる資質・能力として示されている「言語能力」を日常生活や社会生活で生かそうとする意識の表れであると受け止めることができます。
- 一方、各教科の記述式や短答式の問題では、解答の条件を満たしていないために誤答になったり、はじめから無解答だったりしたものも多く見られます。この要因の一つに、身に付けた「言語能力」が、他の学習の場面で十分に発揮されて（転移して）いない状況があると考えられます。

<例1> 小学校国語2三

「取り上げて」→表現を盛り込む
「踏まえて」→内容を盛り込む

- ・ **A** と **B** のそれぞれから 取り上げて

「AとB（のそれぞれ）から」→両方とも必要
「AやBから（選び）」→どちらか一方でもよい

本道では、左に示した、**本を読んで分かったこと**、**使ってみて分かったこと** のどちらか一方しか取り上げていなくて誤答になったものが21.2%ありました。

<例2> 中学校数学6(1)

- ・ 連続する 2つの3の倍数が、例えば、**①**、**②** のとき

「連続する」→この設問の場合は、3、6など

本道では、**①**、**②** に「3、9」など連続しない2つの3の倍数を入れて誤答になったものが14.1%ありました。

今後の改善に向けて

- 日頃のテストなどによる評価の場面で、「言語能力」の育成に関わって、児童生徒に次のことを意識させましょう。
 - ①問題でどのような言語活動が想定されたり展開されたりしているかを把握する。
 - ②問題文に用いられている各教科の学習用語に留意するとともに、これまでに学習したことを思い出し、今回の問題の設定や条件に当てはめて考える。
 - ③特に記述式や短答式の問題では、解答に必要な条件を理解した上で、相手（先生など）に伝わるように解答する。
- 授業される先生方は、次のことを意識しましょう。
 - ①授業における言語活動のさらなる充実を進める。児童生徒の実態に応じて多様な言語活動を構想する。
 - ②各教科等で身に付けた学習用語などについて、他の学習や生活の場面に当てはめて（転移させて）考えたり表現したりすることができるように指導を工夫する。

<例1>

全国学力・学習状況調査やCBA学力テストなどの設問文にある「AとBからそれぞれ取り上げて」、「連続する」、「自分の考えを具体的に」など、児童生徒がすでに理解していると考えられる言葉について、当該の設問だけでなく、他のテストや授業中の発問などにも用いる。

<例2>

各教科等で身に付けた学習用語などの概念的な理解がさらに進むように、授業中に用いた教材や学習場面ととどまることなく、他のどのような学習や生活の場面と関係するかを言葉を用いて想像させたり例示させたりする。

- ③目的、相手、場面、意図などを意識した言語活動を構想する中で、互いの考えを伝え合う場面を多く取り入れる。

<例>

各教科等で自分の考えを書く場面において、児童生徒が「書きたいように書く」のではなく、「目的や相手に応じて書く」ことができているかを確認させる。



小中高12年間を一体的に捉えた観点での分析と考察

- 令和6年度北海道高等学校学習状況等調査で、「授業で学んだことを、他の学習で生かしている」という質問に肯定的に回答した割合は、69.8%です。身に付けたことを他の学習や生活の場面に生かそうとする意識は、言葉を介在させて、言葉を駆使して考えたり表現したりするという観点から、小中高ともすべての教科等において重要です。

<例>



【各教科の学習】



【総合的な学習（探究）の時間】



【地域での活動】

- 「言語能力」の育成に関わっては、小中高12年間を通して意図的・計画的に指導を継続することが大切です。重要な視点としては、単に「教え込む」のではなく、常に言葉そのものを活用させる指導を工夫することです。本資料では、全国学力・学習状況調査の結果から、問題文を適切に把握し解答することができていない事例を紹介するとともに、日ごろのテストや授業の場面での留意点について、ポイントを絞って提示しています。まずは、これらの提示内容を今一度確認していただければと思います。その上で、現行学習指導要領総則編の解説に、中央教育審議会答申を引用する形で示されている以下の内容について、必要に応じて、児童生徒の学習場面における具体に当てはめて検討していただければと思います。

（言語能力を構成する資質・能力／思考力・判断力・表現力等）

テキスト（情報）を理解したり、文章や発話により表現したりするための力として、情報を多面的・多角的に精査し構造化する力、言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力、言葉を通じて伝え合う力、構成・表現形式を評価する力、考えを形成し深める力が挙げられる。

北海道教育大学旭川校教育学部准教授 山 中 謙 司
(元国立教育政策研究所学力調査官)

調査結果から見られる特徴的な成果と課題

- ・授業でICT機器をほぼ毎日使用したと回答した児童生徒の割合は約6割で、全国に比べ高い。
- ・児童生徒同士がやりとりする場面でICT機器をほぼ毎日使用したと回答した学校の割合は約3割。
- ・児童生徒のICT機器を使用する頻度と各教科の正答率・スコアとの間に、一定の関係が見られる。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実装に向けて、ICT機器を効果的に活用することがポイント。

調査結果の分析内容 中学校 理科 大問9(1)

理科の授業で学習した空気について、科学的に探究しました。

(1)、(2)の各問いに答えなさい。



動画を見て、缶がつぶれた理由を予想しましょう。
予想を記述したら先生に送信しましょう。
タブレット上に、みなさんの【予想】(図)を共有します。



図【予想】を共有した画面



動画

学習した内容をもとに、振り返っています。



学習を終えて、自分の考えがどのように変化したか、Aさんに【振り返り】を発表してもらいましょう。



Aさんの【振り返り】
わたしは罐のようなものが上がったので、最初は燃焼が起って缶がつぶれたと思いましたが、状態変化によって缶の内側と外側とで圧力の差ができたからと分かりました。...

《1》

Aさんの【振り返り】は、Aさんの【予想】から学習した内容が反映されたものになっています。

Aさんの【予想】として最も適切なものを1つ選択(なさい)。

Aさんの【予想】

- ☐ 罐のようなものが上がる化学変化が起こったのではない。
- ☐ 缶の中の水蒸気が水に戻って、体積の変化が起きたと予想する。
- ☐ 温めると缶の中の空気の体積が大きくなるように、冷えると空気の体積が小さくなると思った。
- ☐ 缶を水につけたときに、水に押されたからだろう。

- ・本問は、気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる。
- ・本問では、「最初は燃焼が起こって」という振り返りに対して、Aさんの予想を「化学変化が起こったのではないか」と指摘し、他者であるAさんの探究の過程を正しく捉えることが求められる。
- ・本問の正答率は、32.0%であり、探究の過程の見通しについて分析して解釈することに課題があると考えられる。
- ・生徒が、探究の過程を通して課題を解決することを通して、科学的に探究する過程の理解が求められる。
- ・ICT機器を活用して、自分の探究プロセスを記録・可視化し、振り返りを通して次の学びに生かす力が求められる。

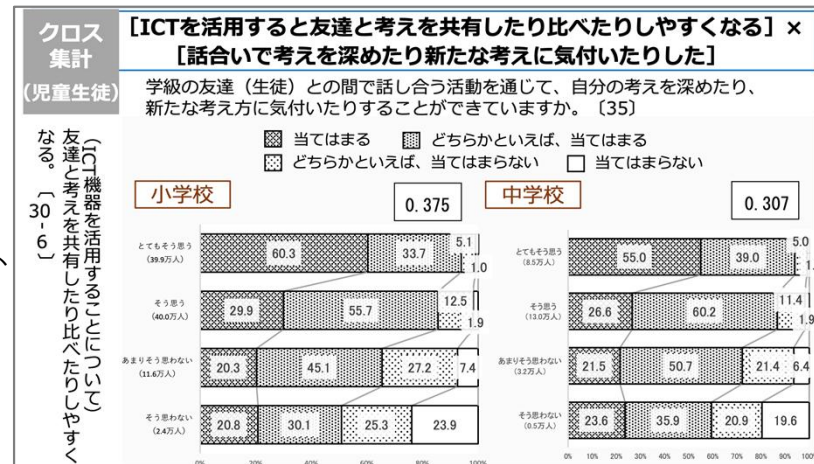
今後の改善に向けて

■ICT活用の質的向上

使用頻度は高いが、探究過程の分析・解釈力に課題があるため、単なる提示や記録から、思考の可視化・対話促進へ重点を移す。

■協働的学びの強化

クロス集計の結果によると「ICTを活用すると友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と答えた児童生徒の割合と、「話し合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした」と答えた児童生徒の割合には強い相関が見られることから、共有型デジタルノートやクラウド上での意見マッピングなど、相互参照を容易にするツールを活用し、児童生徒同士の比較・検討を促進する。



国立教育政策研究所 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）

■探究の各段階でICT活用

予想・観察・考察の過程でICTを用い、思考の変化を記録・共有することで、見通しを持ち再構成する力を育成する。

■メタ認知的学びの促進

ICTによる記録・振り返り機能を活かし、自分の探究過程を省察し次の課題を見通す力を育成する。

■教師の役割

ICT活用を通じて「情報活用力」「協働的思考力」「科学的探究力」をバランスよく育成できる授業設計を推進する。

小中高12年間を一体的に捉えた観点での分析と考察

小学校段階では、ICTを通じて身近な事象や学習内容に関心をもち、記録・整理・共有を通して「気づく」「試す」といった学びの芽生えを支えることが基礎となる。中学校段階では、得られた情報や成果を整理・比較し、根拠をもって説明する活動を通して、思考の可視化と論理的な表現を重視することが求められる。そして高等学校段階では、複数の情報を統合し、課題の本質を見極めて自ら課題を設定するなど、情報を基に社会的・学問的に探究する力の育成が目標となる。

このように、ICTを「学びの連続性を支える共通の学習基盤」として位置付け、段階的に活用の在り方を設計することが重要である。特に、記録・共有・省察という学習サイクルをICTでつなぐことで、児童生徒が自分の思考や学びの変化を自覚的にたどることができる。さらに、学校種を越えて学習履歴や成果を共有する仕組みを整えることで、個々の成長を見通した教育デザインが可能となる。

今後は、ICTを通して育成すべき資質・能力を12年間の学びの系統性の中で明確化し、各学校段階での指導と評価を連動させることが、持続的な授業改善と学びの質の向上につながると考えられる。

学びのトランスフォーメーション推進事業【エビデンスに基づく資質・能力育成事業】

事業趣旨

小中高を一体的に捉えた児童生徒の学力や学習状況等を踏まえ、学習指導要領の趣旨に基づく主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や、ICTの効果的な活用について共通理解を図り、各学校の組織的な取組を推進し、児童生徒の資質・能力の育成を図る。

事業内容

○ 小中高の学力や学習状況等の経年変化、小中高間の連続性等の分析

□ 全国学力・学習状況調査、CBA学力テスト、学習状況等調査に見られる本道の児童生徒の実態を把握・分析した報告書の作成

・「CBA学力テスト、学習状況等調査結果報告書」(高校)
(道立高等学校第1学年のCBA学力テスト結果、学習状況を報告)

・「入学者選抜実施状況報告書」(高校)
(入学者選抜の実施状況及び学力検査問題の分析結果を報告)

・「全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書」(義務)
(結果分析に基づく授業改善等の方策や、管内別の状況を報告)

○ チャレンジテスト及びCBA学力テストのCBT化(MEXCBT、GoogleWorkspace)

□ チャレンジテスト:全教科・全学年についてMEXCBTでの実施

・4月～5月:前年度問題、6月～8月:1学期末問題、11月～1月:2学期末問題

□ CBA学力テスト及び学習状況等調査:CBTでの実施(ただし、1年生のCBA学力テストはPBTで実施)
・2月～3月

○ 本道の児童生徒の資質・能力の育成に係るEBE協議会の開催

□ 組織的な授業改善や学力向上等に向けた体制整備、具体的な授業改善の方法に関する協議

【5～7月】小中高の管理職等による組織的な授業改善や学力向上等に向けた体制整備に係る取組に関する実践発表及び協議

【9～12月】小・中学校のミドルリーダーや高等学校の教務主任等による全国学力・学習状況調査結果等を活用した組織的な授業改善や学力向上等に係る取組に関する実践発表や協議

【1～3月】小中高の管理職等による学力向上に向けた検証改善サイクルの確立等に係る取組に関する協議

【2～3月】全道EBE協議会兼学力・体力向上推進課会議
小中高の管理職、教育委員会や学校関係者、有識者等による学力向上に係る施策の成果や課題、学力向上に向けた取組の方向性に関する協議

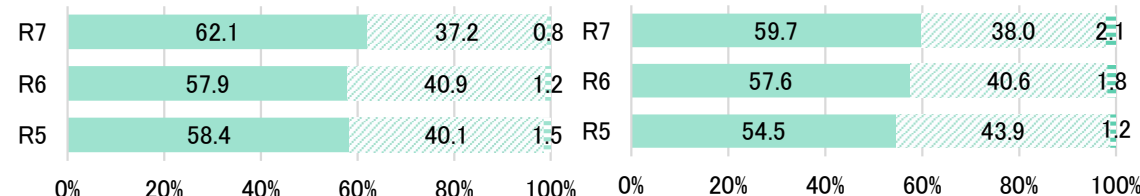
小学校[15]
中学校[15]

児童〔生徒〕の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

■ よくしている ◇ どちらかといえば、よくしている □ あまりしていない

小学校

中学校



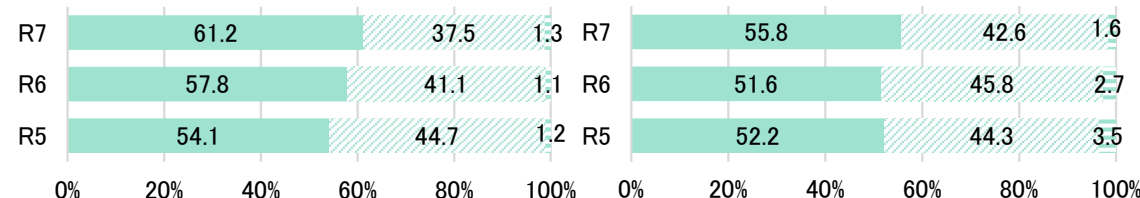
小学校[83]
中学校[83]

前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

■ よく行った ◇ 行った □ ほとんど行わなかった

小学校

中学校



成果・課題

【成果】

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していると回答した学校の割合は、小・中学校ともに増加傾向が見られます。

【課題】

各学校において、具体的な改善策につながるよう、教育データの利活用により、エビデンスに基づく検証改善サイクルの一層の充実が必要です。

学びのトランスフォーメーション推進事業【新しいかたちの学びの授業力向上推進事業】

事業趣旨

教科指導やICTの活用に優れた「新しいかたちの学び推進教員」が2～3名のグループとなり、チーム・ティーチングによる授業改善や校内研修での資料提供、教員との協議等を実施するほか、配置校以外の学校（連携校）へも巡回することで地域全体の学力の向上を図る。

事業内容

- 推進教員がグループで配置校を巡回し、教員の授業力向上及び学校全体の授業改善を推進
- 推進教員をグループ又は単独で連携校に派遣し、連携校における授業改善を推進

【推進教員の主な役割】

- ・T・Tによる授業改善を推進
- ・少人数指導による児童生徒の資質・能力の育成
- ・児童生徒の学力や生活習慣等の実態把握及び分析
- ・校内研修における提案や資料提供
- ・授業動画等の実践資料を作成し、全道へ普及
- ・域内の小学校の専科指導教員等との連携

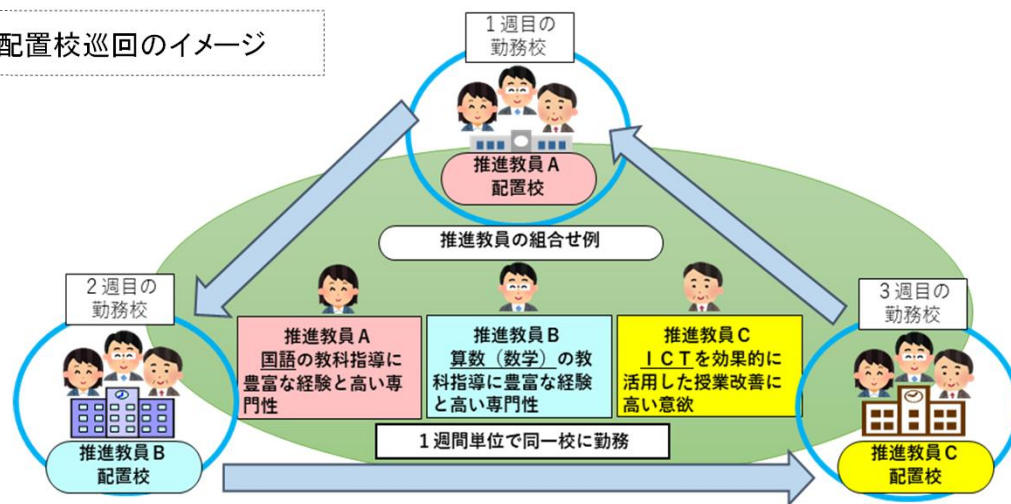
【配置校等管理職の主な役割】

- ・組織的な授業改善の方針及び方策を明確化
- ・円滑な事業実施に向けた校内体制の整備
- ・1人1台端末を活用して以下の取組を推進
 - ① ICTを活用した主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善
 - ② MEXCBT及び学習eポータル活用
 - ③ MEXCBT版チャレンジテストの実施
 - ④ 端末を持ち帰って行う家庭学習等

【市町村教育委員会の主な役割】

- ・推進グループが相互に連携・協力できる実施体制を整備
- ・2か月に1回程度、配置校や連携校による定例報告会を開催

配置校巡回のイメージ

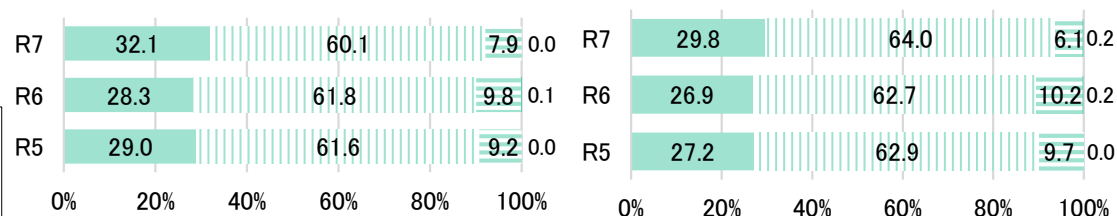


小学校[27]
中学校[27]

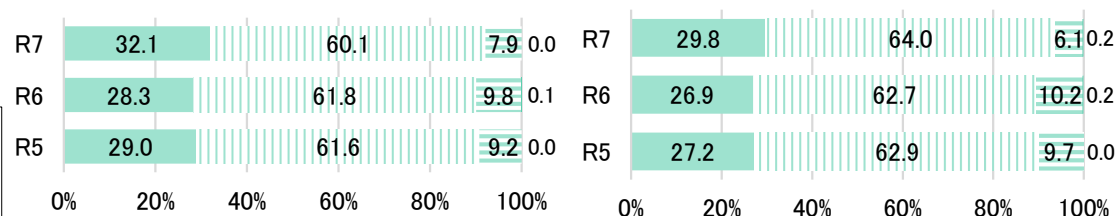
児童〔生徒〕は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか。

■ そう思う □ どちらかといえば、そう思う ▨ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない

小学校



中学校

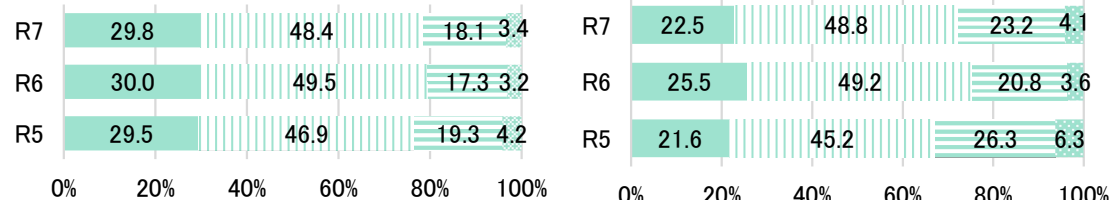


児童[36]
生徒[36]

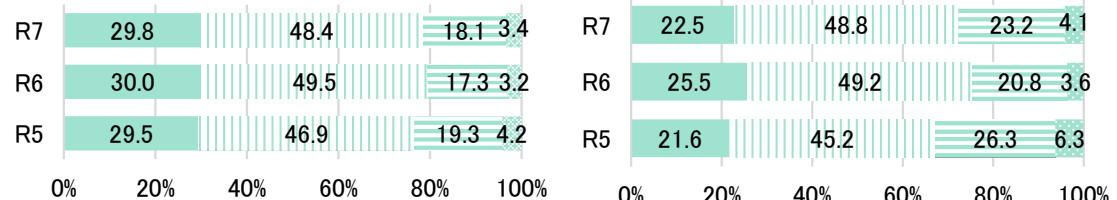
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ 当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



中学校



成果・課題

【成果】

学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると回答した学校の割合は、小・中学校ともに増加傾向が見られます。

【課題】

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに横ばいであり、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め、児童生徒一人一人に必要な資質・能力を確実に育成する必要があります。

学びのトランスフォーメーション推進事業【学校種間連携サポート事業】

事業趣旨

中学校区における育成を目指す資質・能力の設定及び小・中学校の教職員・保護者・地域住民による共有、小・中学校9年間を通じた教育課程の編成・実施等、地域の実情に応じた小中一貫教育の導入及び円滑な実施への取組を支援することにより、学校種間連携による教育の質の向上を図る。

事業内容

指定校及び準備校

※小中一貫校…小中一貫型小学校・中学校



- ・事業の実施期間は、令和5～7年度の3年間(年度ごとに指定)
- ・義務教育学校又は小中一貫校の設置・導入予定、又は設置・導入している市町村及び学校を指定
- ※義務教育学校又は小中一貫校を設置・導入して1年を経過した地域及び学校に指定は行わない。

指定期間終了後

モデル地域・モデル校へ移行

道教委は、導入に向けた諸問題の解決や導入後の実践、検証等をサポートするため、全道研修会を開催

【取組内容】

- ・学校教育目標と関連を図った義務教育9年間を通して身に付けさせたい資質・能力の設定
- ・児童生徒の課題や地域のよさを踏まえた学校教育目標と関連を図った9年間を通じた指導計画の作成
- ・小中一貫教育を推進するための体制整備、教員研修の実施、家庭や地域と連携した取組等
- ・「がくえんねっとプラス」の参加
- ・道内先進校とのパートナー校制による推進体制の構築
- ・全道研修会(情報共有会(がくえんねっとプラスセミナー)と兼ねる)の参加

* パートナー校制とは…



- ・指定校(準備校)の課題や取組の重点を考慮し、道教委が道内先進校から、パートナー校を決定
- ・指定校(準備校)は、パートナー校と協働して、小中一貫教育の導入及び円滑な実施に向けた取組を推進する。

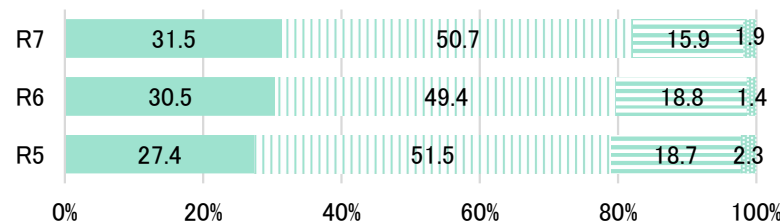
小学校[72]
中学校[72]

前年度までに、近隣等の中学校(中:小学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか。

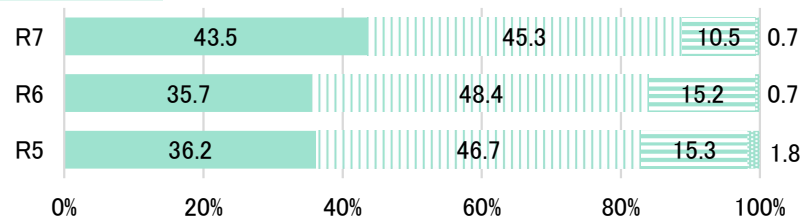
よく行った
あまり行わなかった

どちらかといえば、行った
全く行わなかった

小学校



中学校



成果・課題

【成果】

近隣等の中学校(中:小学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行ったと回答した学校の割合は、小・中学校ともに増加傾向が見られます。

【課題】

9年間を通じた指導計画の改善など、小中一貫・連携による教育課程の充実を図る必要があります。

ア 情報を共有する場をクラウド上に設ける取組

必要な情報をいつでも収集可能



イ Web会議アプリを活用した短時間・テーマ設定型交流「つながる」

参加校同士のグループ交流等を通して、自校の課題解決に向けた情報を収集

＜全道一斉に実施＞
当課が日程やテーマを設定し交流(6月、8月の2回)

＜グループ毎に実施＞
グループ毎に日程やテーマを設定し交流(10月～3月に2回)

ウ 情報共有会(がくえんねっとプラスセミナー)

道内外の先進地域・先進校の講演を実施し、取組事例から学ぶ

※学校種間連携サポート事業全道研修会と兼ねる

学びのトランスフォーメーション推進事業【自主・自律的な学習習慣・生活習慣確立モデル事業】

事業趣旨

児童生徒の自主・自律的な学習習慣や生活習慣の確立に向け、端末を活用した取組を推進し、その成果を普及することにより、教育委員会及び学校の取組の充実を図る。

事業内容

事業内容

次のア、イの取組を学校と家庭が協力して推進

端末持ち帰りモデル（家庭学習充実）

ア 放課後及び長期休業中などの端末を活用した家庭学習の充実に向けた支援、取組



学習習慣定着モデル（学習履歴活用）

イ 放課後及び長期休業中などの学習履歴を活用した望ましい学習習慣等の定着に向けた支援、取組



同一中学校区の小・中学校において取組を推進

成果・課題

小学校[66]
中学校[66]

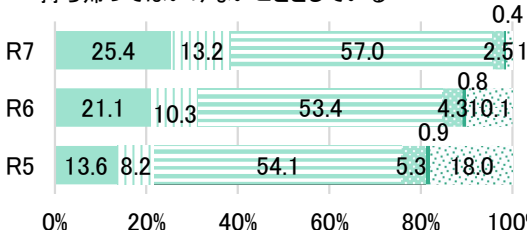
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

小学校[18]
中学校[18]

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（遊びなどの目的に使う時間は除く）

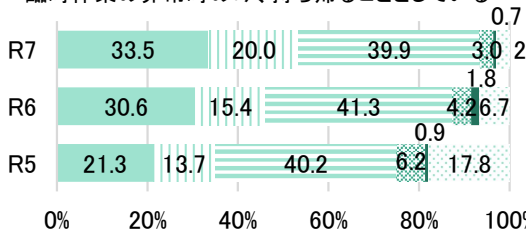
小学校

- 毎日持ち帰って、毎日利用させている
- 時々持ち帰って、時々利用させている
- 持ち帰ってはいけないこととしている



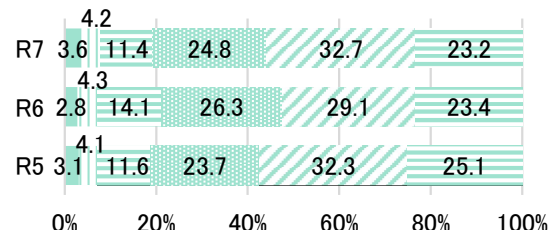
中学校

- 毎日持ち帰って、時々利用させている
- 持ち帰らせていない
- 臨時休業の非常時のみ、持ち帰ることとしている



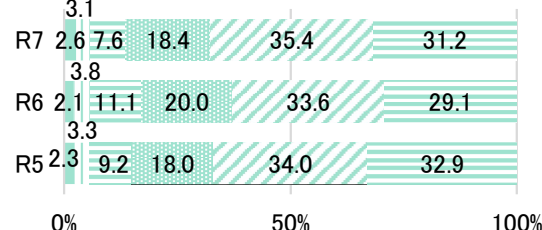
小学校

- 3時間以上
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない



中学校

- 1時間以上、2時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 全く使っていない



【成果】

児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、毎日持ち帰って、毎日利用させていると回答した学校の割合は、小・中学校ともに増加傾向が見られます。

【課題】

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、PC・タブレットなどのICT機器を、1時間以上勉強のために使っていると回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較して、小・中学校ともに減少していることから、学校外も含めた学習の意欲を醸成し、ICTを活用した学習習慣の定着に取り組む必要があります。

6 札幌市を除く北海道の調査結果

(1) 教科に関する調査結果

教科に関する調査及び質問調査における国が公表した指定都市(札幌市)を除く北海道の調査結果について、概要を示しています。

※ 平均正答率 上段:整数値(国が公表した数値及び道教委において国が公表した小数値を小数第1位で四捨五入した数値)
下段:小数値(道教委が独自に算出した数値及び国が公表した数値)

小学校

		国語	算数	理科
R7	北海道 (札幌市を除く)	65% 〔64.8%〕	53% 〔53.4%〕	56% 〔56.2%〕
	全国	67% 〔66.8%〕	58% 〔58.0%〕	57% 〔57.1%〕
R6	北海道 (札幌市を除く)	67% 〔66.5%〕	59% 〔59.3%〕	
	全国	68% 〔67.7%〕	63% 〔63.4%〕	
R5	北海道 (札幌市を除く)	66% 〔65.7%〕	60% 〔59.6%〕	
	全国	67% 〔67.2%〕	63% 〔62.5%〕	
R4	北海道 (札幌市を除く)	64% 〔63.9%〕	60% 〔60.3%〕	63% 〔63.0%〕
	全国	66% 〔65.6%〕	63% 〔63.2%〕	63% 〔63.3%〕
R3	北海道 (札幌市を除く)	63% 〔62.7%〕	67% 〔66.6%〕	
	全国	65% 〔64.7%〕	70% 〔70.2%〕	

中学校

※R7中学校理科は平均IRTスコア

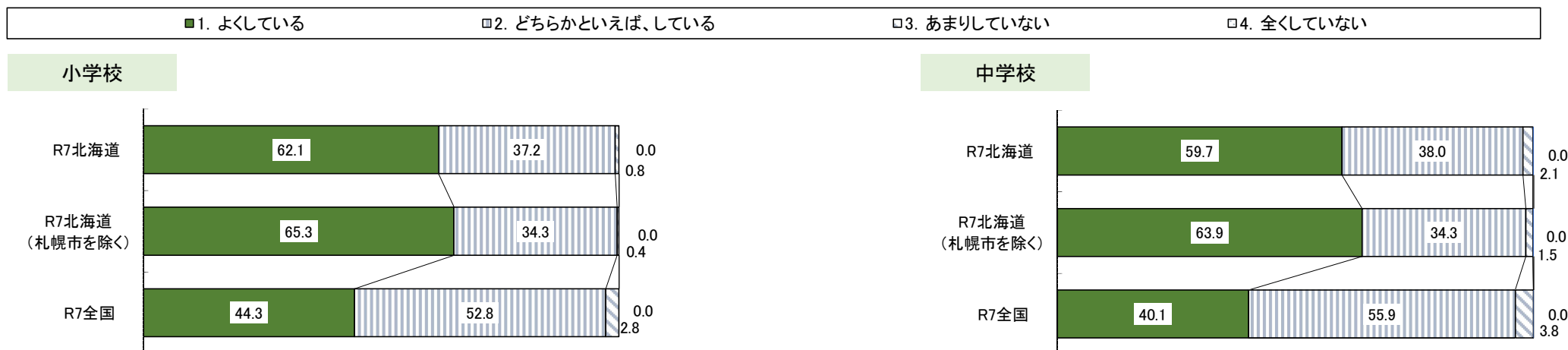
		国語	数学	理科
R7	北海道 (札幌市を除く)	53% 〔53.0%〕	44% 〔43.9%〕	499
	全国	54% 〔54.3%〕	48% 〔48.3%〕	503
R6	北海道 (札幌市を除く)	56% 〔56.1%〕	49% 〔49.4%〕	
	全国	58% 〔58.1%〕	53% 〔52.5%〕	
R5	北海道 (札幌市を除く)	68% 〔68.3%〕	48% 〔47.7%〕	
	全国	70% 〔69.8%〕	51% 〔51.0%〕	
R4	北海道 (札幌市を除く)	68% 〔67.9%〕	47% 〔46.8%〕	48% 〔48.0%〕
	全国	69% 〔69.0%〕	51% 〔51.4%〕	49% 〔49.3%〕
R3	北海道 (札幌市を除く)	64% 〔63.7%〕	55% 〔54.7%〕	
	全国	65% 〔64.6%〕	57% 〔57.2%〕	

■検証改善サイクルの確立

【学校】

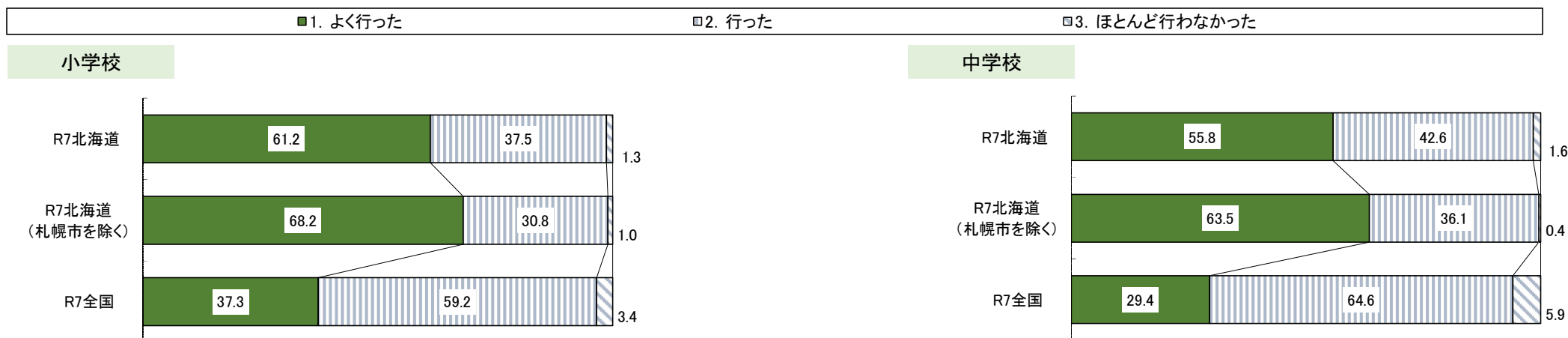
①「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」

(学校 質問番号 小15、中15)



②「前年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

(学校 質問番号 小83、中83)



■授業改善

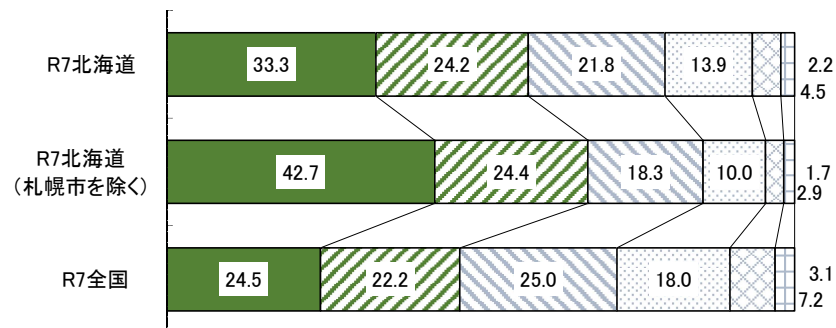
【児童生徒】

③「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

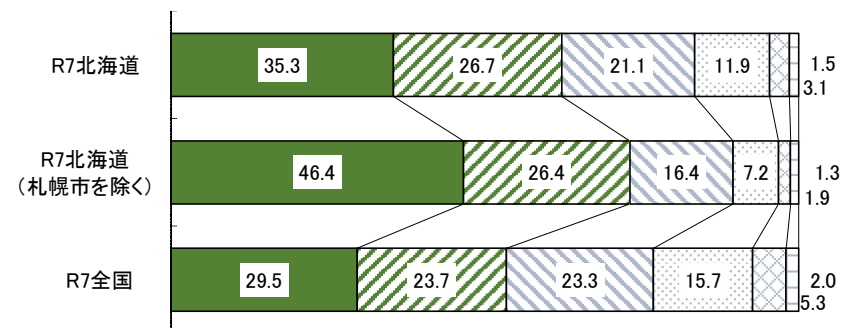
(児童生徒 質問番号 小28、中28)

■ 1. ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用) □ 2. ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業) □ 3. 週3回以上 □ 4. 週1回以上 □ 5. 月1回以上 □ 6. 月1回未満

小学校



中学校

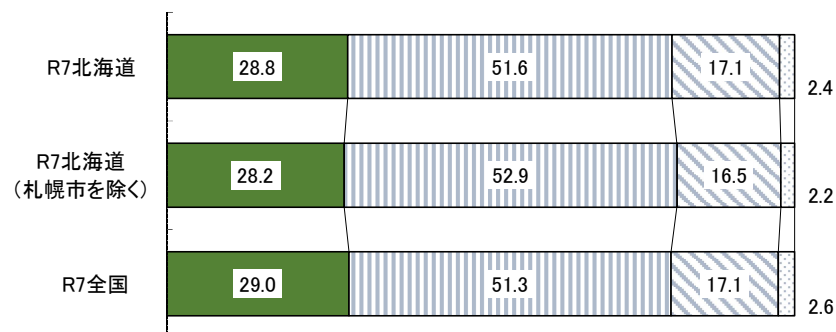


④「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

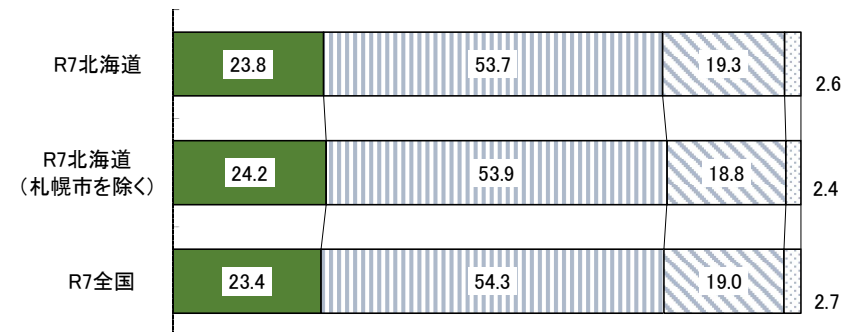
(児童生徒 質問番号 小32、中32)

■ 1. 当てはまる □ 2. どちらかといえば、当てはまる □ 3. どちらかといえば、当てはまらない □ 4. 当てはまらない

小学校



中学校

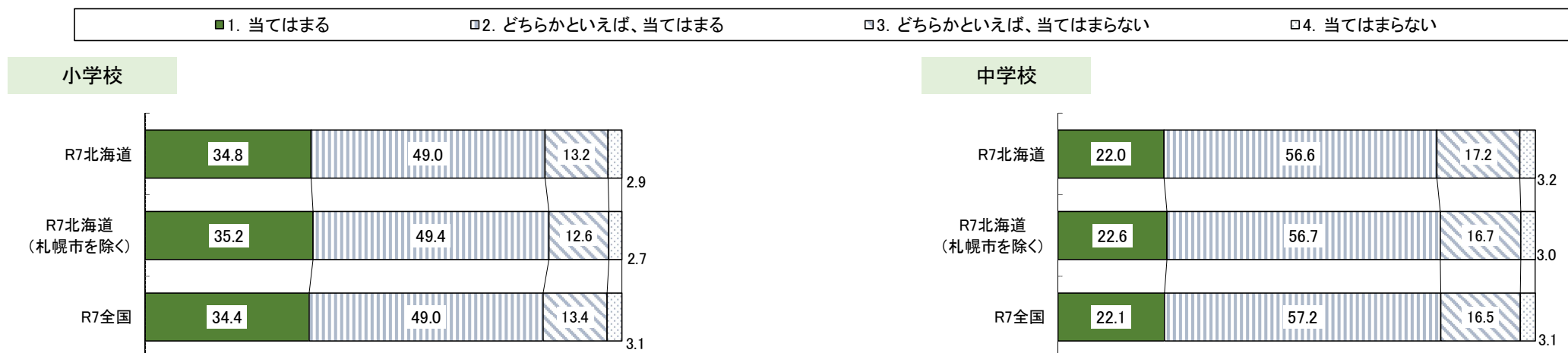


■授業改善

【児童生徒】

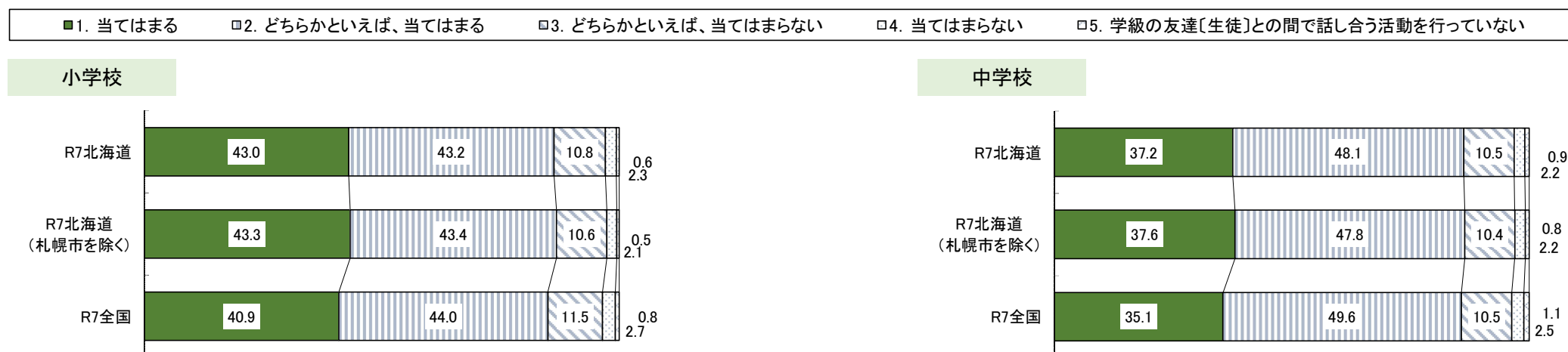
⑤「前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」

(児童生徒 質問番号 小34、中34)



⑥「学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」

(児童生徒 質問番号 小35、中35)



■授業改善

【児童生徒】

⑦「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか」

(児童生徒 質問番号 小36、中36)

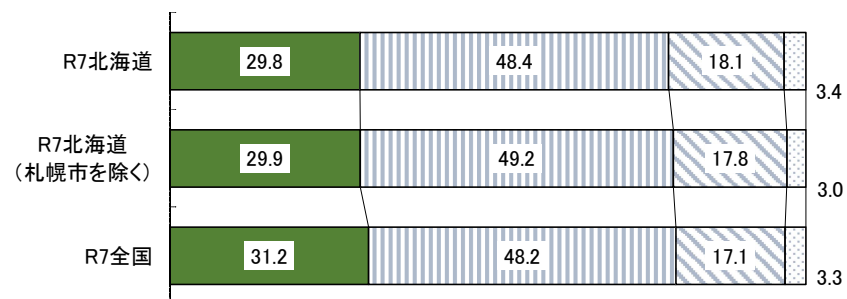
■ 1. 当てはまる

□ 2. どちらかといえば、当てはまる

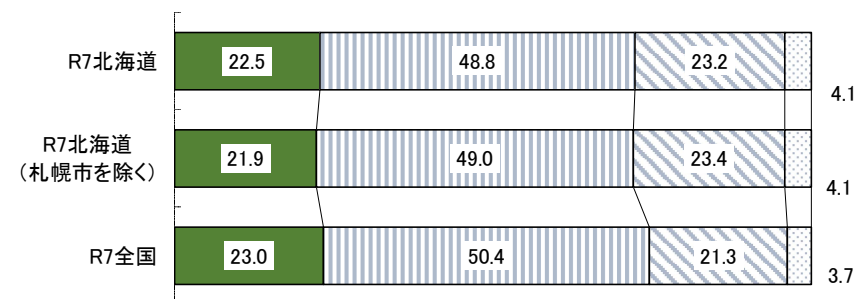
□ 3. どちらかといえば、当てはまらない

□ 4. 当てはまらない

小学校



中学校



⑧「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」

(児童生徒 質問番号 小39、中39)

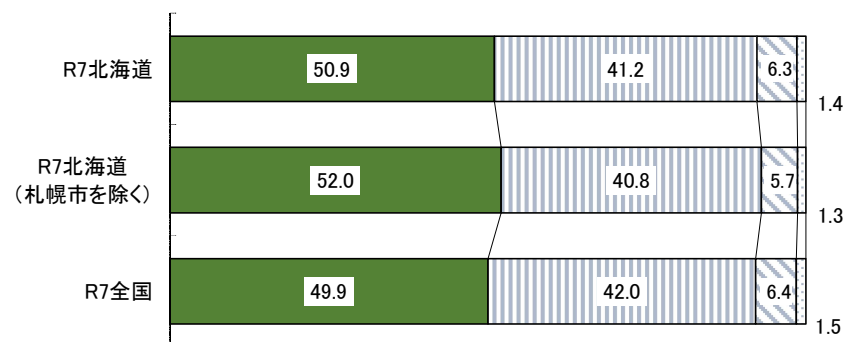
■ 1. 当てはまる

□ 2. どちらかといえば、当てはまる

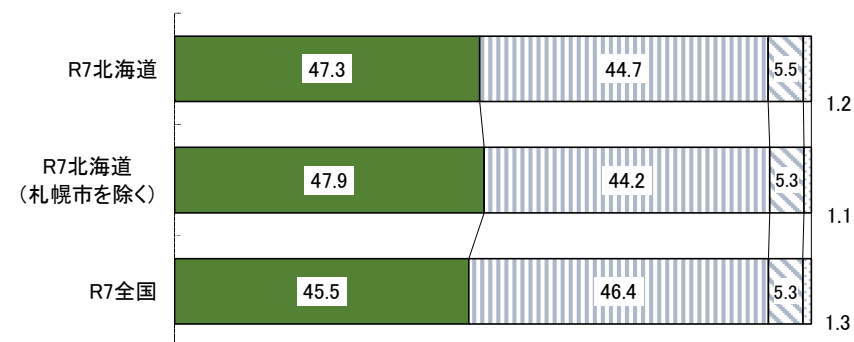
□ 3. どちらかといえば、当てはまらない

□ 4. 当てはまらない

小学校



中学校

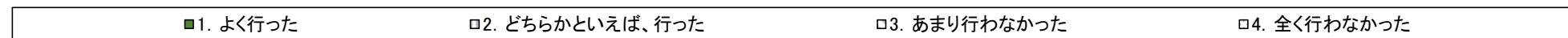


■授業改善

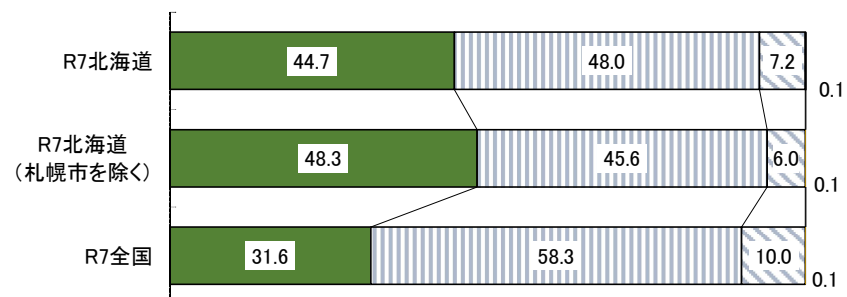
【学校】

⑨「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」

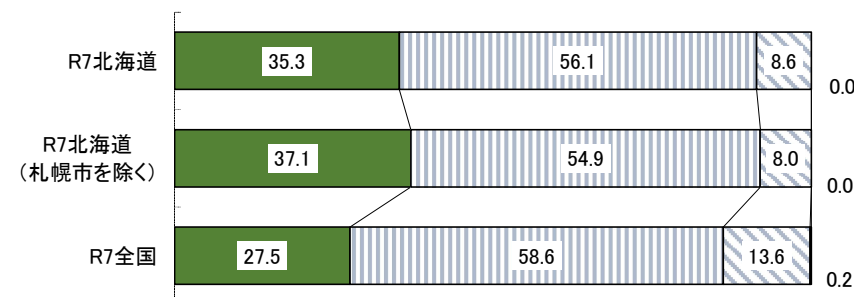
(学校 質問番号 小32、中32)



小学校

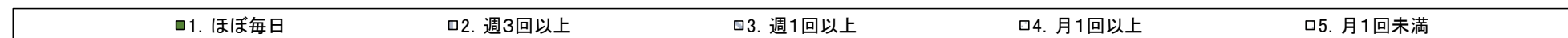


中学校

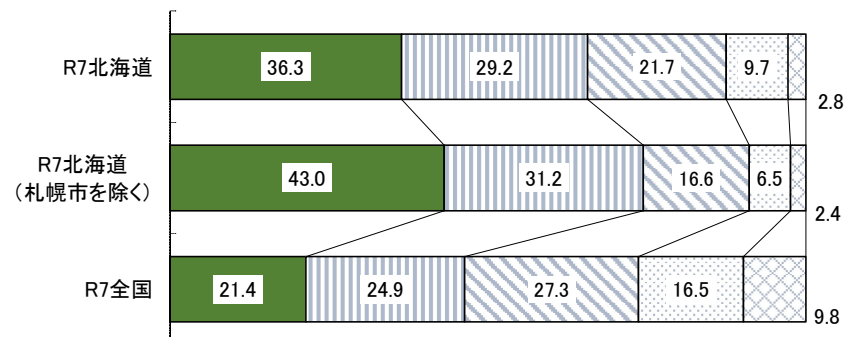


⑩「調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」

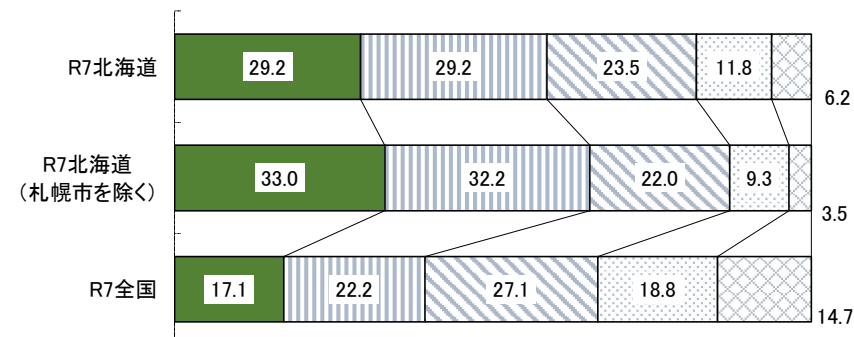
(学校 質問番号 小62、中62)



小学校



中学校



■小中連携の推進

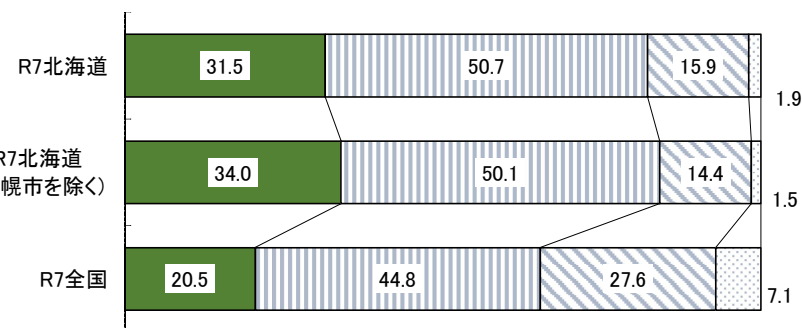
【学校】

⑪「前年度までに、近隣等の中学校〔中：小学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」

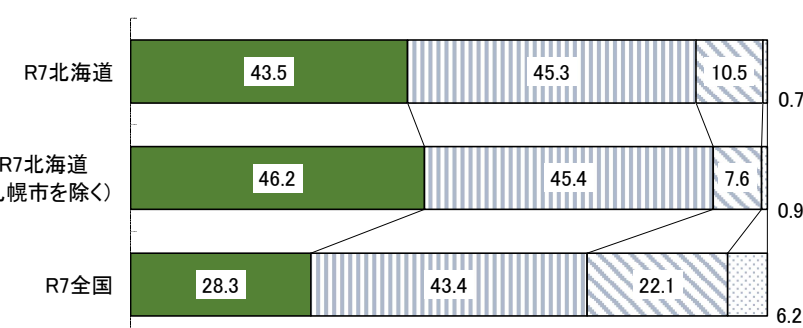
(学校 質問番号 小72、中72)

■1. よく行った □2. どちらかといえば、行った □3. あまり行わなかった □4. 全く行わなかった

小学校



中学校



■望ましい学習習慣の確立

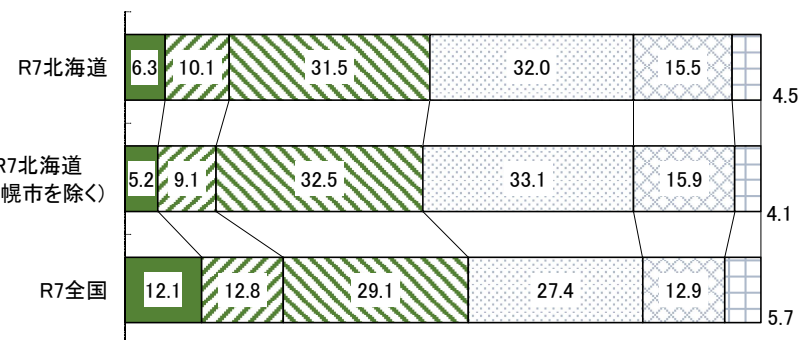
【児童生徒】

⑫「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

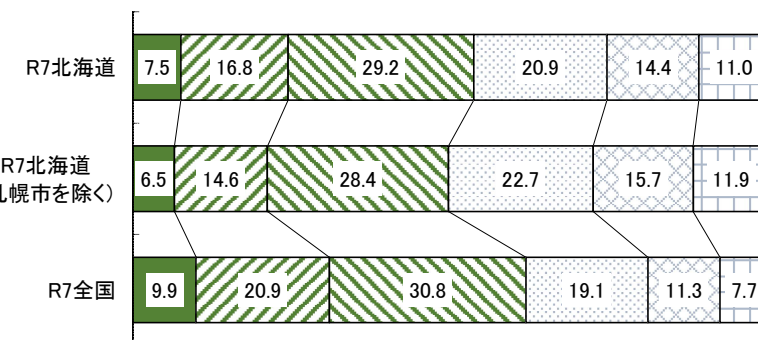
(児童生徒 質問番号 小17、中17)

■1. 3時間以上 □2. 2時間以上、3時間より少ない □3. 1時間以上、2時間より少ない □4. 30分以上、1時間より少ない □5. 30分より少ない □6. 全くしない

小学校



中学校



■望ましい学習習慣の確立

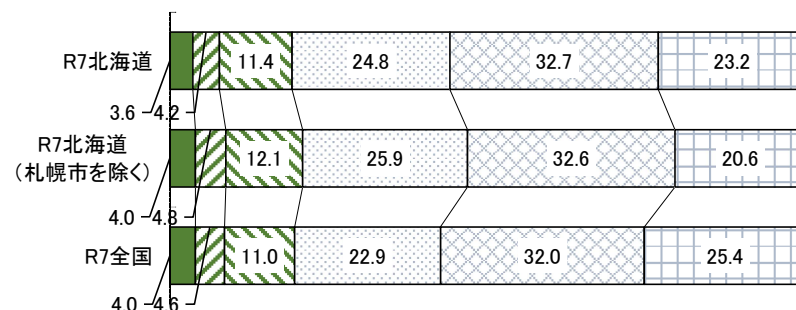
【児童生徒】

⑬「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」

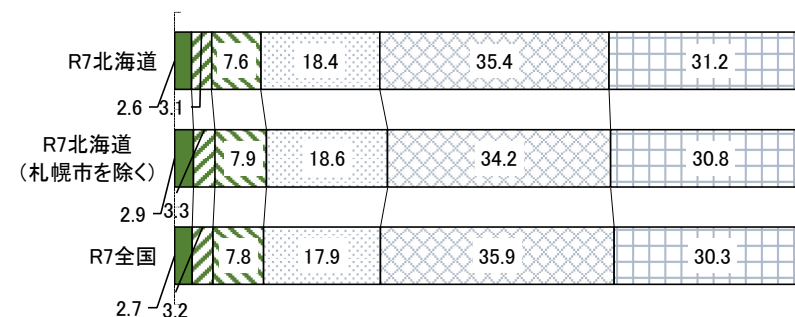
（児童生徒 質問番号 小18、中18）

■1. 3時間以上 ■2. 2時間以上、3時間より少ない □3. 1時間以上、2時間より少ない □4. 30分以上、1時間より少ない □5. 30分より少ない □6. 全く使っていない

小学校



中学校



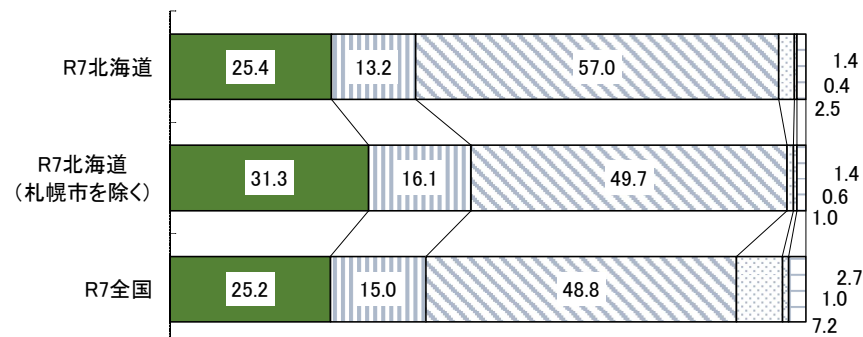
【学校】

⑭「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」

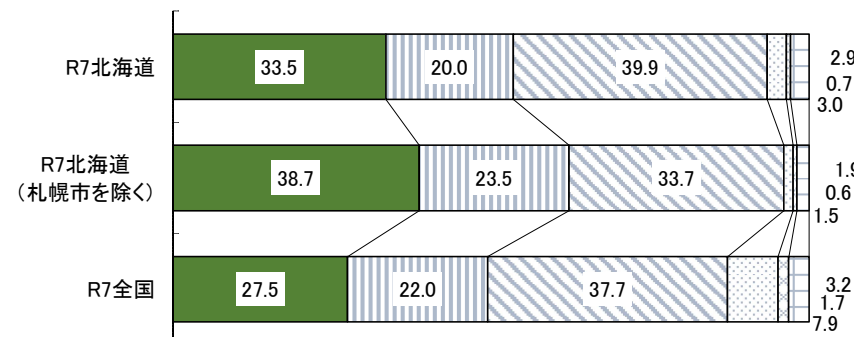
（学校 質問番号 小66、中66）

■1. 毎日持ち帰って、毎日利用させている □2. 毎日持ち帰って、時々利用させている □3. 時々持ち帰って、時々利用させている
□4. 持ち帰らせていない □5. 持ち帰ってはいけないこととしている □6. 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている

小学校



中学校

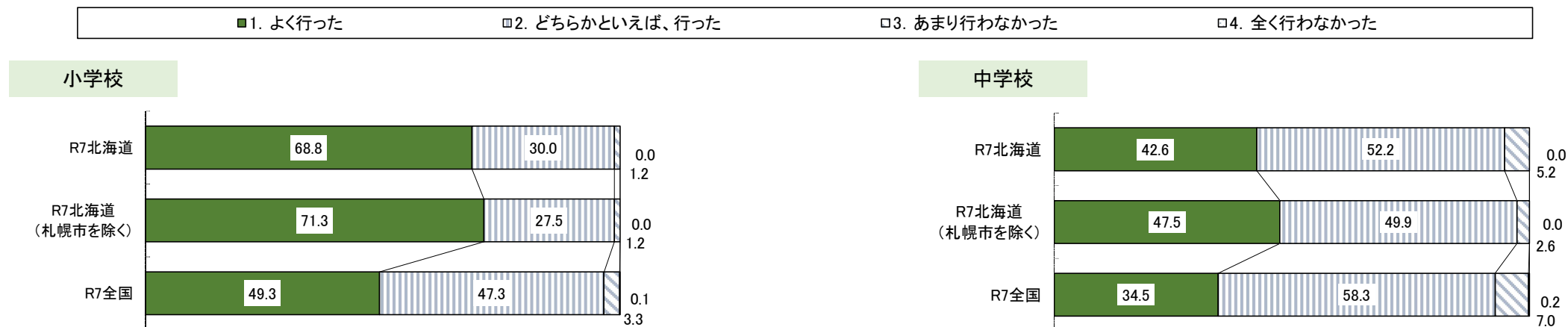


■望ましい学習習慣の確立

【学校】

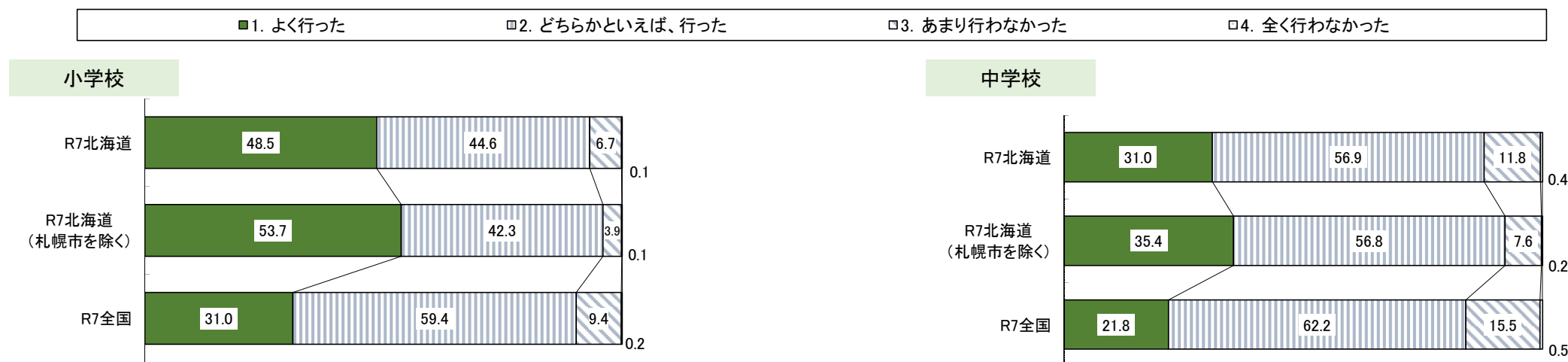
⑮「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか」

(学校 質問番号 小80、中80)



⑯「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか」

(学校 質問番号 小82、中82)



Ⅱ

管内の状況

- 1 管内の平均正答率・IRTバンドの分布
- 2 管内の状況、今後の改善方策



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

ここでは、令和7年度全国学力・学習状況調査における各管内の結果について、
・管内の平均正答率・IRTバンドの分布
・管内の状況及び今後の改善方策
を掲載しています。

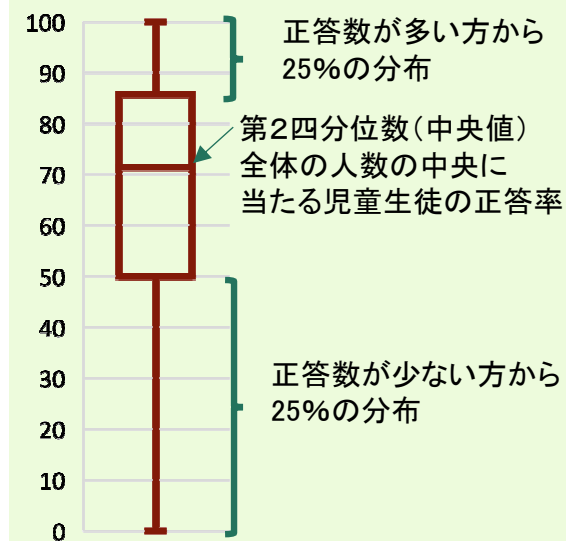
各市町村教育委員会及び学校においては、本資料を参考に、管内の状況や改善の方向性等を共有するとともに、今後の取組を工夫・改善するなど、取組の一層の充実に御活用ください。

1 管内の平均正答率・IRTバンドの分布

小学校国語

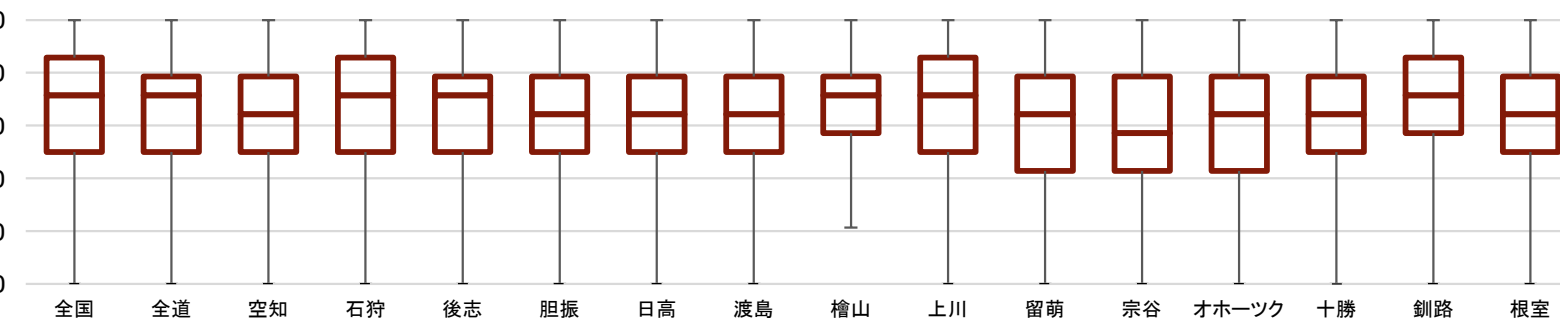
※箱ひげ図の上の値は、平均正答率

<箱ひげ図の見方>

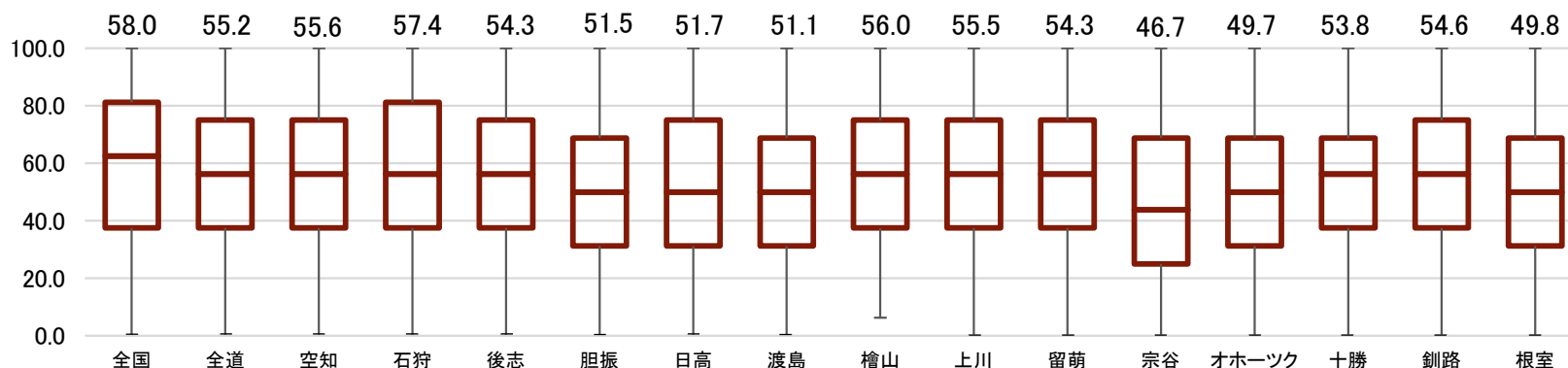


<分析>

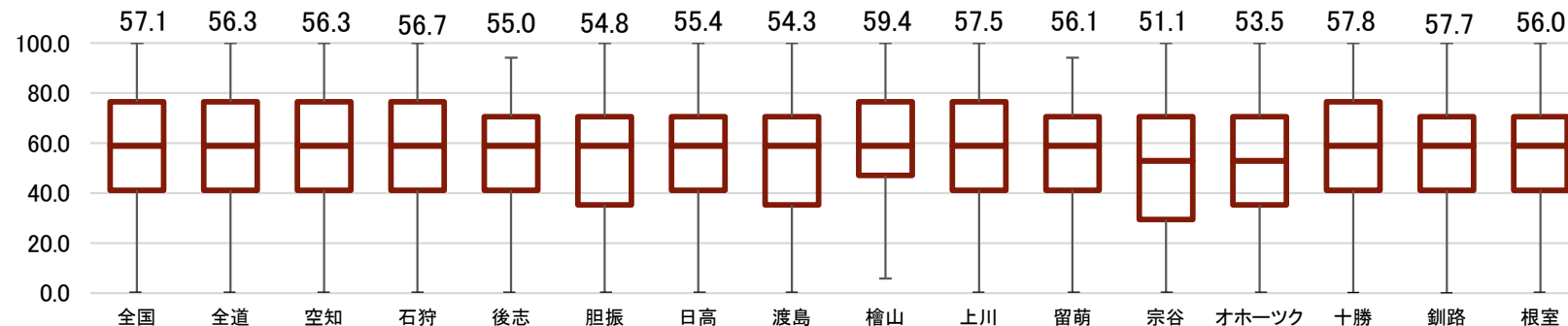
- 小学校国語及び小学校理科の正答率の分布は、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られません。
- 小学校算数の正答率の分布は、他の教科に比べて箱が長く、得点の分布の幅が大きいいため、一定のばらつきは見られるものの、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られません。



小学校算数



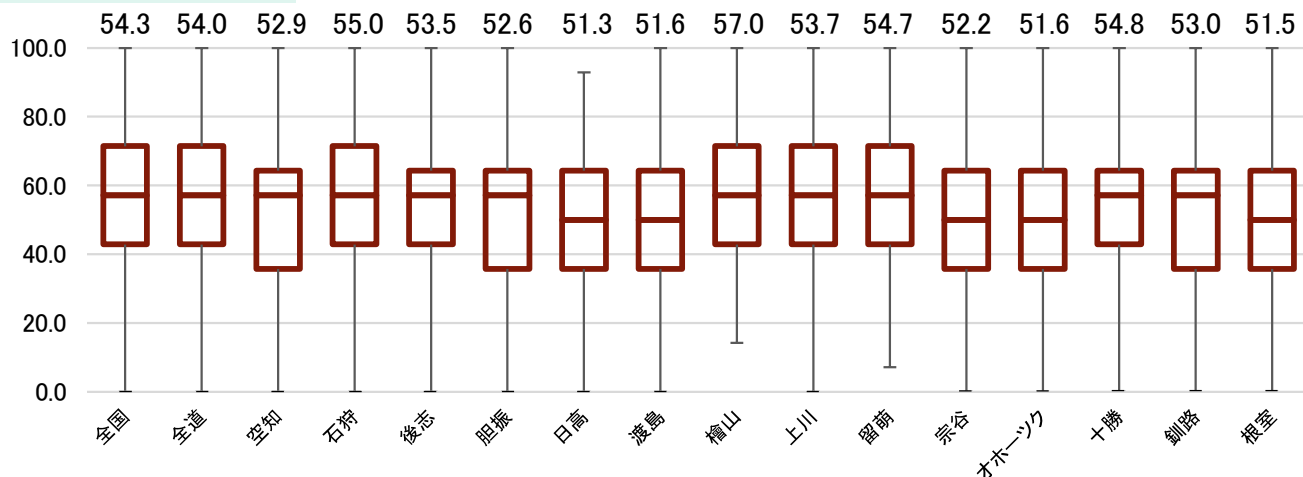
小学校理科



1 管内の平均正答率・IRTバンドの分布

中学校国語

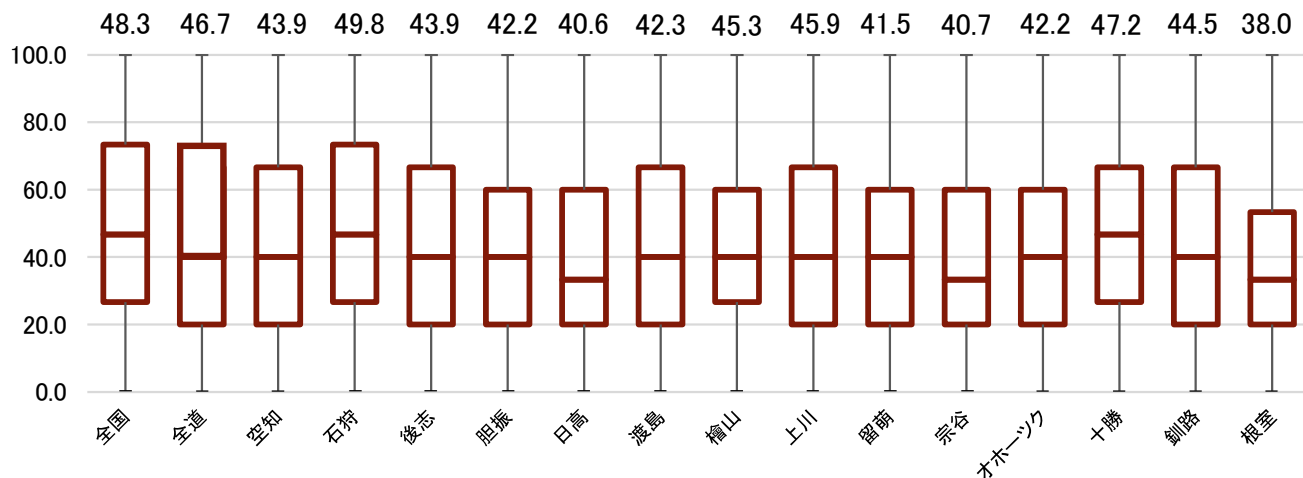
※箱ひげ図の上の値は、平均正答率



<分析>

中学校国語の正答率の分布は、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られません。

中学校数学



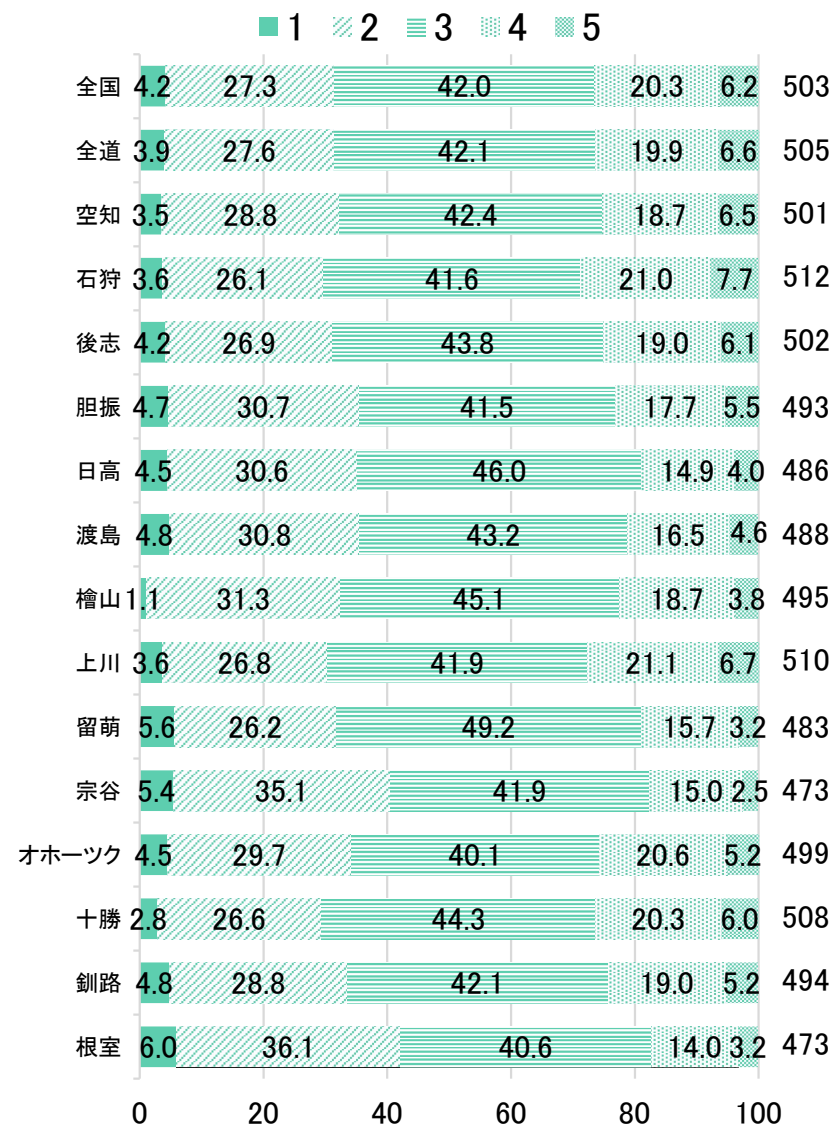
<分析>

中学校数学の正答率の分布は、他の教科に比べて箱が長く、得点の分布の幅が大きいため、一定のばらつきは見られるものの、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られません。

中学校理科

※分布の右の値は、平均IRTスコア

中学校理科は、IRTバンド分布比較



<分析>

中学校理科のIRTバンド分布は、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られません。

空知管内の状況及び今後の改善方策

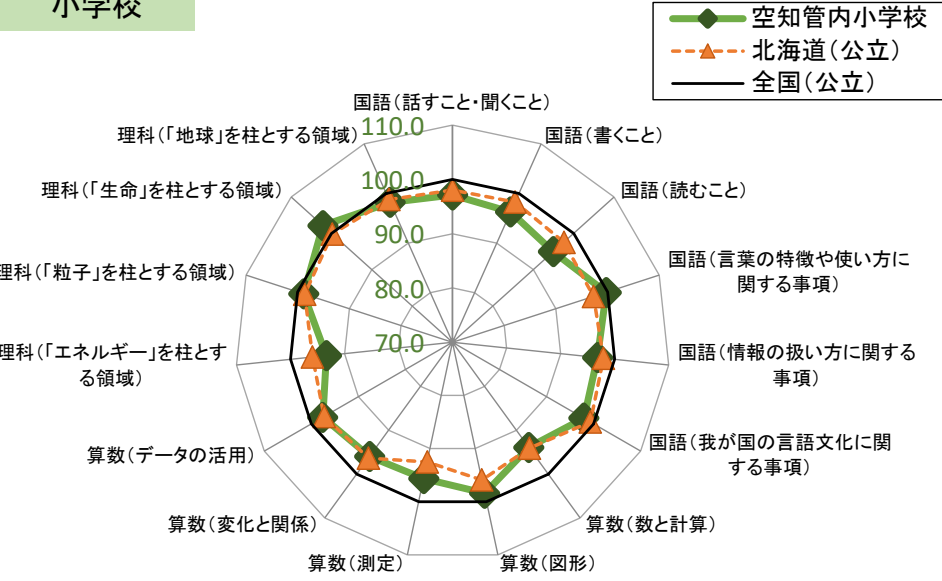
小学校数:56校、児童数:1554人 中学校数:37校、生徒数:1621人

○ 教科に関する調査の状況

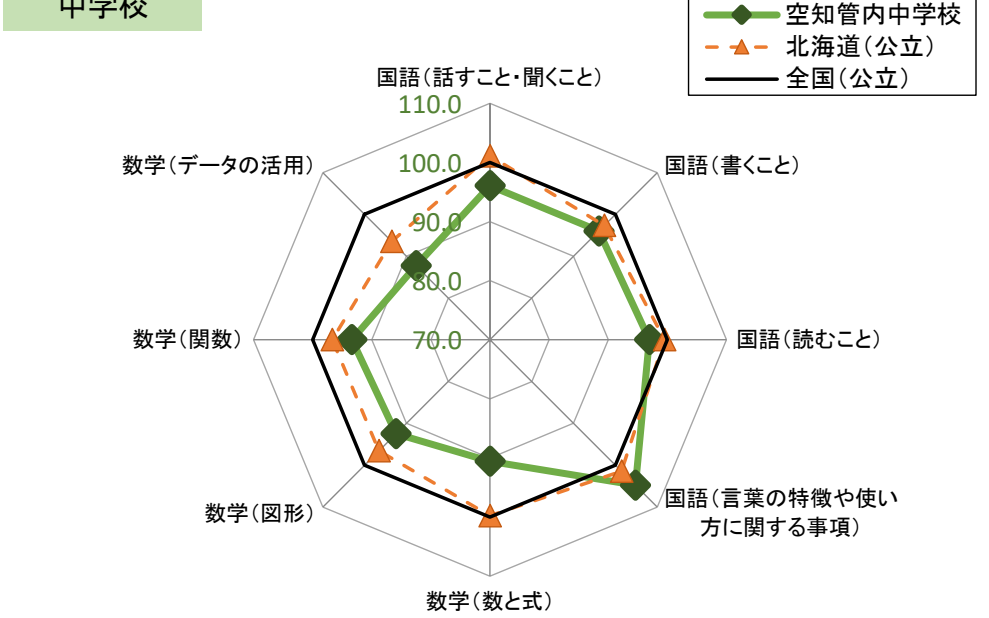
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

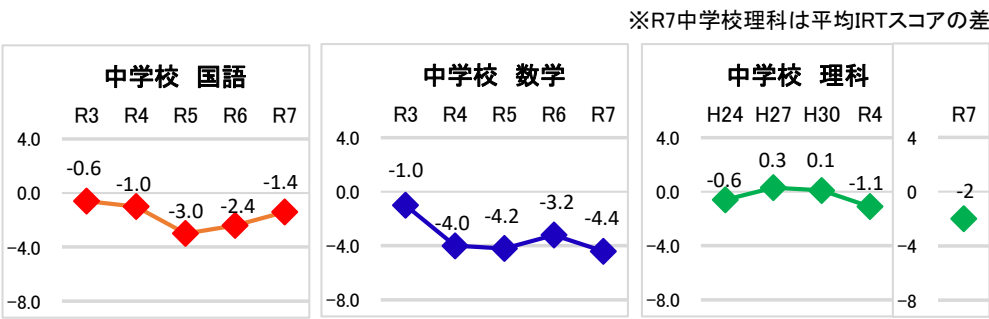
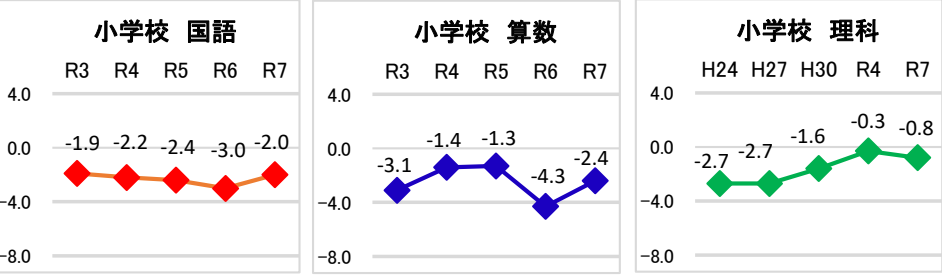
小学校



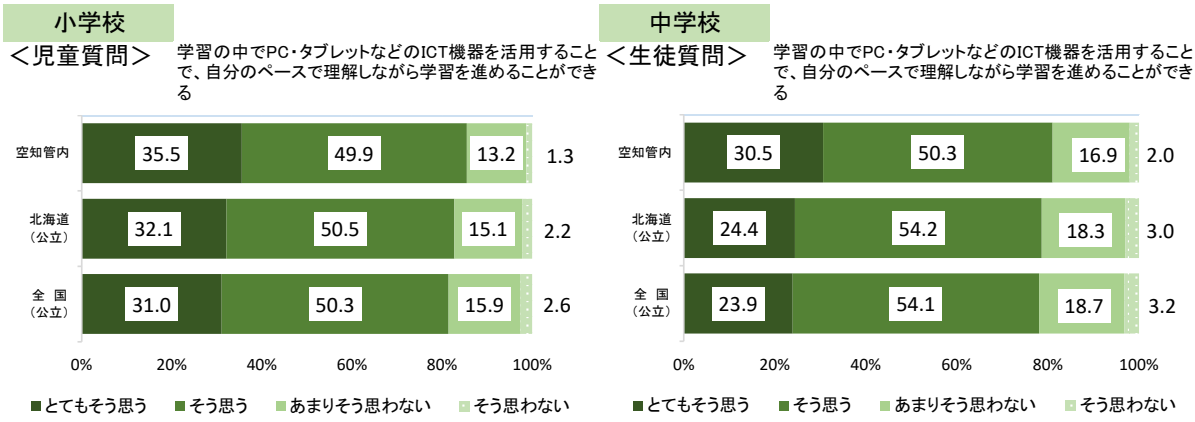
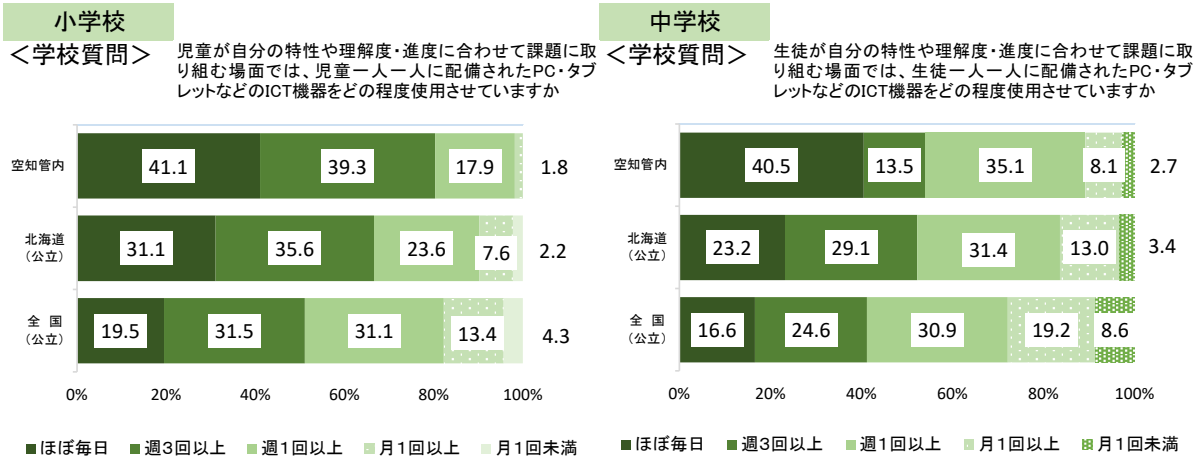
中学校



【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

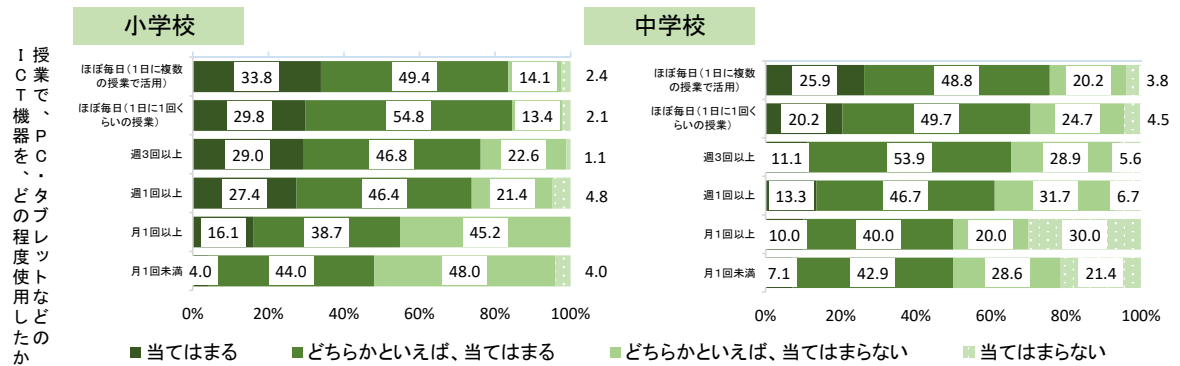


○ 質問調査の状況



<クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)>

学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 中学校において、生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させているが、各教科の平均正答率が全国を下回っていることから、児童生徒の資質・能力の育成につながるICT機器の効果的な活用に向けた取組を一層充実させる必要がある。
- ・ 小学校及び中学校において、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を活用している頻度が高いと回答した児童生徒ほど、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- ・ EBE協議会において、学力調査等を活用した取組の好事例や「クラウド・アプリを活用した学び」の実践事例を共有し、児童生徒の資質・能力につながる効果的な活用について、オンデマンド研修、直接的な指導助言及び協議を設定し、取組の促進を図る。
- ・ 学校教育指導において、第2回EBE協議会と連動させ、「子どもの良質な教材としての調査問題の活用」及び「クラウド・アプリを活用した学び」の進捗状況を見取り、オンデマンド研修を踏まえた指導主事による指導助言を充実させる。
- ・ 各地域の特色、実情に応じた方策として、校種を超えた効果的な遠隔授業、小規模校間の遠隔授業及び小中高一貫の学習アプリの活用促進に向けて、各市町が自走可能な児童生徒の資質・能力の育成を目指すICT活用について、指導助言及び先行事例の共有を行う。

石狩管内の状況及び今後の改善方策

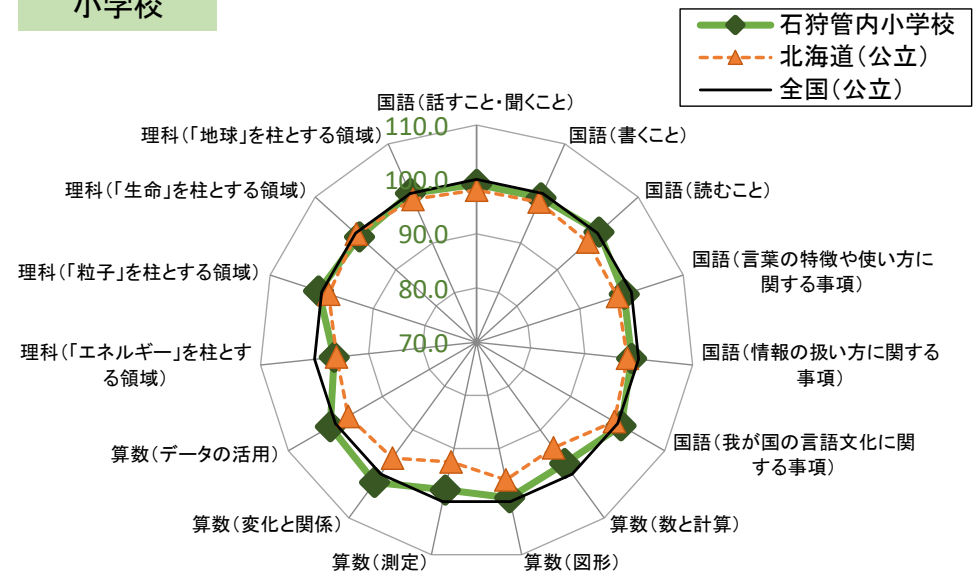
小学校数:259校、児童数:16835人 中学校数:136校、生徒数:15973人

教科に関する調査の状況

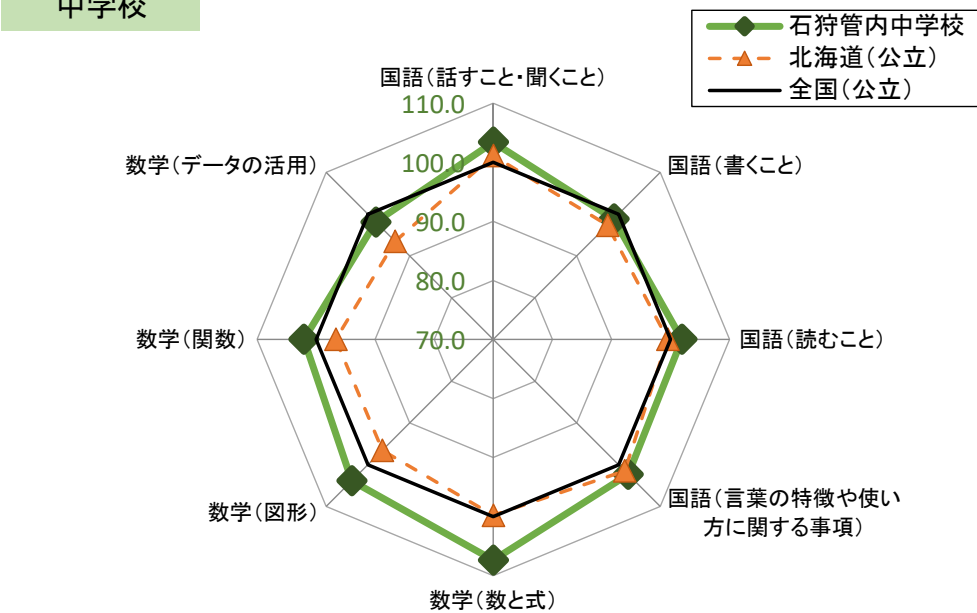
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

小学校



中学校



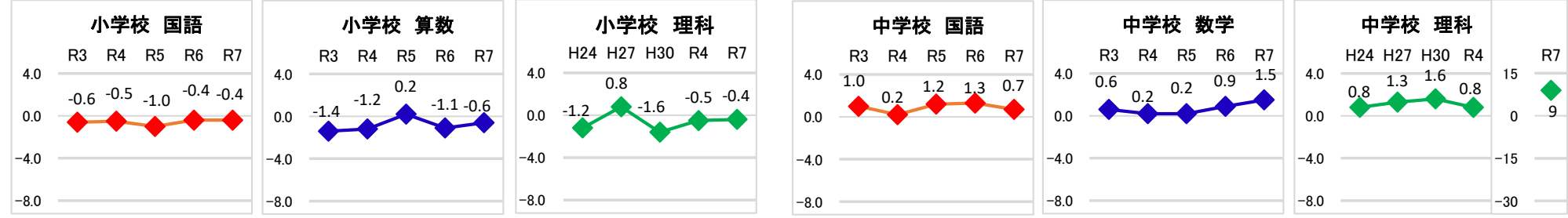
【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
石狩管内	66.4	57.4	56.7	55.0	49.8	512
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

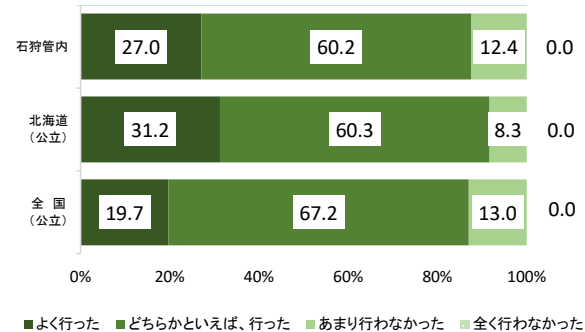


○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

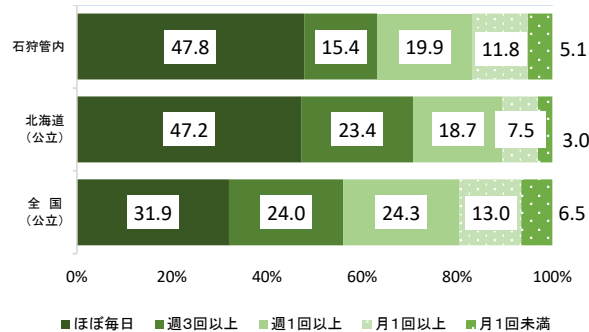
前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



中学校

<学校質問>

教職員と調査対象学年の生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



○ 調査結果の分析

- 小学校において、児童が各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたと回答した学校の割合が全国を上回ったが、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を下回っており、全ての児童の実感につながっていないことが要因の一つとして考えられる。

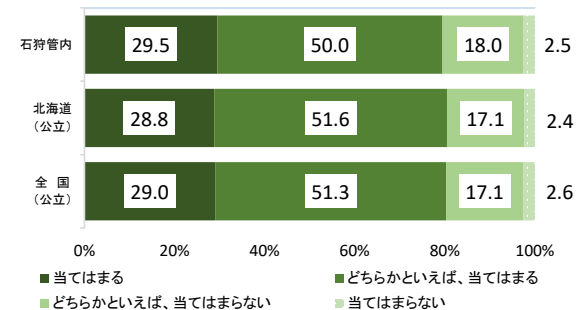
- 中学校において、教職員と生徒がやりとりする場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使用することで、楽しみながら学習を進めることができますか」の質問に、「とてもそう思う」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

- 小学校及び中学校において、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「学校に行くのは楽しいと思う」と回答する傾向が見られた。

小学校

<児童質問>

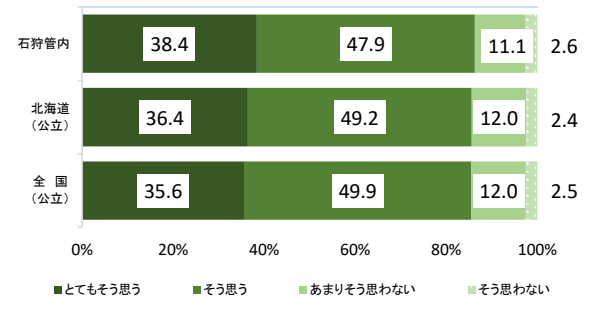
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



中学校

<生徒質問>

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができますか



○ 具体的な改善方策

【学校教育指導訪問における指導助言】

- 学校教育指導訪問の指導助言を通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について共通理解を図ることなどにより、資質・能力を確実に身に付ける授業を実現し、正答数の少ない層の児童生徒の減少を目指す。

【管内独自で実施する授業力向上研修】

- 各市町村を対象にした授業づくりセミナーで、子ども一人一人への資質・能力の確実な育成に向けた単元づくりについて共通理解を図る。

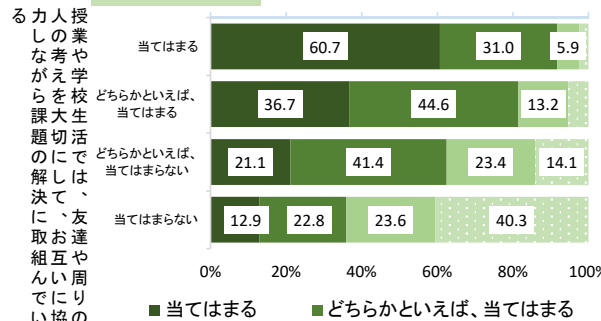
【各種指定事業の活用】

- 学校力向上に関する総合実践事業、新しいかたちの学びの授業力向上推進事業及びEBE協議会など各種指定事業を活用し、管内教育推進の重点である「子ども一人一人の確実な指導」及び「学校組織マネジメントの充実」を図ることにより、組織的な授業改善を推進する。

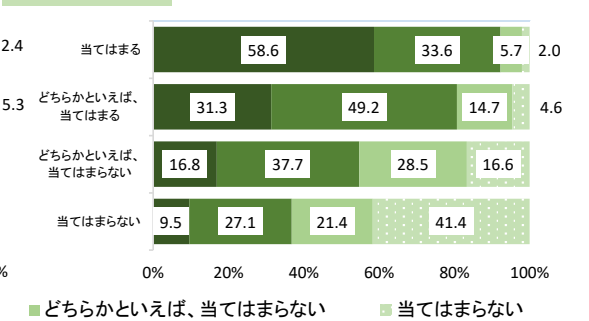
<クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)>

学校に行くのは楽しいと思う

小学校



中学校



後志管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:53校、児童数:1154人 中学校数:36校、生徒数:1145人

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

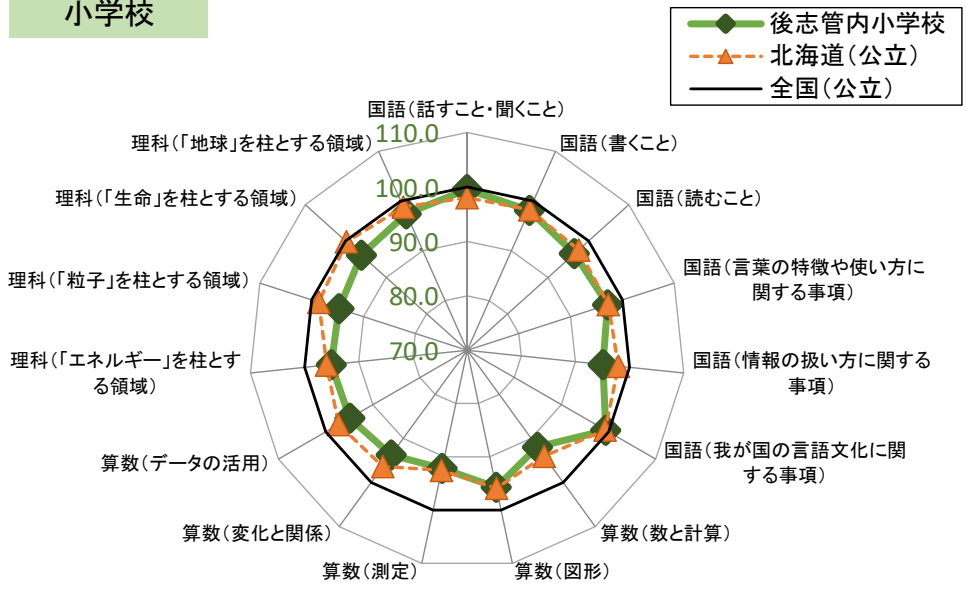
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

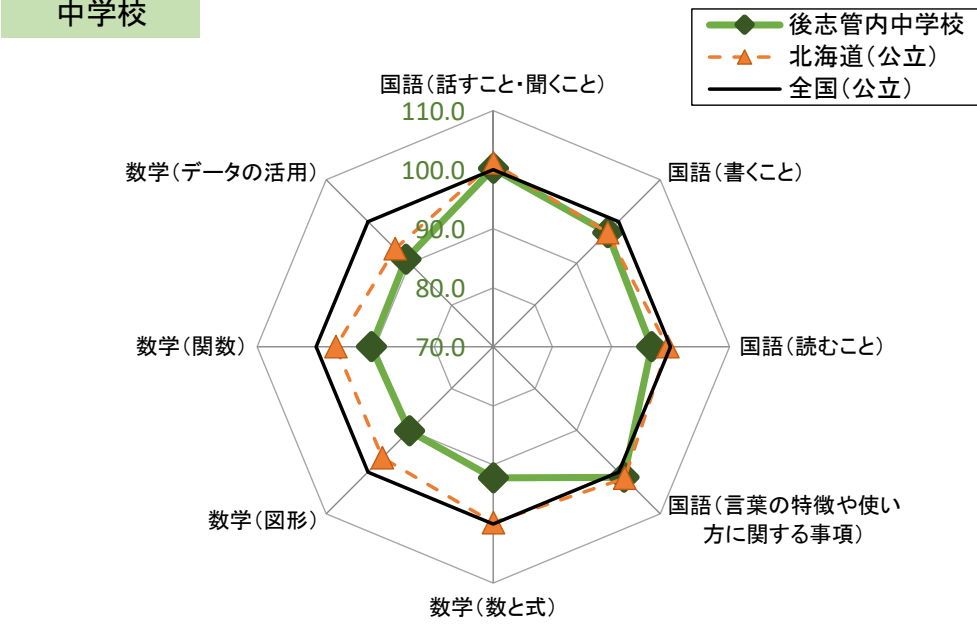
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
後志管内	65.3	54.3	55.0	53.5	43.9	502
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校

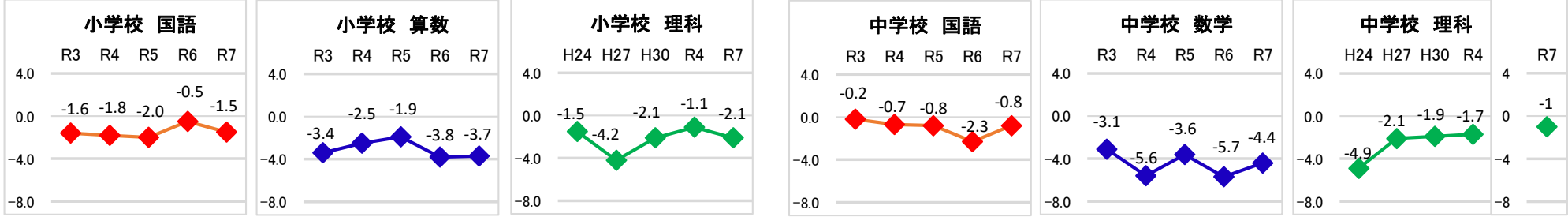


中学校

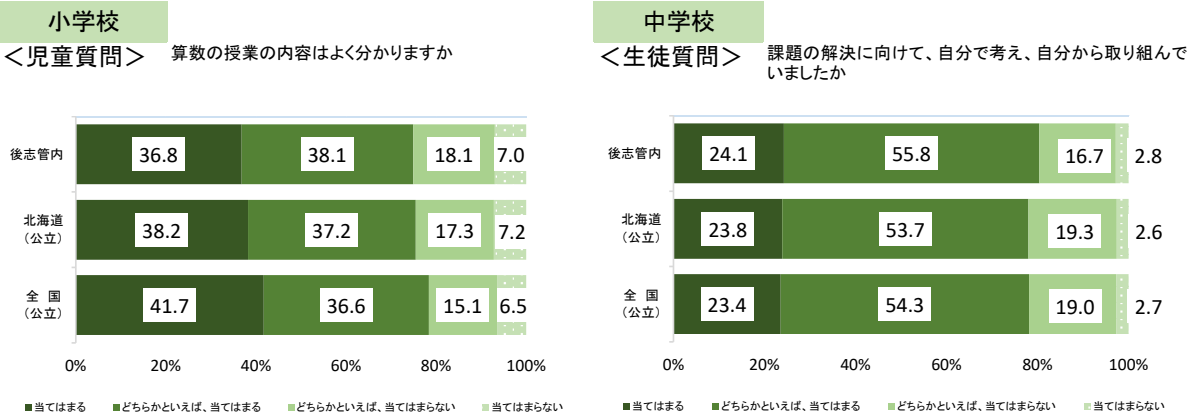
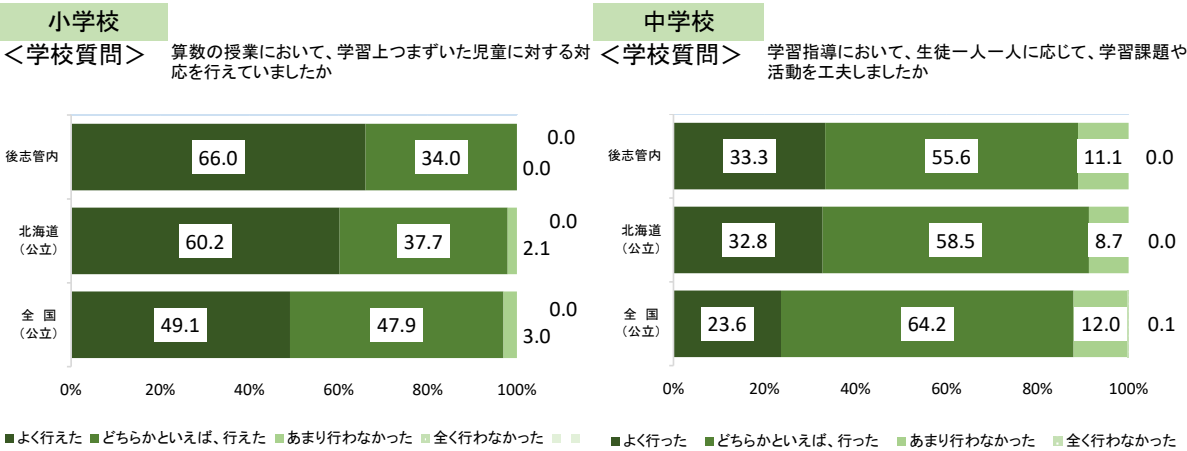


【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

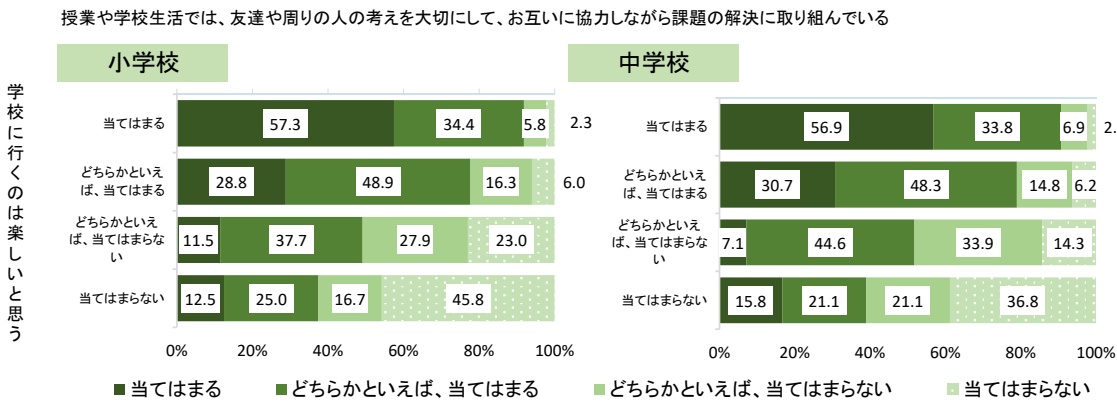
※R7中学校理科は平均IRTスコアの差



○ 質問調査の状況



<クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)>



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、算数の授業で、学習上つまづいた児童に対する対応を行っていたと回答した学校の割合が全国及び全道を上回っているが、算数の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・ 中学校において、学習指導で、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「学校に行くのは楽しいと思う」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- 【好循環を創出する検証改善サイクルの充実】
- ・ 教育課程編成の力量の向上に向けた支援として、義務教育指導監による2回の経営訪問において、全ての学校に調査結果を活用した教育課程の改善について指導助言を行う。
 - ・ 異動校長、採用校長、昇任教頭への支援として、全ての管理職が年度当初から教育課程に基づいた学校経営ができるよう、集合研修と局長・次長・義務教育指導監との個別の学校経営懇談を実施する。
 - ・ 小中高の連携に向けた支援として、義務教育指導監による小中高連携協議会などを通して、地域への愛着を育むよう、系統的な取組を実施する。

【子どもを主語にした深い学びのある授業の推進】

- ・ 委員会と一体となった学習習慣の改善に向けて、支援課長と指導主事による委員会・学校に対する児童生徒質問を含む調査結果の分析についての説明と授業改善等に関わる協議を行う。
- ・ 教育課程編成の力量の向上に向けた支援として、各学校が自走できるよう、「管内の各種教育活動の推進校一覧」を作成し、義務教育指導監から各学校の課題解決に向けて適した視察校、連携すべき校長を提示し、経営力や指導力を高めあう体制を構築する。
- ・ 授業改善を進める集団づくりに向けた支援として、数学・外国語の中核教員により、授業改善に向けたポイントを先生方に発信する。

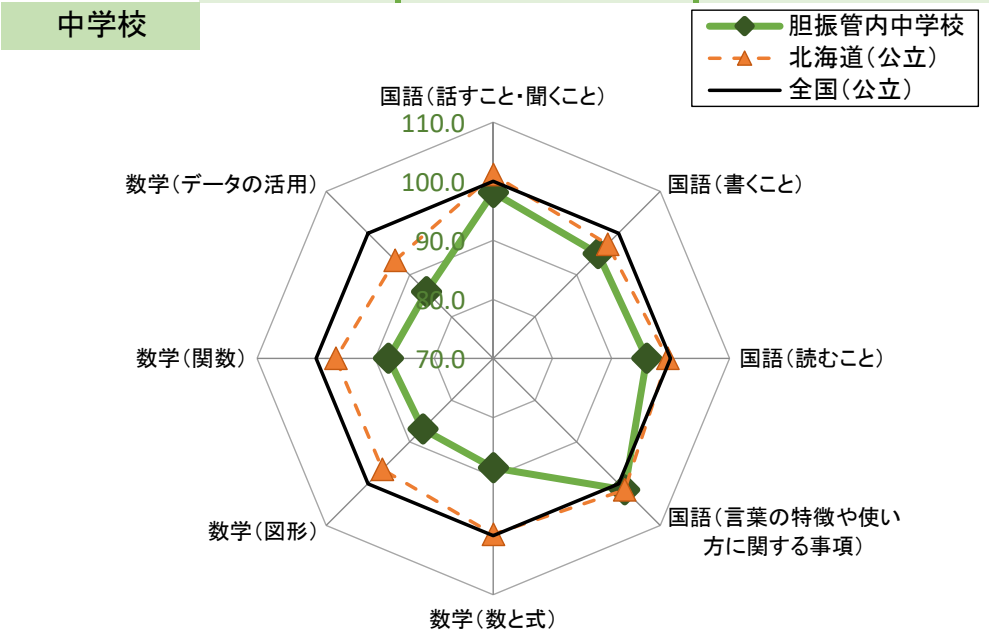
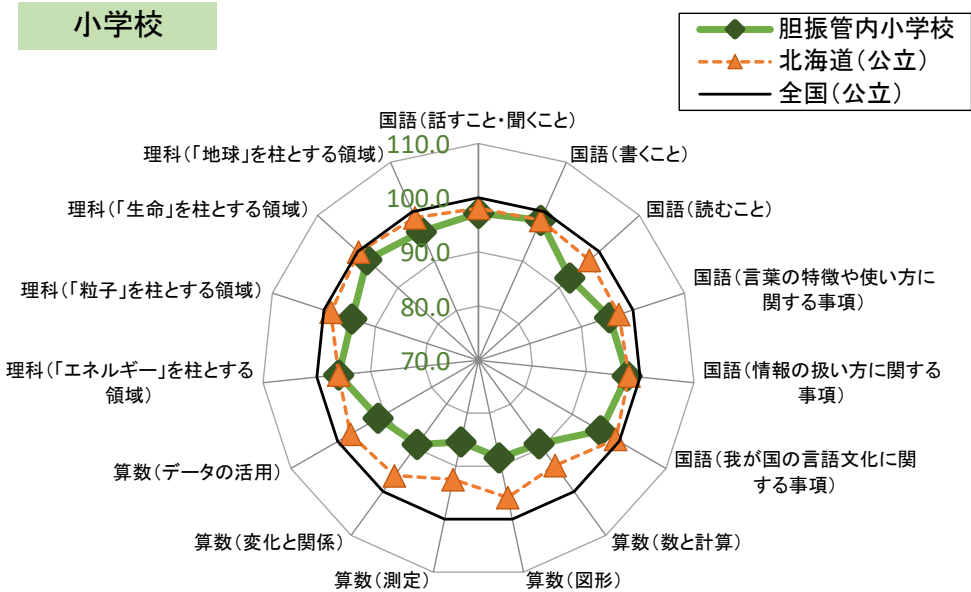
胆振管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:61校、児童数:2483人 中学校数:42校、生徒数:2409人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。



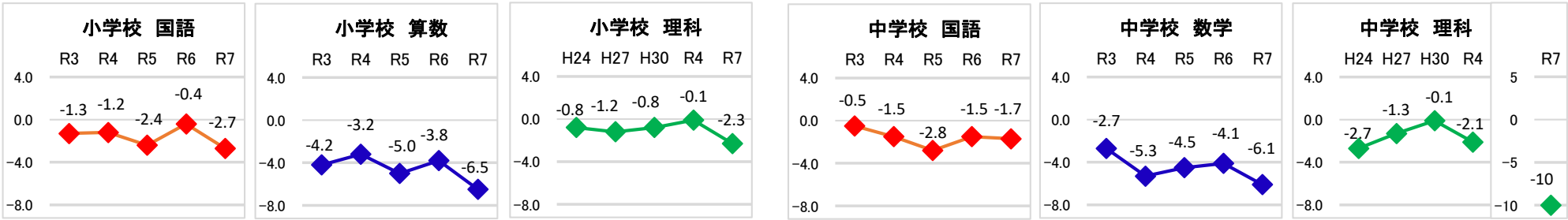
【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
胆振管内	64.1	51.5	54.8	52.6	42.2	493
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

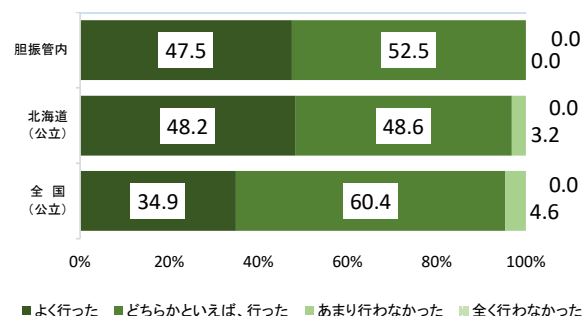


○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

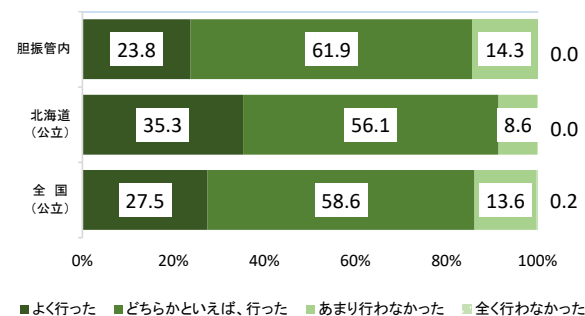
学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか



中学校

<学校質問>

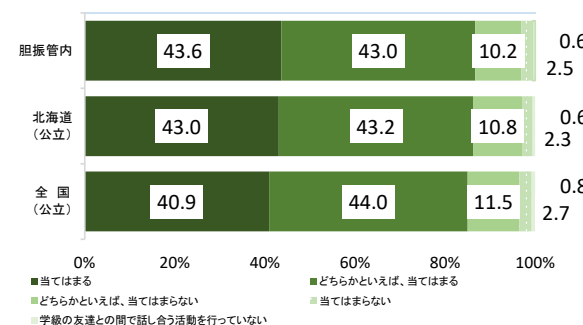
授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



小学校

<児童質問>

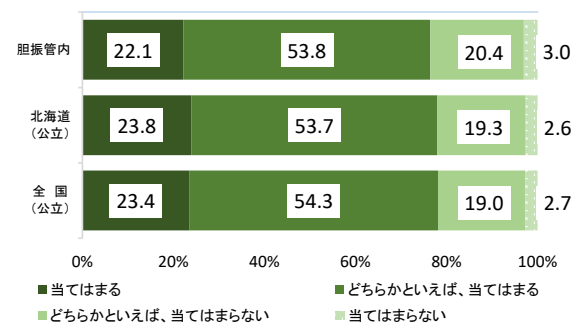
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか



中学校

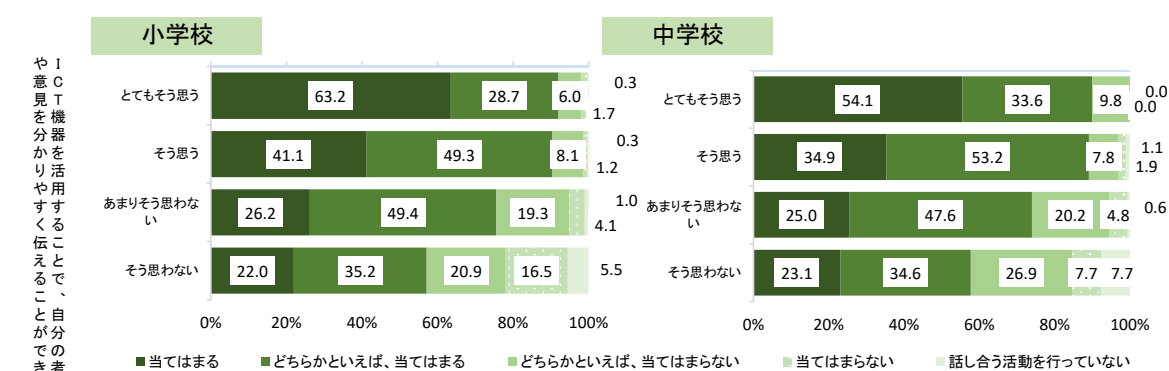
<生徒質問>

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



<クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)>

学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができます



○ 調査結果の分析

- 小学校において、児童がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- 中学校において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っている状況は、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたと回答した学校の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- 小学校及び中学校において、「ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- 胆振教育局コミュニティ「たんコミ」による、日常の授業づくり等に関する教員のニーズに応じた個別支援を行う。
- 校種を超えた教員間のICTの効果的な活用に係る協議を位置付けたICT活用胆振管内協議会を開催する。
- 学力調査官の講話を位置付けた胆振管内授業改善研修会(国語科、算数・数学科)を開催する。
- 組織的な授業改善や学力向上等に係る取組の実践発表を位置付けたEBE協議会を開催する。
- 学校教育指導訪問等の際に、「自立した学習者」の育成に向けた授業改善について、指導資料を基に指導助言する。

日高管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:22校、児童数:383人 中学校数:14校、生徒数:424人

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

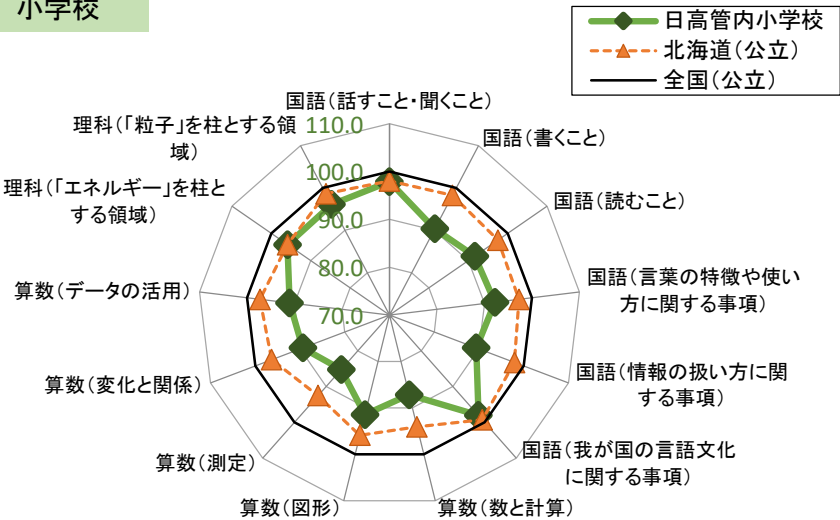
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

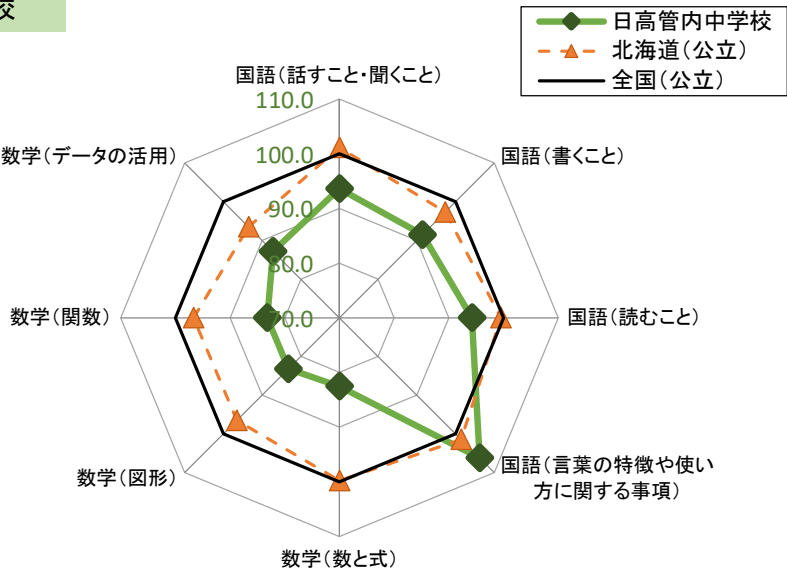
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
日高管内	62.3	51.7	55.4	51.3	40.6	486
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校

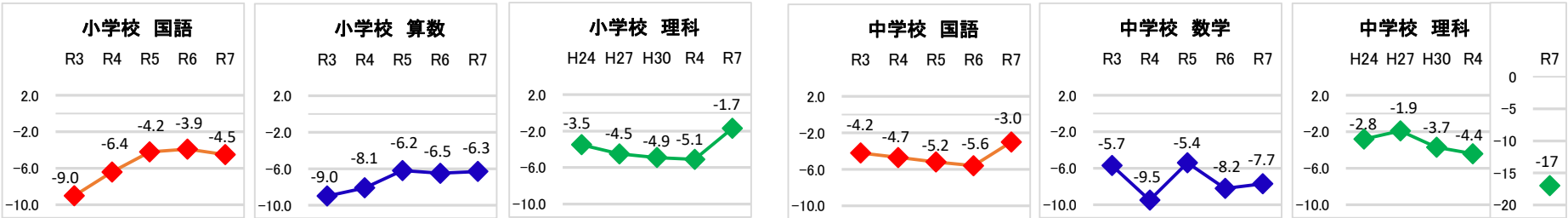


中学校

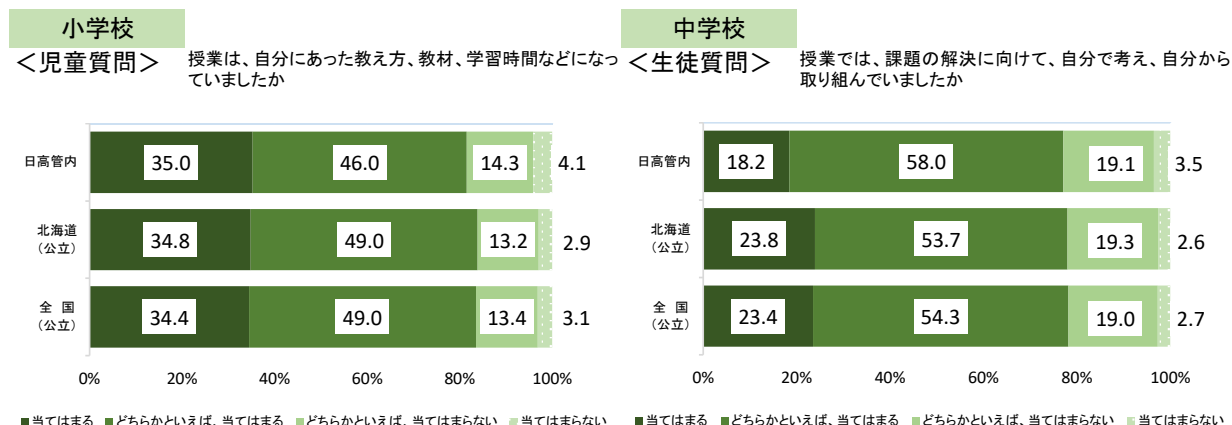
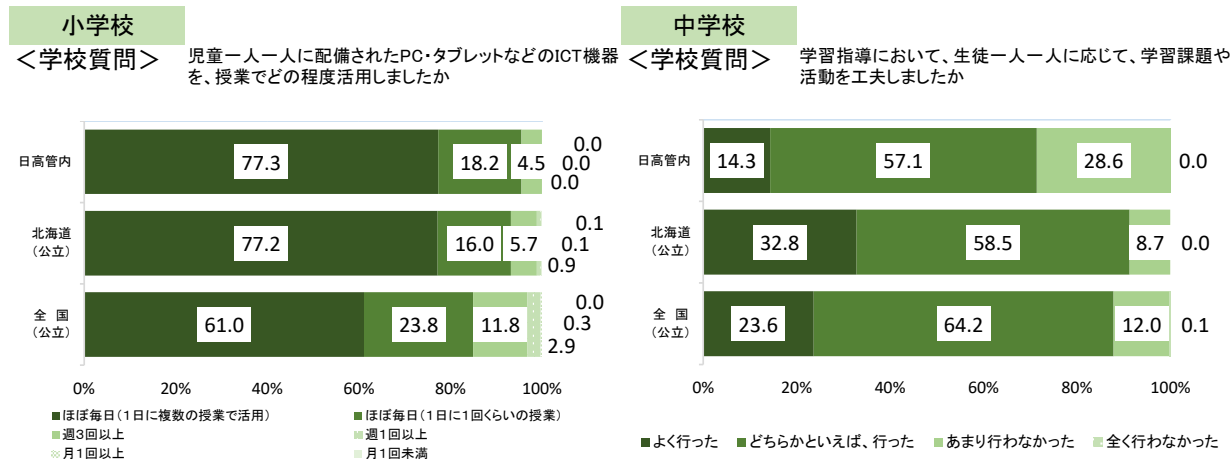


【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

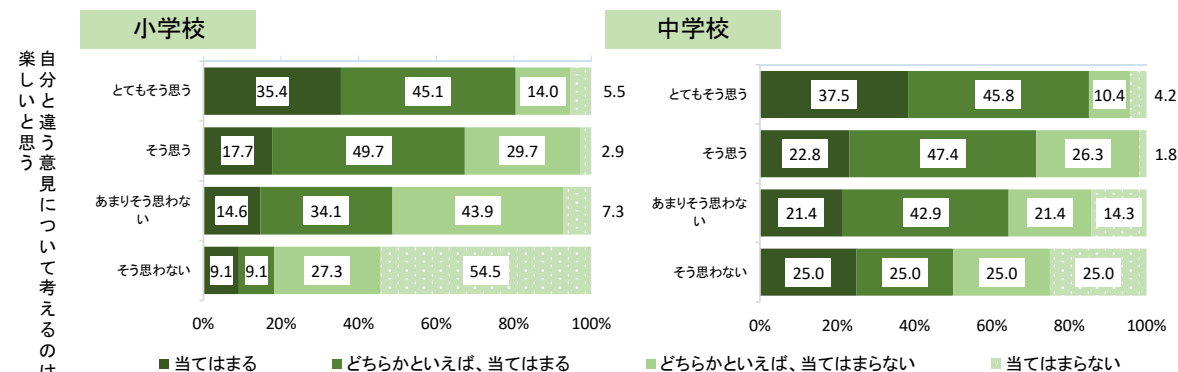


○ 質問調査の状況



＜クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)＞

ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる



○ 調査結果の分析

- ・小学校において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したことにより、「授業は自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」の質問に対して「当てはまる」と回答した児童の割合が全国及び全道と同程度となったと考えられる。
- ・中学校において、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っている状況は、学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したと回答した学校の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・小学校及び中学校において、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」の質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、「ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- ・小学校、中学校ともに、すべての教科で全国の平均正答率を下回っていることから、学校教育指導訪問や各種研修等を通して、指導と評価の一体化による授業改善について学習指導案や授業場面を用いて、具体的に指導助言する。
- ・児童生徒自身が自主的、自律的に学ぶことができるよう、ICT機器を効果的に活用した授業改善や、授業と連動した家庭学習の取組を推進する。
- ・全国との平均正答率の差が改善傾向にある教科もあることから、各学校で行われている好事例を指導資料等の作成に活用し、管内に広く普及するとともに、それらを活用した授業改善の取組を推進する。

渡島管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:75校、児童数:2166人 中学校数:40校、生徒数:2114人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

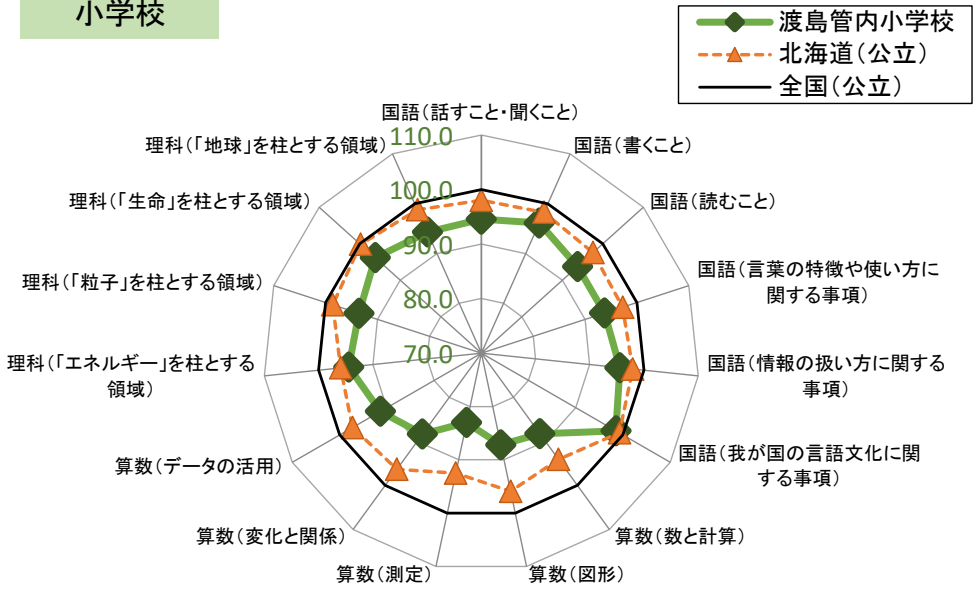
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

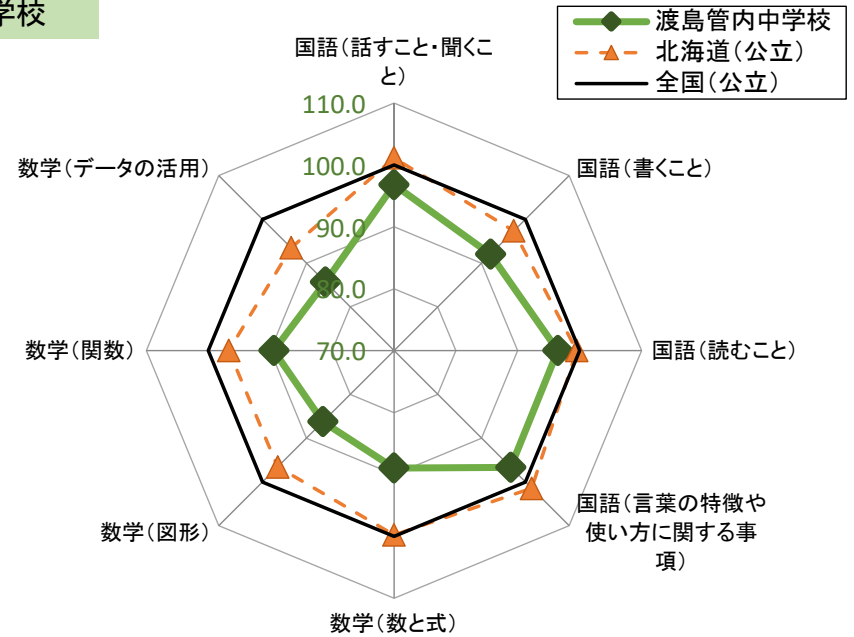
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
渡島管内	63.5	51.1	54.3	51.6	42.3	488
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校

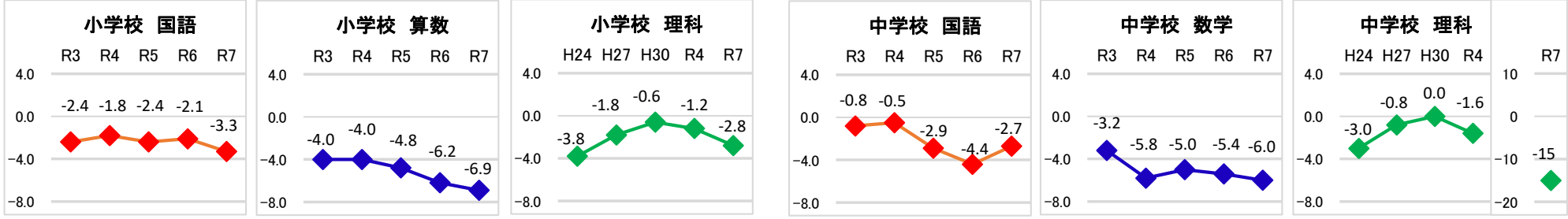


中学校

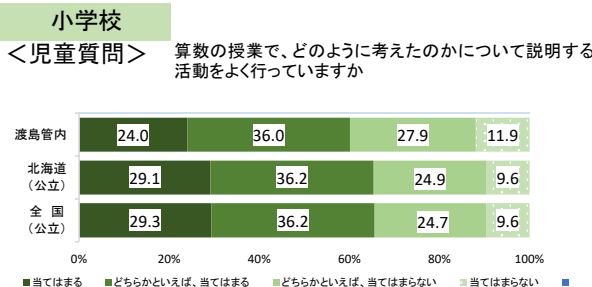
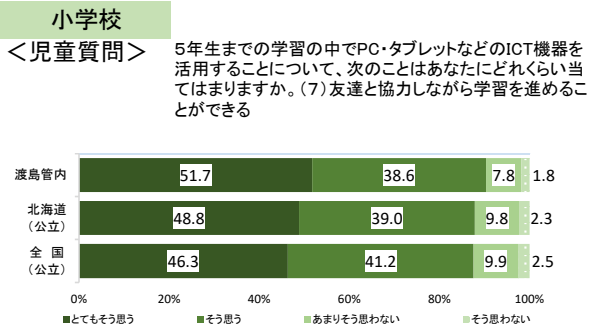
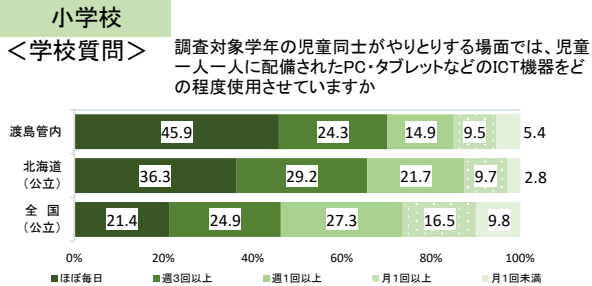


【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

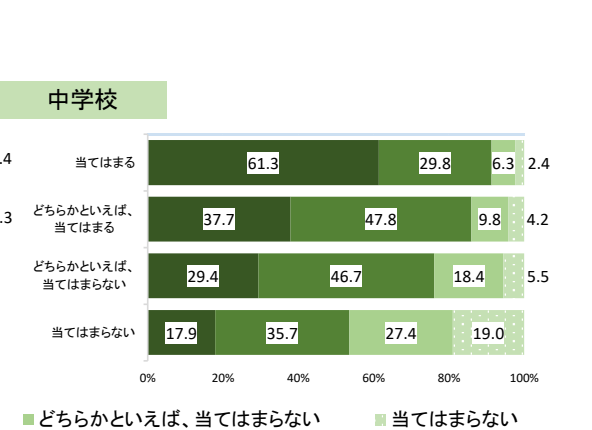
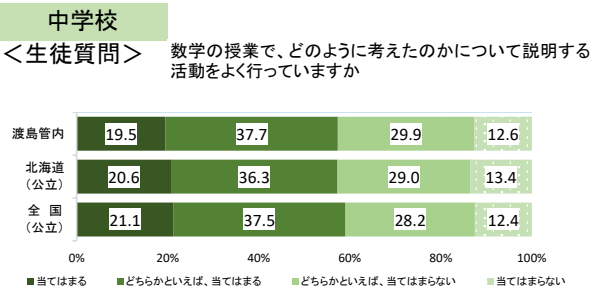
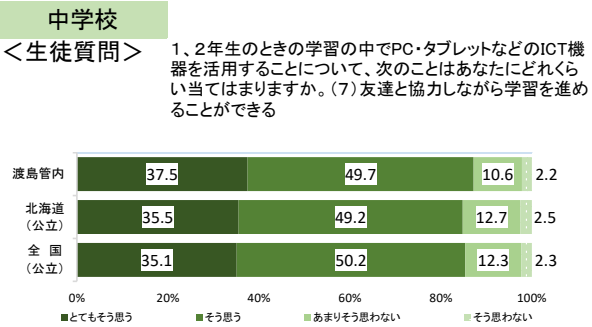
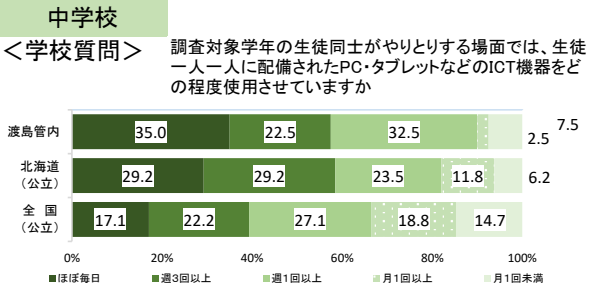
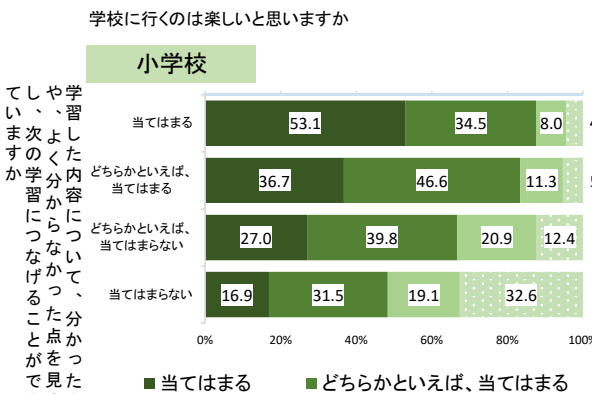
※R7中学校理科は平均IRTスコアの差



○ 質問調査の状況



＜クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)＞



- 調査結果の分析
- 小学校及び中学校において、児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させたことにより、「友達と協力しながら学習を進めることができる」と回答した児童生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
 - 小学校及び中学校において、算数及び数学の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、「どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」と回答した児童生徒の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
 - 小学校及び中学校において、学習した内容について、「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」と回答した児童生徒ほど、「学校に行くのが楽しいと思う」と回答する傾向が見られた。
- 具体的な改善方策
- 学校経営指導訪問及び学校教育指導訪問において、管内教育推進の重点に係る評価「カリキュラム・マネジメントSignpost」に基づく指導助言を行う。
 - 教育局独自研修「義務教育担当指導主事並びに学校教育担当係長等研修会」において、調査結果の分析を踏まえた渡島管内の課題を共有し、課題の解決に向けた取組について協議を行う。
 - 教育局独自事業「授業改善プロジェクト」において、個々の教員の授業改善を図る「個人プロジェクト」を行うとともに、校内研修の効果的な推進等について学校の研修担当者や協議し校内研修の充実を図る「学校プロジェクト」を行い、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
 - 教育局独自の取組として、「渡島学びの共創コンソーシアム」を構築し、コンソーシアムを中核とし、学力向上について、渡島管内全ての教員が自分事として捉え、授業改善に取り組む仕組みを構築する。
 - 学校教育指導訪問等において、見通しと振り返りを位置付けた授業づくりや、児童生徒一人一人の学び方を保証し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながることにについて指導助言を行う。
 - 学校教育指導訪問等において、小学校及び中学校が連携し学びの連続性を踏まえた教育課程を編成することにより、教科指導等での取組がより充実することについて指導助言を行う。

檜山管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:15校、児童数:167人 中学校数:10校、生徒数:179人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

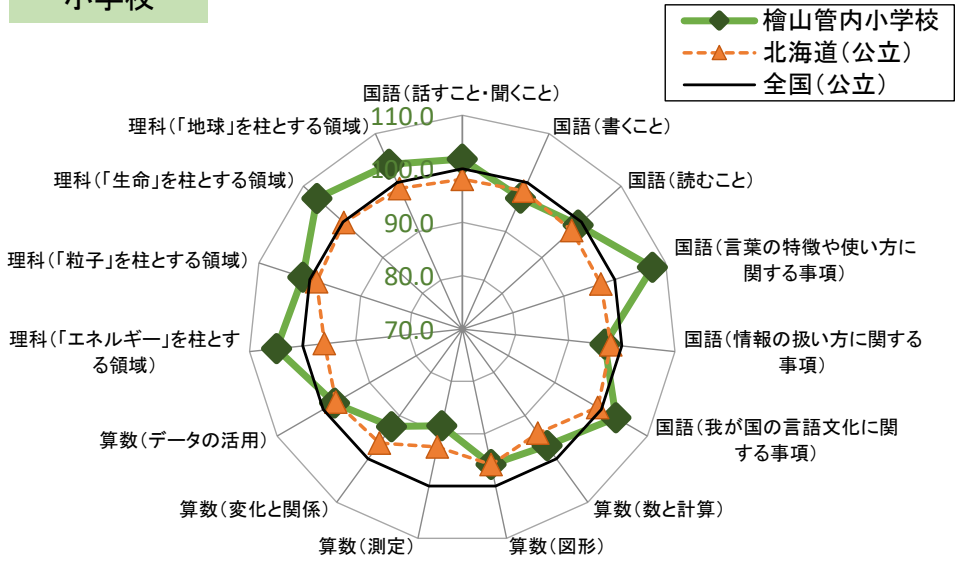
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

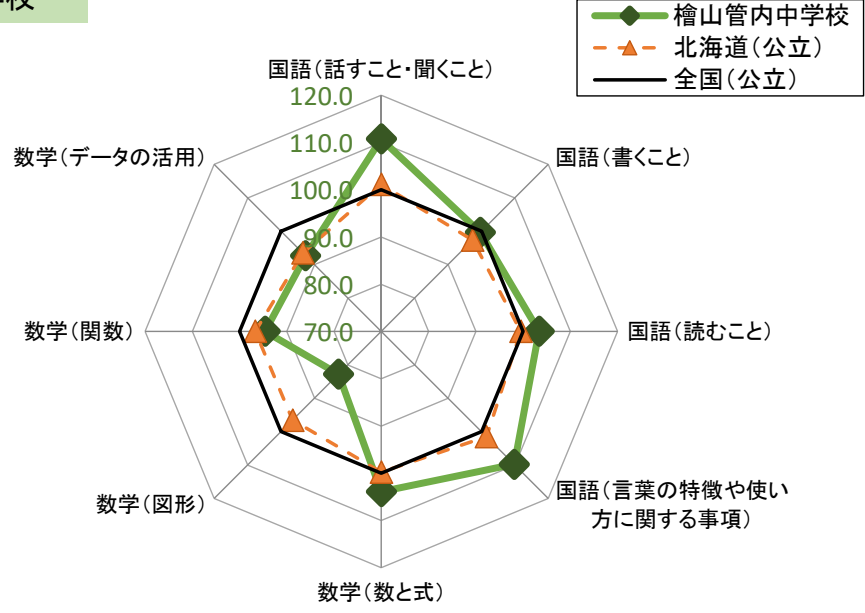
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
檜山管内	67.3	56.0	59.4	57.0	45.3	495
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校

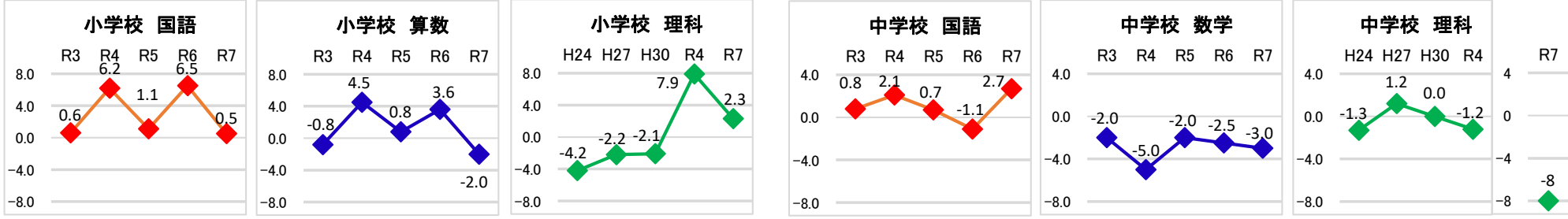


中学校

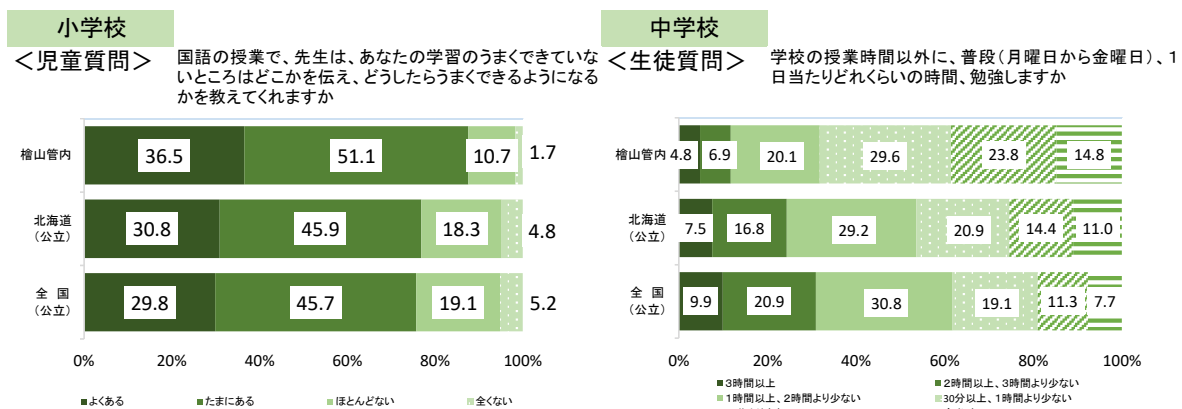
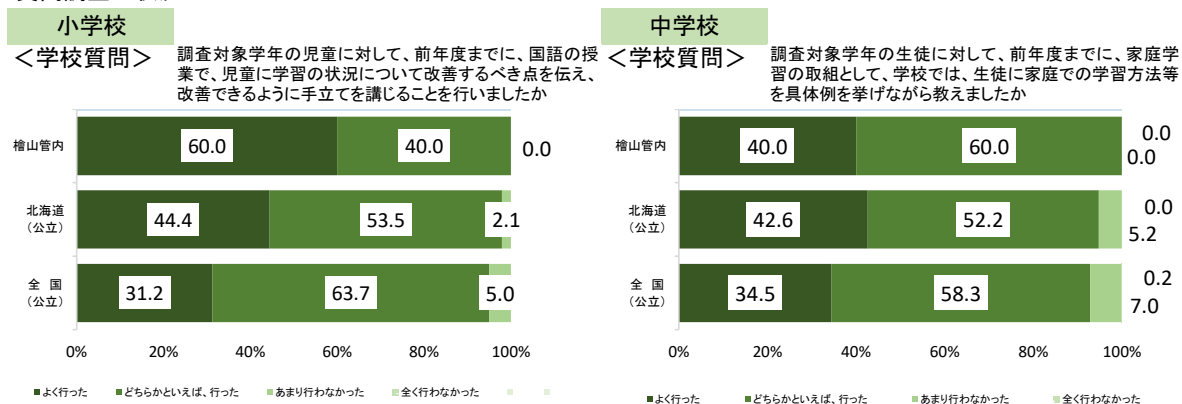


【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

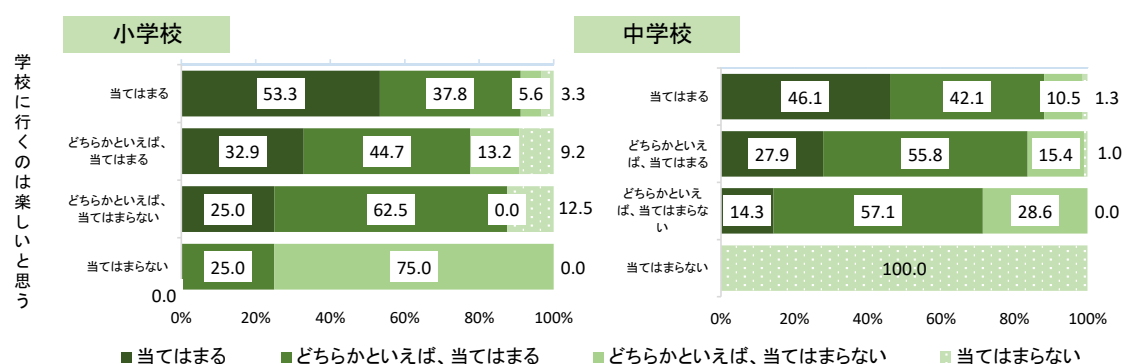


○ 質問調査の状況



＜クロス集計（児童生徒質問×児童生徒質問）＞

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、国語の授業で、児童に学習の状況について改善するべき点を伝え、改善できるように手立てを講じたことにより、「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 中学校において、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強している。」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っている状況は、「家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながらよく教えた」と回答した学校の割合が全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「学校に行くのは楽しいと思う」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

【学力向上に関する指導・助言の質の向上】

- ・ 学校経営指導訪問及び学校教育指導訪問における指導の観点や助言の方向性を運動させることなどにより、児童生徒が身に付けた「思考力・判断力・表現力等」を発揮する学習活動の充実を支援する。

【エビデンスに基づいた検証改善】

- ・ EBE協議会や町教委訪問、教育長会議等を活用し、より一層の学校種間連携・接続を図りながら、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習指導の充実と学習状況の改善を図る。

【ICTの活用などによる学習習慣・生活習慣の確立】

- ・ 望ましい学習習慣・生活習慣の確立を目指し、EBE協議会や町教委訪問等において好事例を共有するなど、授業と家庭学習の往還による効果的な取組の推進を図る。

【オール檜山「学び合い」プロジェクトの取組の推進】

- ・ 算数・数学、外国語の系統的な指導やICTの効果的な活用について、管内や他地域の好事例や授業モデルを共有するとともに、地域課題の解決に係る協議を通して、管内課題の解決に向けて取組を推進する。

上川管内の状況及び今後の改善方策

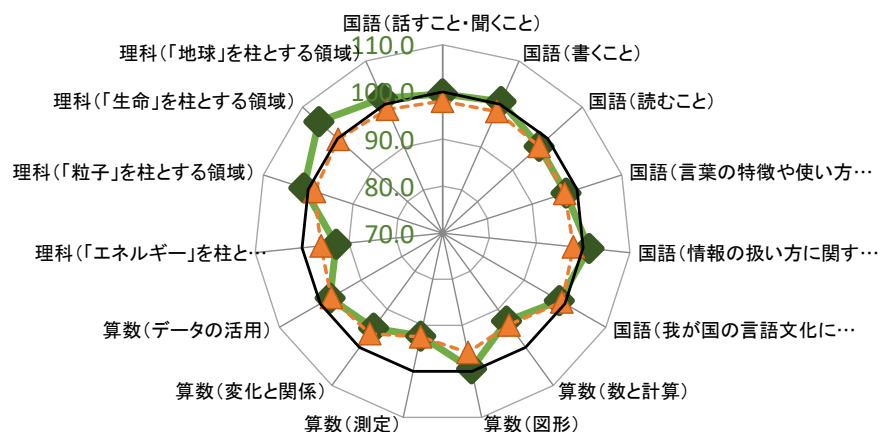
小学校数:103校、児童数:3092人 中学校数:59校、生徒数:3012人

○ 教科に関する調査の状況

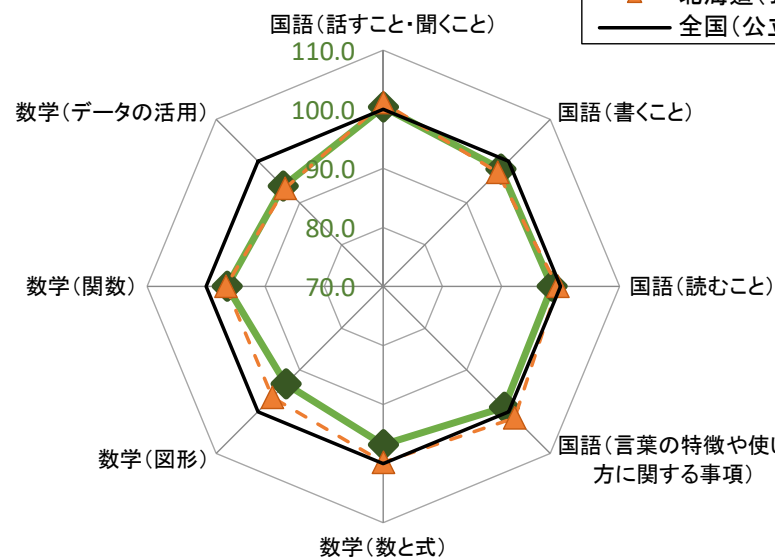
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

小学校



中学校

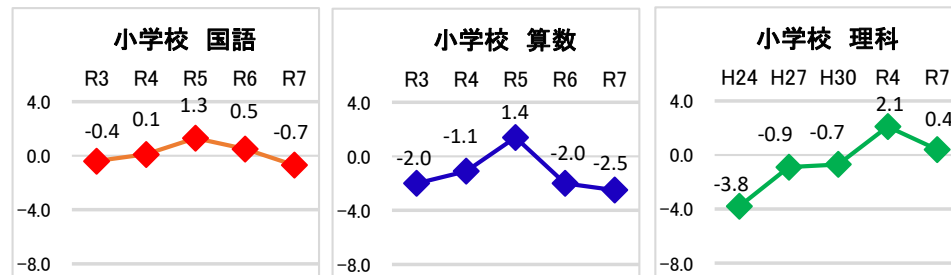


【平均正答率・平均IRTスコア】

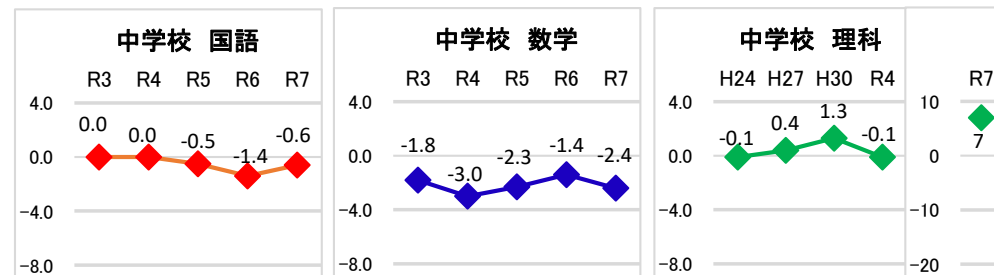
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
上川管内	66.1	55.5	57.5	53.7	45.9	510
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

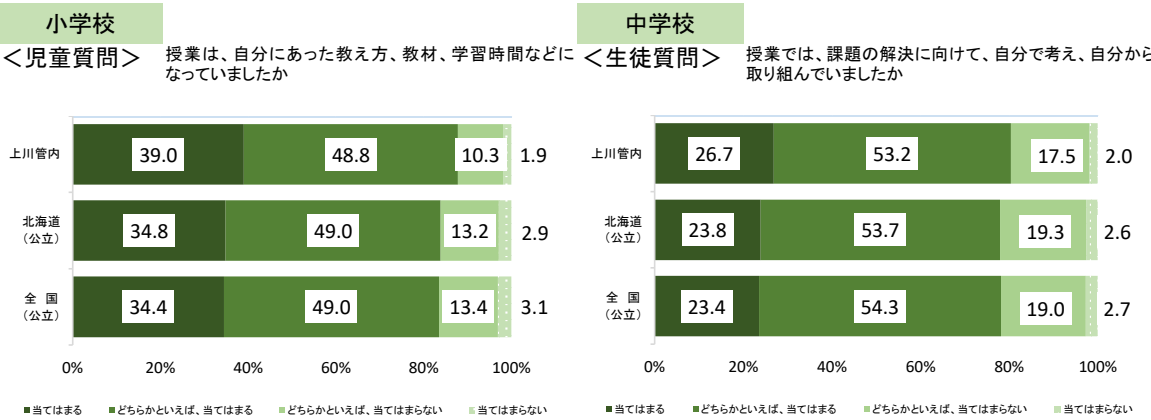
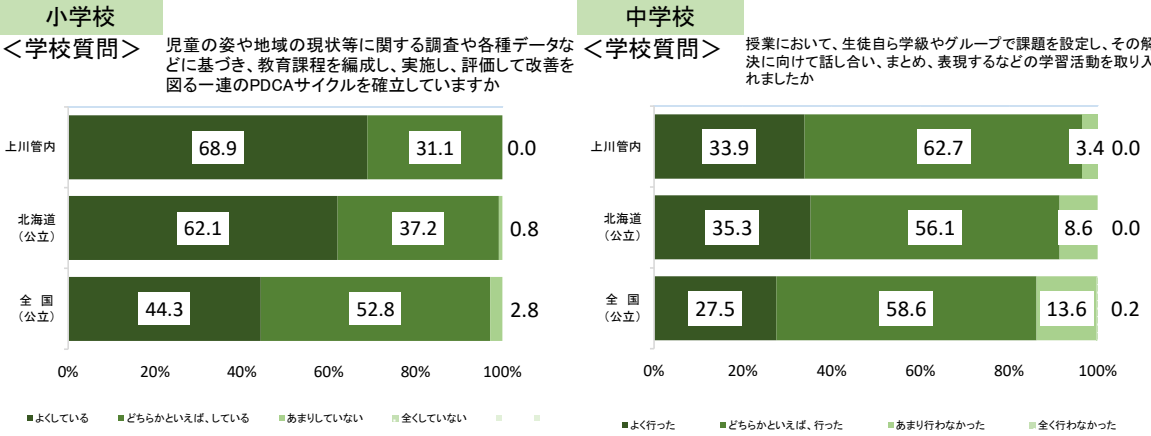
【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】



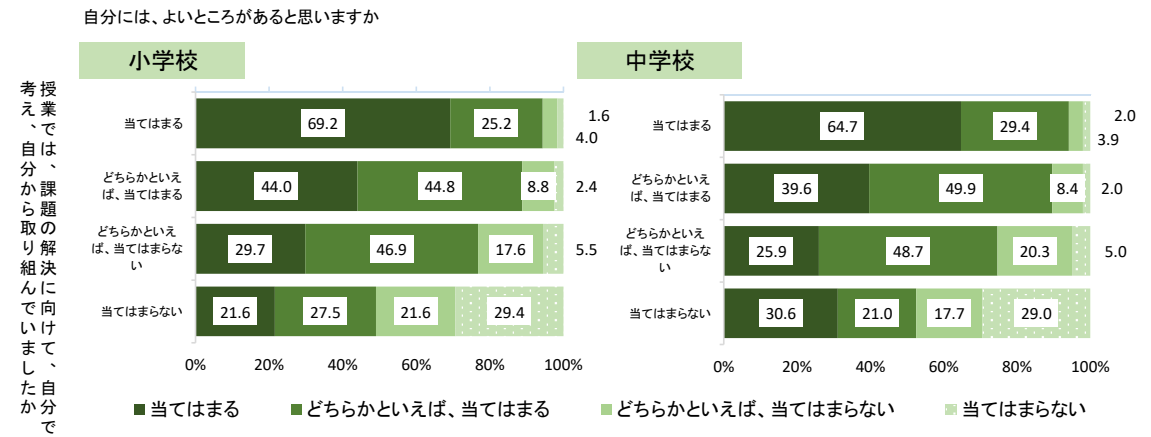
※R7中学校理科は平均IRTスコアの差



○ 質問調査の状況



<クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)>



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立し、授業改善が図られたことにより、「自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 中学校において、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動をよく取り入れたと回答した学校の割合が全国を上回っているが、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいない」と回答した生徒の割合が約2割であることから、学校の取組が全ての生徒の主体的な学びの実現につながっていないと考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「自分にはよいところがある」と回答している傾向が見られたことから、児童生徒の主体的な学びと自己有用感に一定の相関があると考えられる。

○ 具体的な改善方策

【教育課程の検証改善サイクルの充実】

- ◆ EBE協議会と授業改革担当者協議会の連動
 - ・ 年3回のEBE協議会と授業改革担当者協議会を連動させて実施することにより、教育課程の検証改善サイクルと授業改善が一体的に図られるように各校の取組を推進する。
- ◆ 子どもの主観的評価を指標とした取組評価の実施
 - ・ 児童生徒の主体的な学びに係る児童生徒アンケートを全ての小・中学校及び義務教育学校の全学年で年複数回実施することにより、児童生徒の姿の変容を成果指標とした検証・改善を図る。

【主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】

- ◆ 授業改革担当者協議会の実施
 - ・ 管内全ての校内研修担当者を対象とした授業改革担当者協議会を実施することで、校内研修を中心とした学校全体の授業改善を推進する。
- ◆ 教育局ポータルサイト「上川IPPO」の管理・運用
 - ・ 教育局独自のポータルサイトを運用し、管内課題や教員のニーズに応じた授業改善の好事例を発信するとともに、各種研修や指導主事による学校訪問等の機会にポータルサイト内の実践例を活用した演習・指導助言を行うなど、ポータルサイトの活用促進を図る。

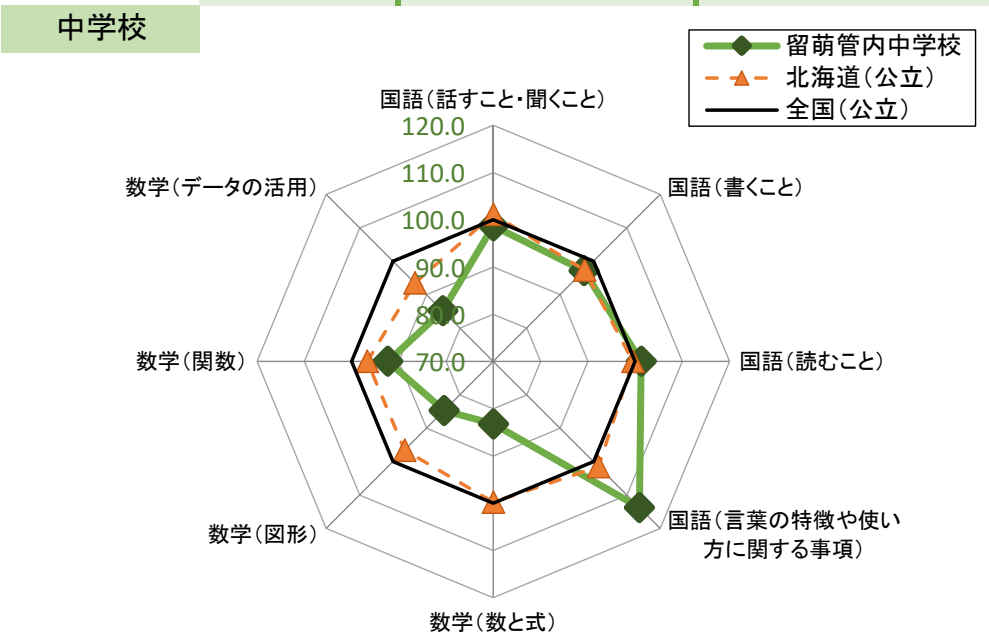
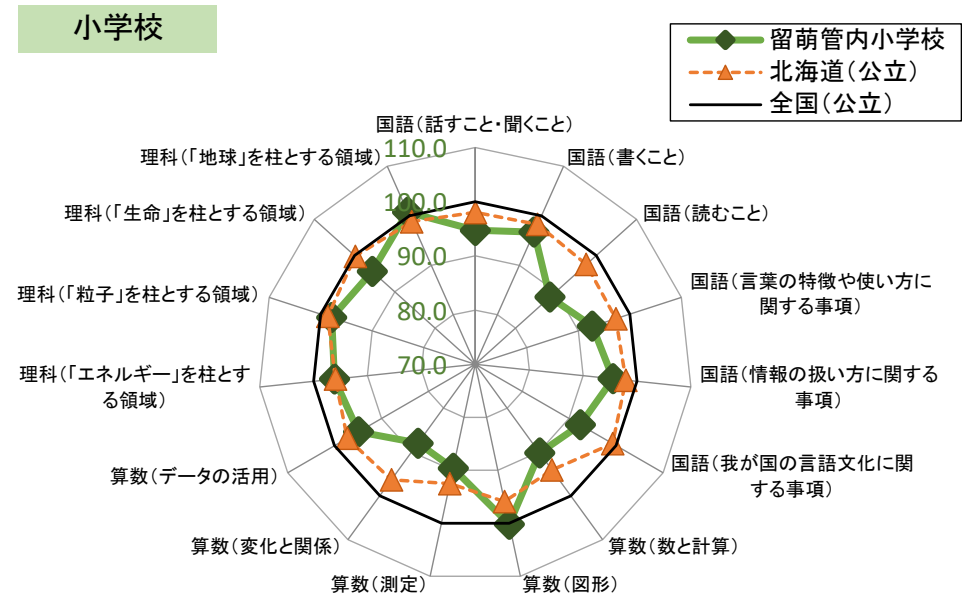
留萌管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:16校、児童数:232人 中学校数:11校、生徒数:244人

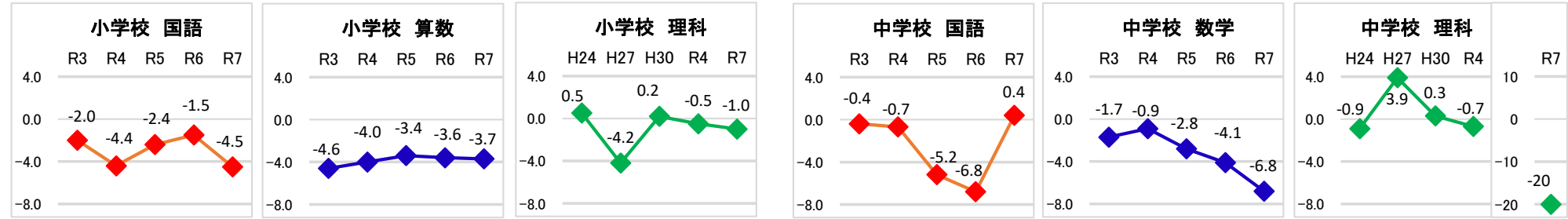
○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

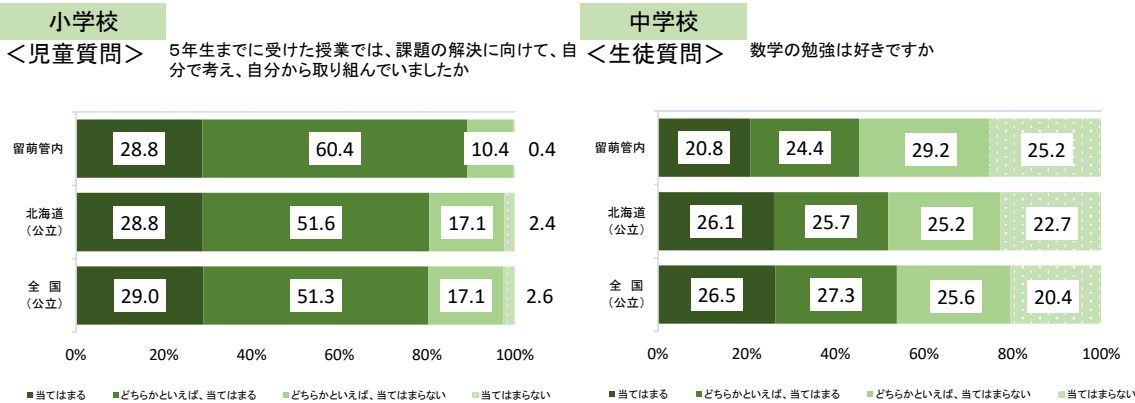
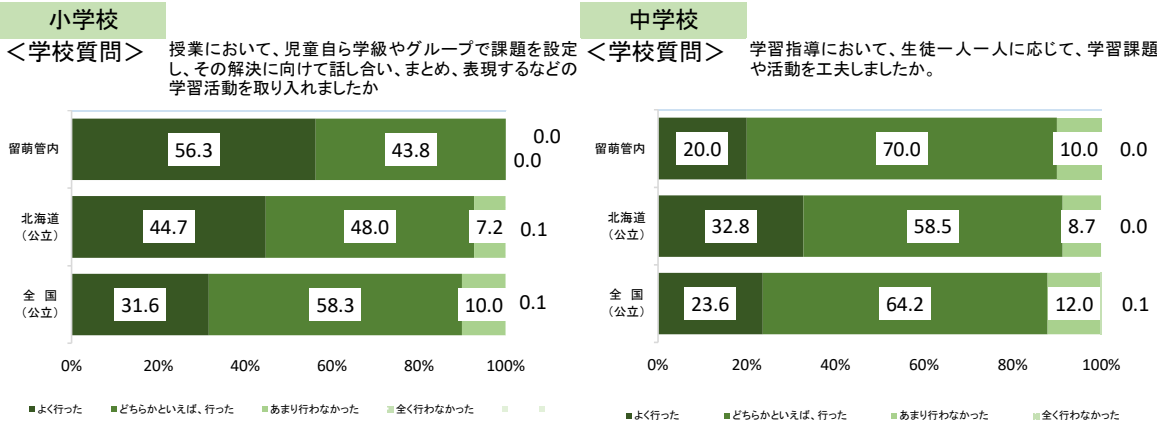
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。



【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

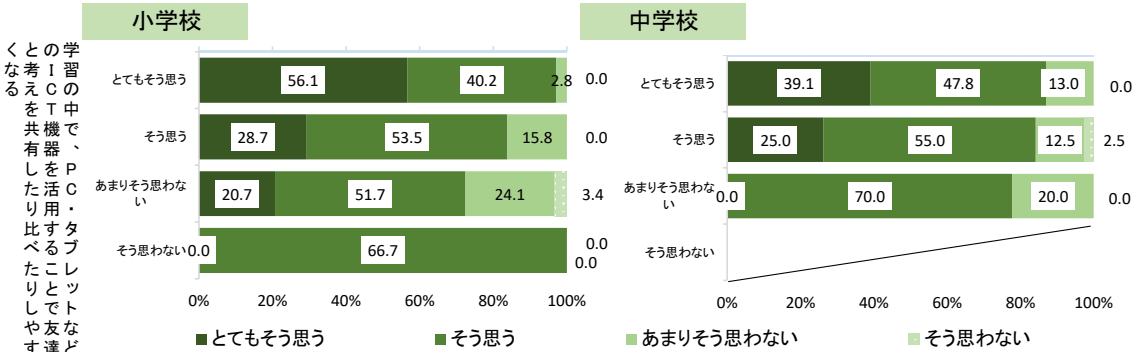


○ 質問調査の状況



＜クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)＞

学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 中学校において、「数学の勉強は好き」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っている状況は、「学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動をよく工夫した」と回答した学校の割合が、全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「学級の友達(生徒)との間で自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- ・ 小学校及び中学校において、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか(小中30)と回答した学校の割合が全国を上回っているが、中学校国語を除く小中学校の各教科の平均正答率は全国及び全道を下回っていることから、今後も継続して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改革及び授業改善に向けて、条件の意図的な設定、個別指導の手立ての準備など、言語活動の一層の充実に向けた検証改善について指導助言を行う。
- ・ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりの勉強する時間(小中17)において、1時間以上勉強していると回答した児童生徒の割合が全国及び全道を下回っていることから、学習習慣、運動習慣、読書習慣など望ましい生活習慣の確立に向けて、学校・家庭・地域が一体となって学習習慣や環境づくりに関する協議や熟議の充実に向けた指導助言や研修会の開催及び授業と家庭学習が連動した実践について、事業等の成果を普及する。

宗谷管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:34校、児童数:367人 中学校数:21校、生徒数:353人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

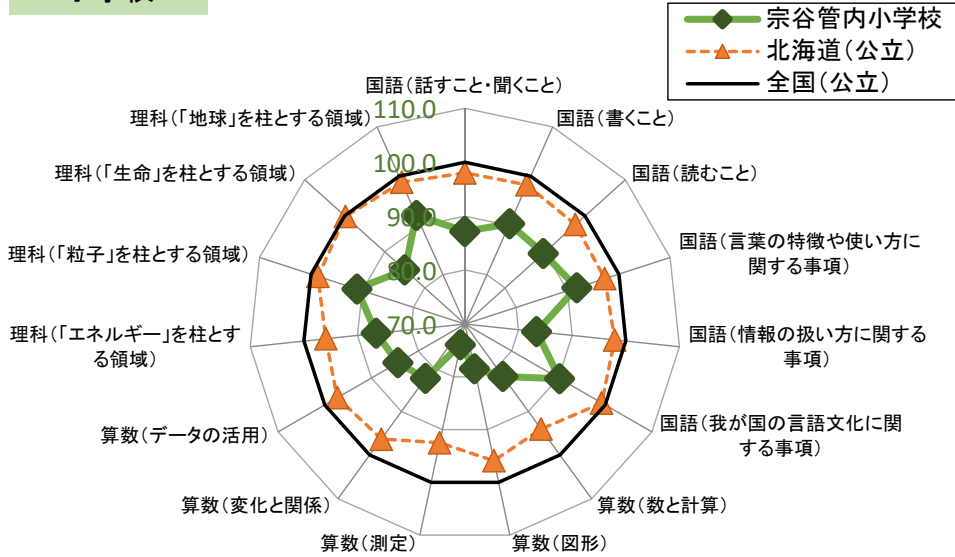
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

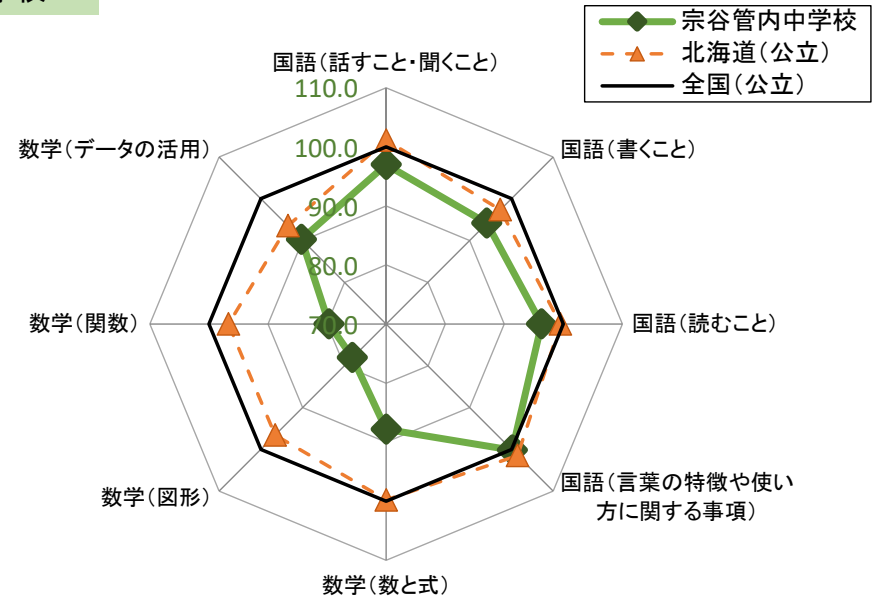
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
宗谷管内	59.6	46.7	51.1	52.2	40.7	473
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校

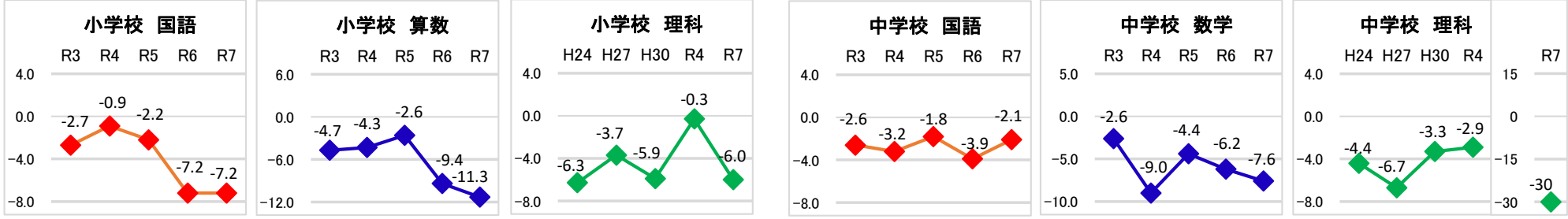


中学校

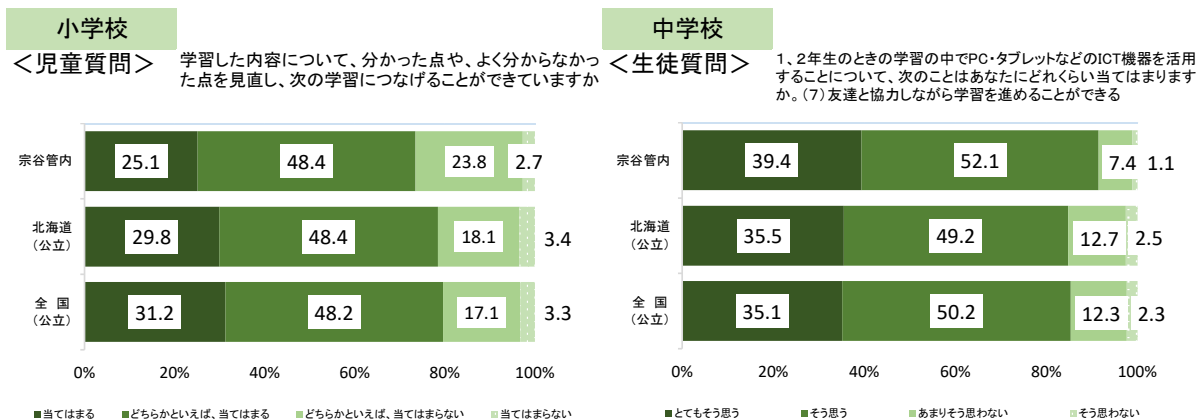
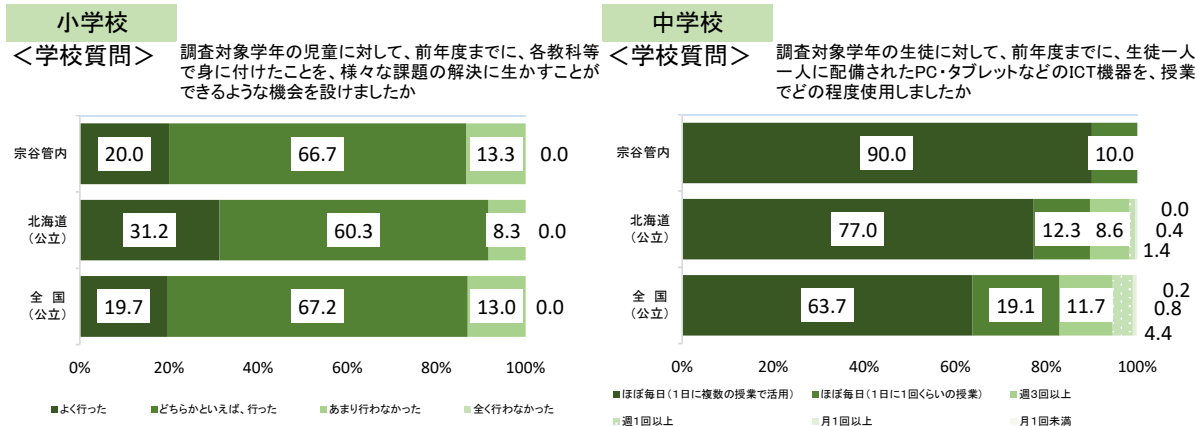


【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

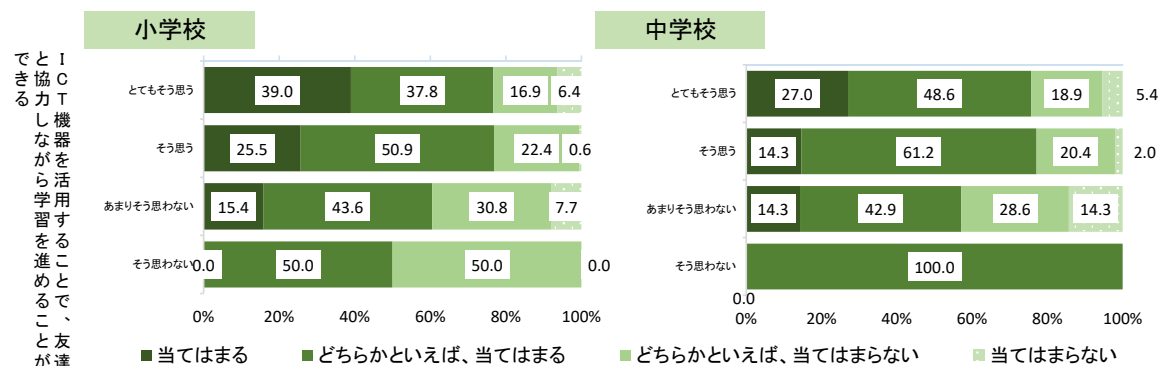


○ 質問調査の状況



＜クロス集計（児童生徒質問×児童生徒質問）＞

自分と違う意見について考えるのは楽しい



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、学習した内容について、「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童の割合が全国及び全道を下回っているのは、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたと回答した学校の割合が全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・ 中学校において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日使用したことにより、「友達と協力しながら学習を進めることができた」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、ICT機器を活用することで、「友達と協力しながら学習を進めることができる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- ・ 検証改善サイクルを踏まえた組織的、計画的な取組の推進と短期的な検証の機会を設定するため、管内学力保障会議と管内EBE協議会の関連を明確にし、教育局、市町村教育委員会、学校が一体となった取組を推進する。
- ・ 各学校が各種調査等の分析結果を授業改革に効果的に生かすことができるよう、学校教育指導訪問において検証改善サイクルシートを活用した授業改革について助言をするとともに、管内EBE協議会において、授業改善プランを作成し、授業改革の取組の具体を教育局、市町村教育委員会、学校が共有する。
- ・ 管内の授業改革推進会議を計画的に実施し、各市町村の推進教員が全国学力・学習状況調査等の結果に基づく授業改革の方策及びICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に係る授業展開について協議を行うとともに、各市町村に普及する。

オホーツク管内の状況及び今後の改善方策

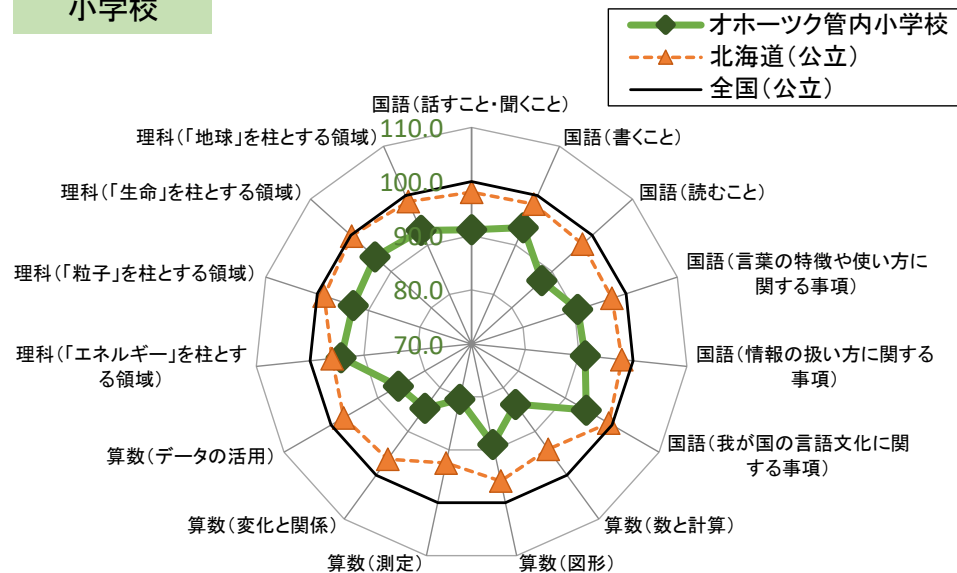
小学校数:70校、児童数:1732人 中学校数:49校、生徒数:1819人

○ 教科に関する調査の状況

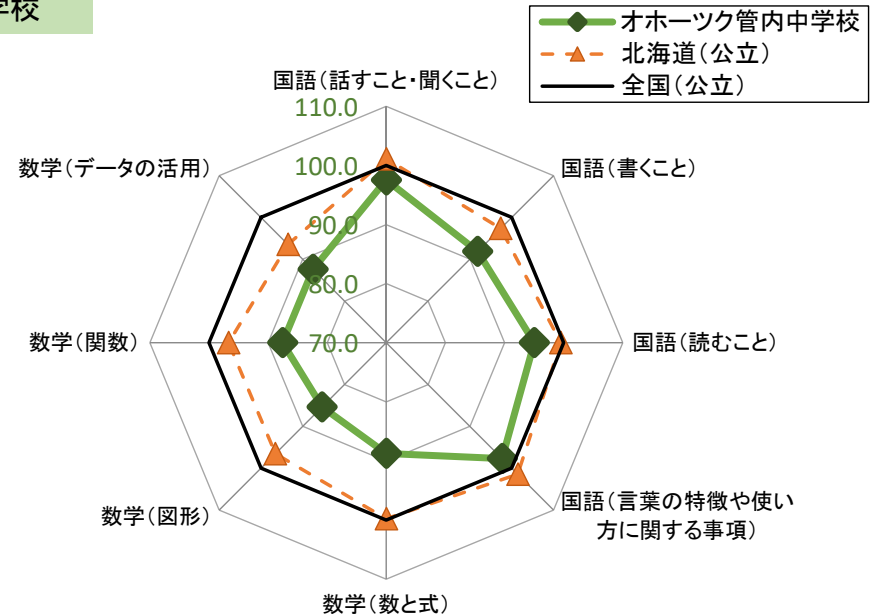
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

小学校



中学校

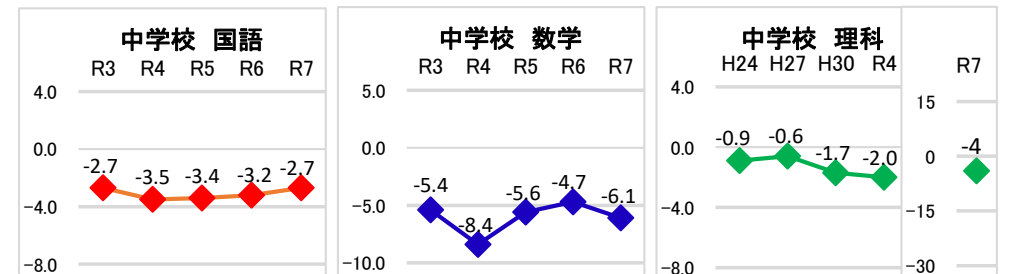
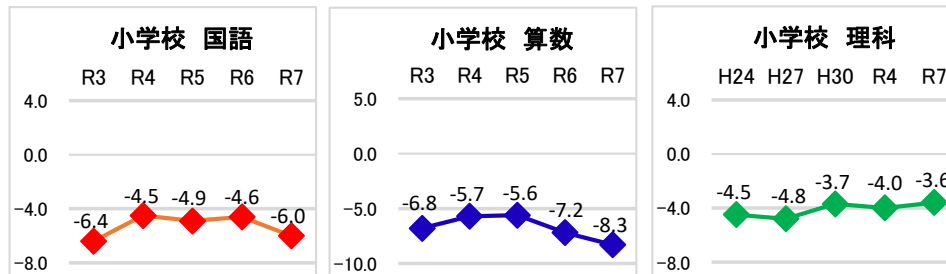


【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

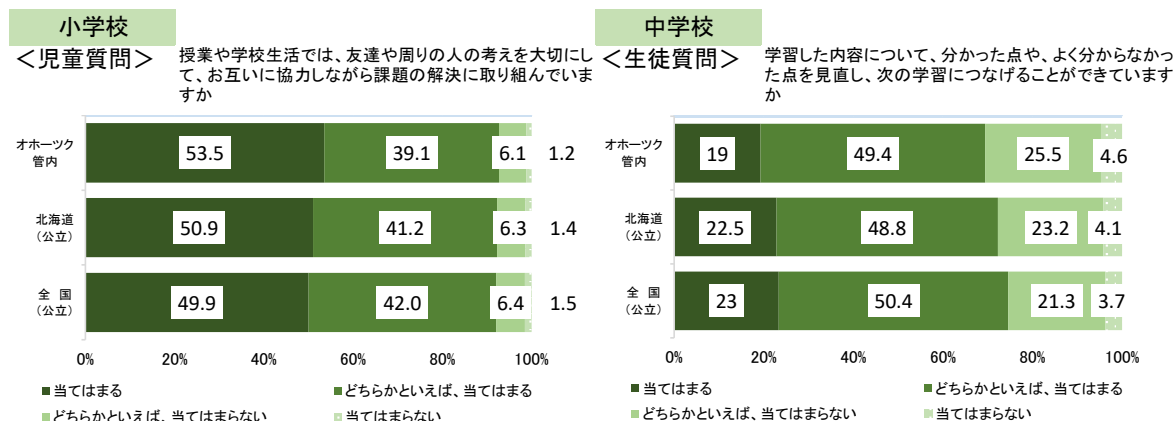
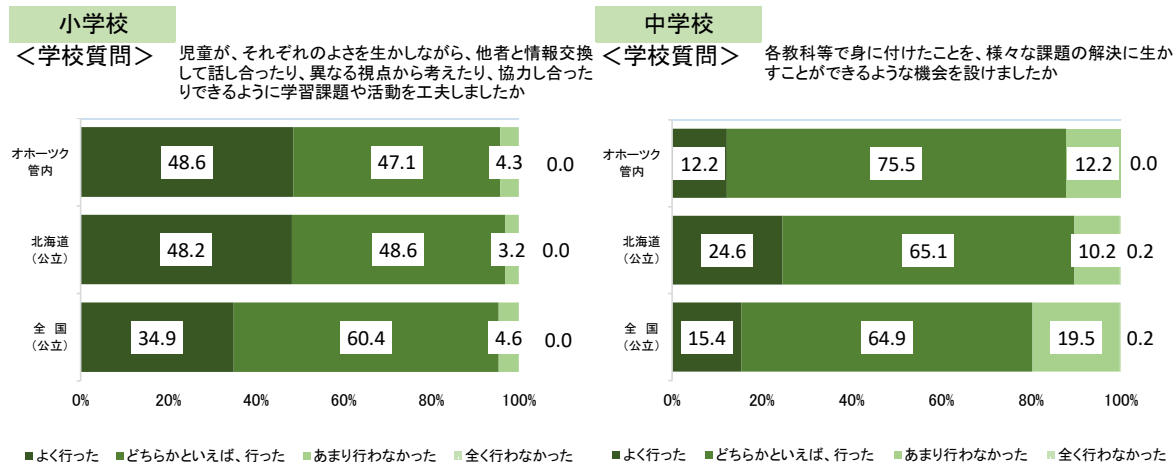
	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
オホーツク管内	60.8	49.7	53.5	51.6	42.2	499
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

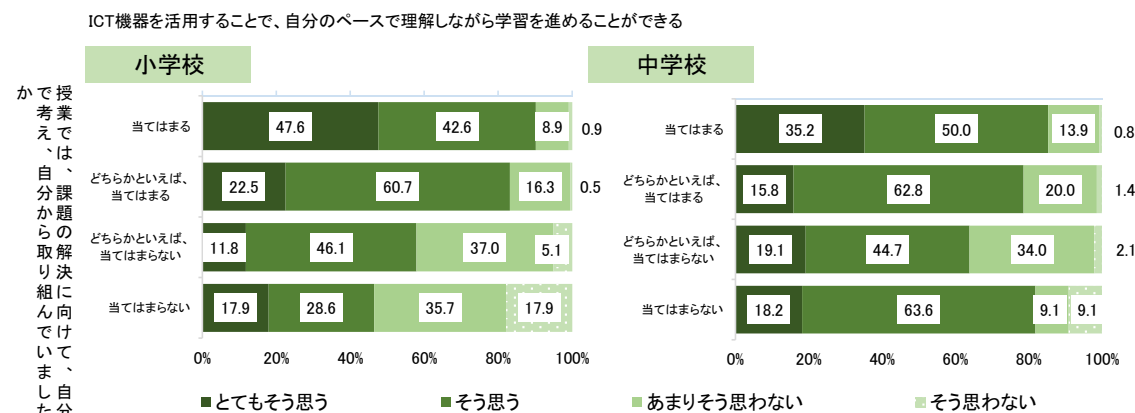


※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

○ 質問調査の状況



＜クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)＞



○ 調査結果の分析

- ・小学校において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、「友達や周りの人の考えを大切に、お互い協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・中学校において、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っている状況は、「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」と回答した学校の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・小学校及び中学校において、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

【「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けた授業改善】

- ・育成を目指す資質・能力を明確化し、指導事項を意識した単元及び本時の構成となるよう指導助言する。
- ・自分の考えを発表したり話し合ったりする活動を、自分の考えを「具体的に書く」活動に結び付けるとともに、書かれた内容を教師が適切に評価し、指導に生かすなど、「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けた授業改善について指導助言する。

【教員のICTの利活用に係る指導力の向上】

- ・児童生徒が「効果的に活用できた」と実感できる活用方法の検討など、資質・能力の育成に向けた利活用について指導助言する。
- ・教育局独自研修として、新しいかたちの学び授業力向上推進グループと連携した研修会を実施し、教員のICTの利活用に係る指導力の向上を図る。

【中学校区における授業改善や教育課程の接続等に係る取組の推進】

- ・学校教育指導における「小中連携型」の対象地域を広げ、小・中学校が一体となった授業改善に係る取組や、教育課程の接続について指導助言する。
- ・義務教育指導監による学校経営訪問、指導主事による学校教育指導において、中学校区の取組モデルの普及を図る。

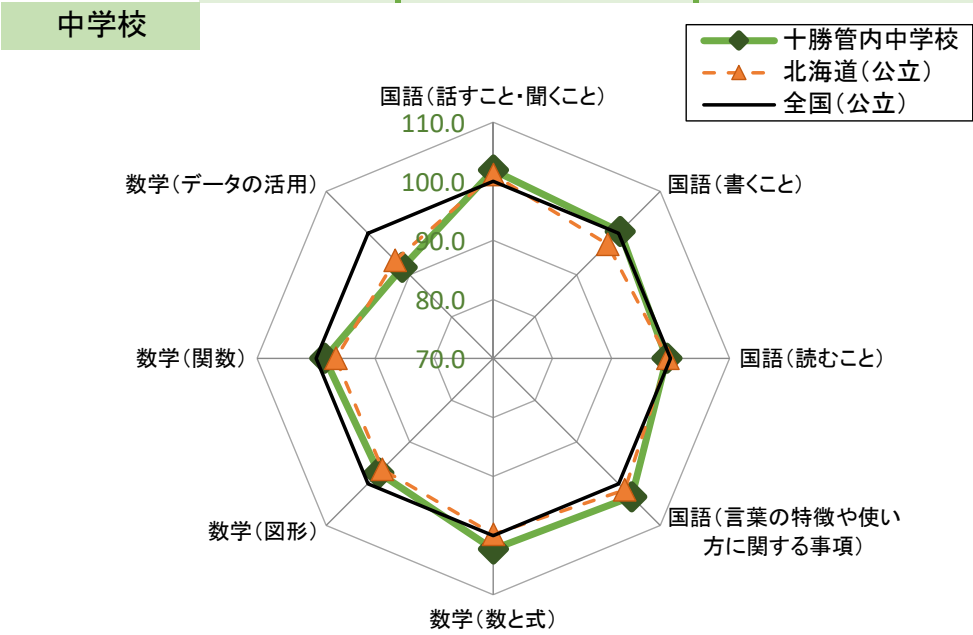
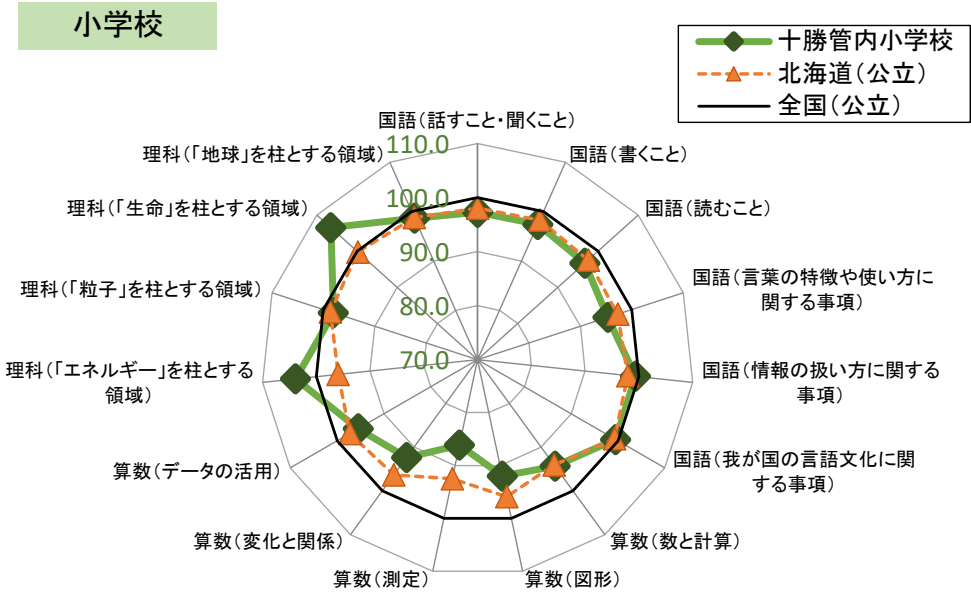
十勝管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:80校、児童数:2322人 中学校数:48校、生徒数:2349人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。



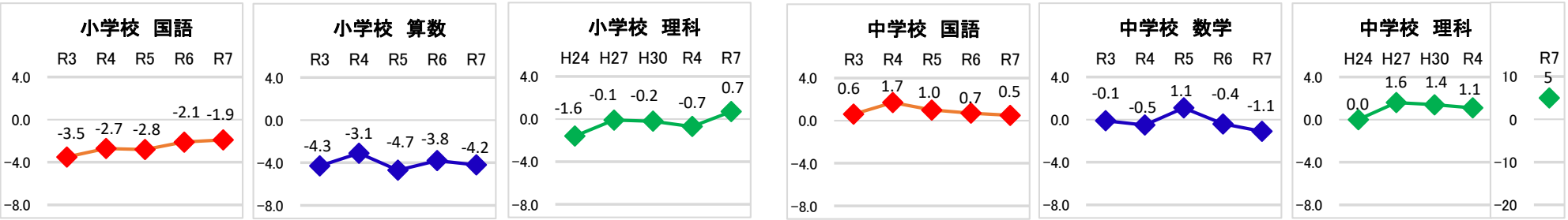
【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

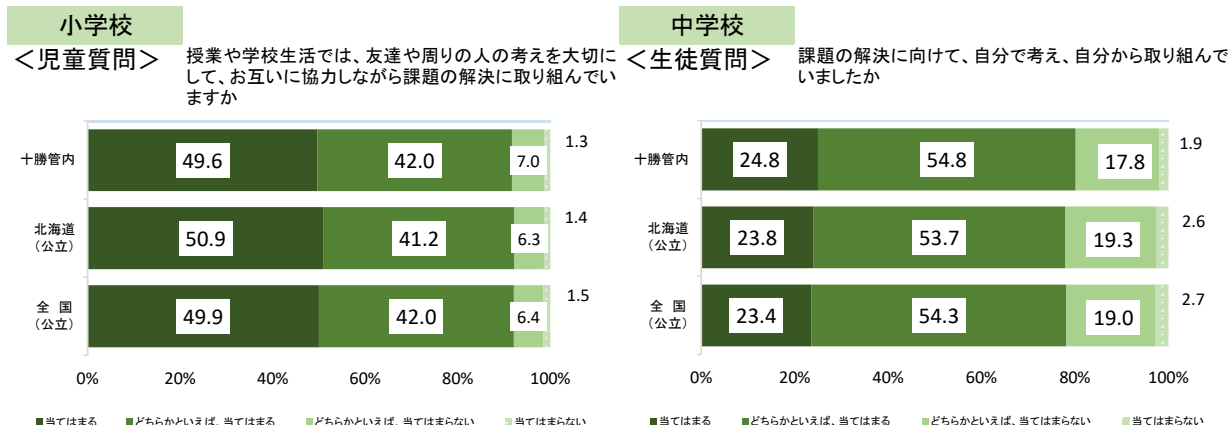
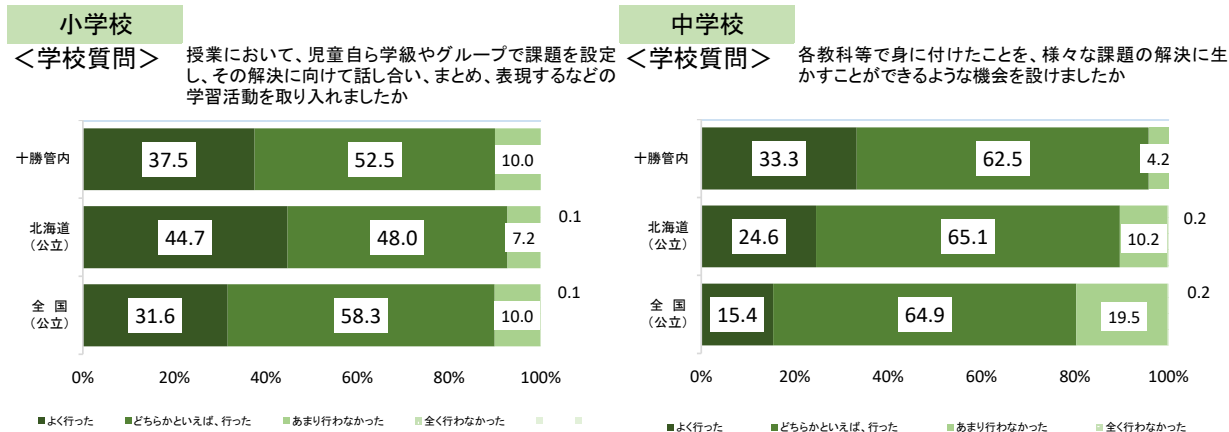
	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
十勝管内	64.9	53.8	57.8	54.8	47.2	508
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

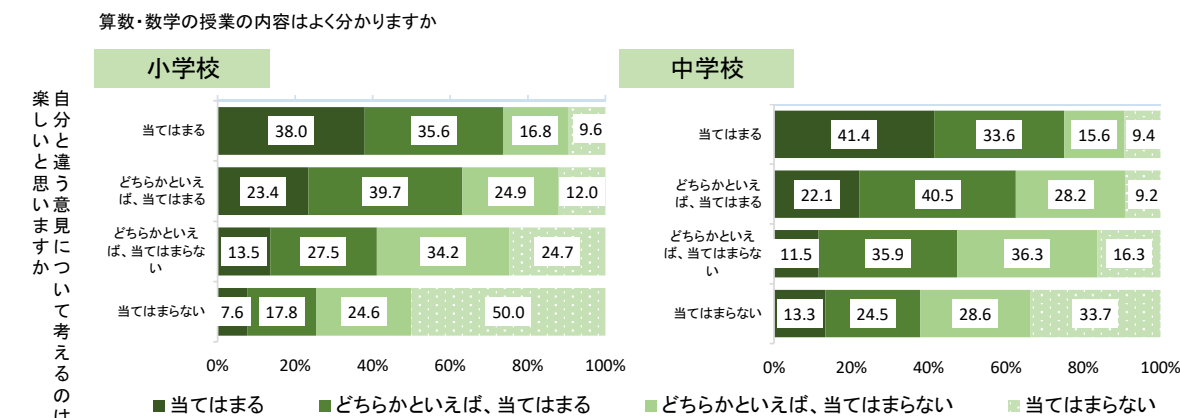
※R7中学校理科は平均IRTスコアの差



○ 質問調査の状況



＜クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)＞



○ 調査結果の分析

- 小学校において、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した児童の割合が全国及び全道を下回っている状況は、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたと回答した学校の割合が全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- 中学校において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回っている状況は、「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」と回答した学校の割合が全国及び全道を上回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- 小学校及び中学校において、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「算数・数学の授業の内容はよく分かる」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- ウェルビーイングに係る主観的認識のエビデンス把握に基づく子どもの姿を共通の視点として教育活動を検証する取組を推進するとともに、第1四分位に満たない層の児童生徒への手立てを検討・実施する。
- 他者との交流等を通して、考えをまとめ、表現する場面において、ICTを活用した授業展開の工夫として、知識及び技能等を活用し、自分の考えをまとめる活動の重要性と視点を明確にした交流場面におけるICTの効果的な活用を推進するとともに、指導と評価の一体化に向けた学習の成果を見取る評価問題の改善を図る。
- 家庭学習の目的の明確化、ICTを活用した児童生徒一人一人に応じた学習習慣の定着に向け、ICTを活用した、学習状況の視覚化等による家庭学習の自己決定の場面を設定するとともに、授業との連動を図った家庭学習の充実を図る。

釧路管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:52校、児童数:1231人 中学校数:35校、生徒数:1283人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

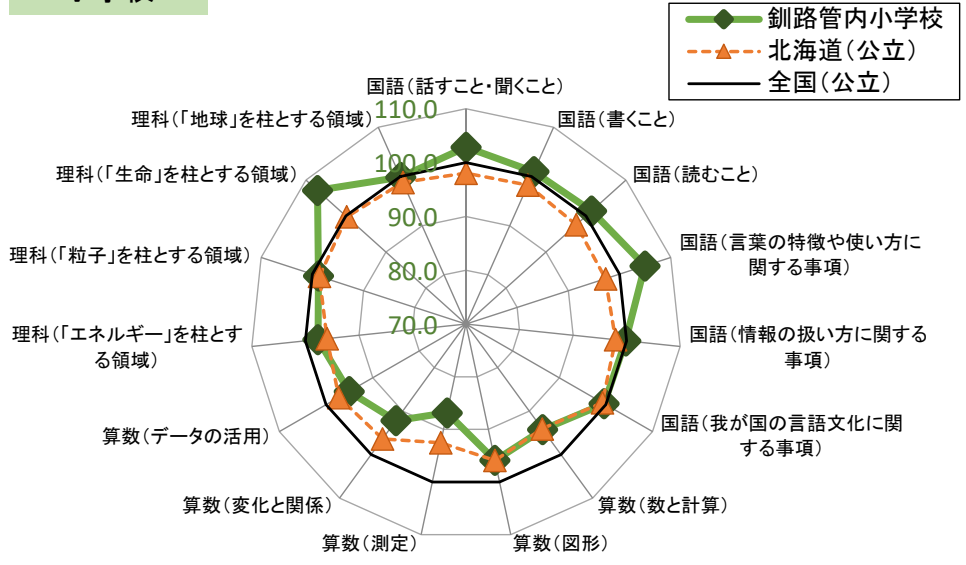
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

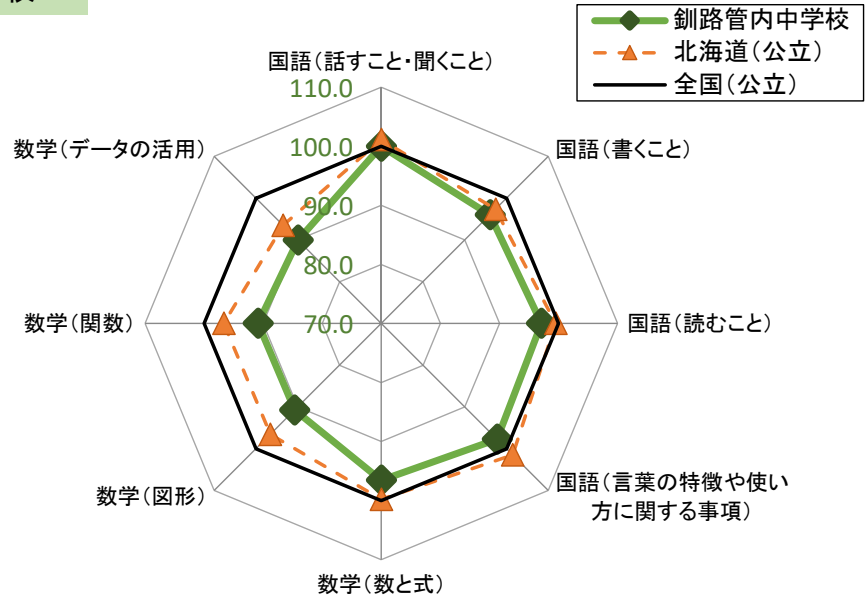
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
釧路管内	68.2	54.6	57.7	53.0	44.5	494
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校

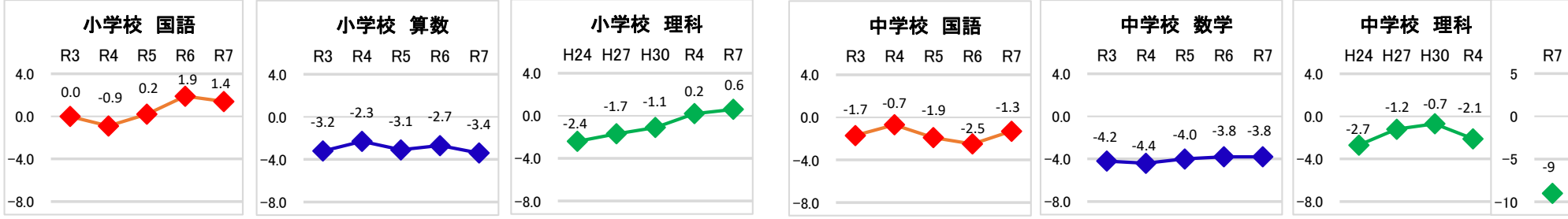


中学校

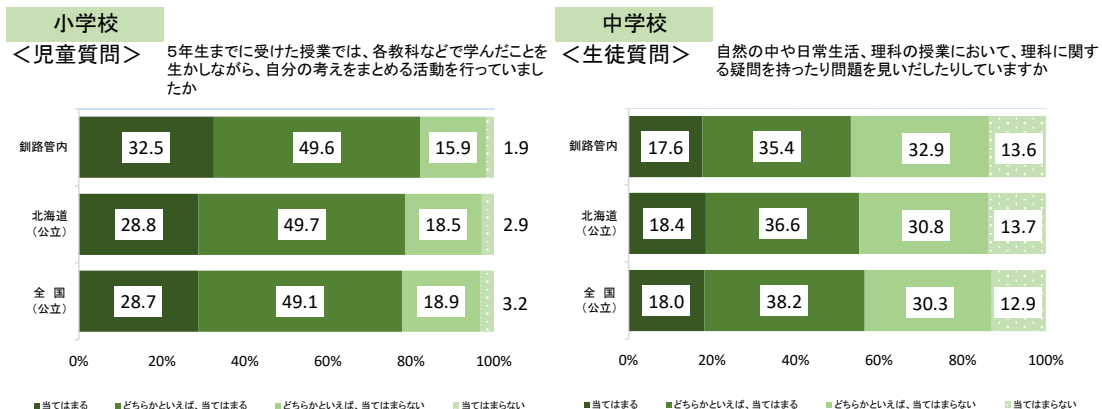
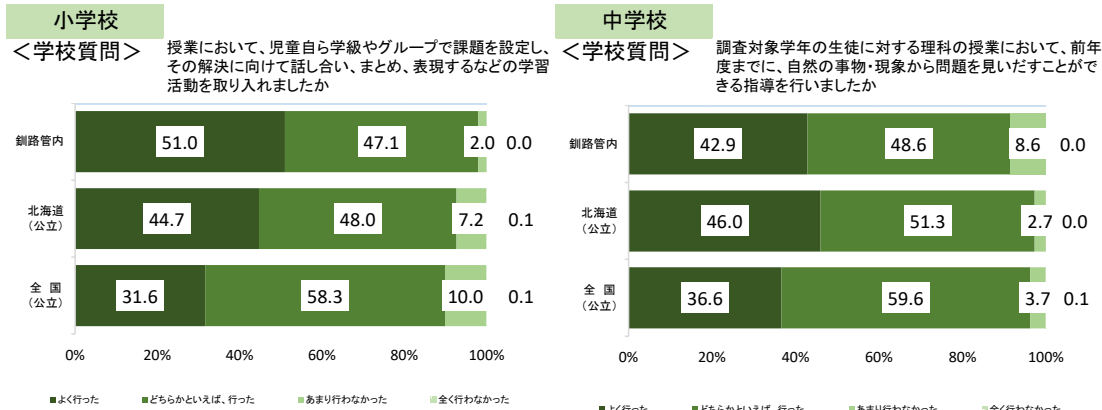


【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

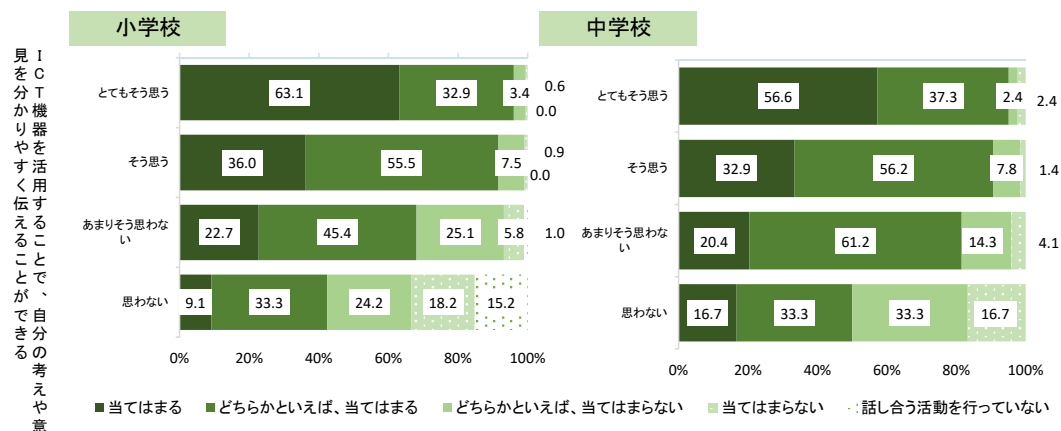


○ 質問調査の状況



＜クロス集計（児童生徒質問×児童生徒質問）＞

学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 中学校において、「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問をもったり問題を見いだしたりしている」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っている状況は、理科の授業において、自然の事物・事象から問題を見いだすことができる指導を行ったと回答した学校の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、「ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができる」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- 【エビデンスに基づいた検証改善サイクルの充実によるカリキュラム・マネジメントの推進】
- ・ 義務教育指導監、指導主事による指導助言等により、学力向上に係る学校課題の改善に向けた方向性と具体策を明確化することを通して、学力向上に係る取組の成果と課題について教職員間の共有を促すとともに、児童生徒が見方・考え方を働かせることを意識した授業の日常の実施に向けた検証改善サイクルを図り、平均正答率及び各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成する学校の割合の向上を目指す。

【自立した学習者を育む個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】

- ・ 児童生徒が主体的に学ぶ機会を位置付けることや、指導と評価の一体化を図った指導計画の在り方の理解を促すとともに、1人1台端末を含む個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進を図り、授業において、児童生徒が分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫する児童生徒の割合の向上を目指す。

【探究的な学びを軸とした学びの充実】

- ・ 教育局主催の研修等を通して、各教科等の学習と総合的な学習の時間を往還させながら社会で生きて働く資質・能力を育成することの重要性や探究して学ぼうとする児童生徒の姿勢を育むことに向けた取組への教員の理解を深めることを通して、自分と違う意見について考えるのが楽しいと思う児童生徒の割合の向上を目指す。

根室管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:23校、児童数:480人 中学校数:19校、生徒数:459人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

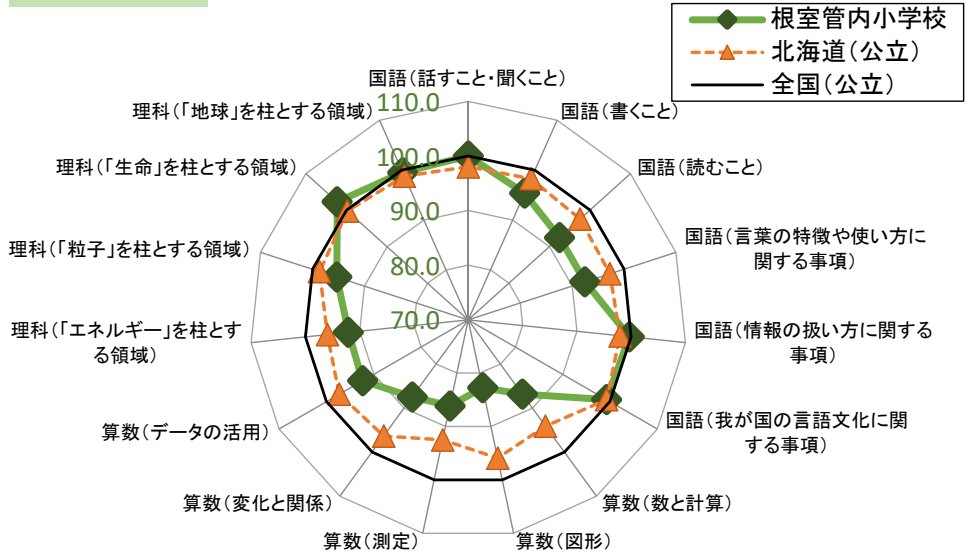
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

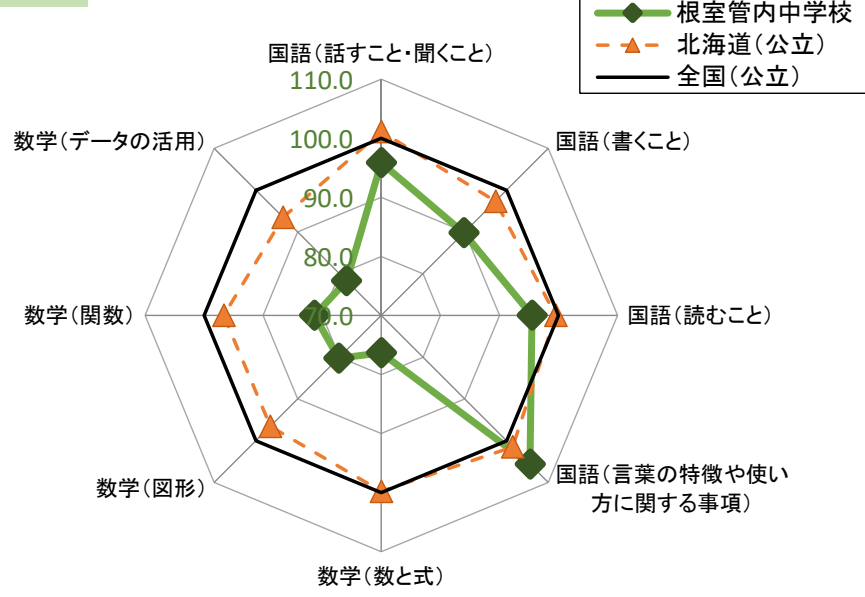
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
根室管内	64.0	49.8	56.0	51.5	38.0	473
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校

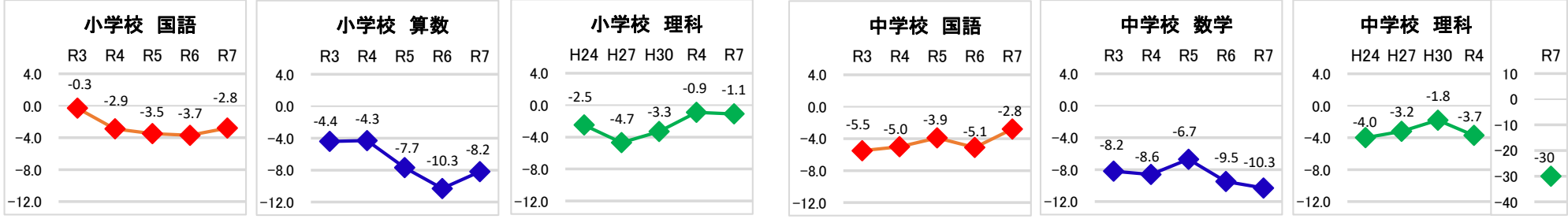


中学校

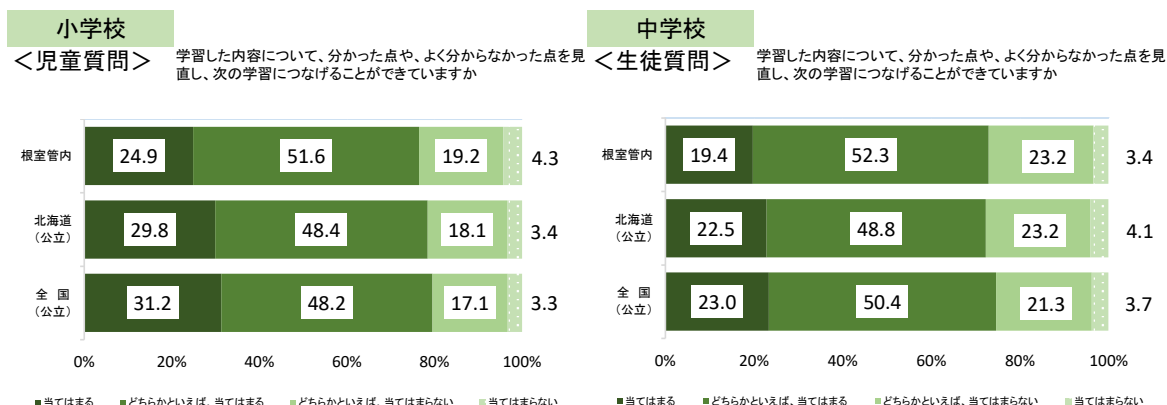
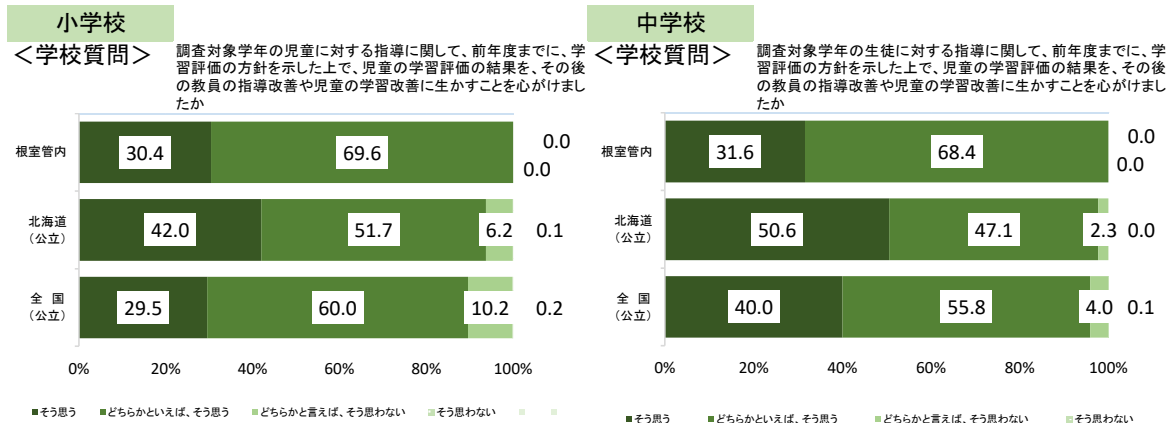


【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

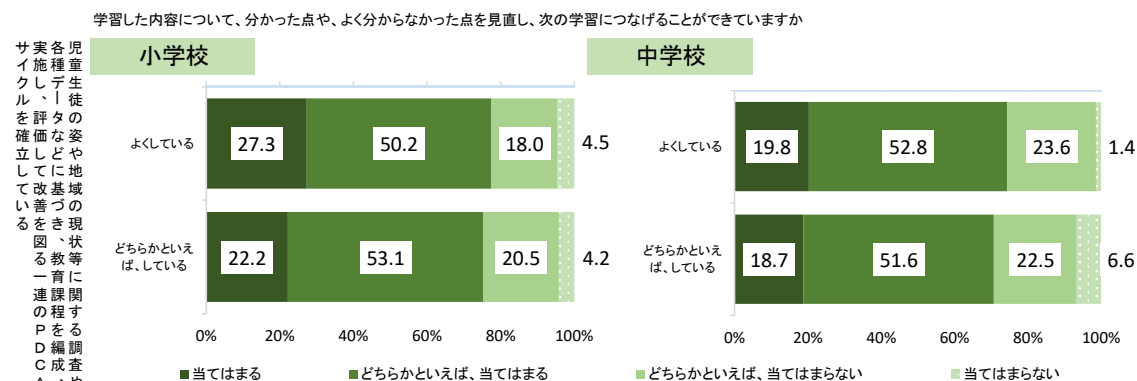
※R7中学校理科は平均IRTスコアの差



○ 質問調査の状況



＜クロス集計（学校質問×児童生徒質問）＞



○ 調査結果の分析

- 小学校及び中学校において、児童生徒に学習評価の方針を示した上で、児童生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かすことを心がけていると回答した学校の割合が全国及び全道を上回っているものの、各教科の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、学習した内容について、「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童生徒の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- 小学校及び中学校において、児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していると回答した学校の児童生徒ほど、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- 児童生徒の学習評価の結果を教員の指導改善や、児童生徒の学習改善に生かすなど、単元等の短期的なサイクルによる検証改善サイクルの質的向上を推進することにより、児童生徒が着実に力を付ける教育課程の改善を図る。
- 生活科、総合的な学習の時間における教科等横断的な視点での学習や、各教科等における探究のプロセスを踏まえた学習の充実により、児童生徒が課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組めるよう授業改革を推進する。

Ⅲ

特色ある取組

- 1 授業改善の推進
- 2 検証改善サイクルの確立
- 3 小中連携・接続の推進
- 4 望ましい学習習慣の確立



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

各市町村教育委員会及び学校において、実効性のある取組をより一層進めることができるよう、「授業改善の推進」「検証改善サイクルの確立」「小中連携・接続の推進」「望ましい学習習慣の確立」について、特色ある取組を紹介します。

1 授業改善の推進

■ 指導方法の工夫①

○ 教科等における言語活動の充実 (奥尻町立青苗小学校)

【取組】

- (1) 日常的な書く活動による「書く習慣」の醸成
 - ・ ミニ作文を授業以外でも取り入れ、書く習慣の定着を図ることにより、「書くこと」に対する意欲を向上させる指導を工夫した。
 - ・ 作品をポートフォリオで蓄積し、計画的に振り返らせる場面を設定することにより、児童が自らの成長を実感できる指導を工夫した。
- (2) 主体的に自分の思いや考えを表現する授業づくり
 - ・ 児童が見通しをもって学習を進めることができるよう、単元の指導計画を児童と教師が共有するなど、指導を工夫した。
 - ・ ICT等を活用し、友達の表現のよさに触れ、自らの表現に生かす場面を設定した。

【成果と課題】

- 「書く習慣」を身に付けることによる「書くこと」への意欲及び学習したことを記述する表現力が向上した。
- 自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えるための思考力、判断力、表現力等を一層向上させる必要がある。

(檜山管内)

■ 指導方法の工夫②

○ 条件に応じた思考・表現を促す授業 (岩見沢市立南小学校)

【取組】

- ・ 国語科で「情報を整理し、根拠をもって判断を表現する力」の育成に取り組んでおり、思考力・判断力・表現力等を育成する学習では、「文章・資料の内容から考えを導く」、「指定された字数・構成・時間に沿って表現する」、「表現が条件に合っているかチェックする」習慣を徹底している。
- ・ 条件提示を単なる制約ではなく、「課題解決の文脈を踏まえた思考と表現」を促す重要な要素と捉え、全ての子どもたちの、将来社会で求められる資質・能力の育成に取り組んでいる。



【国語の授業の様子】

【成果と課題】

- 全国学力・学習状況調査の平均正答率が継続して全国平均を上回り、
 - ・ 情報の整理、筋道をもった表現ができる
 - ・ 学びに対する自己効力感が高い児童の育成が進められている。
- 端末を活用して思考を整理する学びをより一層促進する必要がある。

(空知管内)

1 授業改善の推進

組織的な授業改善①

○ 単元全体を見通した授業改善の推進 (えりも町立えりも小学校)

【取組】

- ・自ら学び続ける児童を育成することができるよう、「自己調整の度合い」を設定し、単元全体で目指す姿を明確にして授業改善を行っている。
- ・全ての教員が、単元全時間の公開を含む授業公開を年に複数回実施し、各学級における授業改善の成果を学校全体で共有するとともに、取組の方向性について短い期間で検証・改善を推進している。

自ら学び続ける児童を育成するための 自己調整の度合い								
教師 主導			児童 主体					
	0	1	2	3	4	5	6	7 8
1. 課題の設定	教師が問いを見出し、教師がたてた課題にとりくむことができる。		教師と問いを見出し、課題を一緒に立てている。		児童が自分で問いを見出し、自分で課題をえらぶことができる。		児童が自分で問いを見出し、課題を設定している。	
2. サイクル	教師が指定した過程に児童は取り組んでいる。		児童がどの過程に取り組んでいるのか意識している。		学習過程の一部の範囲において、児童が自分で進んでいる。		児童が、自分で調整しながら、過程のすべてを決定して進んでいる。	
3. 学習形態	教師が決めた形態や相手と児童は学んでいる。		教師が選択した範囲を定めた中で、児童が誰と学ぶのか決めている。		教師が定めた学習過程の一部の範囲で、児童は誰と学ぶか決めている。		すべての過程において、児童が誰と学ぶか自分で決めている。	

【自己調整の度合い】

【成果と課題】

- 全国学力・学習状況調査において、全ての教科で全国及び全道の平均正答率を上回るとともに、児童質問調査において「分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回るなど、自ら学び続ける児童を育成することができた。
- 児童生徒が生涯に渡って学び続けることができるよう、実践を地域全体に広げる必要がある。

(日高管内)

組織的な授業改善②

○ 授業改善シートを活用した授業づくり (標津町立川北小学校)

【取組】

- ・学校の教育目標の実現に向けて、児童に資質能力を着実に育成することを旨とし、「育成を目指す資質・能力」、「目指す子どもの姿に関わる単元デザインの工夫」及び「授業改善の重点」を明確にするために、学校全体で授業改善シートを活用した授業づくりに取り組んでいる。

1. 公開授業について			
教科/単元	3年算数/大きい数の計算の仕方を考えよう	授業者	
単元目標	2位数や3位数に1位数の乗法の計算の仕方について理解し、確実に計算することや成り立つ性質について理解できるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、乗法の成り立つ性質を活用したり、計算を確かめたりしながら、計算した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①	2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解している。	② 乗法の関係に着目し、計算の仕方考えたり計算に際して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。	⑤ 乗法に憑いて関わり、数学的に表・絵で考えたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。
②	乗法の計算が確実になり、それを適切に用いることができる。		
③	乗法に関する成り立つ性質について理解している。		
2. 目指す子どもへの関わる単元デザインの工夫			
	学び方のバリエーションを増やし、自分の考えや得意なやり方、最後まで粘り強く取り組むことができる。		
主体的に	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学びを振り返り、自分の考えや得意なやり方、最後まで粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学びを振り返り、自分の考えや得意なやり方、最後まで粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学びを振り返り、自分の考えや得意なやり方、最後まで粘り強く取り組むことができる。 		
共に高め合う	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学びを振り返り、自分の考えや得意なやり方、最後まで粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学びを振り返り、自分の考えや得意なやり方、最後まで粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学びを振り返り、自分の考えや得意なやり方、最後まで粘り強く取り組むことができる。 		
深める	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学びを振り返り、自分の考えや得意なやり方、最後まで粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学びを振り返り、自分の考えや得意なやり方、最後まで粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学びを振り返り、自分の考えや得意なやり方、最後まで粘り強く取り組むことができる。 		
3. 授業改善6つの視点 (何に重点を置いて指導にあたり、その結果子どもへの姿はどうだったか)			
授業改善の視点			
① 単元・本時でつなげた資質・能力が明確であったか	② 児童の学習状況の見取りをもとに、適切な学びの進め方を見られたか	③ 得た知識を活用して深める単元構成によって、学びの深まりが見られたか	④ 対話によって考えを広げたり、他者と協働したりする場面が適切に設定されていたか
(子どもの姿：)	(子どもの姿：)	(子どもの姿：)	(子どもの姿：)
★	★	★	★
⑤ 自主的・自発的な学習が促されるような学習方法や課題が設定されていたか	⑥ 振り返りを通して、児童の学びの自覚化に効果的であったか		
(子どもの姿：)	(子どもの姿：)		

【授業改善シートの一部】

【成果と課題】

- 学校全体で授業改善を推進したことにより、令和7年度全国学力・学習状況調査において、各教科とも全国及び全道の平均正答率を上回った。
- 授業改善シートの「深める」に係る単元デザインの工夫については、各教科の見方・考え方が働くことと関連させる必要がある。

(根室管内)

1 授業改善の推進

■ 組織的な授業改善③

○ 根拠を大切にした組織的な授業改善 (音更町立共栄中学校)

【取組】

- ・組織的な授業改善の推進に向け、各種調査結果等を活用し、根拠に基づく課題の明確化について、教職員と共有している。
- ・各学校を対象として教育局独自で実施した、子どものウェルビーイングに係るアンケート調査の結果を活用し、子どものよいところを認める取組を進めるなど、主体的な学びにつながる授業改善を推進している。

生徒質問 内容		
自分には、よいところがあると思いますか (「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」合計)	全国平均	77.6%
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」合計)	全国平均	83.3%
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」合計)	全国平均	87.5%
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか (「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」合計)	全国平均	90.4%
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか (「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」合計)	全国平均	65.0%
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか (「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」合計)	全国平均	67.5%

【子どものウェルビーイングに係るアンケート調査】

【成果と課題】

- 学力向上に向けて、教務部、研修部、生徒指導部それぞれが必要な取組を示し、学校全体で授業改善を進める体制を確立することができた。
- 思考力、判断力、表現力等の育成に向け、子どもが日常的にICTを活用できるよう、授業における活用場面の設定を工夫する必要がある。

(十勝管内)

■ 研修会等の充実①

○ 気付きや思考を促す研修会の実施 (釧路管内全小・中学校)

【取組】

- ・釧路局主催の研修会において、教師の指導性や、見方・考え方と深い学び、指導と評価の一体化等をテーマに、参加者自身の気付きや思考を促すことにより、教員の授業改善に係る課題を明確にした。
- ・5月～7月に実施した国語科、算数・数学科に係る研修会において、教員のICT活用指導能力の向上に向け、指導主事や講師からの情報提供や協議内容を充実させた。

気付きと思考を促す参加者を主語とした研修へ	
① 「広い開口」と「深い学び」 明日役立つことを入口に、深い学びへの気付きをもたらす	
② Short time & Spiral 回数を精選し点から線へ、連続性ある研修、授業時間との重複を解消	
③ 課題解決・探究的な研修 受講者の問いと気付きを生かし、研修協力者は課題解決に寄り添う伴走者に	
④ 見取りと評価に基づく情報提供 受講者の姿の分析を重視し、必要感に基づく柔軟な研修企画、情報発信	
⑤ 釧路管内で授業づくりに活躍している先生方との連携 他管内、市教委、大学、任意研究団体との連携	

【参加した教員等と確認した研修の方向性】

【成果と課題】

- 演習・協議を通して、参加者自身が授業改善に係る方向性を明確にしたり、新たに学びたい内容を共有したりすることができた。
- 授業改善に向けた取組の充実を図ることができるよう、Google Classroomに好事例を掲載するなど、支援の方法を工夫する必要がある。

(釧路管内)

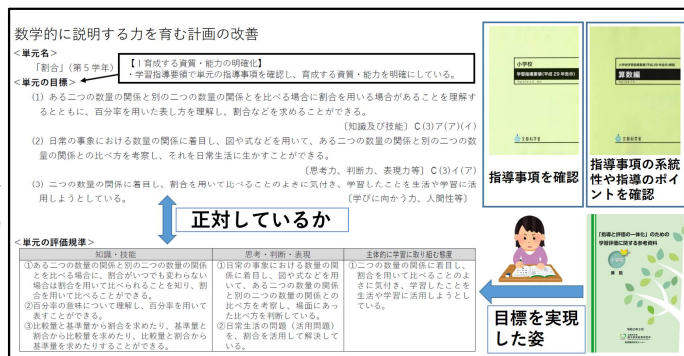
1 授業改善の推進

■ 研修会等の充実②

○ 市町村別授業づくりセミナーの実施 (恵庭市)

【取組】

- ・ 7月、授業づくりセミナーを実施し、資質・能力の確実な育成に向けた単元の指導計画の作成について共通理解を図った。
- ・ セミナーでは、指導事項の系統性や指導のポイントを確認することや、単元の目標と評価規準の整合性を図ることなど、指導計画の改善・充実に向けた協議等を行った。



【単元の指導計画作成についての資料】

【成果と課題】

- 資質・能力の確実な育成のための授業づくりについて、多くの教員と共通理解を図ることができた。
- 各市町村教育委員会と連携し、次年度以降も継続した取組を行う必要がある。

(石狩管内)

■ 研修会等の充実③

○ 学力向上に向けた校内体制の確立 (古平町立古平中学校)

【取組】

- ・ 全国学力・学習状況調査の分析結果を踏まえた、授業改善の方向性の決定、取組の進捗の確認など、全教職員の共通認識の形成に向けた校内研修を充実させた。
- ・ 生徒が、どのように考えたのかについて説明する際にICTを効果的に活用した数学の授業を例に、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組を充実させた。



【授業改善の方向性の共有】

【成果と課題】

- 教職員が安心して、授業改善に関する意見交換や実践の共有を日常的に行うことができるよう、校内体制を確立し、互いに学び合う文化を醸成した。
- 生徒の資質・能力の育成につながる授業改善に向けて、教科等の見方・考え方を十分に働かせる学習活動の設計を一層進める必要がある。

(後志管内)

1 授業改善の推進

■ 研修会等の充実④

○ 授業改善の取組

(士別市教育委員会)

【取組】

- ・ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する教員研修を実施した。
- ・士別市教育推進の重点である「士別まなびフォーカス」に位置付けた「伸ばす・安心・連携」を基盤とした各教科等における指導の重点の明確化及び市指導主事等による学校訪問において重点の共有・浸透を推進した。
- ・中高6年間の円滑な学びの接続に向けて、士別市内4中学校と北海道士別翔雲高等学校とが連携し、授業参観や研究協議、学習状況等の分析を通じて各教科等における授業改善を推進した。

【成果と課題】

- 目指す授業の実現に向け、教員間で授業でのICT活用等を交流するなど、教員自ら協働的に学ぶことができる研修を実施し、授業改善につなげることができた。
- 令和7年度全国学力・学習状況調査において、小・中学校全ての教科で全国平均を上回った。
- 中高連携を推進するため、各教科等の具体的な授業改善に向けた研修を実施する必要がある。

(上川管内)

■ 研修会等の充実⑤

○ 授業改善の取組

(渡島管内全小・中学校)

【取組】

- ・学校が教育局と協働し、複数回の授業公開及び研究協議を行う「個人プロジェクト」及び「学校プロジェクト」を実施することにより、教師や学校が主体的に授業改善を進めている。
- ・「学校プロジェクト」において、各学校の研究担当が担当指導主事と協議し、校内研究の視点から学校全体で授業改善を推進している。
- ・「個人プロジェクト」及び「学校プロジェクト」において、教師や学校が、ポートフォリオを作成し、教育局と今後の取組についてやりとりを行うことにより、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を推進している。

【成果と課題】

- プロジェクトに取り組んだ学校から「学習評価について整理することができた」、「授業改善の視点を整理し校内で共有していきたい」などの声が聞かれ、課題解決に向けた検証改善が進められている。
- ポートフォリオの内容を、教職員間で共有するなど、学校が主体的に授業改善を推進できるよう支援する必要がある。

(渡島管内)

1 授業改善の推進

■ 研修会等の充実⑥

○ 学校教育指導担当者研修会 (胆振管内市町教育委員会)

【取組】

- ・教育局と市町教育委員会の指導主事等が、同じ方向性で指導助言をすることができるよう、胆振管内の課題を踏まえた指導助言のポイントを共有し、本研修会における成果を各学校に広く周知した。

<研修会の主な内容>

- ・教育活動の充実を図る指導助言に係る説明及び協議
- ・授業改善等に係るリーフレットの作成
- ・義務教育指導監による講演



【管内課題を踏まえた研修会】

【成果と課題】

- 教育局と市町教育委員会の指導主事等が、授業改善に係るリーフレットを作成し、管内の学校に配付したことにより、胆振管内全体の授業改善を推進することができた。
- 指導主事等の連携をより一層深めるため、オンラインを活用し、研修機会を増やす必要がある。

(胆振管内)

■ 研修会等の充実⑦

○ 授業改革推進会議の実施 (宗谷管内全市町村)

【取組】

- ・管内の全ての児童生徒が資質・能力を確実に身に付けることができるよう、各市町村の小学校教員、中学校国語担当教員、中学校数学担当教員を構成員とする授業改革推進会議を年3回開催し、指導方法の工夫改善に関する協議等を通じて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改革の取組を、管内全体で推進している。



【授業改革推進会議】

【成果と課題】

- 全ての市町村の教員を構成員として成果普及を図ったことにより、域内の学校が連携した継続的な授業改革の取組を推進できた。
- 本会議で協議された取組内容を積極的に発信し、全ての学校において、授業改革の取組をより一層推進する必要がある。

(宗谷管内)

1 授業改善の推進

■ 関係機関との連携①

○ 管内教育研究所と連携した研修 (留萌管内教育研究所)

【取組】

- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、留萌管内教育研究所と教育局が連携し、管内の小中学校の教員等を対象として、バーチャルオフィスを活用した研修講座を実施した。
- ・ 道教委の校内研修サポートガイド等を活用した研修講座では、具体的な手立てを明確にした学習指導案の検討や研究協議の在り方等について説明した。
- ・ 研究所員が進行役になり、各学校の実践交流・現時点での成果・課題に係る協議を行った。



【バーチャルオフィス】

【成果と課題】

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善につなげるための校内研修の取組について、参加教員の理解が深まった。
- 各学校の授業改善の促進に向けて、参加教員の研修成果の普及や、実際の校内研修・授業における改善の方策について指導助言を行う必要がある。

(留萌管内)

■ 関係機関との連携②

○ 管内教育研究団体と連携した取組 (オホーツク管内教育研究団体及び 網走地方教育研修センター)

【取組】

- ・ 「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けた授業改善について、教育局、管内の8教育研究団体及び網走地方教育研修センターが連携し、管内の教員等を対象としたオンラインセミナーを実施した。
- ・ 管内の学力の状況について、教育局と各教育研究団体が連携して分析し、改善方策を協議した。

2025 7/30 水		対象：管内全ての学校の教諭等、各市町村教育委員会職員	
		オホーツク 夏の教育セミナー	
		Zoomを活用した遠隔研修	
		※初任段階教員研修（学校設計画研修の研修時間）に位置付けることが可能です。	
主催：北海道教育庁オホーツク教育局 共催：網走地方教育研修センター、管内教育研究団体連絡協議会			
「思考力、判断力、表現力等の育成」に向けた授業改善 ～自分の考えを「具体的に書くこと」を取り入れた活動等の充実を通して～			
当日の流れ 12:30～受付 13:00～開会			
13:10～ ○網走地方教育研修センター研究員及び教育局職員による説明			
各教育研究団体の発表は、会員が各教科等における具体的な実践について、30分間発表します。それぞれの時間から1団体を選び、参加します。			
13:50～	発表① オホーツク管内 特別活動研究会	発表② オホーツク管内 算数数学 教育研究会	発表③ オホーツク管内 学校体育研究会
14:30～	発表④ オホーツク管内 学校づくり 研究会	発表⑤ オホーツク管内 理科教育 研究会	発表⑥ 網走国語 教育研究会
15:10～	発表⑦ 網走地区 社会科教育 研究会	発表⑧ オホーツク地区 生活科 総合的な学習 教育連盟	
15:40～	○全体協議・まとめ・閉会		

【教育研究団体と連携したセミナーの実施】

【成果と課題】

- 連携を図ることにより、管内の各教育研究団体の授業改善の方向性をそろえることができた。
- オンラインセミナー実施後、参加した初任段階教員が研究団体に入会するなど、教員の継続的な学びの姿に結び付いた。
- 実施内容のより一層の充実に向け、各教育研究団体と協議を重ねる必要がある。

(オホーツク管内)

2 検証改善サイクルの確立

■ 検証改善サイクルの確立①

○ 検証改善サイクルの充実に向けた取組
(土別市教育委員会)

【取組②】

- ・土別市内の教職員を対象に、上川教育局との共催による「エビデンスに基づく授業改革研修会」を開催し、各種調査等で明らかとなった課題を共有するとともに、改善に向けた取組等について検討・共有した。
- ・全国学力・学習状況調査の結果で明らかとなった家庭学習の取組の充実を図るため、各学校における家庭学習奨励の取組を推進し、ショートスパンで検証改善を進めた。
- ・AIドリルの導入を見据え、1人1台端末を効果的に活用した家庭学習の取組について実践検証を推進した。

【成果と課題】

- 令和7年度全国学力・学習状況調査において、「家庭で1時間以上勉強している」と回答した児童生徒の割合が前年度を上回った。
- 土別市全体でAIドリルの活用を開始したことにより、端末を活用した家庭学習の取組が進み、家庭学習が習慣化された。
- 今後も、学力を支える「学ぶ楽しさ」や「自己肯定感」を全教育活動を通じて育む必要がある。

(上川管内)

■ 検証改善サイクルの確立②

○ 資質・能力でつなぐ単元配列表の作成
(別海町立別海中央小学校)

【取組②】

- ・各教科等と総合的な学習の時間の間で、育成された児童の資質・能力が互いに活用・発揮される教育課程の編成を目指し、学校全体で、育成を目指す資質・能力の視点から、各単元のつながりを明確にした単元配列表を作成するとともに、全教職員による複数回の検証改善に取り組んでいる。

[illegible]

【單元配列表の一部】

【成果と課題】

- 検証改善サイクルの質的向上が図られたことにより、令和7年度全国学力・学習状況調査において、国語は全道を上回り、理科は全国及び全道を上回った。
- 資質・能力でつなぐカリキュラム・マネジメントについて、全教職員で理解を深める必要がある。

(根室管内)

2 検証改善サイクルの確立

■ 検証改善サイクルの確立③

○ 検証改善サイクルシートの活用 (宗谷管内全小・中学校)

【取組】

- 各学校において、検証改善サイクルに基づいた授業改革を推進できるよう、「検証改善サイクルシート」を活用している。
- 本シートを用いて、学力向上に向けた取組の成果と課題を明らかにし、改善に向けた具体的な方策を明確にすることにより、検証改善サイクルの更なる充実につなげている。

1. 授業改善に向けた現状と具体的な方策 【学校評価】 【実施】	2. 中間評価 【学校評価】 【実施】	3. 年度評価 【学校評価】 【実施】
1. 授業改善 2. 検証改善サイクルの確立	1. 授業改善 2. 検証改善サイクルの確立	1. 授業改善 2. 検証改善サイクルの確立
【具体的な方策】 1. について 2. について	【具体的な方策】 1. について 2. について	【具体的な方策】 1. について 2. について

【検証改善サイクルシート】

【成果と課題】

- 本シートを活用することにより、管内全ての学校において、自校の実態を踏まえた検証改善サイクルが確立されるとともに、学力向上の取組を推進することができた。
- 校内で共通理解を図るなど、学校全体の組織的な取組につなげる必要がある。

(宗谷管内)

■ 検証改善サイクルの確立④

○ 継続的な支援体制の確立 (釧路管内市町村教育委員会)

【取組】

- 釧路管内指導主事研修会において、検証改善サイクルに係る指導助言の観点について協議し、学校教育指導における方向性を共有した。
- 学校教育指導において、育成を目指す資質・能力と各分掌の取組のつながりに焦点を当て、教育課程の改善に向けた指導助言の方向性を明確にした。

令和7年度 教育局義務教育担当指導主事学校教育指導訪問 全体構想	
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する継続的な支援体制の確立	
計画訪問① 検証改善サイクルの実質化 【実施時期】 5月～7月 【実施方法】 直接またはオンライン(Zoom等) 【対象(者)】 管内の学校(指定事業の指定校等を除く) 管理職、教務主任、生徒指導主事、研究担当教諭、特別支援C、教育委員会担当者 【内容】 協議	【学校の説明内容】 <input type="checkbox"/> 学校として育成を目指す資質・能力 <input type="checkbox"/> 学校として育成を目指す資質・能力を育むための各分掌の取組 <input type="checkbox"/> 資質・能力に係る子どもの姿の現状 <input type="checkbox"/> 検証改善サイクルの実現 教育局との協議内容 ◆ 学校として育成を目指す資質・能力と各分掌の取組のつながりについて ◆ 学校として育成を目指す資質・能力を育むことに向けた校内研修に係る検証改善サイクルの今後の方向性について

【市町村教育委員会と共有した指導助言の方向性の一部】

【成果と課題】

- 指導助言の方向性を市町村教育委員会と共有したことにより、共通理解の下、各学校の教育活動への支援を行うことができた。
- 各学校の検証改善サイクルの確立に向けた自走を促すことができるよう、当該校の教育活動等の改善状況を市町村教育委員会と共有した上で、具体的な指導助言を行うなど、支援体制の確立に向けた取組を行う必要がある。

(釧路管内)

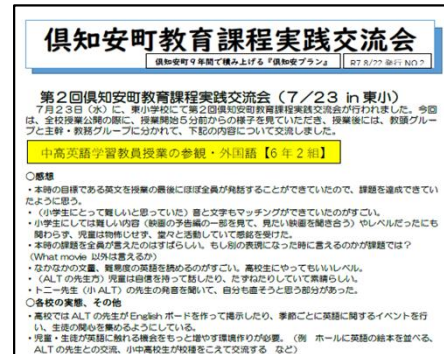
3 小中連携・接続の推進

■ 小中連携・接続の推進①

○ 小中高が連携した取組の充実 (倶知安町)

【取組】

- ・ 町内全ての小学校、中学校及び高等学校の管理職が、学校改善に向けて協議する合同会議を月に1回実施した。
- ・ 町内全ての小学校、中学校及び高等学校の教務主任等が、授業参観や協議を通して、各校の課題解決を図る教育課程実践交流会を月に1回実施し、町内の教職員と内容を共有するなど、積極的に普及している。



【交流会の内容の共有】

【成果と課題】

- 授業改善に向けた取組や生徒指導上の課題等についての協議等を通じて、小中高を通じた系統的な支援を実現させるとともに、教職員の指導力向上及び校種間で教育観を共有することができた。
- 町全体でカリキュラム・マネジメントを推進するため、校種間の連携を一層強化する必要がある。

(後志管内)

■ 小中連携・接続の推進②

○ 小中連携の取組 (七飯町立七飯中学校区)

【取組】

- ・ 中学校区において、4つの「つなぐ」をキーワードに小中連携グランドデザインを作成し、9年間を見通した子どもの姿（目指す15歳の姿）を共有することにより、学校段階間の連携を進めている。
- ・ 9年間を見通した情報活用能力の体系表を作成することにより、子どもたちの情報活用能力を育成している。



【目指す15歳の姿を共有するグランドデザイン】

【成果と課題】

- 小学校と中学校が目指す子ども像や教育課程等を共有することにより、総合的な学習の時間等において、異校種間での交流・連携が進められている。
- 日常の学習指導等において一貫性に配慮した取組を行うことができるよう支援する必要がある。

(渡島管内)

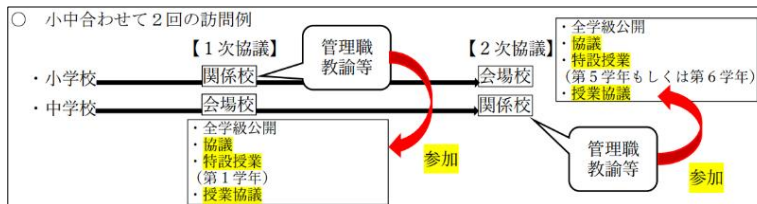
3 小中連携・接続の推進

■ 小中連携・接続の推進③

○ 学校訪問（小中連携型）の実施 （オホーツク管内全小・中学校）

【取組】

- ・新しい時代に必要となる資質・能力の育成に向け、小中連携による授業改善や教育課程の接続等に係る取組の推進を図ることを目的として、中学校区合同で学校教育指導訪問を実施している。
- ・特設授業は、小中接続の観点から小学校第5学年、第6学年、中学校第1学年のいずれかに限定し、中学校区の教員が特設授業参観及び協議に参加した。



【小中連携型の学校訪問例】

【成果と課題】

- 小・中学校が一体となった授業改善の取組や、教育課程の接続を視点とした協議の実施により、小中連携の取組が促進された。
- ICTの利活用に向け、小・中学校の系統性を意識した活用方法を検討することができた。
- 実施対象を「中学校区に小学校が1校の地域」と限定していることから、次年度以降は全ての学校を対象とするため工夫する必要がある。

（オホーツク管内）

4 望ましい学習習慣の確立

■ 望ましい学習習慣の確立①

○ オンデマンド胆振研修会 （小学校の児童及び保護者）

【取組】

- ・子どもの望ましい学習習慣・生活習慣に関することや家庭教育の支援に関することについて、社会教育指導班が学校等からの要望を受け、保護者及び児童生徒等を対象とした胆振教育局独自の研修会を実施している。

＜研修会の主な内容＞

- ・電子メディアの適切な利活用
- ・自己調整力
- ・読書習慣
- ・家庭教育支援



【局独自事業を活用した親子教室】

【成果と課題】

- 昨年度実施した本研修会の事後アンケートでは、参加した児童及び保護者のおよそ90%から肯定的な回答を得るなど、児童と保護者の電子メディアの利活用に係る理解を深めることができた。
- オンデマンド胆振研修について、学校教育指導訪問等の機会を活用し、広く周知する必要がある。

（胆振管内）

4 望ましい学習習慣の確立

■ 望ましい学習習慣の確立②

○ ICTの活用による学習習慣の確立 (厚沢部町立厚沢部中学校)

【取組】

(1)手帳アプリの活用による学習習慣の確立

- ・連絡事項や教科指導に必要な情報提供等、手帳アプリを活用した学習の記録化により、主体的な学習習慣の確立に向けた指導を工夫した。
- ・生徒の学習記録等を複数の教員で閲覧し、学習習慣や生活習慣の向上に向けた組織的な指導を工夫した。

(2)クラウドサービスを活用した学びの環境づくり

- ・授業と家庭学習を往還することで主体的な学びを推進する「反転学習」を実施した。
- ・授業の振り返りや授業アーカイブの活用により、家庭学習を充実させた。

【成果と課題】

- 生徒の学習記録や学習ログ等を活用した組織的な指導により、生徒の家庭学習に対する意識が向上した。
- ICTの活用と対面による指導の両立を図るなど、生徒が主体的に学習に取り組める学びの環境づくりを一層推進する必要がある。

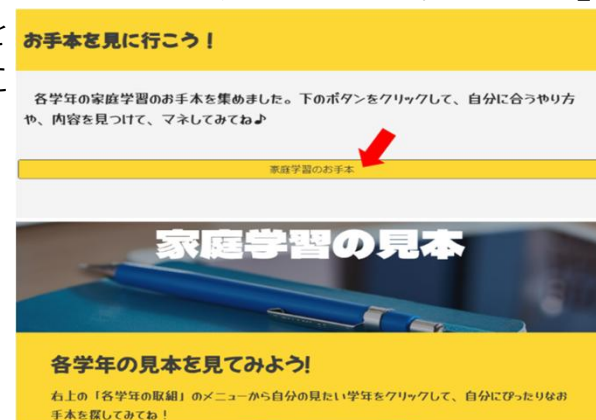
(檜山管内)

■ 望ましい学習習慣の確立③

○ 学習アプリの活用による家庭学習 (大樹町立大樹小学校)

【取組】

- ・子どもが計画的に学習を進めることができるよう、家庭と連携した家庭学習の取組を推進している。
- ・子どもがいつでも参考にすることができるよう、家庭学習の計画や振り返り、「家庭学習ノート」などの取組例をWebサイトに掲載している。



【家庭学習の取組例を掲載したWebサイト】

【成果と課題】

- 家庭学習でICTを活用することにより、子どもが自分の理解度や学習進度に応じた内容を自己選択する取組を進めることができた。
- 子ども一人一人に応じた家庭学習の充実に向け、家庭との連携を一層進める必要がある。

(十勝管内)

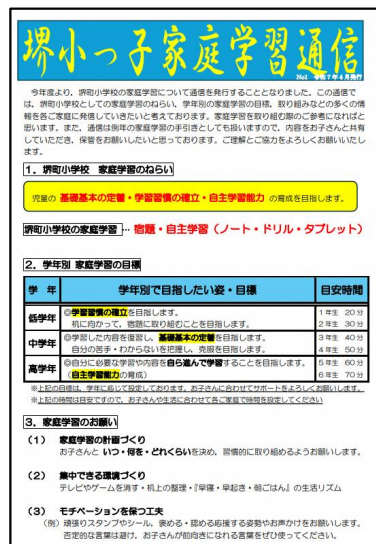
4 望ましい学習習慣の確立

■ 望ましい学習習慣の確立④

○ 家庭・地域へ向けた啓発活動 (浦河町立堺町小学校)

【取組】

- ・「家庭学習通信」を作成し、児童に対して家庭学習の取り組み方等を支援するとともに保護者に対して家庭での支援方法や学校の取組を周知し、家庭と協働して学習習慣の確立を図っている。
- ・中学校の定期テスト期間を活用し、同一中学校区の小・中学校で共通した「家庭学習週間」を設定するとともに、家庭に対して重点的に支援を働きかけている。



【家庭学習通信】

【成果と課題】

- 全国学力・学習状況調査の児童質問調査において「1日当たり1時間以上勉強する」と回答した児童の割合が令和5年度から令和7年度の3年間で20%上昇するなど、児童の学習習慣の確立を推進することができた。
- 家庭学習の内容を一層充実させることができるよう、授業改善と連動した取組を推進する必要がある。

(日高管内)

■ 望ましい学習習慣の確立⑤

○ 学習習慣の確立に向けた取組 (留萌市立港南中学校)

【取組】

- ・生徒に「主体的に学ぶ力」を身に付けさせるため、教育活動全体を通して望ましい学習習慣の確立に向けた取組を実施した。
- ・学級活動において、家庭学習の目的や意義の理解を図り、目標の設定や振り返りの機会を設けた。また、生徒会活動を通じて家庭学習の取組を交流したほか、放課後に教育相談を実施した。
- ・「家庭学習強化週間」において、家庭学習の目的を共有し、学習状況を把握した上で、実態に応じた学び方の指導や振り返りシートを活用した励ましを行った。
- ・SNS等で保護者へ取組の発信と協力依頼を行った。

【成果と課題】

- 教員間で積極的に交流し、指導・支援の改善を図ったことにより、生徒の家庭学習への意欲が高まり、家庭学習30分未満の生徒が減少した。
- 教科間で連携して実態に応じた指導・支援を継続しつつ、学習意欲の向上や基礎学力の定着に向け、授業改善と連動した家庭学習の取組を一層充実させる必要がある。

(留萌管内)

IV

各市町村の状況

- 1 市町村の平均正答率・平均IRTスコアの度数分布
- 2 市町村の規模別の平均正答率・平均IRTスコア
- 3 市町村の規模別の児童生徒質問調査の回答状況
- 4 全国平均以上の市町村数(経年比較)
- 5 市町村の結果公表の掲載先一覧



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

ここでは、令和7年度全国学力・学習状況調査における各市町村の結果について、

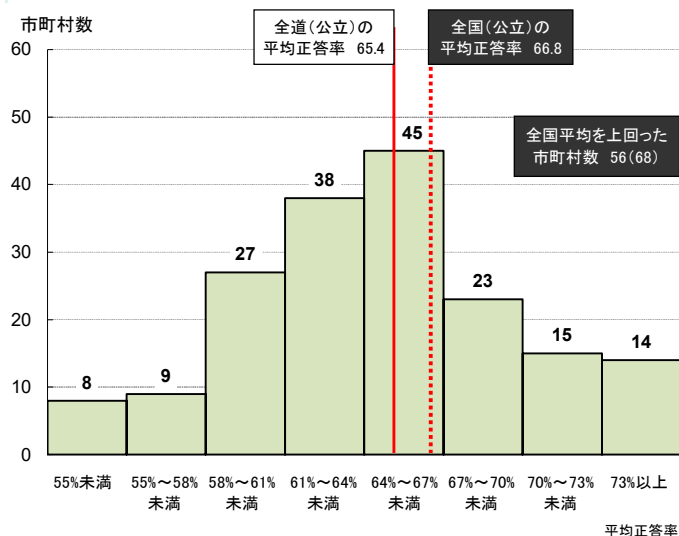
- ・市町村の平均正答率・平均IRTスコアの度数分布
- ・市町村の規模別の平均正答率・平均IRTスコア
- ・市町村の規模別の児童生徒質問調査の回答状況
- ・全国平均以上の市町村数(経年比較)
- ・市町村の結果公表の掲載先一覧

を掲載しています。市町村教育委員会が独自に行う結果公表については、Webページの二次元コードを管内ごとに掲載しています。

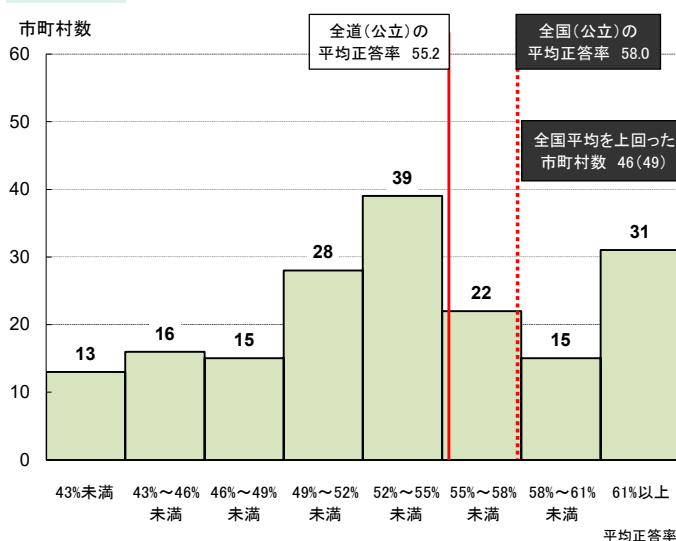
1 市町村の平均正答率・平均IRTスコアの度数分布

教科調査における各市町村の平均正答率又は平均IRTスコアについて、度数分布ごと(平均正答率の幅:3%、平均IRTスコアの幅:15)の市町村数を示しています。
※「全国平均を上回った市町村数」のカッコ内の数字は前年度の市町村数

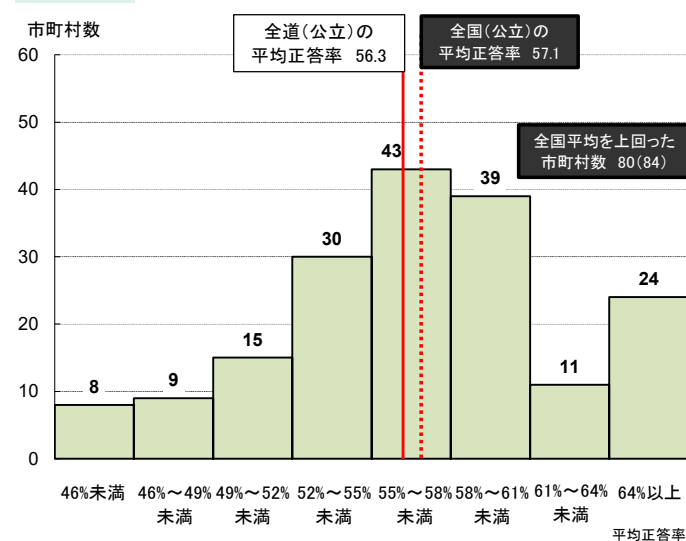
小学校国語



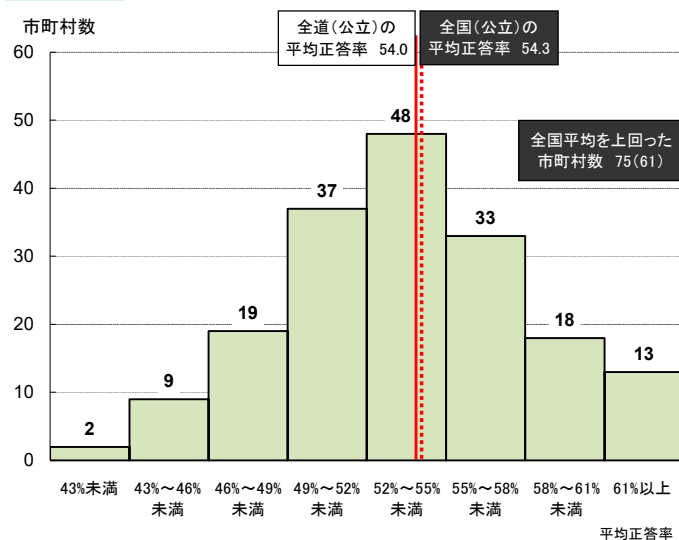
小学校算数



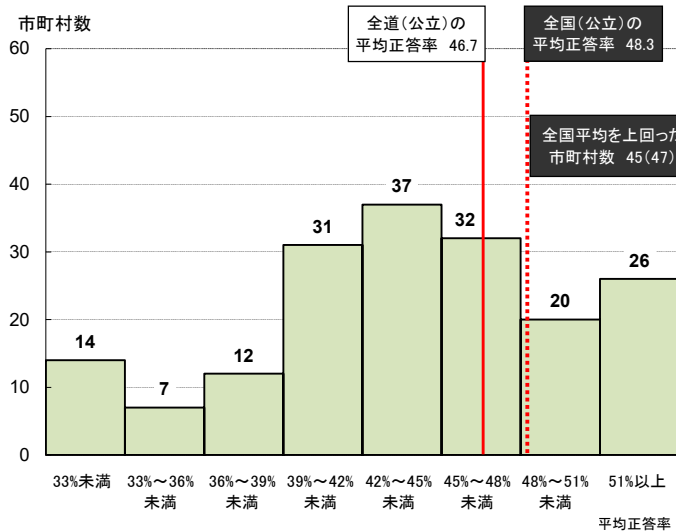
小学校理科



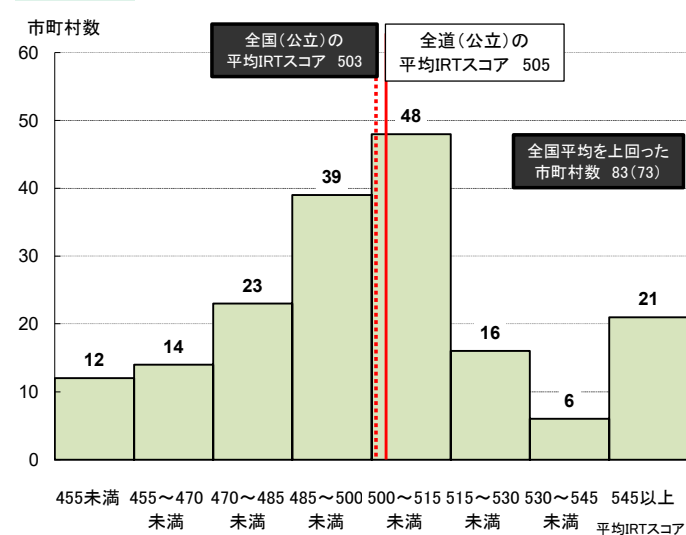
中学校国語



中学校数学



中学校理科



2 市町村の規模別の平均正答率・平均IRTスコア

(%)

規模別類型	小学校国語	小学校算数	小学校理科	中学校国語	中学校数学	中学校理科(※)
大都市・中核市	66.1	56.9	56.3	55.0	49.8	512
その他の市	65.1	53.8	56.3	53.0	44.0	498
町村	63.9	52.6	56.2	52.8	43.2	498
へき地	63.3	52.4	56.3	53.5	43.4	499
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

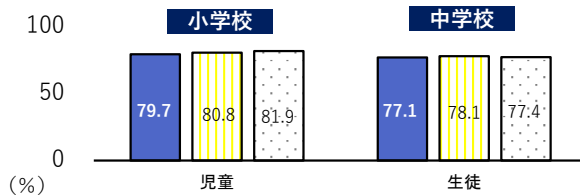
※中学校理科は平均IRTスコア

3 市町村の規模別の児童生徒質問調査の回答状況

「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合

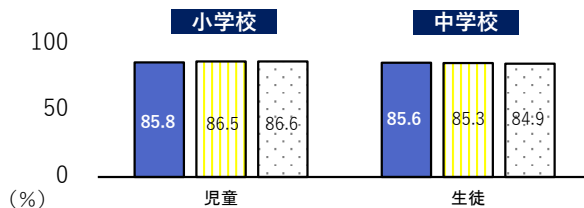
■大規模・中核都市 ■その他の市 □町村



「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」

当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合

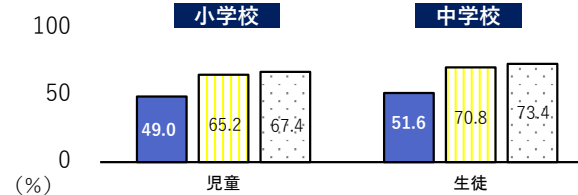
■大規模・中核都市 ■その他の市 □町村



「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）、ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）と回答した児童生徒の割合

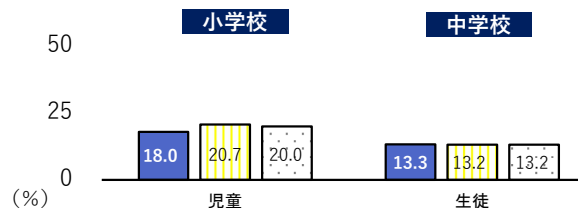
■大規模・中核都市 ■その他の市 □町村



「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」

1時間以上と回答した児童生徒の割合

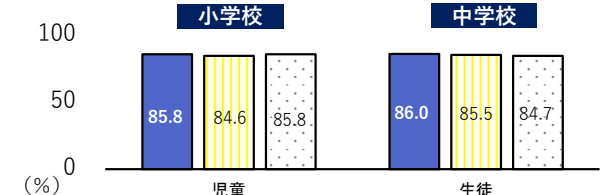
■大規模・中核都市 ■その他の市 □町村



「自分には、よいところがあると思いますか」

当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合

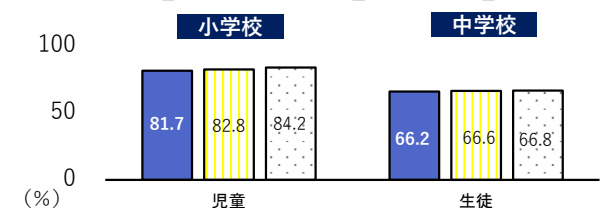
■大規模・中核都市 ■その他の市 □町村



「将来の夢や目標を持っていますか」

当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合

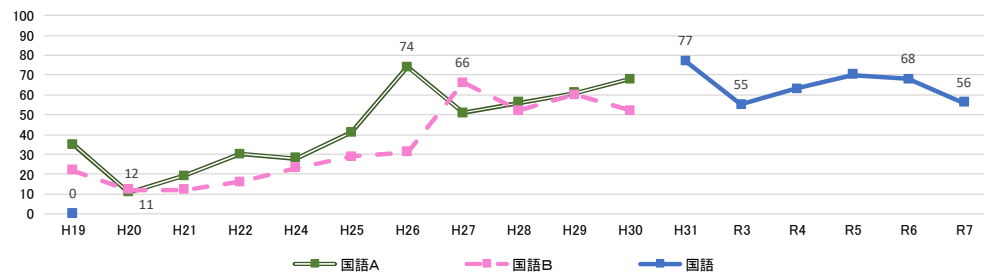
■大規模・中核都市 ■その他の市 □町村



4 全国平均以上の市町村数（経年比較）

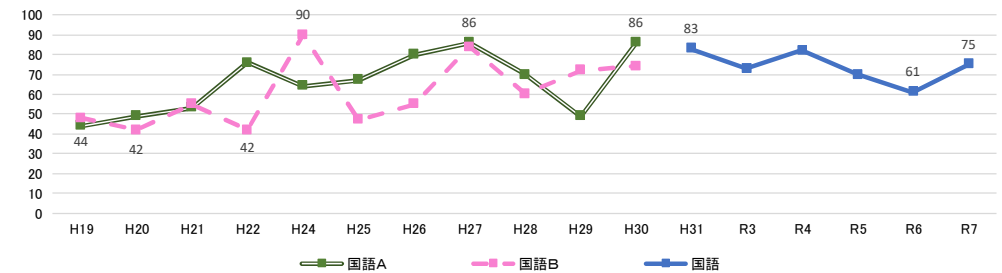
小学校国語

市町村数



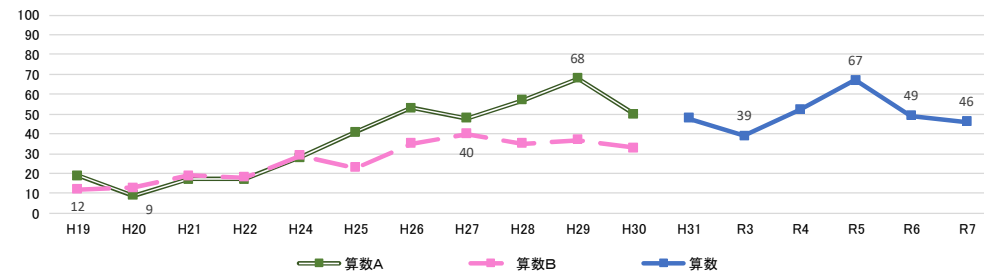
中学校国語

市町村数



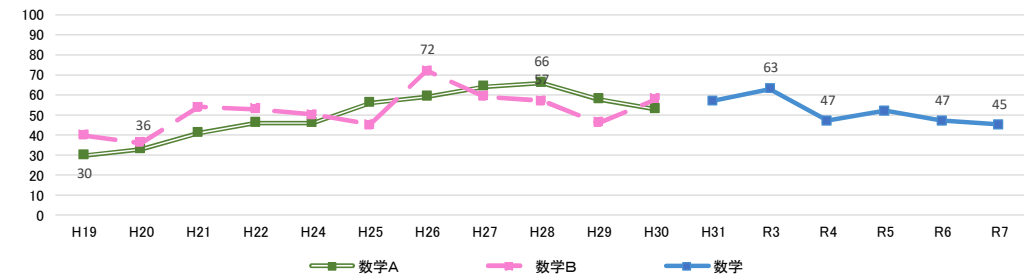
小学校算数

市町村数



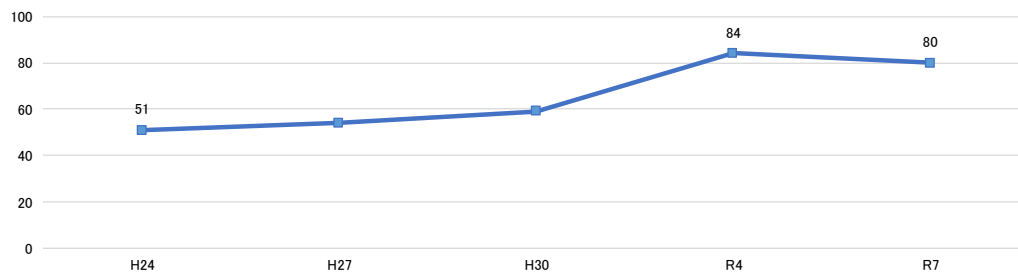
中学校数学

市町村数



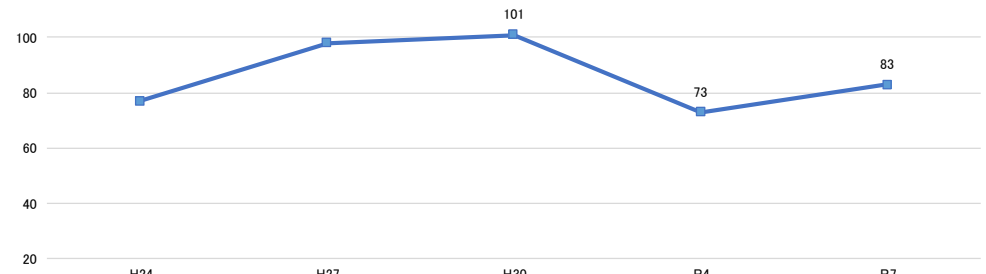
小学校理科

市町村数



中学校理科

市町村数



※令和4年度(2022年度)までは平均正答率、令和7年度(2025年度)以降は平均IRTスコアが全国を上回った市町村の数を示している。

※ 平成23年度(2011年度)は東日本大震災の影響等により、令和2年度(2020年度)は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等により、実施していない。

※ 平成19年度(2007年度)から令和7年度(2025年度)までの最大値・最小値、今年度及び前年度の数値を表示している。(最大値・最小値はA問題、B問題及び一体的に問う形式について、それぞれ表示。)

5 市町村の結果公表の掲載先一覧

※市町村名にリンクを貼り付けています。

【空知管内】

夕張市



岩見沢市



美瑛市



芦別市



赤平市



三笠市



滝川市



砂川市



歌志内市



深川市



南幌町



奈井江町



奈井江町全国学力・学習状況調査

上砂川町



由仁町



長沼町



栗山町



月形町



浦臼町



新十津川町



妹背牛町



秩父別町



雨竜町



北竜町



沼田町



5 市町村の結果公表の掲載先一覧

※市町村名にリンクを貼り付けています。

【石狩管内】

札幌市



江別市



千歳市



恵庭市



北広島市



石狩市



当別町



新篠津村



【後志管内】

小樽市



島牧村



寿都町



黒松内町



蘭越町



二セコ町



真狩村



留寿都村



喜茂別町



京極町



倶知安町



共和町



5 市町村の結果公表の掲載先一覧

※市町村名にリンクを貼り付けています。

【後志管内】

岩内町



泊村



神恵内村



積丹町



古平町



仁木町



余市町



赤井川村



【胆振管内】

室蘭市



苫小牧市



登別市



伊達市



豊浦町



壮瞥町



白老町



厚真町



洞爺湖町



安平町



むかわ町



5 市町村の結果公表の掲載先一覧

※市町村名にリンクを貼り付けています。

【日高管内】

日高町



平取町



新冠町



浦河町



様似町



えりも町



新ひだか町



【渡島管内】

函館市



北斗市



松前町



福島町



知内町



木古内町



七飯町



鹿部町



森町



八雲町



長万部町



5 市町村の結果公表の掲載先一覧

※市町村名にリンクを貼り付けています。

【檜山管内】

江差町



上ノ国町



厚沢部町



乙部町



奥尻町



今金町



せたな町



【上川管内】

旭川市



士別市



名寄市



富良野市



鷹栖町



東神楽町



当麻町



比布町



愛別町



上川町



東川町



美瑛町



5 市町村の結果公表の掲載先一覧

※市町村名にリンクを貼り付けています。

【上川管内】

上富良野町



中富良野町



南富良野町



占冠村



和寒町



剣淵町



下川町



美深町



音威子府村



中川町



幌加内町



【留萌管内】

留萌市



増毛町



小平町



苫前町



羽幌町



初山別村



遠別町



天塩町



5 市町村の結果公表の掲載先一覧

※市町村名にリンクを貼り付けています。

【宗谷管内】

稚内市



猿払村



浜頓別町



中頓別町



枝幸町



豊富町



礼文町



利尻町



利尻富士町



幌延町



【オホーツク管内】

北見市



網走市



紋別市



美幌町



津別町



斜里町



清里町



小清水町



訓子府町



置戸町



佐呂間町



遠軽町



5 市町村の結果公表の掲載先一覧

※市町村名にリンクを貼り付けています。

【オホーツク管内】

[湧別町](#)



[滝上町](#)



[興部町](#)



[西興部村](#)



[雄武町](#)



[大空町](#)



【十勝管内】

[帯広市](#)



[音更町](#)



[士幌町](#)



[上士幌町](#)



[鹿追町](#)



[新得町](#)



[清水町](#)



[芽室町](#)



[中札内村](#)



[更別村](#)



[大樹町](#)



[広尾町](#)



[幕別町](#)



[池田町](#)



[豊頃町](#)



[本別町](#)



[足寄町](#)



[陸別町](#)



5 市町村の結果公表の掲載先一覧

※市町村名にリンクを貼り付けています。

【十勝管内】

浦幌町



【釧路管内】

釧路市



釧路町



厚岸町



浜中町



標茶町



弟子屈町



鶴居村



白糖町



【根室管内】

根室市



別海町



中標津町



標津町



羅臼町



執筆者・協力者一覽

(職名は令和7年(2025年)10月現在)
(敬称略)

[illegible]



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

全国学力・学習状況調査の全道や管内の詳細なデータは
北海道教育委員会のWebページに掲載しております。

[北海道教育委員会 全国学力・学習状況調査報告書のページ]

<https://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/203271.html>

